

多治見市
男女共同参画に関する市民意識調査
【調査結果報告書】

令和3年度

令和4年1月
多治見市

は じ め に

多治見市においては、平成 10 年に「たじみ男女共同参画プラン」を策定し、男女共同参画社会の実現をめざして、総合的かつ計画的な取り組みを開始しました。平成 17 年には「多治見市男女共同参画推進条例」を制定し、施策を進めていく法的な基盤も整備しました。現在は、平成 30 年に策定した「第 3 次たじみ男女共同参画プラン」に沿って、より豊かで元気な多治見市に向けて、様々な施策に取り組んでいます。

男女共同参画社会の実現は、女性も男性も互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できることであり、我が国の最重要課題となっています。国においては、平成 11 年に「男女共同参画社会基本法」が制定され、様々な取り組みが展開されてきました。また、平成 27 年には、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が成立、令和 2 年に「第 5 次男女共同参画基本計画」が閣議決定されましたが、女性の参画が進んでいる分野もある中で、政治や経済分野での女性の登用はまだまだ進んでいない状況です。

加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により顕在化した配偶者等からの暴力の増加や女性の雇用問題への対応、SDGs（持続可能な開発目標）の「ジェンダー平等を実現しよう」への新たな取り組みが必要となってきます。

本調査は、男女の平等感、DV（ドメスティック・バイオレンス）、施策の現状、今後の施策等について、市民の皆様の意識や状況を把握し、「第 3 次たじみ男女共同参画プラン後期計画」の策定と男女共同参画社会推進に関する施策の検討資料とするために実施しました。調査にご協力いただきました方々の貴重なご意見・調査結果を、積極的に活用させていただきます。関係機関をはじめ市民の皆様にもご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、この調査を実施するにあたりご協力いただきました市民の皆様、ご尽力いただきました多治見市男女共同参画推進審議会委員の皆様に、厚くお礼申し上げます。

令和 4 年 1 月

多治見市長 古 川 雅 典

目次

第1章 調査概要

1	調査目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回答状況.....	2
6	報告書の見方.....	2
7	比較分析に利用した調査について.....	2

第2章 調査結果総括

1	調査結果の総括.....	5
(1)	男女の地位の平等に対する意識について.....	5
(2)	仕事と家庭等の両立（ワーク・ライフ・バランス《仕事と生活の調和》）について.....	6
(3)	「職場」について.....	6
(4)	「地域活動」について.....	7
(5)	DV（ドメスティック・バイオレンス）等「女性の人権」について.....	7
(6)	「子ども・子育て」について.....	8
(7)	男女平等の施策について.....	8

第3章 調査結果

1	あなた自身について.....	11
(1)	性別.....	11
(2)	年齢.....	11
(3)	結婚.....	12
(4)	子ども.....	12
(5)	職業.....	13
(6)	共働き.....	14
(7)	経済状況.....	14
2	男女の地位の平等に対する意識について.....	15
(1)	男女の地位.....	15
(2)	社会全体で男性優遇だと考える理由.....	32
(3)	男女平等のために最も重要なこと.....	34
(4)	家庭における男女の役割.....	37
(5)	男女に関する考え方.....	39
3	仕事と家庭等の両立（ワーク・ライフ・バランス《仕事と生活の調和》）について.....	48
(1)	家庭での男女の役割の現状.....	48
(2)	生活時間.....	68
(3)	育児休業などの取得.....	73
(4)	仕事と家庭の両立のために必要なこと.....	77
4	「職場」について.....	80
(1)	職場における男女平等.....	80

5	「地域活動」について.....	87
(1)	女性の参画が少ない理由.....	87
(2)	女性の社会進出促進.....	90
6	DV（ドメスティック・バイオレンス）等「女性の人権」について.....	93
(1)	女性の人権の尊重.....	93
(2)	配偶者、恋人などからされたこと、配偶者、恋人などにしたこと.....	95
(3)	相談.....	108
(4)	相談相手.....	109
(5)	相談しなかった理由.....	110
(6)	暴力防止のために必要なこと.....	112
7	「子ども・子育て」について.....	115
(1)	子どもの将来.....	115
(2)	安心して子どもを生み育てるために必要なこと.....	117
(3)	学校教育.....	119
8	男女平等の施策について.....	121
(1)	認知度.....	121
(2)	市の施策で望むこと.....	133

第4章 経年比較

(1)	男女の地位.....	139
(2)	男女に関する考え方.....	146
(3)	女性の人権の尊重.....	149
(4)	配偶者、恋人などからされたこと、配偶者、恋人などにしたこと.....	150
(5)	暴力防止のために必要なこと.....	151

資料編

1	自由回答.....	155
(1)	行政・施策.....	155
(2)	男女共同参画、男女平等.....	156
(3)	就労、職場.....	157
(4)	地域活動.....	158
(5)	意識改革・啓発.....	158
(6)	DV.....	159
(7)	アンケート.....	159
(8)	まちづくり.....	160
(9)	コロナ.....	160
(10)	その他.....	161
2	「多治見市男女共同参画に関する市民意識調査」ご協力のお願い.....	162
3	多治見市男女共同参画に関する市民意識調査票.....	163

第1章 調査概要

1 調査目的

本調査は、男女共同参画に関する意識を把握し、「第3次たじみ男女共同参画プラン後期計画」の策定及び今後の男女共同参画社会推進に関する施策の検討資料とするために実施しました。

【質問内容】

(1) あなた自身について
(2) 男女の地位の平等に対する意識について
(3) 仕事と家庭等の両立（ワーク・ライフ・バランス《仕事と生活の調和》）について
(4) 「職場」について
(5) 「地域活動」について
(6) DV（ドメスティック・バイオレンス）等「女性の人権」について
(7) 「子ども・子育て」について
(8) 男女平等の施策について

2 調査対象

多治見市在住の18歳以上の住民の方（住民基本台帳）から調査対象者を無作為に抽出し、調査を実施しました。

3 調査期間

令和3年8月17日～令和3年8月31日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回答状況

調査対象者		送付数	有効回答数	有効回答率
多治見市在住の18歳以上の住民 (階層: 18～29歳、30代、40代、50代、60代、70歳以上)	男性	500件	178件	35.6%
	女性	500件	221件	44.2%
	全体	1,000件	402件	40.2%

※性別の回答について、無回答等が数人あったため、男性の回答数と女性の回答数の和は有効回答数と等しくならない

6 報告書の見方

- (1) 調査結果の数値は、各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で表記しています。
ただし、年代別や経年変化などの母数が異なるものを比較する場合は、割合の差(ポイント)で表記しています。
- (2) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。
このため、回答比率の合計が、100.0%にならない場合があります。また、複数回答可の質問では、回答者数(n)に対する回答比率のため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- (3) 回答があっても、小数点以下第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、表・グラフには0.0%と表記しています。
- (4) 本報告書では、なるべく調査票そのままの表現を用いていますが、スペース等の関係から一部省略した表現としている箇所があります。
- (5) 回答者数が少ないものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考値として示すにとどめている場合があります。

7 比較分析に利用した調査について

比較分析において利用した調査名は次のとおりです。

- (1) 多治見市「男女共同参画に関する市民意識調査」平成8年度、平成13年度、平成18年度、平成23年度、平成28年度実施
- (2) 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年度実施
(調査対象: 全国18歳以上の男女5,000人)
- (3) 岐阜県「男女共同参画に関する県民意識調査」平成29年度実施
(調査対象: 県内に居住する満18歳以上70歳未満の男女各1,000人 計2,000人)

第2章 調査結果総括

1 調査結果の総括

(1) 男女の地位の平等に対する意識について (P15～P47)

◆すべての項目において、男性に比べ女性の方が『男性優遇』と感じていることに加え、政治の場、社会通念・慣習・しきたり、社会全体では『男性優遇』と感じている人が増えており、依然として男女共同参画社会の実現には至っていない。

- 政治の場、社会通念・慣習・しきたり、社会全体で『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの)と感じている割合が高く6割を超えています。一方で、学校教育の場では約4割の人が平等と感じています。また、性別で見ると、すべての項目で、男性に比べ女性の方が『男性優遇』と感じており、依然として男女共同参画社会の実現には至っていないことがうかがえます。政治の場、社会通念・慣習・しきたり、社会全体を過去の調査結果と比較すると、いずれも平成28年度調査より『男性優遇』との回答割合が増加しています。
- 社会全体で『男性優遇』であると感じる主な理由については、男女ともに「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」との回答が最も多くなっています。
- 男女があらゆる分野で平等になるために重要なことについては、男女ともに「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりをあらためること」との回答が最も多くなっています。これは、先の問1で「社会通念・慣習・しきたり」が、8つの分野の中で『男性優遇』が約7割を占め、他の分野と比べても最も高かったことから見えてとれます。
- 男性が家庭における男女の役割で「つらい」と感じることは、つらいと感じる男性の回答は、全体の18.5%となっています。理由については、「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前と言われる」との回答が最も多くなっています。
- 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方は、「そう思う」は男性で多くなっており、「そうは思わない」とする否定的な考え方は男性に比べ女性で多くなっています。また、否定的な考え方は50代が約7割と他の年齢層と比較して最も多くなっています。
- 「男性がもっと地域社会の活動や家庭生活に参加することを進めていく必要がある」については、「そう思う」と回答する割合は女性の方が男性より約30ポイント高くなっています。一方、「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」については、「そう思う」と回答する割合は男性の方が女性より約20ポイント高くなっています。

(2) 仕事と家庭等の両立(ワーク・ライフ・バランス《仕事と生活の調和》)について (P48～P79)

◆仕事と家庭を両立するにあたっては、制度を利用しやすい職場づくりや多様な働き方を選ぶ制度づくりに加え、働くことに対する家族や周囲の理解と協力が求められていることがうかがえる。

- 家庭での男女の役割については、いずれの場面でも、『女性が担っている』(「すべて女性が担っている」「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせたもの)との回答が多くなっています。特に、「食料品などの買出し」「食事の用意」「食事の後片付け」「洗濯、掃除」「家計の管理」は、いずれも6割以上が『女性が担っている』と回答しており、さらに、「乳幼児の世話」について、『男性が担っている』(「すべて男性が担っている」「主に男性が担っていて、女性は手伝う程度」を合わせたもの)の回答は0%となっています。
- 平均的な1日の生活時間の過ごし方については、平日の「仕事・学業」において、女性の平均時間が6時間4分に対して、男性の平均時間が7時間20分となっており、男女間で約1時間の差がみられます。「家事・子育て・介護・看護」は、女性の平均時間が平日では3時間以上、休日では4時間以上となっているのに対し、男性では平日では1時間未満、休日では2時間未満となっています。
- 育児休業などの取得について、「育児休業」「子の看護休暇」「介護休業」「介護休暇」いずれも「取得した」との回答が1割未満となっており、特に「介護休業」は0%となっています。また、「子の看護休暇」「介護休業」「介護休暇」については、いずれも「知らない」との回答が3～4割程度となっており、まだ制度が十分に浸透していないことがうかがえます。「育児休業」「子の看護休暇」「介護休業」「介護休暇」それぞれで最も多く回答されているのは「知っているが取得する必要がなかった」となっています。
- 男女がともに「仕事と家庭を両立」するために必要な条件については、「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」との回答が最も多く、次いで「柔軟な勤務形態の導入(フレックスタイム制、在宅勤務等)」「働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力」「代替要員の確保など、育児や介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」となっています。また、性別でみると、男性では「労働条件の改善」との回答が最も高くなっています。

(3) 「職場」について (P80～P86)

◆職場においては、『平等』と感じている人が多いものの、人事配置や昇進では女性に比べ男性の方が、仕事の内容では男性に比べ女性の方が優遇されていると感じている人が多い。

- 職場における男女平等については、ほぼすべての項目で「平等である」と回答する割合が最も高くなっていますが、「人事配置や昇進」では『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの)との回答が38.9%と最も高くなっています。また、「仕事の内容」については、他の項目と比較して『女性優遇』(「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせたもの)との回答が高くなっています。

(4) 「地域活動」について (P87～P92)

◆企画や方針決定過程への女性参画が少ない理由としては、「男性優位の組織運営」が最も多くなっているほか、「女性の参画を積極的に進めよう」と意識している人が少ない」や「女性側の積極性が十分でない」も高い水準にあり、これまでの男性優位の慣習に加えて女性側の意識改革がまだ不十分であることが阻害要因となっていると考える人が多くみられる。

○企画や方針決定過程への女性参画が少ない理由については、「男性優位の組織運営」との回答が男女ともに最も多くなっています。次いで、「女性の参画を積極的に進めよう」と意識している人が少ない」、「女性側の積極性が十分でない」が高くなっています。

○女性の社会進出があまり進んでいない分野への女性の進出を進めていくために必要なことについては、「企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などに目標を設けて取組を進める」との回答が男女ともに最も多く、次いで「国や地方公共団体が、女性を積極的に活用する企業に助成する」との回答が多くなっています。また、「政党が、選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする（クォータ制）」は男性の割合の方が女性より7ポイント程度高くなっています。

(5) DV(ドメスティック・バイオレンス)等「女性の人権」について (P93～P114)

◆配偶者・恋人などから受けた何らかの暴力の中では、「大声で怒鳴る」「何を言っても無視する」など精神的暴力が多くなっている。被害体験者のうち、「相談した人」は男性では10.5%、女性では33.6%となっており、相談先は「家族や親戚」「友人・知人」といった比較的身近な相手が多い。相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思った」が最も多い。

○女性の人権が尊重されていないと感じることについては、男女ともに「男は仕事、女は家庭」といわれる固定的な役割分担」との回答が最も多く、次いで「職場での賃金格差や昇格の差など」が多くなっています。年代別ではすべての年代で「男は仕事、女は家庭」といわれる固定的な役割分担」との回答が最も多く、特に30代、40代、60代で5割を超えています。

○DV経験については、いずれも「経験はない」との回答が最も多くなっています。また、「されたことがある」が多い項目は、「大声で怒鳴る」との回答が25.6%、「何を言っても無視する」が20.4%となっています。「したことがある」が多い項目についても同様に「大声で怒鳴る」「何を言っても無視する」が多くなっています。

○DV経験についての相談の状況については、「相談した」との回答が男性で10.5%、女性で33.6%となっています。相談先については「家族や親戚」「友人・知人」が男女ともに多くなっています。

○相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思った」との回答が男女ともに最も多くなっています。

○男女間における暴力の防止に必要なことについては、男女ともに「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」との回答が最も多くなっています。

○「経済的にみて、あなたの世帯の生活の程度はどうか」という設問とDVの関連性については、経済的に余裕がない（「余裕がない」と「あまり余裕がない」を合わせたもの）と回答した人が余裕がある（「余裕がある」と「まあまあ余裕がある」を合わせたもの）と回答した人に比べてDVを受けている割合がやや高くなっており、特に「何を言っても無視する」の割合が最も差が大きくなっています。

（「何を言っても無視する」をされたことがある人の割合・・・『余裕がある』13.4%、『余裕がない』26.0%で、12.6ポイントの差がある）

(6) 「子ども・子育て」について (P115～P120)

◆安心して子どもを生み育てるために必要なこととしては、出産・子育てに対する経済的支援を望む声が多い。

- 子どもに将来望む生き方については、「男の子」「女の子」とともに「家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす」との回答が最も多くなっています。また、性別にみると、「男の子」「女の子」とともに「家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす」との回答は、女性の方が多くなっています。
- 安心して子どもを生み育てるために必要なことについては、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」と回答する人が男女ともに最も多くなっています。また、「子育て中の柔軟な勤務形態の充実」「父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備」「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」と回答する女性の割合が男性に比べ高くなっているのに対し、「母子家庭、父子家庭への支援」と回答する男性の割合が約8ポイント高くなっています。
- 男女平等意識を育てるために学校教育の場で力を入れるべきことについては、男女ともに「男女平等の意識を育てる授業をする」と回答する人が最も多く、次いで「男女にとらわれない教育を実施し、合わせて保護者に対する啓発をする」の順となっています。

(7) 男女平等の施策について (P121～P135)

◆男女共同参画に関する用語の認知は、「働き方改革関連法」のほか、「男女雇用機会均等法」や「DV防止法」など男女平等を守る法律や制度の認知度は高い一方で、市独自の取組の認知度は低く、特に若年層の認知度が低くなっている。

- 男女共同参画に関する用語の認知については、「働き方改革関連法」が最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」「DV防止法」となっています。男女間では男性に比べ女性の方が認知度が高くなっています。年代別では「働き方改革関連法」は認知度が9割を超えています。また、「男女雇用機会均等法」は18歳～50代で、「DV防止法」は18～29歳、40代、50代、60代で認知度が8割を超えています。一方で、「多治見市男女共同参画推進条例」「たじみ男女共同参画プラン」など、市独自の取組についての認知度は4割程度と低くっており、特に18歳～30代の若い年齢層や70歳以上の認知度が低くなっています。その他、国際的な取組である「SDGs（持続可能な開発目標）」の認知度が、男女ともに6割程度と高くなっています。
- 男女平等実現のための市の施策に望むことについては、「学校で男女平等教育をすすめる」との回答が男女ともに最も多く、次いで「経営者・企業主を対象に啓発する」が多くなっています。また、女性では「女性が職業につくための職業訓練の場や相談窓口を増やす」と回答する人も多くなっています。男性では、「広報誌やパンフレット等により、広く市民に啓発する」との回答が女性と比較して10ポイント程度高くなっています。

第3章 調査結果

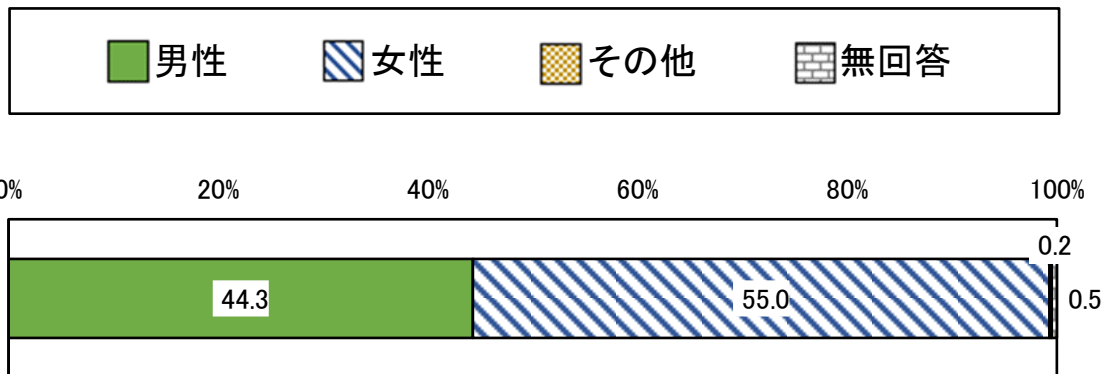
1 あなた自身について

(1) 性別

(A) あなたの性別はどちらですか。(ご自身が認識する性でお答えください。)

性別について、「男性」が 44.3%、「女性」が 55.0%となっています。

(n=402)



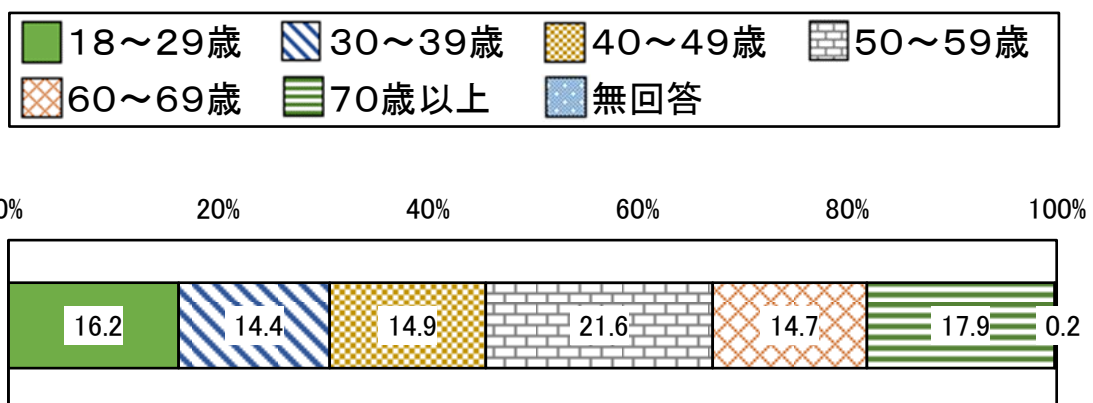
その他の回答	
L G B T	

(2) 年齢

(B) あなたの年齢は次のどれですか。

年齢について、「18～29 歳」が 16.2%、「30～39 歳」(以下「30 代」)が 14.4%、「40～49 歳」(以下「40 代」)が 14.9%、「50～59 歳」(以下「50 代」)が 21.6%、「60～69 歳」(以下「60 代」)が 14.7%、「70 歳以上」が 17.9%となっています。

(n=402)

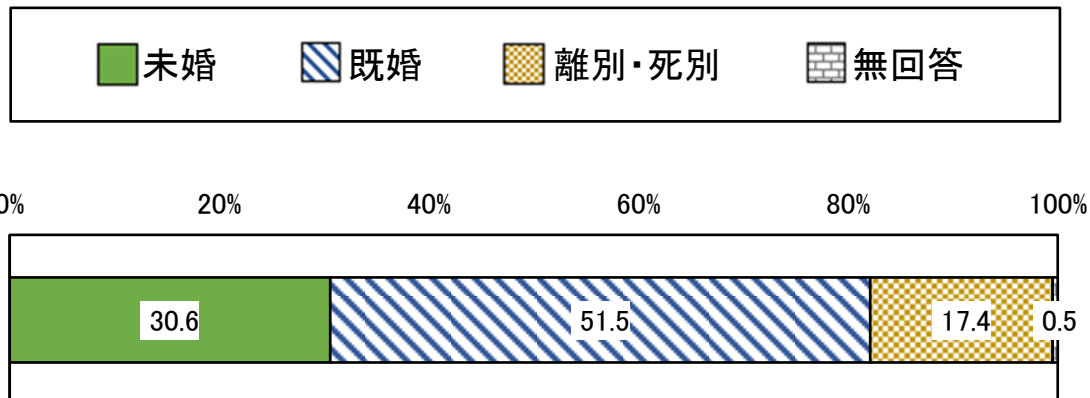


(3) 結婚

(C) あなたは現在結婚していますか。

結婚の状況について、「未婚」が30.6%、「既婚」が51.5%、「離別・死別」が17.4%となっています。

(n=402)

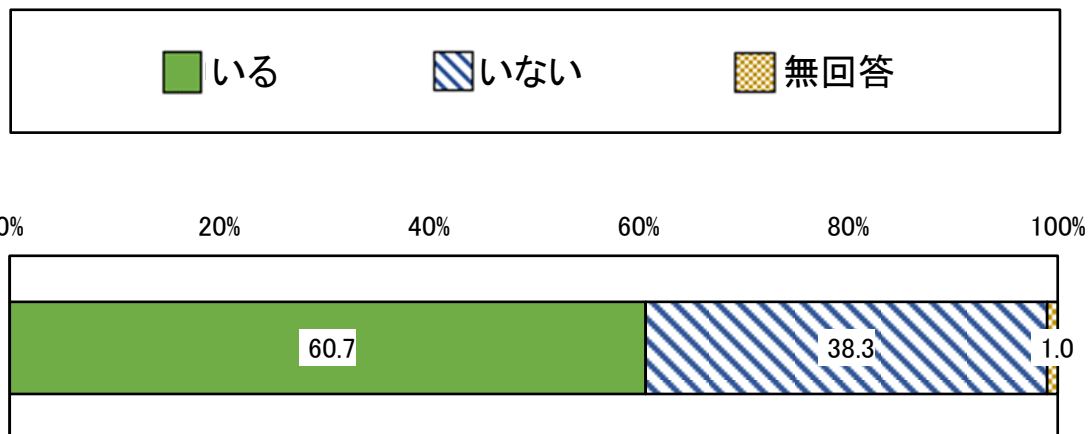


(4) 子ども

(D) あなたには子どもがいますか。

子どもの有無について、「いる」が60.7%、「いない」が38.3%となっています。

(n=402)

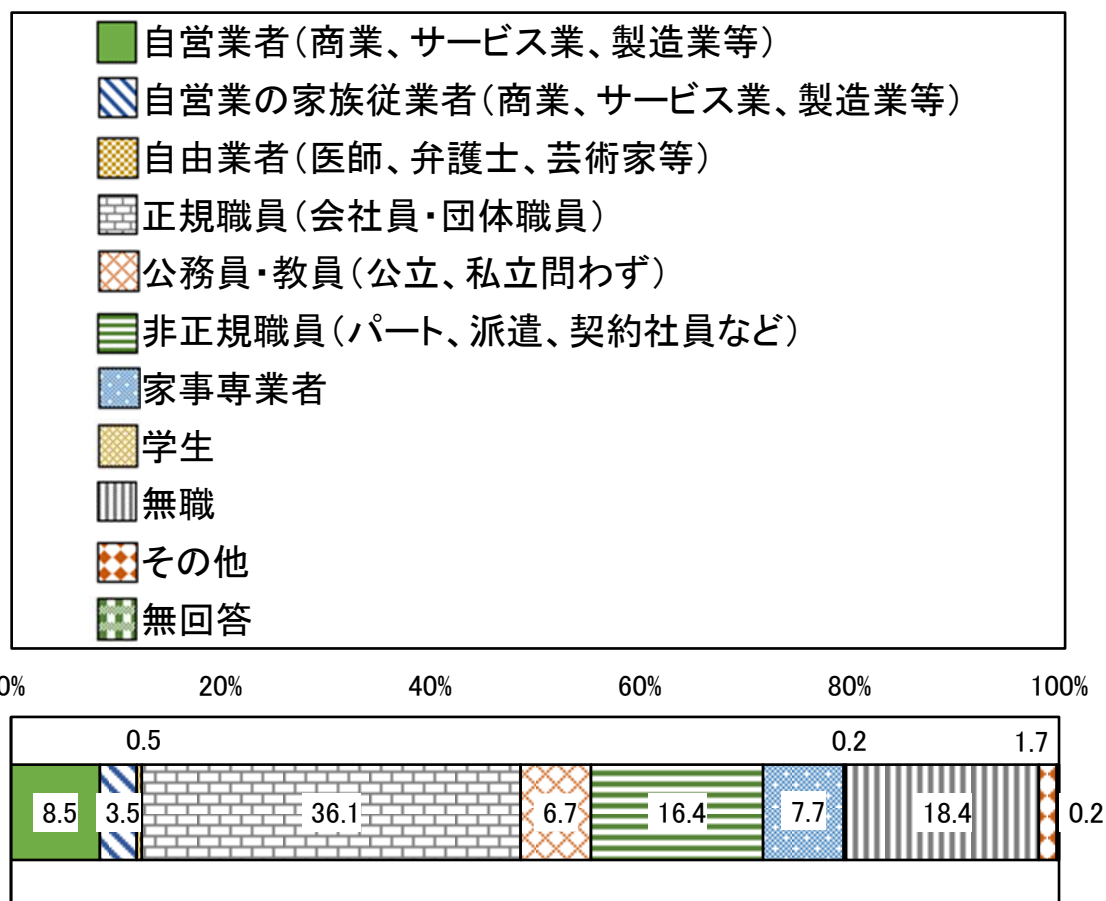


(5) 職業

(E)あなたのご職業(仕事)は次のどれですか。

職業について、「自営業者（商業、サービス業、製造業等）」が 8.5%、「自営業の家族従業者（商業、サービス業、製造業等）」が 3.5%、「自由業者（医師、弁護士、芸術家等）」が 0.5%、「正規職員（会社員・団体職員）」が 36.1%、「公務員・教員（公立、私立問わず）」が 6.7%、「非正規職員（パート、派遣、契約社員など）」が 16.4%、「家事専業者」が 7.7%、「学生」が 0.2%、「無職」が 18.4%となっています。

(n=402)



その他の回答

介護職

年金もらいながら少し商売している

不動産業（アパート賃貸）

トリマー

パート

福祉施設通所、障害者です。

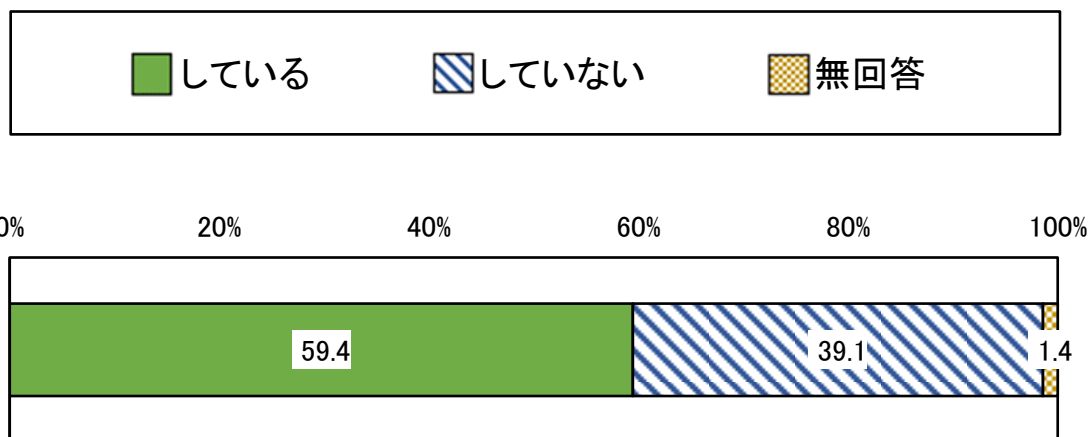
会社役員

(6) 共働き

(F) 既婚の方におたずねします。
共働きをしていますか。(非正規職員も含む)

既婚者の共働きの状況について、「している」が59.4%、「していない」が39.1%となっています。

(n=402)

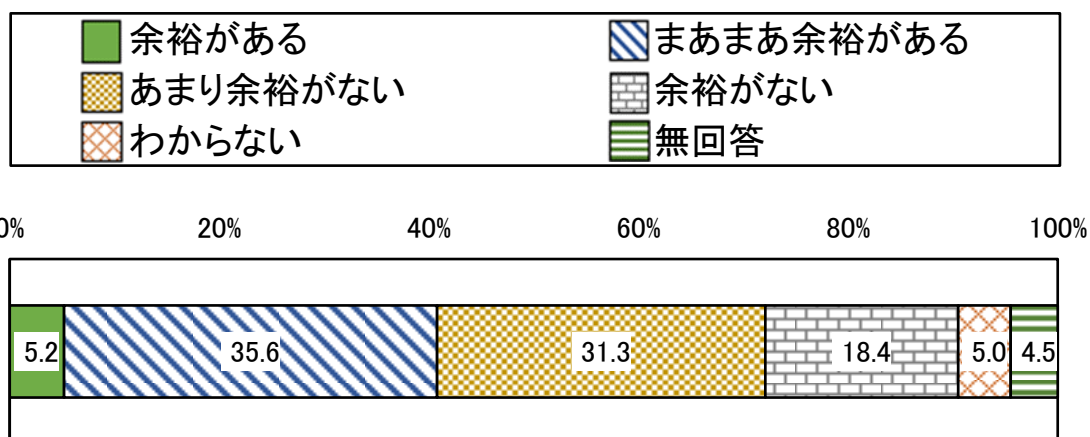


(7) 経済状況

(G) 経済的にみて、あなたの世帯の生活の程度はどうか。

経済状況について、「余裕がある」が5.2%、「まあまあ余裕がある」が35.6%、「あまり余裕がない」が31.3%、「余裕がない」が18.4%、「わからない」が5.0%となっています。

(n=402)



2 男女の地位の平等に対する意識について

(1) 男女の地位

【問1】あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。①～⑧についてお答えください。

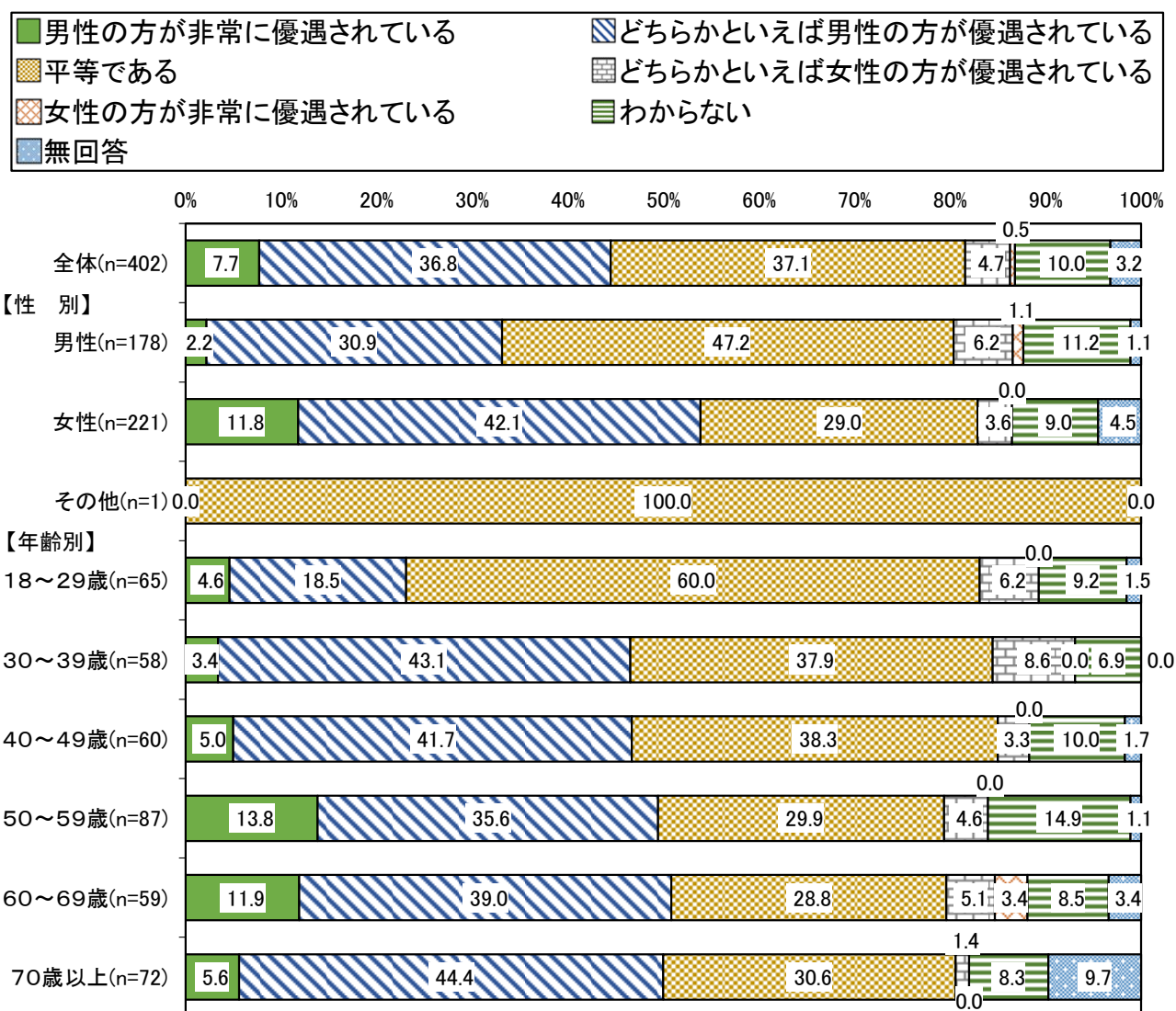
① 家庭生活では

『男性優遇』44.5%＞『平等』37.1%＞『女性優遇』5.2%

家庭生活での地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答 44.5%と最も高く、次いで「平等である」が 37.1%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で 33.1%、女性で 53.9%と女性が 20.8 ポイント上回っています。

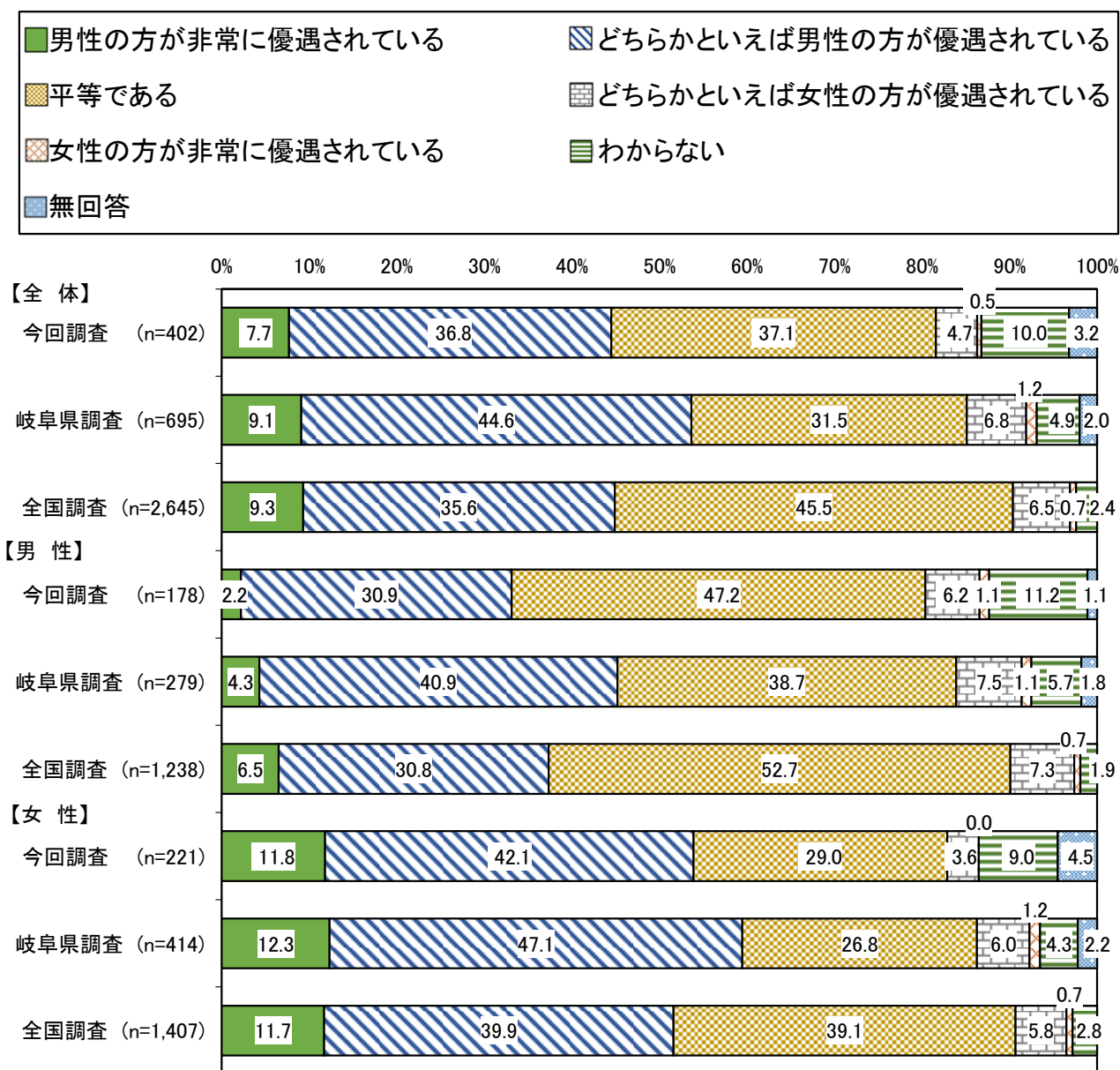
年齢別では、18～29 歳で「平等である」との回答が 60.0%と、他の年代と比較して高くなっています。



参考：全国調査、岐阜県調査との比較（家庭生活における平等感）

岐阜県調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、女性で『男性優遇』と回答する割合がやや高くなっています。



※全国調査については、『無回答』がない

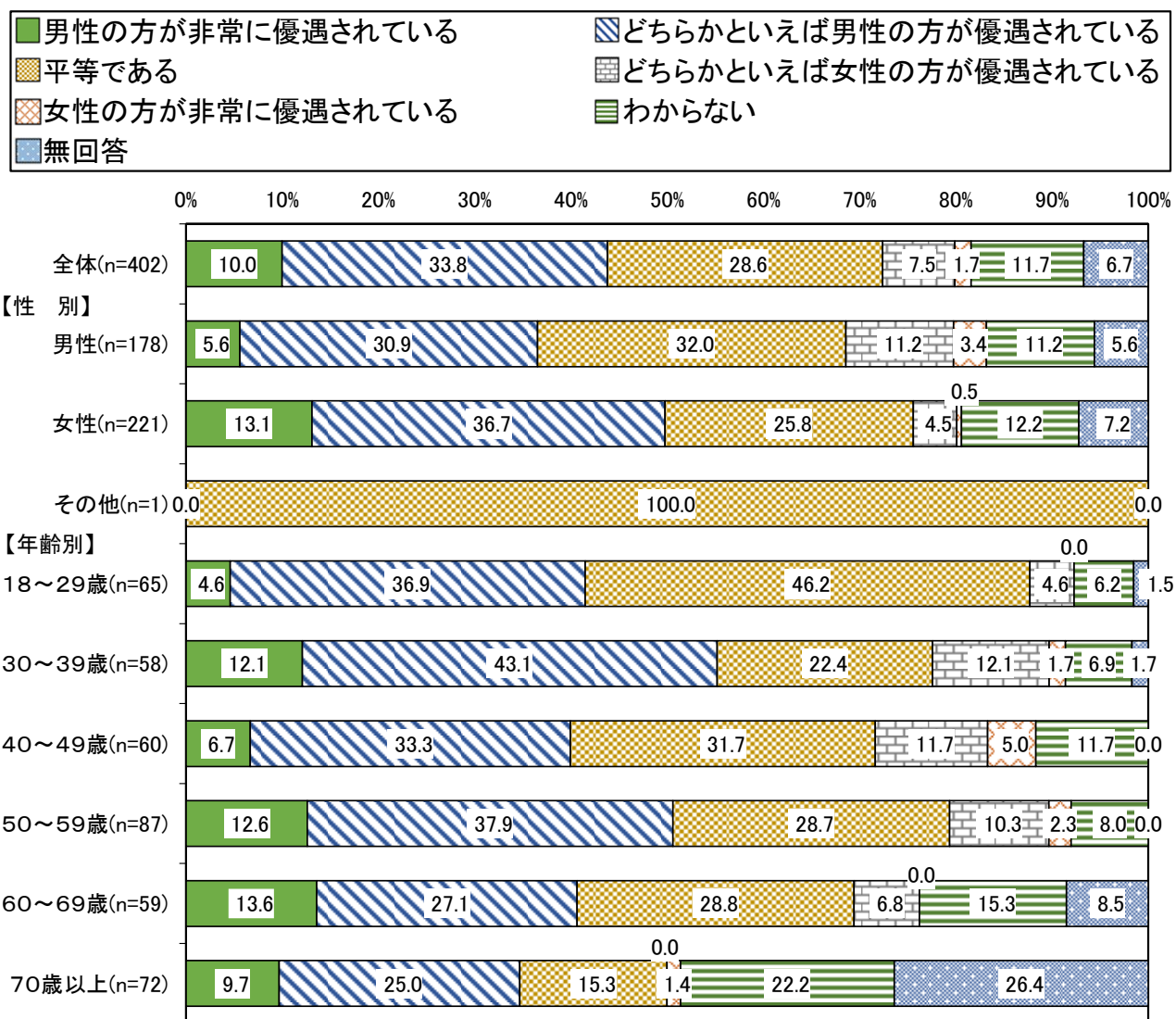
② 職場では

『男性優遇』43.8%＞『平等』28.6%＞『女性優遇』9.2%

職場での地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が43.8%と最も高く、次いで「平等である」が28.6%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で36.5%、女性で49.8%と女性が13.3ポイント上回っています。一方、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』との回答が男性で14.6%、女性で5.0%と男性が9.6ポイント上回っています。

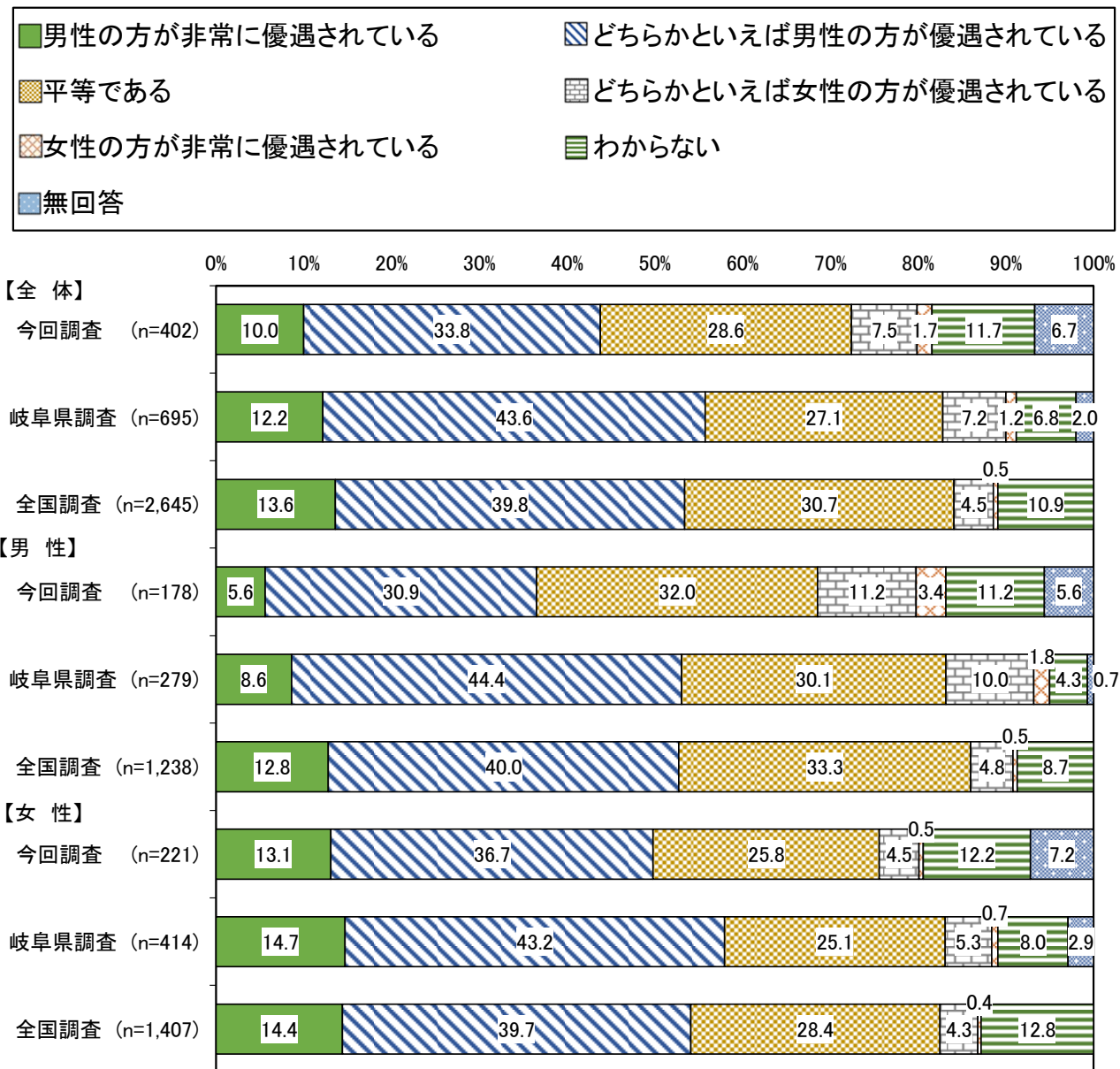
年齢別では、30代と50代で『男性優遇』との回答が5割前後を占め高くなっています。一方、18～29歳で「平等である」との回答が約5割と、他の年代と比較して高くなっています。



参考：全国調査、岐阜県調査との比較（職場における平等感）

岐阜県調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。



※全国調査については、『無回答』がない

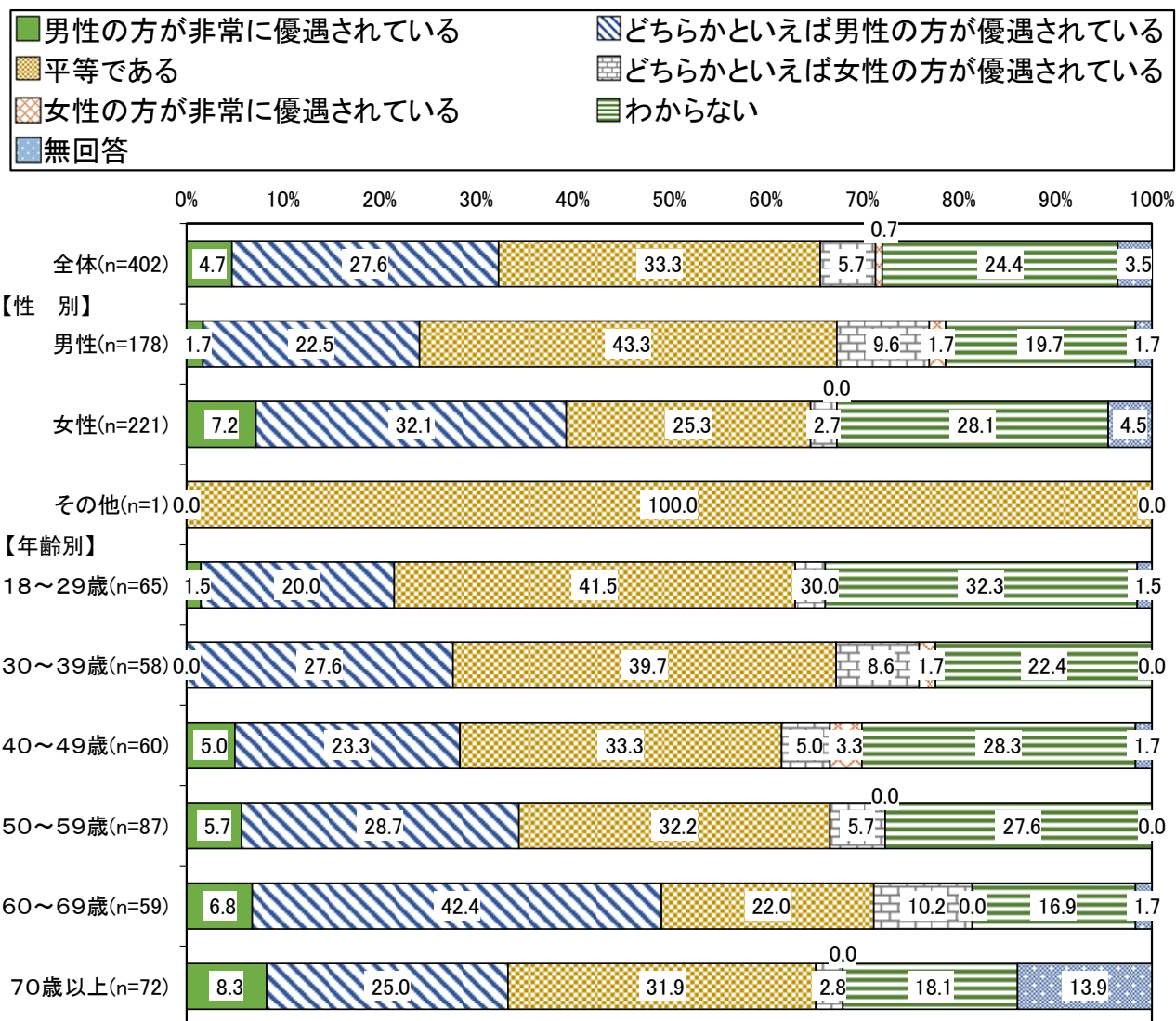
③ 地域活動の場では

『平等』 33.3% > 『男性優遇』 32.3% > 『女性優遇』 6.4%

地域活動での地位については、「平等である」との回答が 33.3% と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が 32.3% となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で 24.2%、女性で 39.3% と女性が 15.1 ポイント上回っています。一方、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』との回答が男性で 11.3%、女性で 2.7% と男性が 8.6 ポイント上回っています。

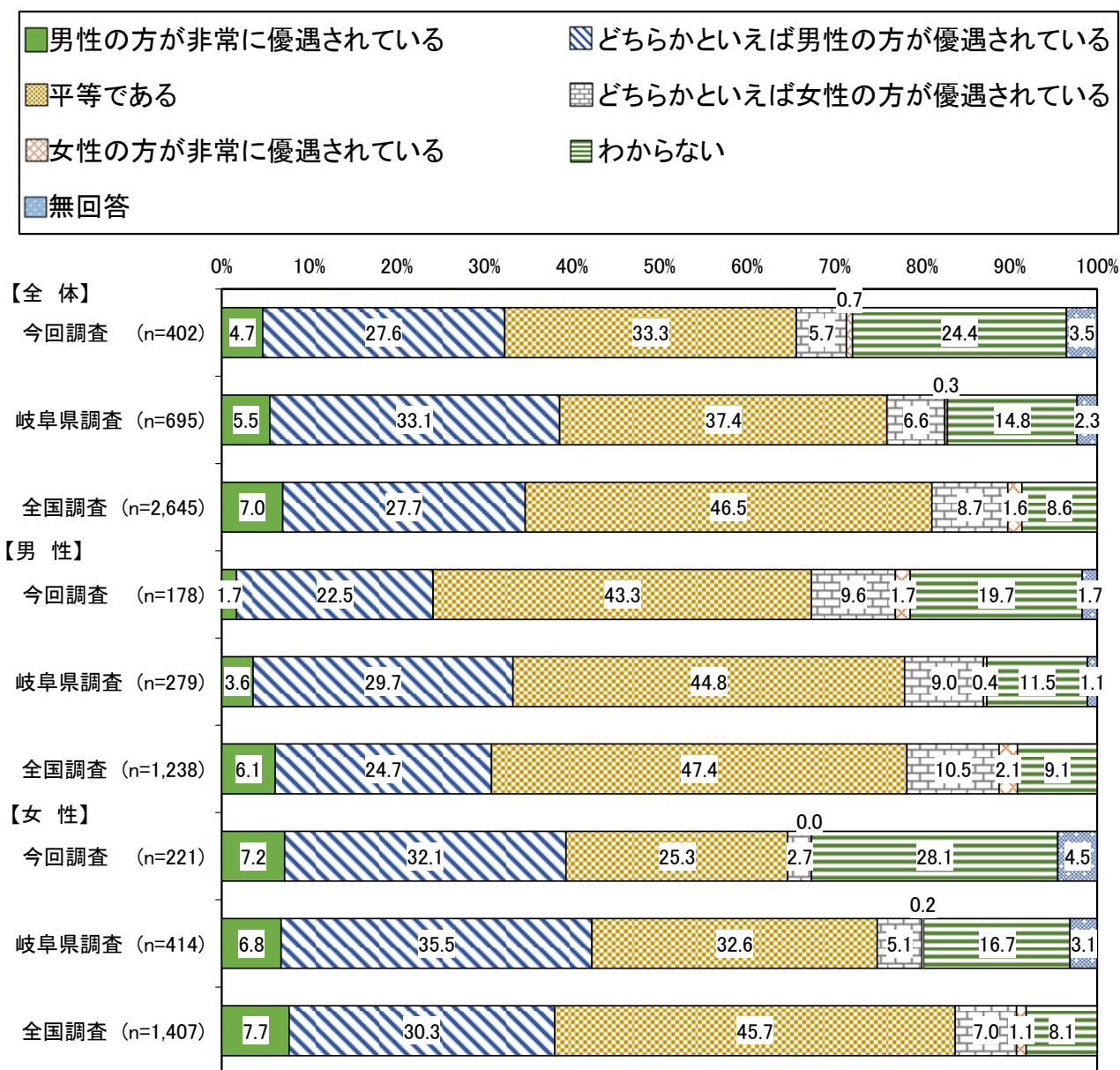
年齢別では、60代で『男性優遇』との回答が約 5 割と、他の年代と比較して高くなっています。



参考：全国調査、岐阜県調査との比較（地域活動の場における平等感）

岐阜県調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、女性で『男性優遇』と回答する割合がやや高くなっています。



※全国調査については、『無回答』がない

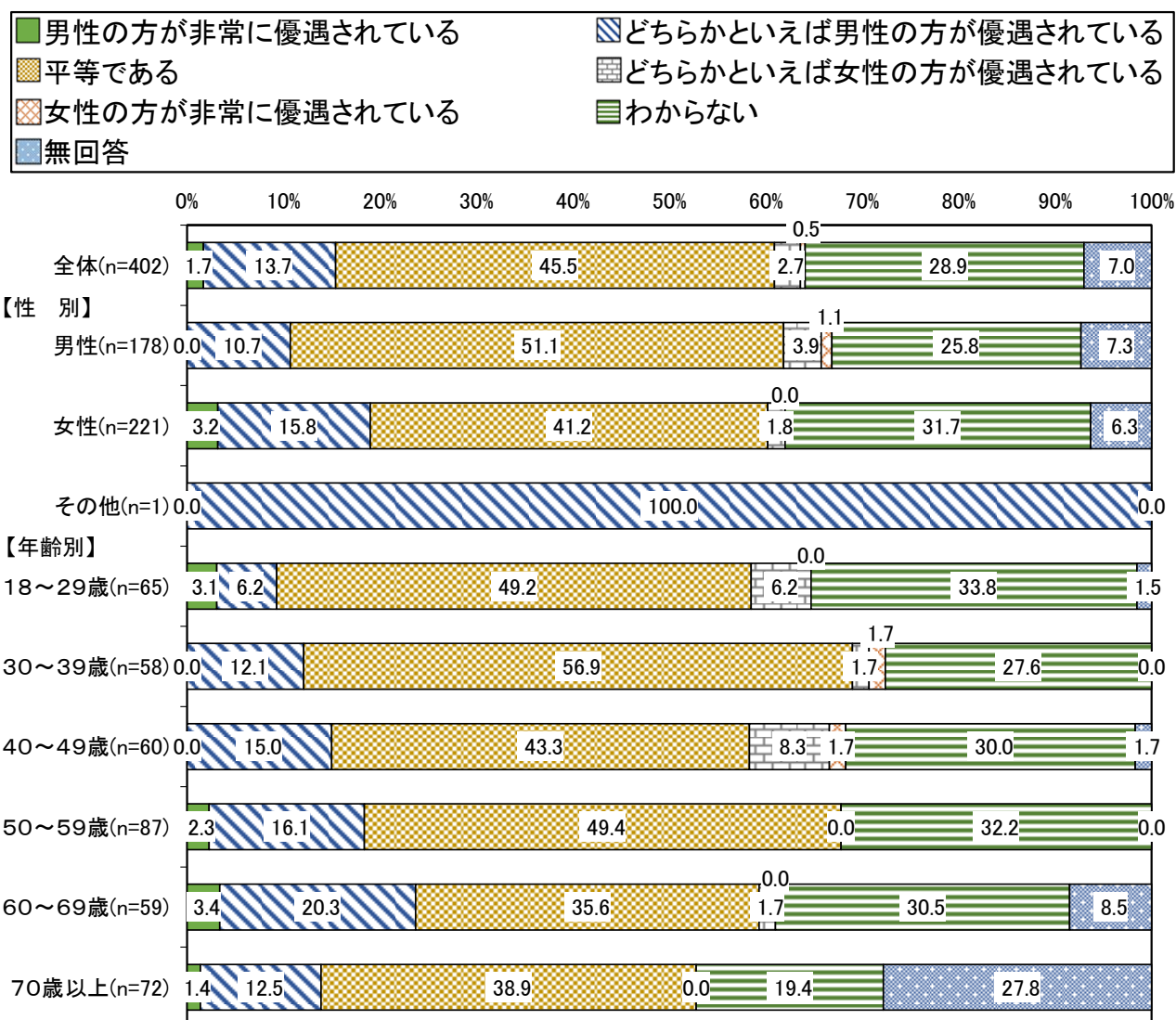
④ 学校教育の場では

『平等』45.5%＞『男性優遇』15.4%＞『女性優遇』3.2%

学校教育での地位については、「平等である」との回答が45.5%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が15.4%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で10.7%、女性で19.0%と女性が8.3ポイント上回っています。また、「平等である」との回答は男性で51.1%、女性で41.2%と男性が9.9ポイント上回っています。

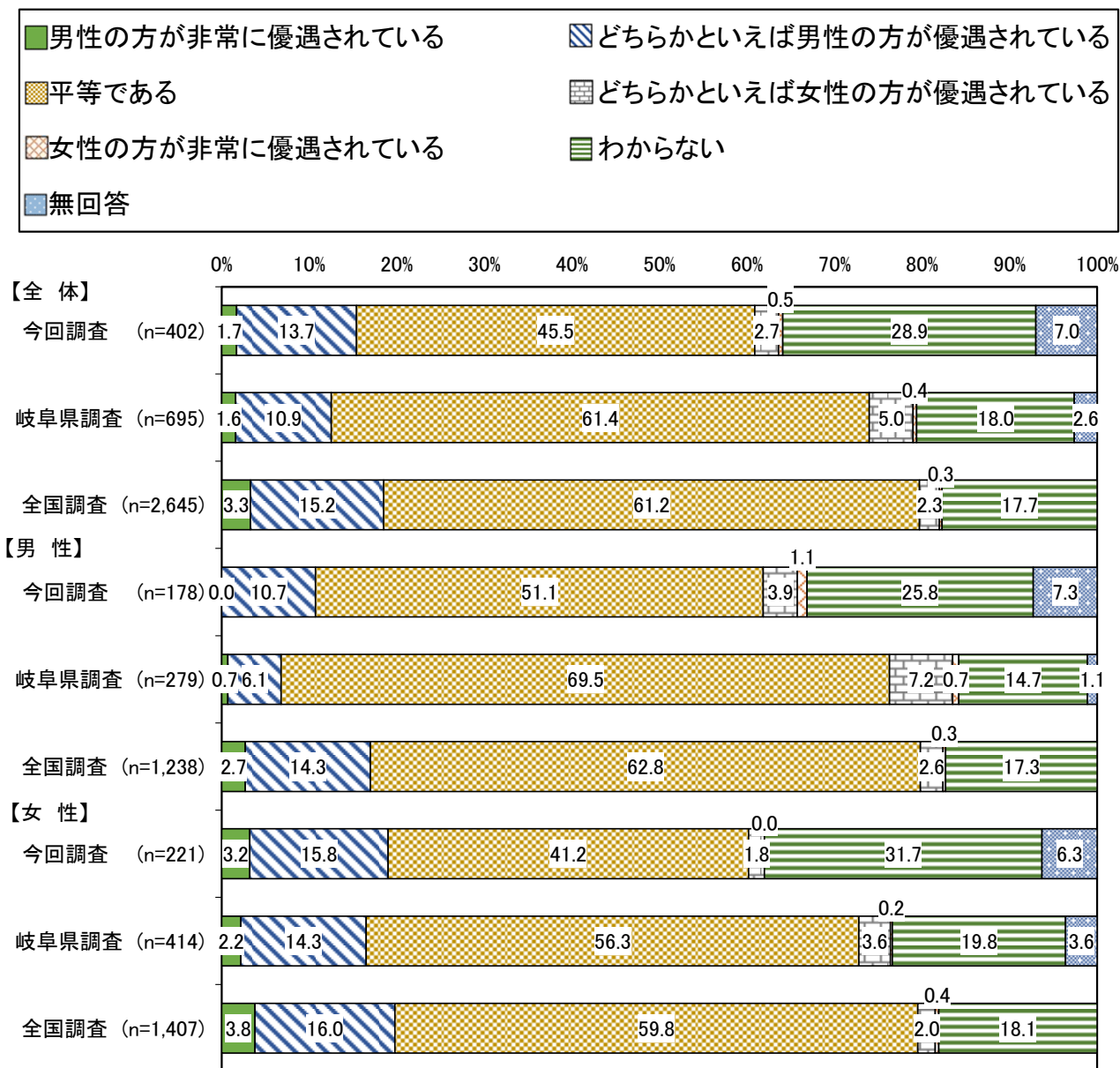
年齢別では、50代で『男性優遇』との回答が2割前後と、他の年代と比較して高くなっています。また、「平等である」との回答が30代で約6割と、他の年代と比較して高くなっています。



参考：全国調査、岐阜県調査との比較（学校教育における平等感）

岐阜県調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合がやや高くなっています。

全国調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。



※全国調査については、『無回答』がない

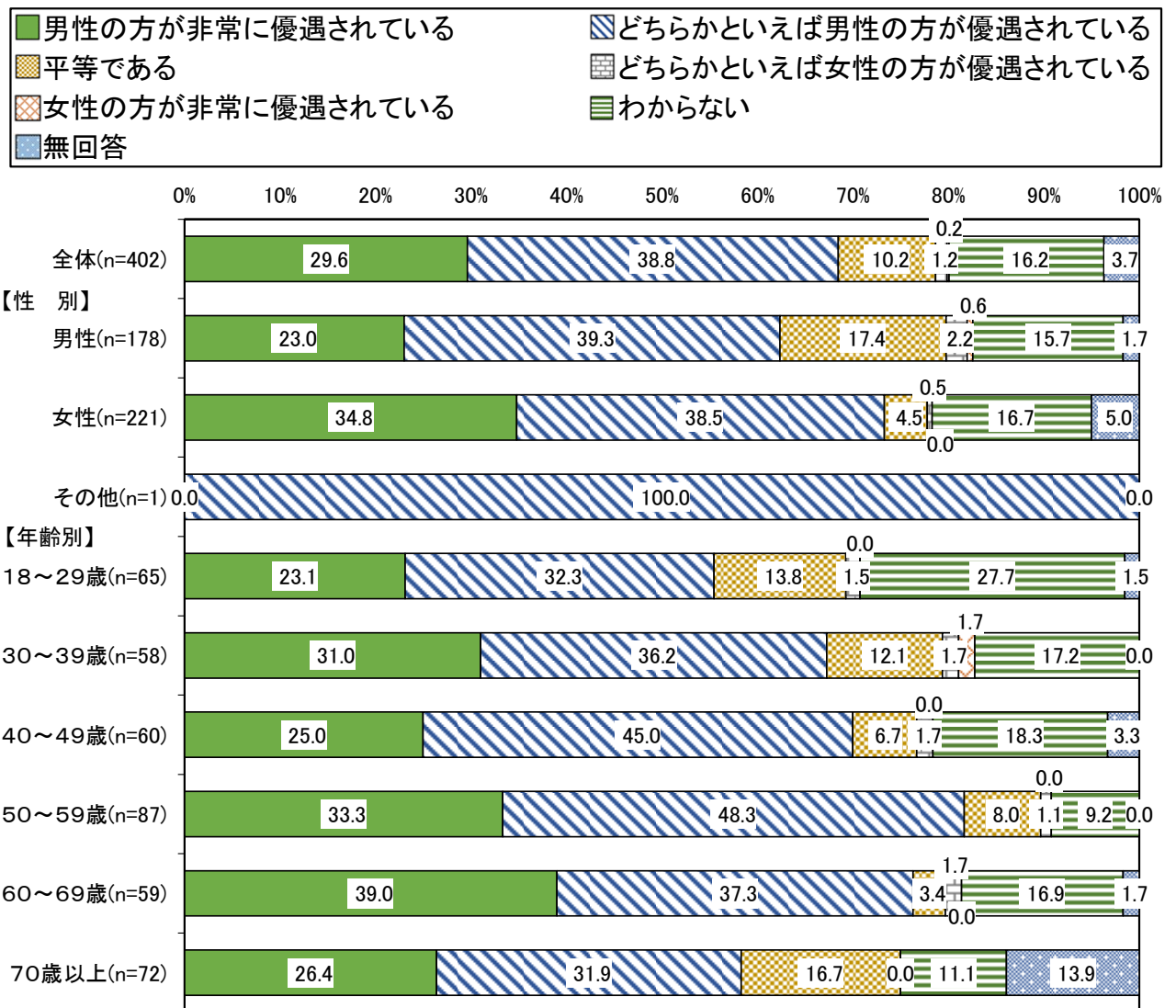
⑤ 政治の場では

『男性優遇』68.4%＞『平等』10.2%＞『女性優遇』1.4%

政治の場での地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が68.4%と最も高く、次いで「平等である」が10.2%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で62.3%、女性で73.3%と女性が11.0ポイント上回っています。また、「平等である」との回答は男性で17.4%、女性で4.5%と男性が12.9ポイント上回っています。

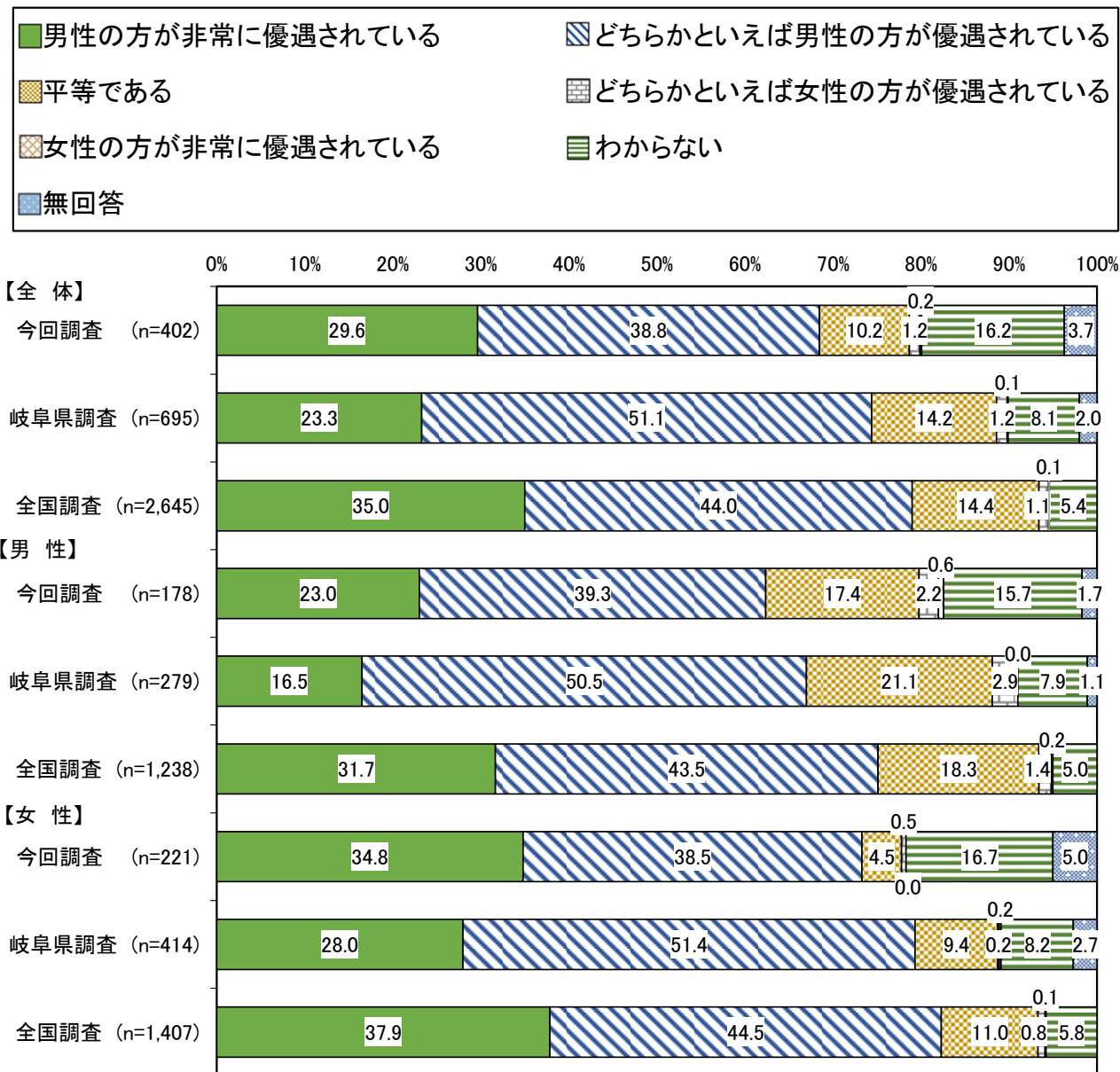
年齢別では、18～29歳と70歳以上を除いた年齢層で『男性優遇』との回答が6割以上を占め高くなっています。



参考：全国調査、岐阜県調査との比較（政治の場における平等感）

岐阜県調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。



※全国調査については、『無回答』がない

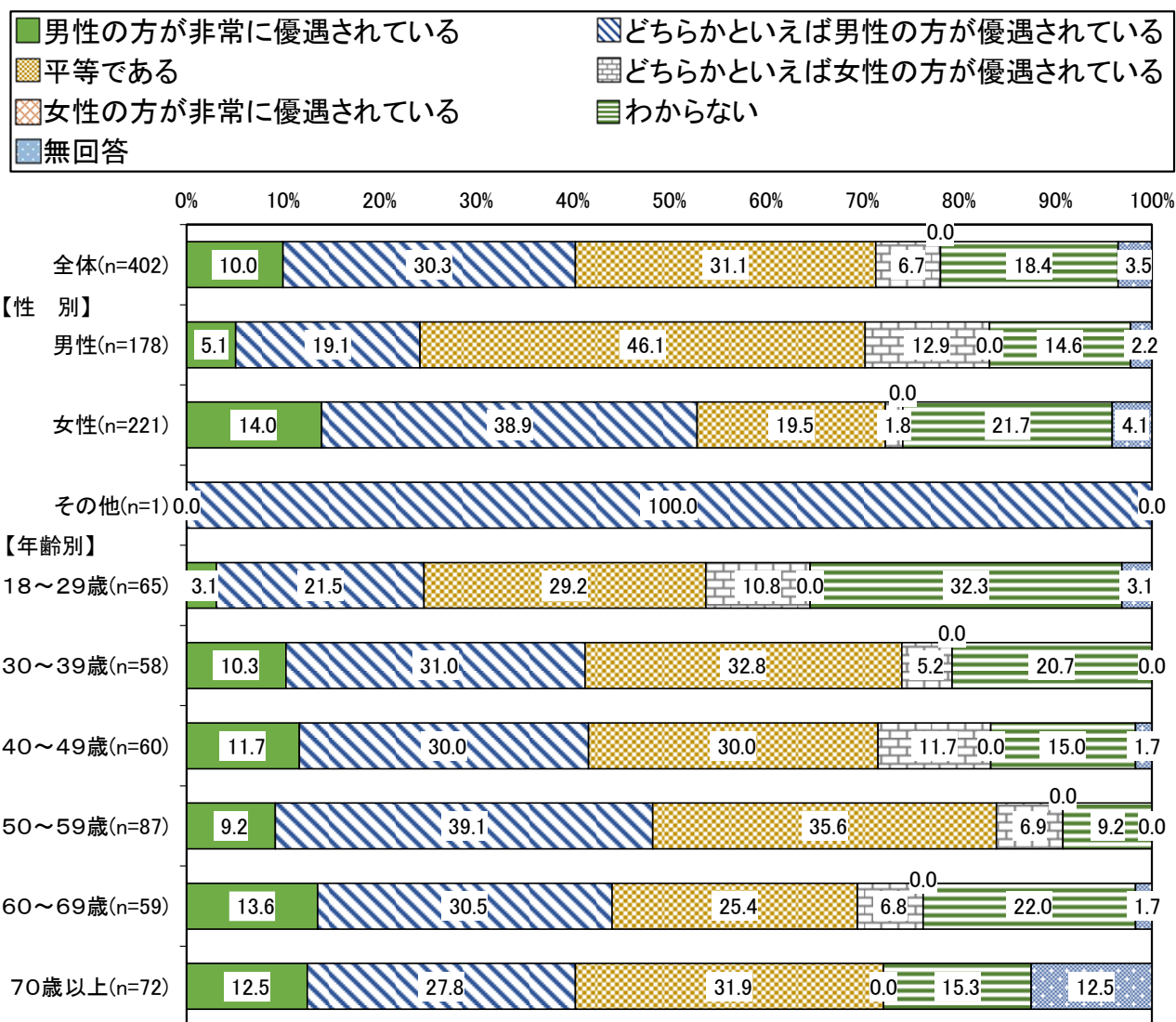
⑥ 法律や制度の上では

『男性優遇』40.3%＞『平等』31.1%＞『女性優遇』6.7%

法律や制度の上での地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が40.3%と最も高く、次いで「平等である」が31.1%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で24.2%、女性で52.9%と女性が28.7ポイント上回っています。一方、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』との回答が男性で12.9%、女性で1.8%と男性が11.1ポイント上回っています。また、「平等である」との回答は男性で46.1%、女性で19.5%と男性が26.6ポイント上回っています。

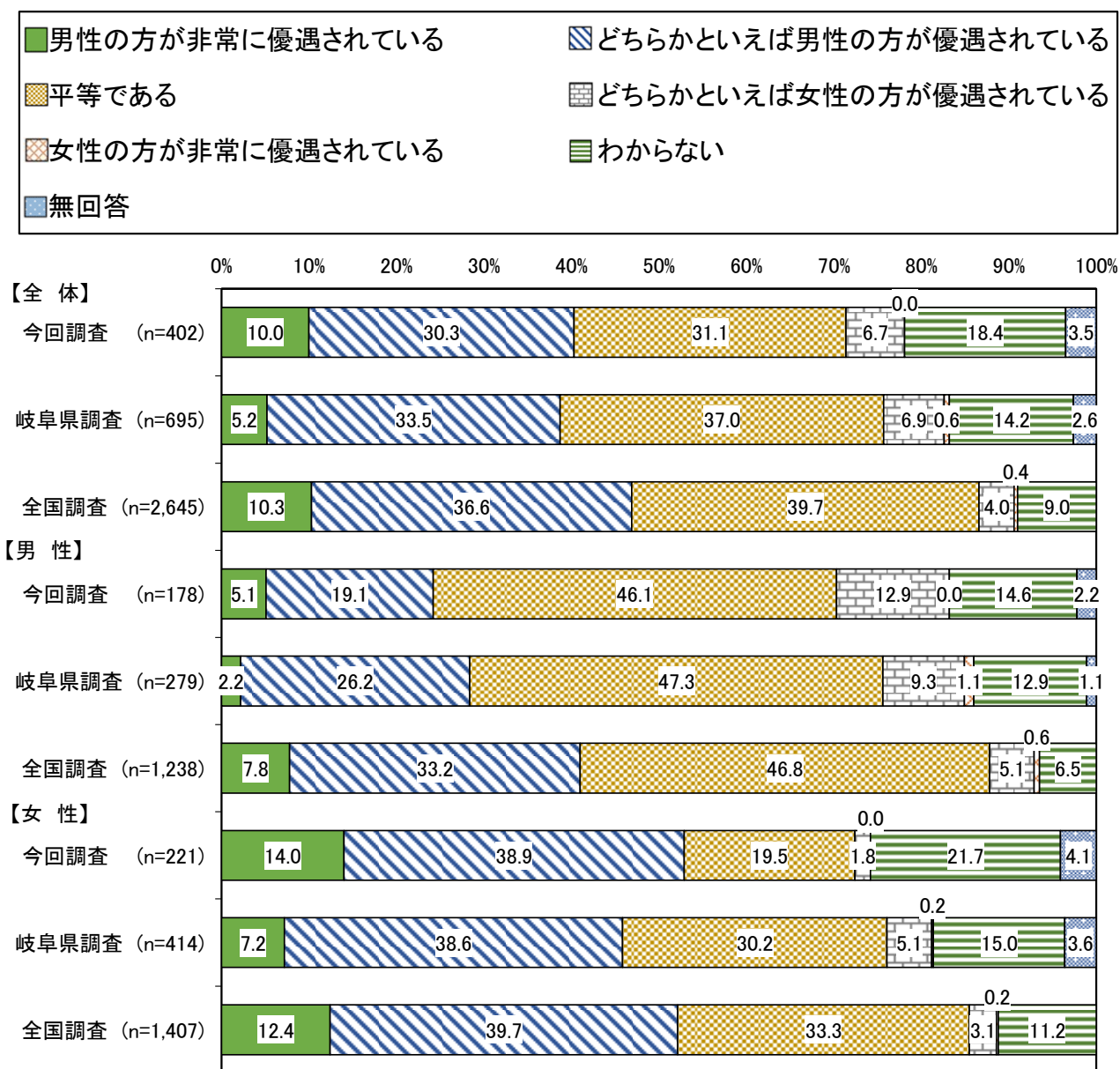
年齢別では、18～29歳を除いた年齢層で『男性優遇』との回答が4割以上を占め高くなっています。



参考：全国調査、岐阜県調査との比較（法律や制度の上における平等感）

岐阜県調査と比較すると、全体、女性で『男性優遇』と回答する割合がやや高くなっています。

全国調査と比較すると、女性で『男性優遇』と回答する割合がやや高くなっています。



※全国調査については、『無回答』がない

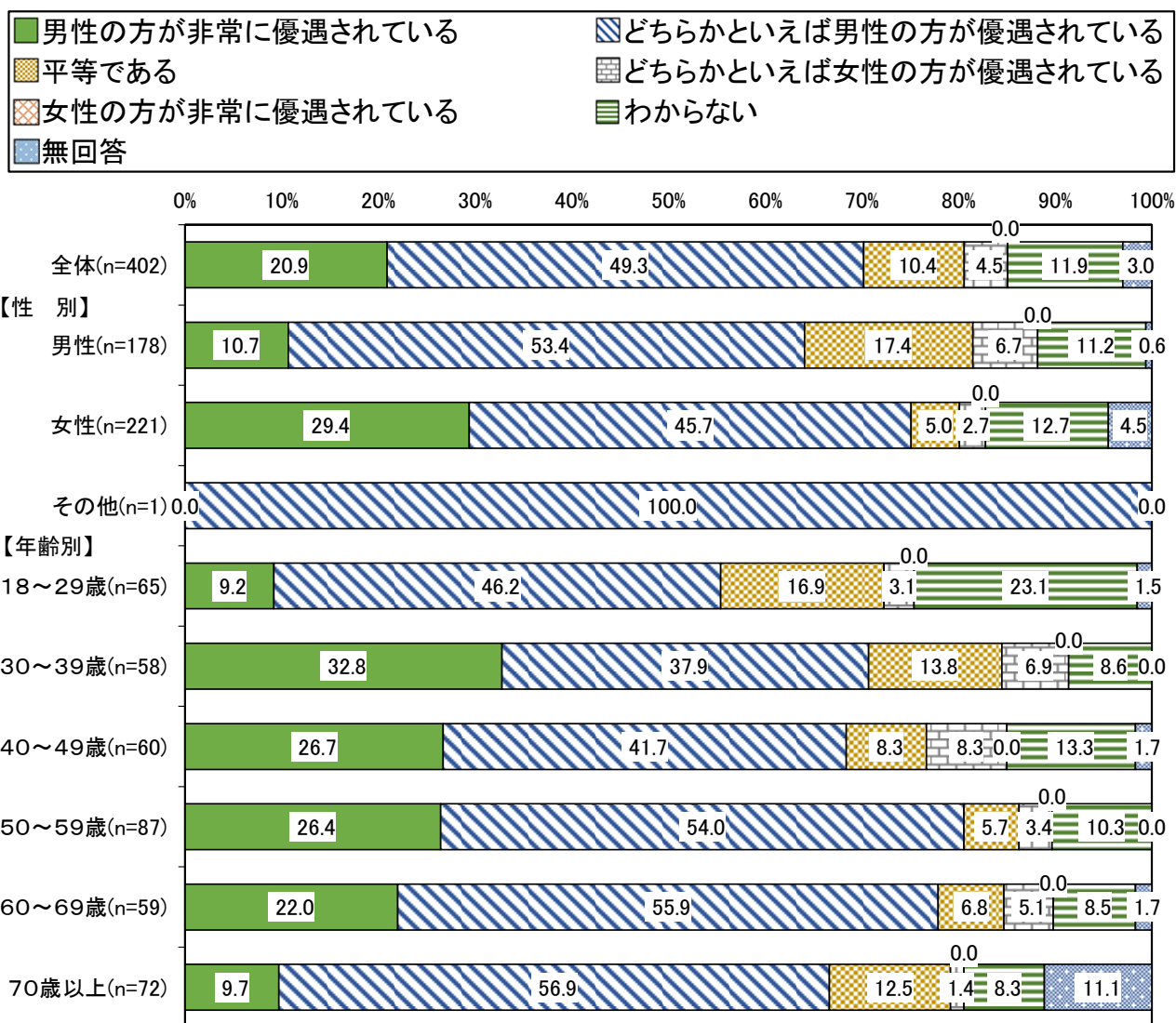
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどでは

『男性優遇』70.2%＞『平等』10.4%＞『女性優遇』4.5%

社会通念・慣習・しきたりなどでの地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が70.2%と最も高く、次いで「平等である」が10.4%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で64.1%、女性で75.1%と女性が11.0ポイント上回っています。また、「平等である」との回答は男性で17.4%、女性で5.0%と男性が12.4ポイント上回っています。

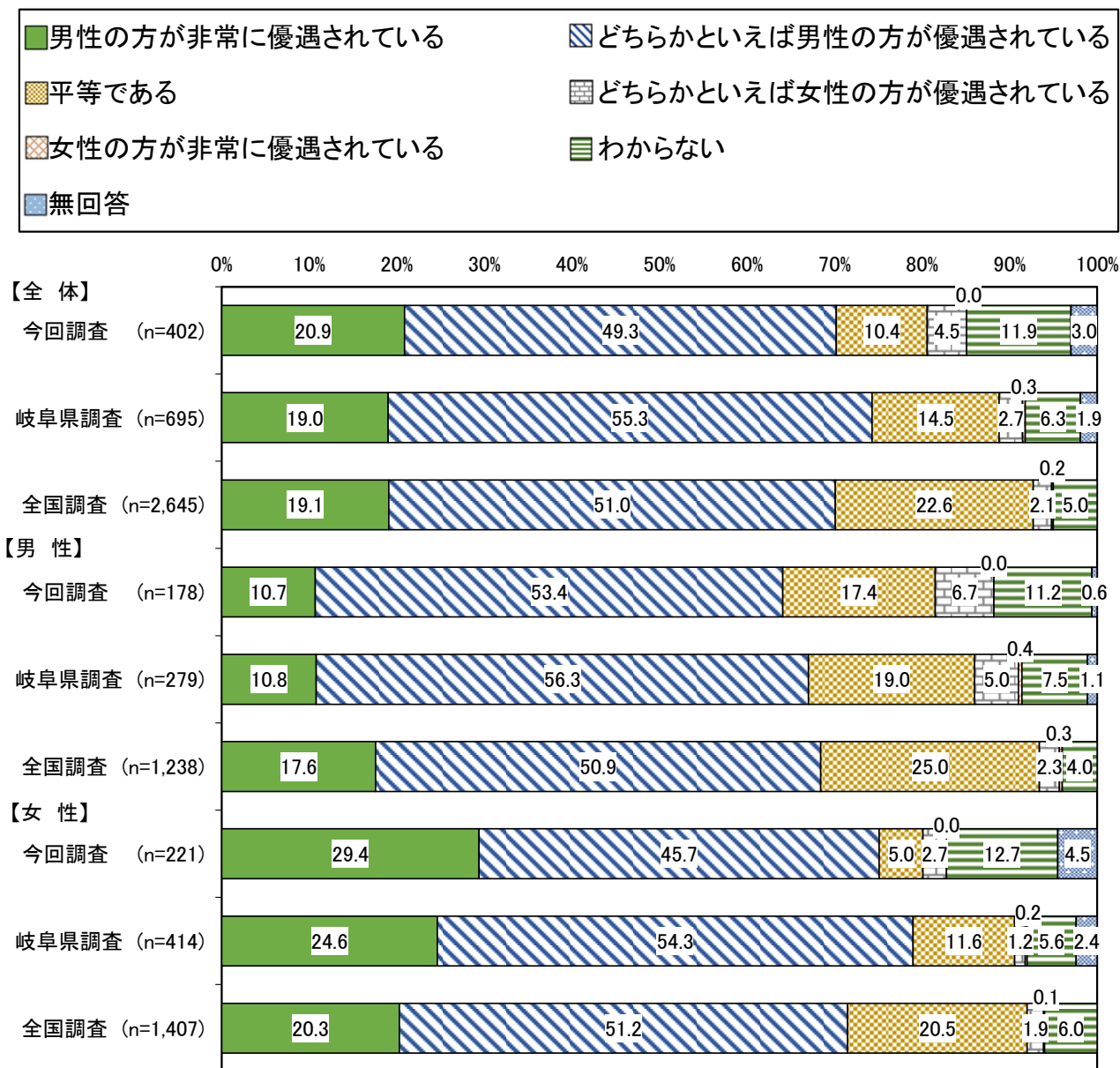
年齢別では、すべての年齢層で『男性優遇』との回答が5割以上を占めており、特に50代では回答が約8割と他の年代と比較して高くなっています。



参考：全国調査、岐阜県調査との比較（社会通念・慣習・しきたりにおける平等感）

岐阜県調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、全体、女性で『男性優遇』と回答する割合がやや高くなっています。



※全国調査については、『無回答』がない

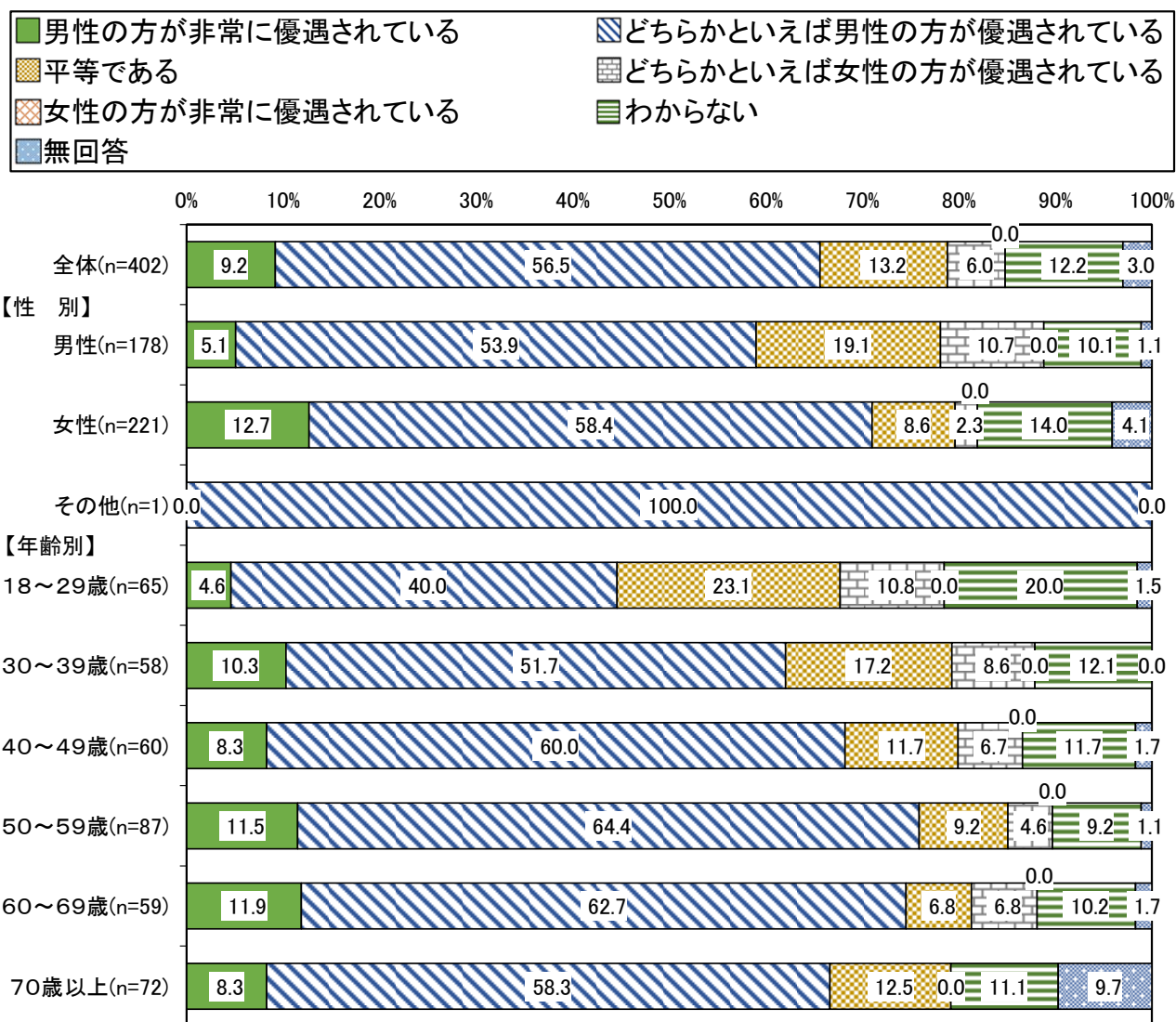
⑧ 社会全体では

『男性優遇』65.7%＞『平等』13.2%＞『女性優遇』6.0%

社会全体での地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が65.7%と最も高く、次いで「平等である」が13.2%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で59.0%、女性で71.1%と女性が12.1ポイント上回っています。一方、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』との回答が男性で10.7%、女性で2.3%と男性が8.4ポイント上回っています。また、「平等である」との回答は男性で19.1%、女性で8.6%と男性が10.5ポイント上回っています。

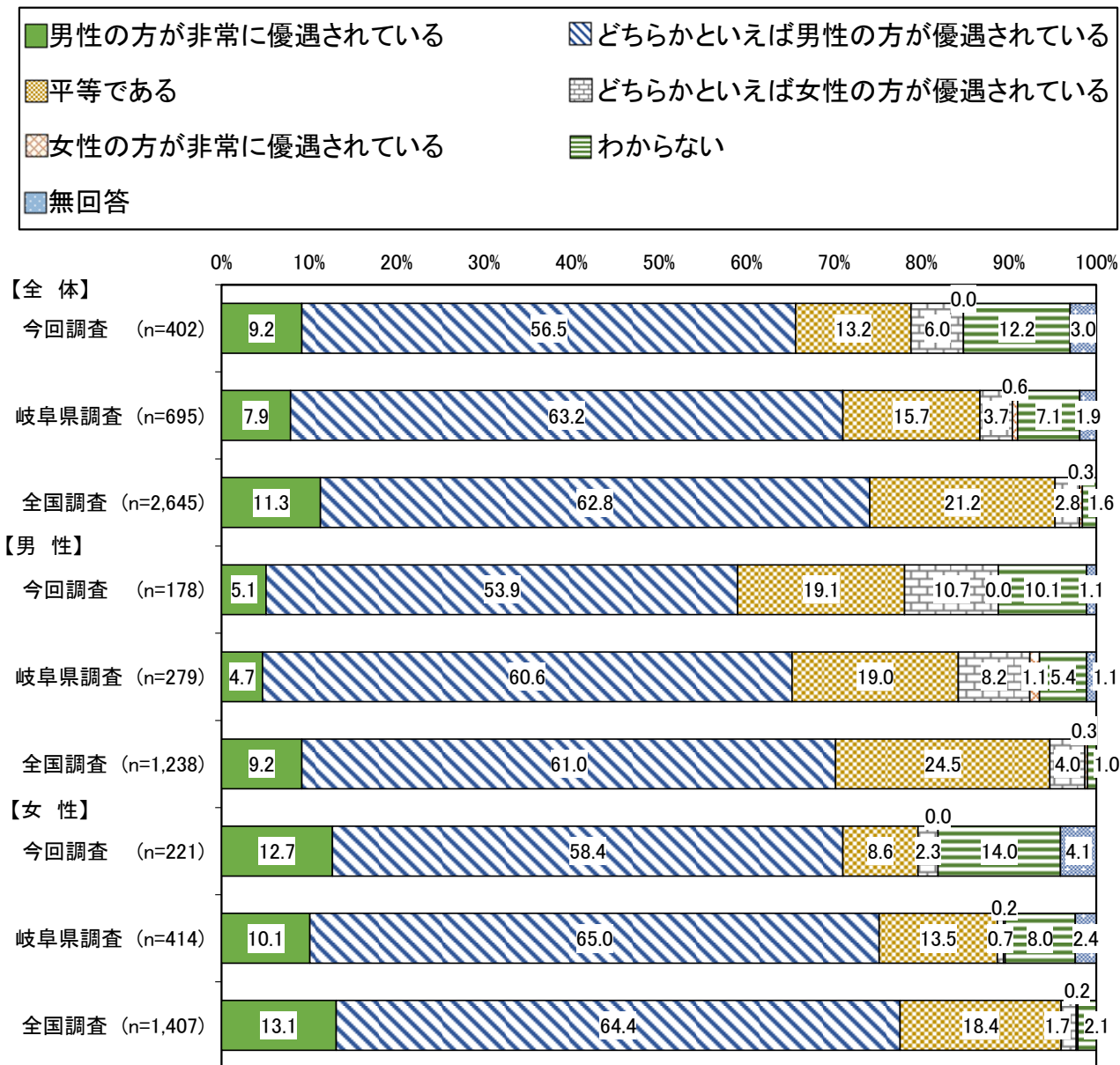
年齢別では、18～29歳を除いた年齢層で『男性優遇』との回答が6割以上を占めており、特に50代と60代は7割以上を占め高くなっています。



参考：全国調査、岐阜県調査との比較（社会全体における平等感）

岐阜県調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。



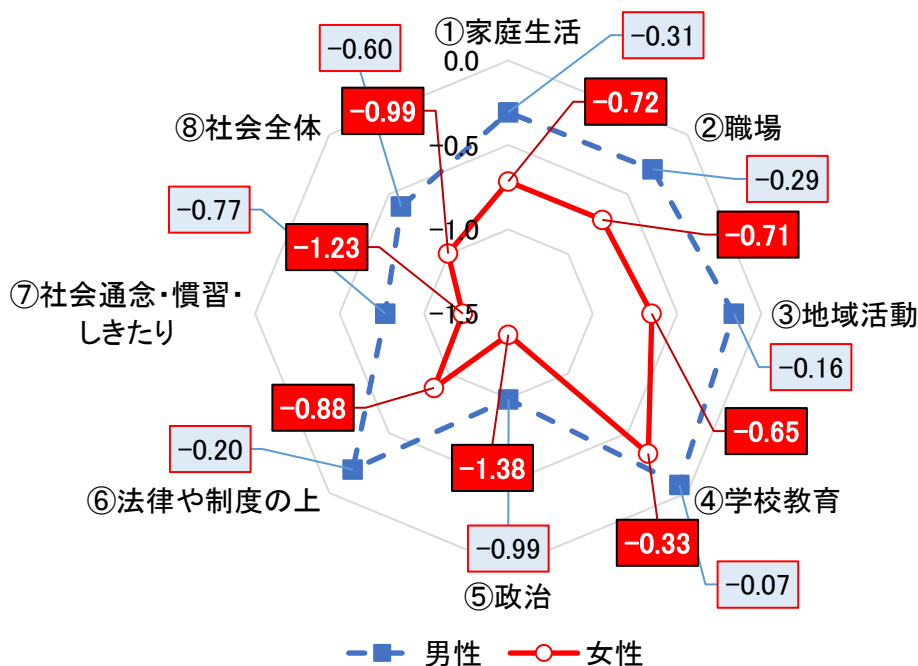
※全国調査については、『無回答』がない

男女の平等についての男女間の意識の比較（レーダーチャート）

下図は、各分野の平等感について、性別ごとにレーダーチャート図にしたものです。

総体的に8分野すべてで男性より女性のポイントが下回っており、女性は「男性が優遇されている」と感じていることがわかります。これは、言い換えれば、男性が感じているより、女性の感じている不平等感が大きいことを示しています。

分野別にみると、「学校教育」では性別による平等感の差が最も小さくなっているのに対し、「法律や制度の上」、「政治」では男女の平等感の差が大きくなっています。



平均得点について

「家庭生活」や「職場」など8分野の男女の平等感についての回答結果に対して「男性の方が非常に優遇されている」を－2、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を－1、「平等である」を±0、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を＋1、「女性の方が非常に優遇されている」を＋2、「わからない」「無回答」は除いて男女別に平均得点を算出しました。

平均得点の考え方としては、点数が大きくなり、±0に近くなるほど、男女の平等感が高く、内側に行くほど男性が優遇されているということがいえます。

◆ 男女の平等についての平均得点段出結果

分野	全体	男性	女性	男女差
①家庭生活	-0.54	-0.31	-0.72	-0.41
②職場	-0.52	-0.29	-0.71	-0.42
③地域活動	-0.41	-0.16	-0.65	-0.49
④学校教育	-0.21	-0.07	-0.33	-0.26
⑤政治	-1.20	-0.99	-1.38	-0.39
⑥法律や制度の上	-0.56	-0.20	-0.88	-0.68
⑦社会通念・慣習・しきたり	-1.02	-0.77	-1.23	-0.46
⑧社会全体	-0.81	-0.60	-0.99	-0.39

(2) 社会全体で男性優遇だと考える理由

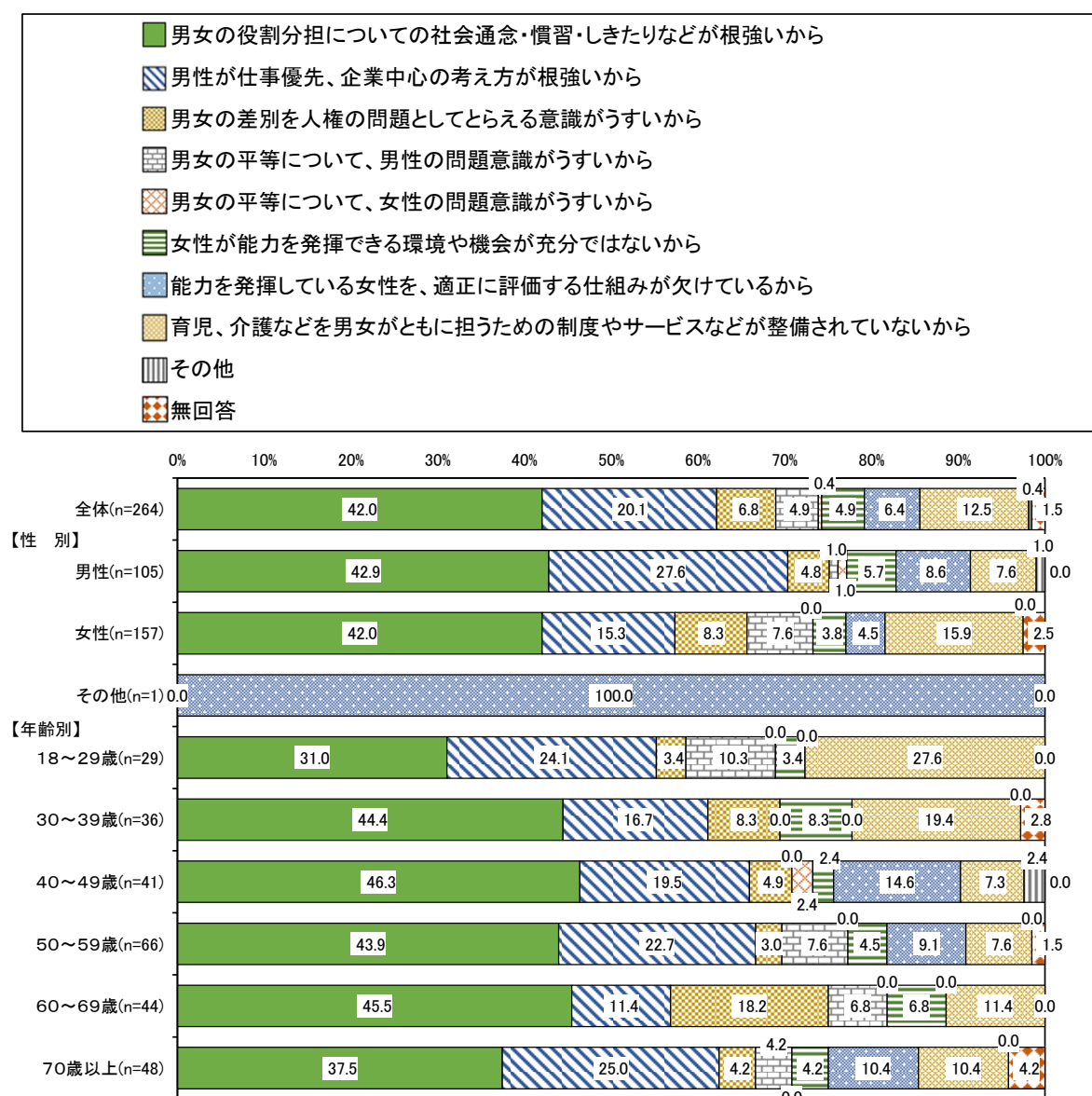
問1の「⑧社会全体では」において「1男性の方が非常に優遇されている」「2どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方は、下記の問2、問3にお答えください。それ以外の方は【問4】にお進みください。

【問2】その主な理由は何だと思いますか。(1つに○)

社会全体で『男性優遇』されている理由は、「男女の役割についての社会通念の根強さ」「男性の仕事・企業中心の考え方」「育児・介護等を男女が担うための制度やサービスの整備不足」

社会全体で『男性優遇』であると感じる主な理由については、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」との回答が42.0%と最も高く、次いで「男性が仕事優先、企業中心の考え方が根強いから」が20.1%、「育児・介護などを男女がともに担うための制度やサービスなどが整備されていないから」が12.5%となっています。

性別でみると、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」が男性で42.9%、女性で42.0%と最も高くなっています。また、「男性が仕事優先、企業中心の考え方が根強いから」との回答が男性で27.6%、女性で15.3%と、男性が12.3ポイント高くっており、「育児・介護などを男女がともに担うための制度やサービスなどが整備されていないから」との回答が男性で7.6%、女性で15.9%と、女性が8.3ポイント高くなっています。



その他の回答
能力を発揮している男女を適正に評価する考え方が欠けている。

(3) 男女平等のために最も重要なこと

問1の「⑧社会全体では」において「1男性の方が非常に優遇されている」「2どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方は、下記の問2、問3にお答えください。それ以外の方は【問4】にお進みください。

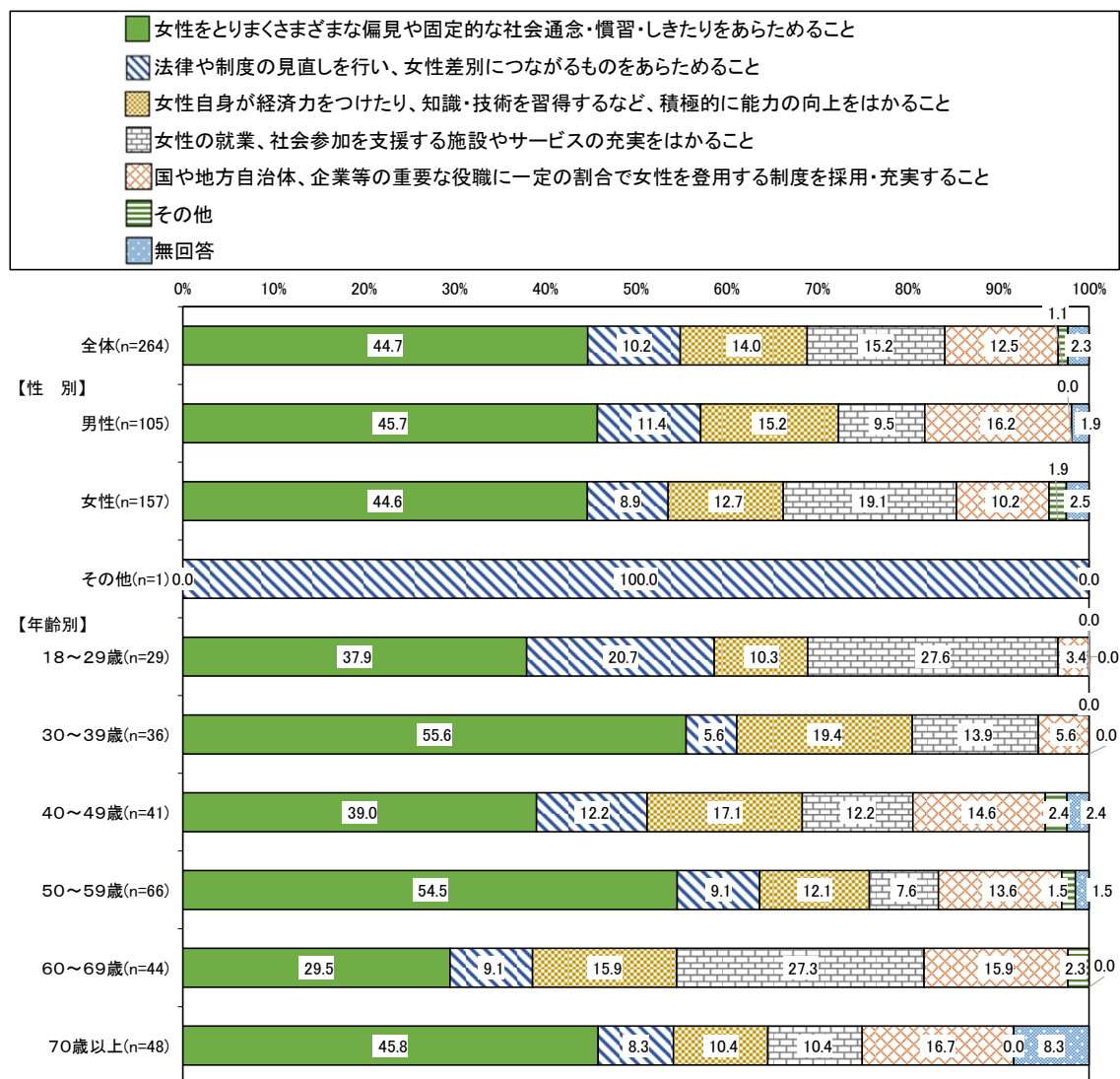
【問3】今後、男女が社会のあらゆる分野で、もっと平等になるために最も重要と思われることは何だと思いませんか。(1つに○)

男女がもっと平等になるために重要なことは、「女性をとりまく偏見や固定的な社会通念の改善」「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実」

社会全体で『男性優遇』であると感じている方が、今後、男女が社会のあらゆる分野で、もっと平等になるために最も重要と思われることについては、「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりをあらためること」との回答が44.7%と最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」が15.2%となっています。

性別でみると、「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりをあらためること」との回答が男性で45.7%、女性で44.6%と、男女間で大きな差は見られません。また、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」が男性で9.5%、女性が19.1%と、女性が9.6ポイント上回っています。

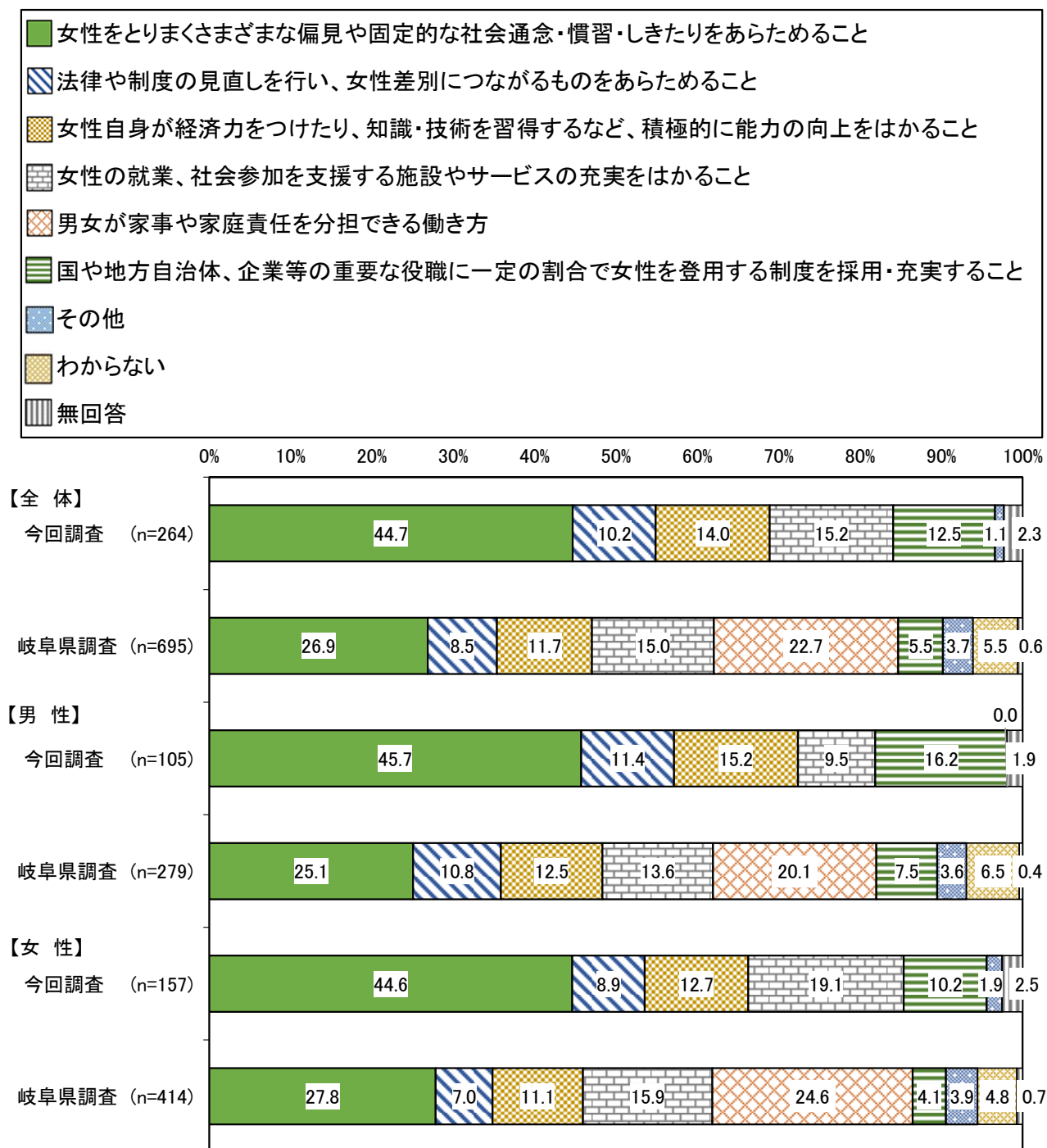
年齢別では、30代、40代で「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりをあらためること」との回答が5割以上を占め高くなっています。



その他の回答
世の中が能力に合わせての給料体系になっていない。確かに、女性が出産・子育てを担う事が多いため、その分男性の給料を多くしないと生活がなりたたないのかもしれない。しかし、明らかに仕事出来る女性が性別によって給料が少ないのはおかしいと思う。
何の支障もなく妊娠出産、子育てができる社会であること。
①（女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりをあらためること）と③（女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上をはかること）の両方が必要だと思う。

参考：岐阜県調査との比較（男女がさらに社会で平等になるために重要なこと）

岐阜県調査と比較すると、全体、男女とも「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりをあらためること」と回答する割合が 20 ポイント程度高くなっています。



※岐阜県調査については、『男女が家事や家庭責任を分担できる働き方』『わからない』の2つの選択肢が追加されている

(4) 家庭における男女の役割

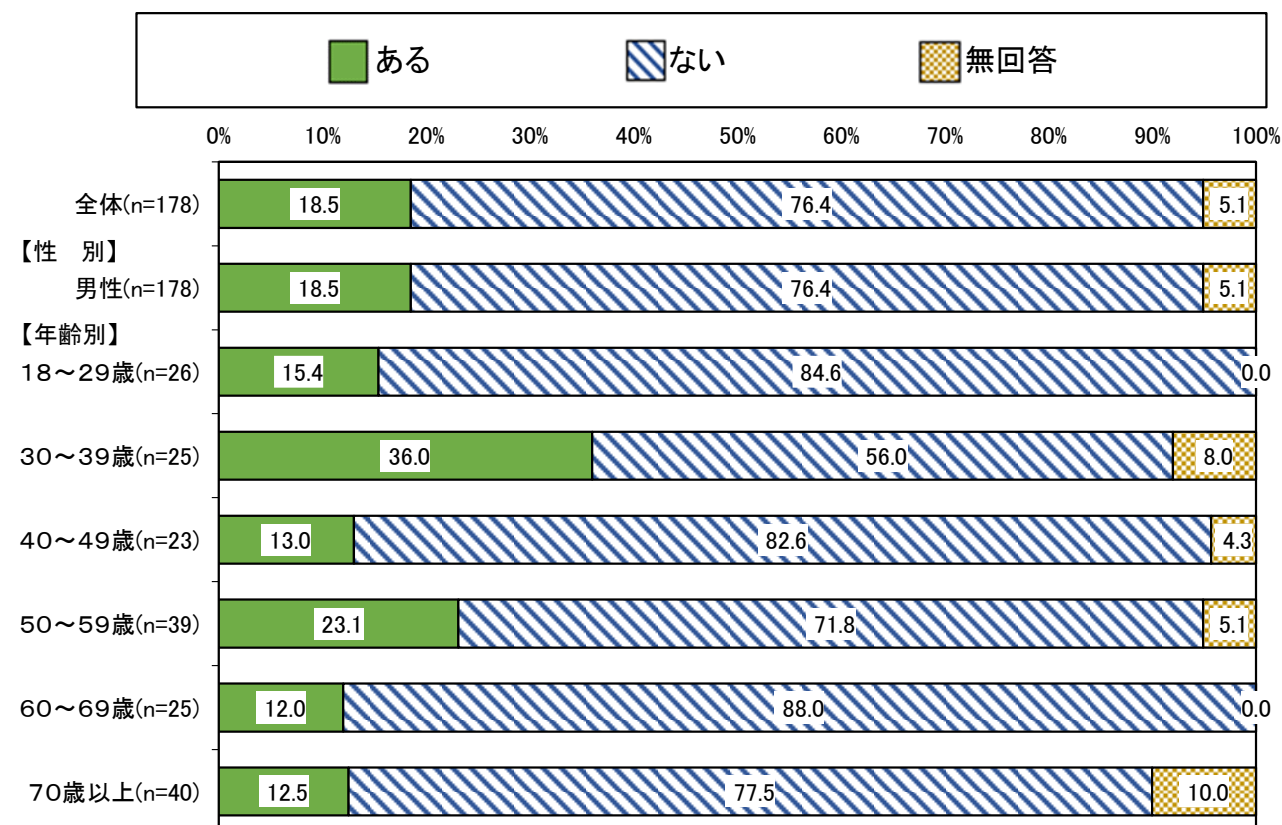
【問4】男性の方におたずねします。

あなたは、家庭における男女の役割において「つらい」と感じることはありますか。

家庭における男女の役割が「つらい」と感じている男性は約2割

男性の方で、家庭における男女の役割において「つらい」と感じることもあるかについては、「ある」との回答が18.5%、「ない」が76.4%となっています。

年齢別では、30代で「ある」との回答が36.0%と、他の年代と比較して高くなっています。

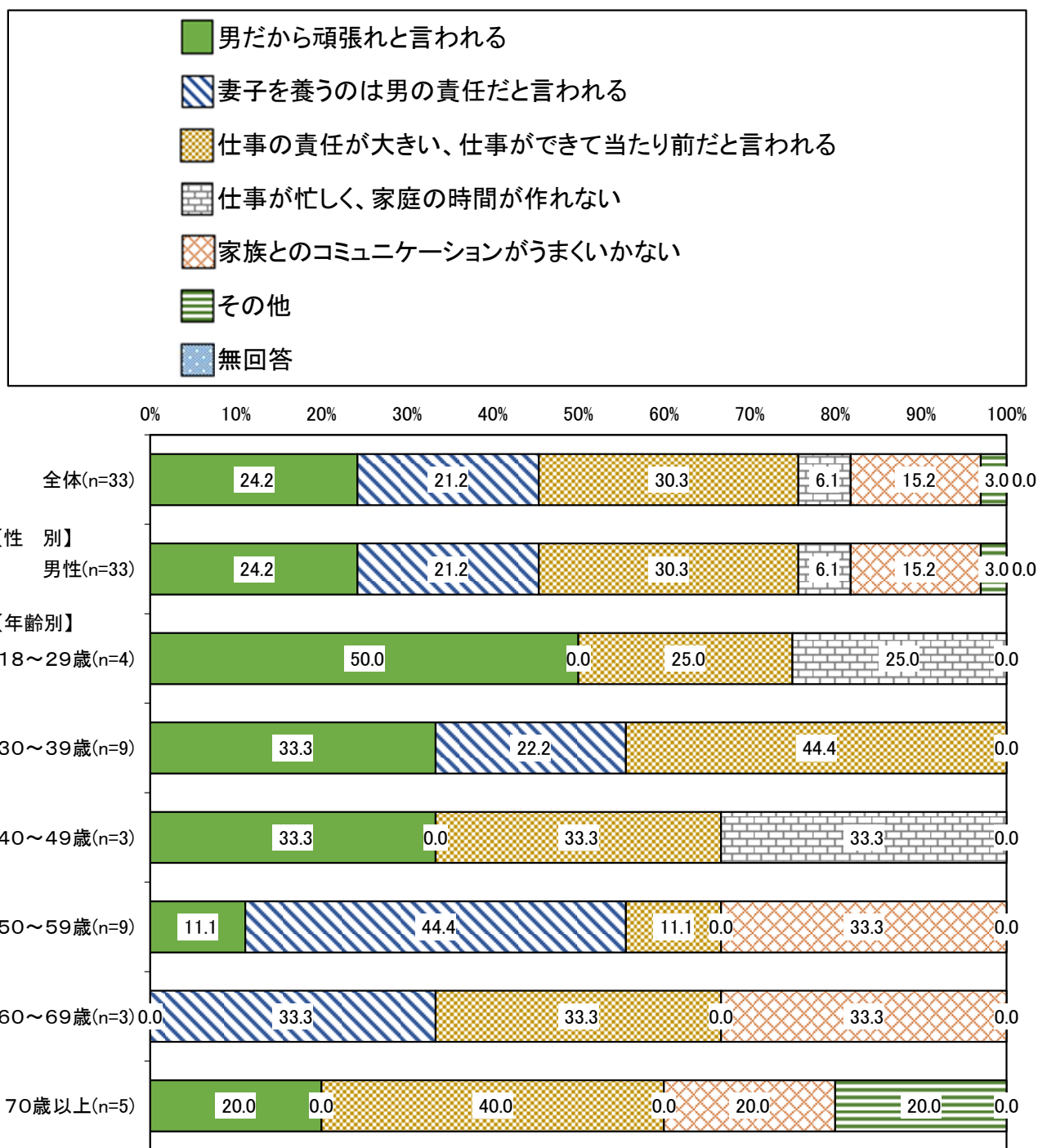


【問5】問4で「1. ある」と答えた方におたずねします。

それはどんなことですか。(1つに○)

「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前だと言われる」ことがつらいと感じている

どんなことで「男性もつらい」と感じるかについては、「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前だと言われる」との回答が30.3%と最も高く、次いで「男だから頑張れと言われる」が24.2%「妻子を養うのは男の責任だと言われる」が21.2%「妻子を養うのは男の責任だと言われる」が21.2%となっています。



その他の回答

(「その他」の回答なし)

(5) 男女に関する考え方

【問6】仕事、家庭、介護などについて、さまざまな考え方がありますが、あなたは次の意見についてどのように思いますか。①～⑨についてお答えください。

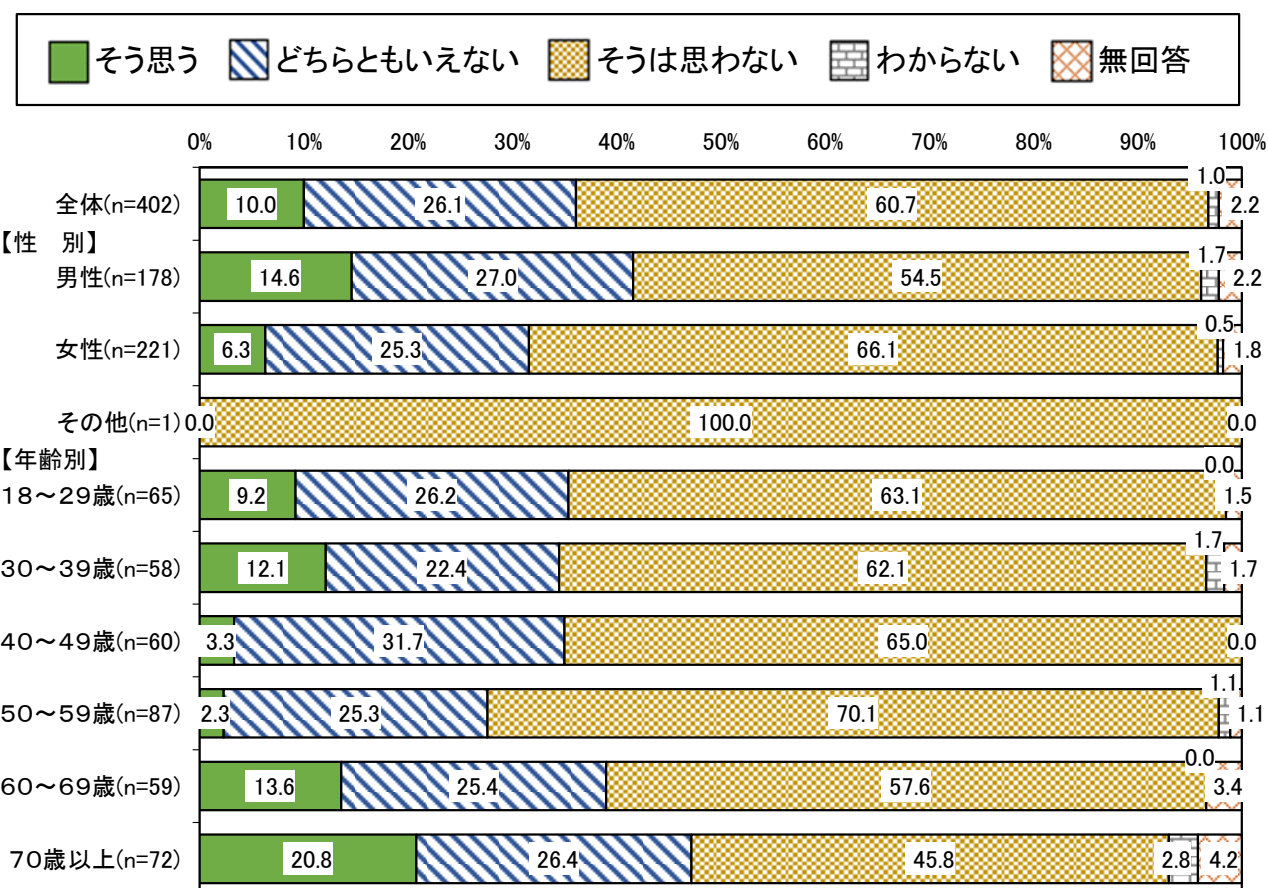
① 「男性は仕事、女性は家庭」

『そうは思わない』60.7%>『そう思う』10.0%

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方については、「そう思う」との回答が10.0%、「そうは思わない」が60.7%となっています。

性別でみると、「そうは思わない」との回答が男性で54.5%、女性で66.1%と女性が11.6ポイント上回っています。一方、「そう思う」との回答が男性で14.6%、女性で6.3%と男性が8.3ポイント上回っています。

年齢別では、70代以上で他の年代と比較して「そう思う」と回答する割合が高くなっています。



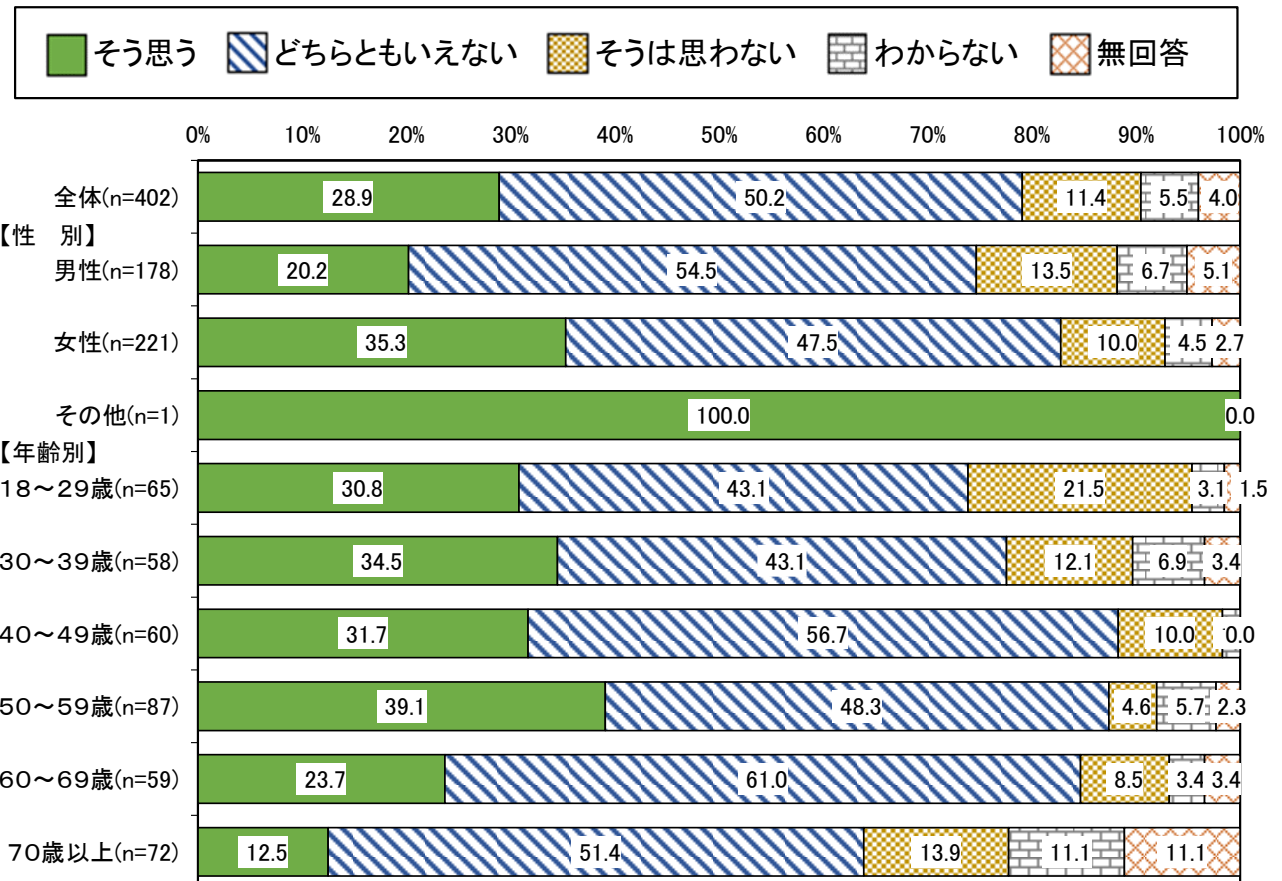
② 「女性が仕事を続ける」

『そう思わない』が過半数

「女性が仕事を続ける」という考え方については、「そう思う」との回答が 28.9%、「どちらともいえない」が 50.2%、「そうは思わない」が 11.4%となっています。

性別でみると、「そう思う」との回答が男性で 20.2%、女性で 35.3%と女性が 15.1 ポイント上回っています。

年齢別では、60 歳未満で「そう思う」との回答が 3 割以上を占め高くなっています。



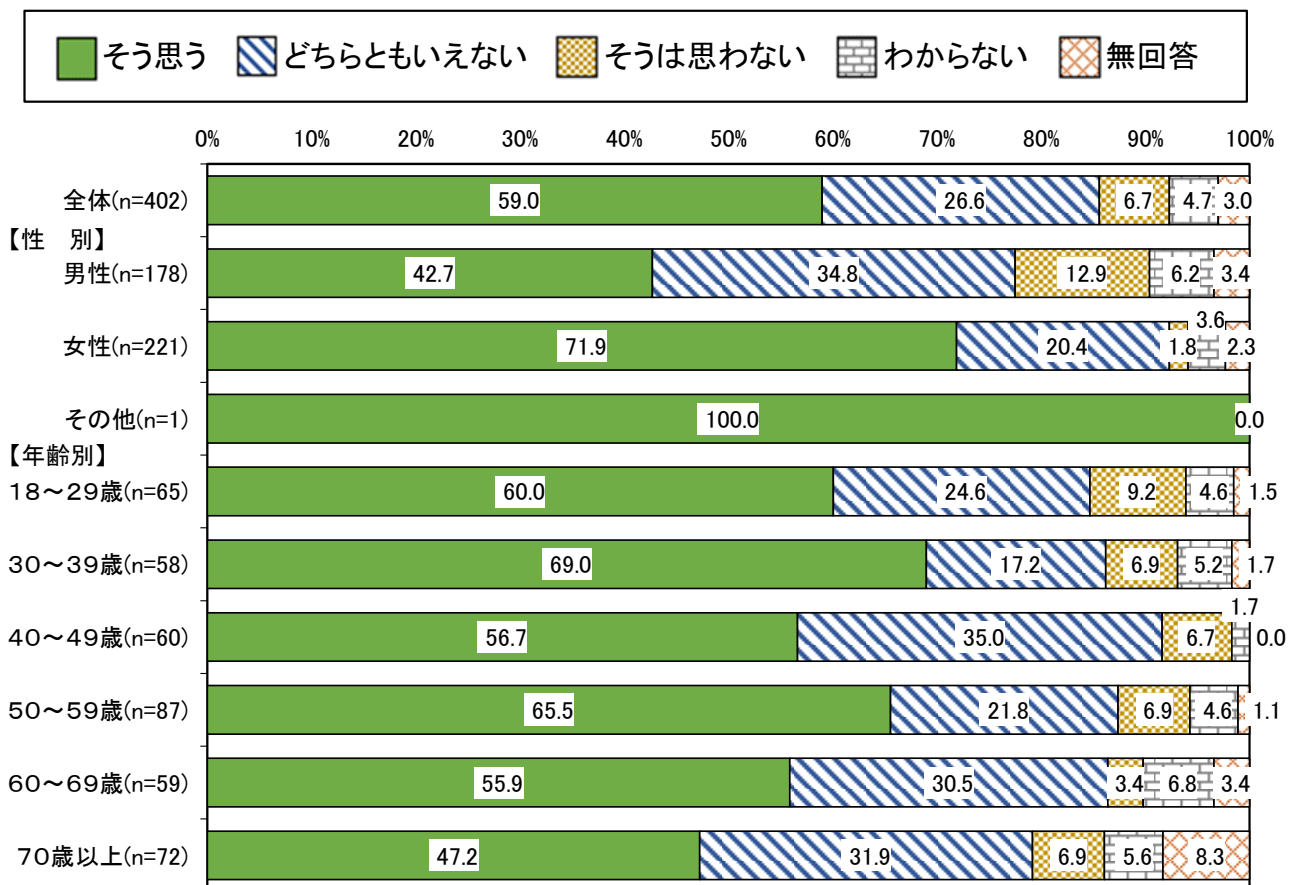
③ 「男性がもっと地域社会の活動や家庭生活に参加することを進めていく必要がある」

『そう思う』59.0%＞『そうは思わない』6.7%

「男性がもっと地域社会の活動や家庭生活に参加することを進めていく必要がある」という考え方については、「そう思う」との回答が59.0%、「そうは思わない」が6.7%となっています。

性別でみると、「そう思う」との回答が男性で42.7%、女性で71.9%と、女性が29.2ポイント上回っています。一方、「そうは思わない」との回答が男性で12.9%、女性で1.8%と男性が11.1ポイント上回っています。

年齢別では、18～29歳、30代、50代で「そう思う」との回答が6割以上を占め高くなっています。



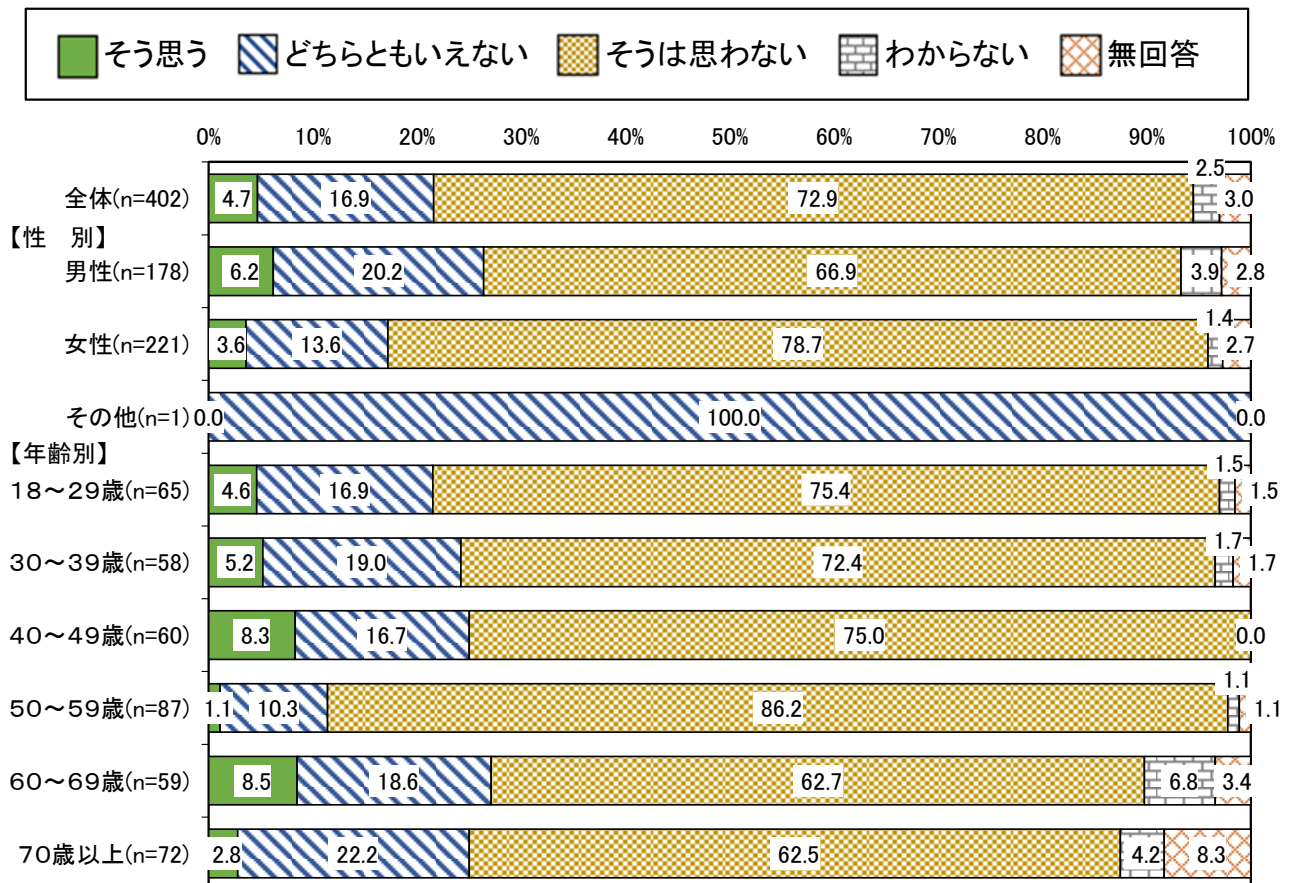
④ 「介護の必要な親の世話は、主に女性が担う」

『そうは思わない』72.9%＞『そう思う』4.7%

「介護の必要な親の世話は、主に女性が担う」という考え方については、「そう思う」との回答が4.7%、「そうは思わない」が72.9%となっています。

性別でみると、「そうは思わない」との回答が男性で66.9%、女性で78.7%と、女性が11.8ポイント上回っています。

年齢別では、50代で「そうは思わない」との回答が86.2%と、他の年代と比較して高くなっています。



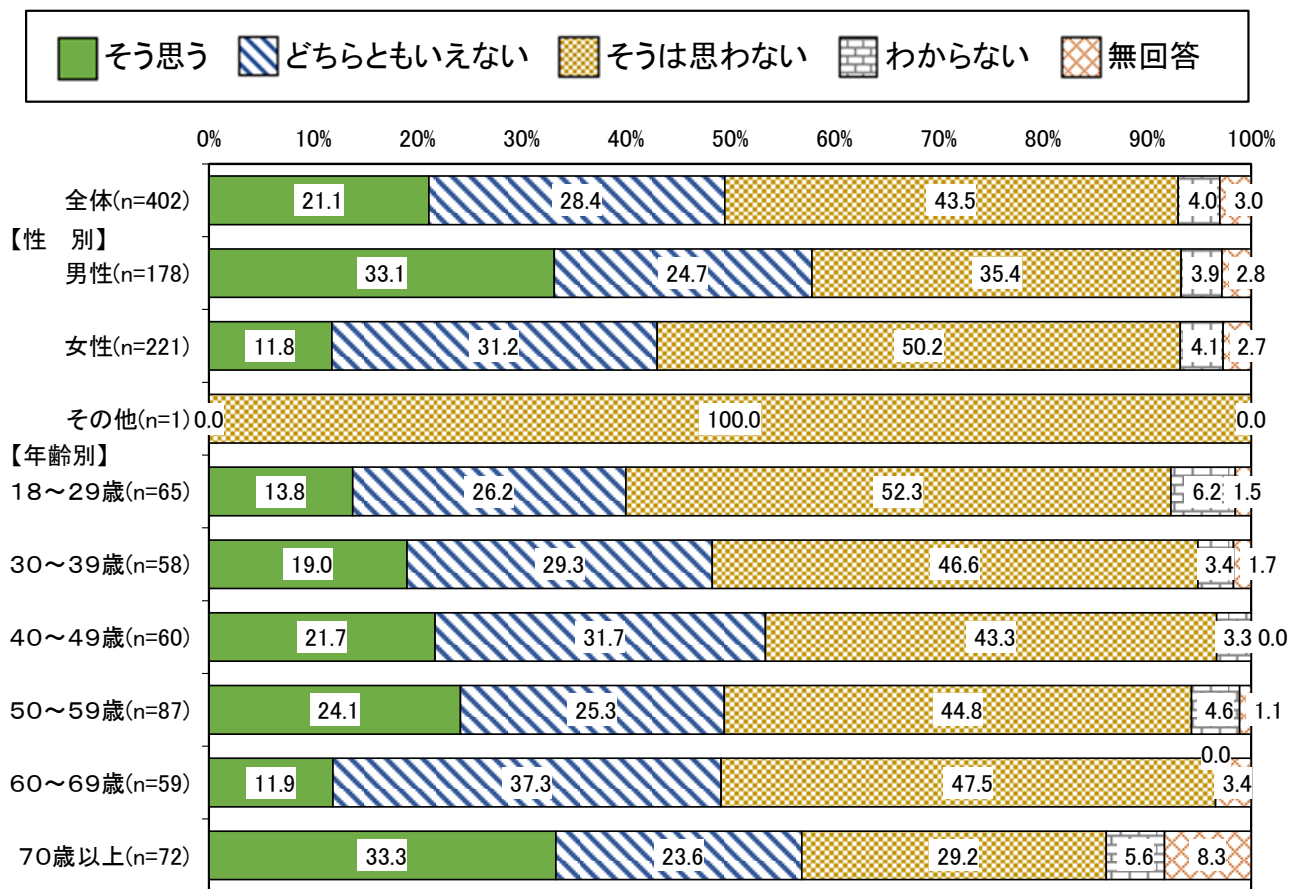
⑤ 「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」（子どものいない方等は一般的な意見としてお答えください。）

『そうは思わない』 43.5% > 『そう思う』 21.1%

「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方については、「そう思う」との回答が 21.1%、「そうは思わない」が 43.5%となっています。

性別でみると、「そう思う」との回答が男性で 33.1%、女性で 11.8%と、男性が 21.3 ポイント上回っています。一方、「そうは思わない」との回答が男性で 35.4%、女性で 50.2%と女性が 14.8 ポイント上回っています。

年齢別では、70 歳以上で「そう思う」との回答が 33.3%と、他の年代と比較して高くなっています。



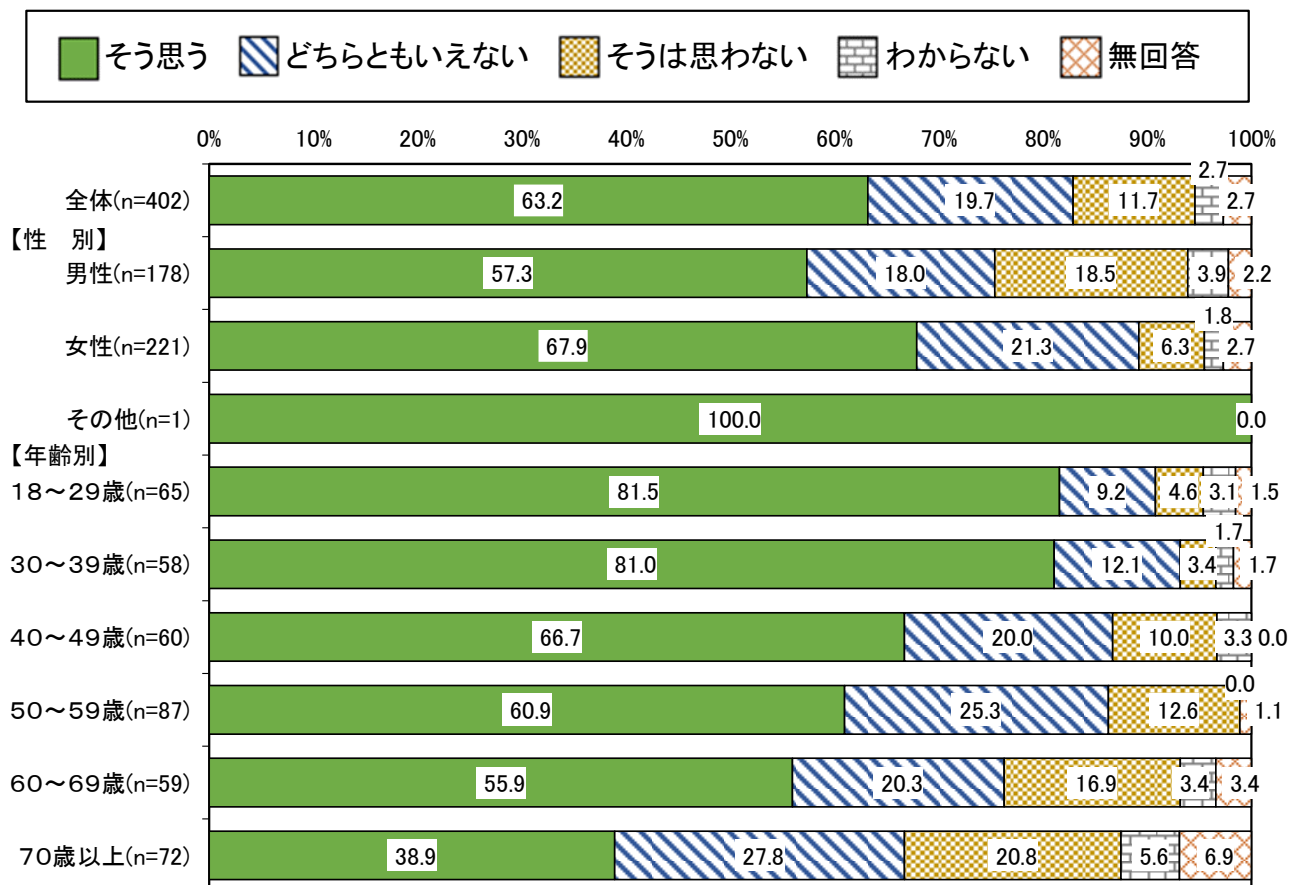
⑥ 「結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもよい」

『**そう思う**』 63.2% > 『**そうは思わない**』 11.7%

「結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもよい」という考え方については、「そう思う」との回答が 63.2%、「そうは思わない」 11.7%となっています。

性別でみると、「そう思う」との回答が男性で 57.3%、女性で 67.9%と女性が 10.6 ポイント上回っています。一方、「そうは思わない」との回答が男性で 18.5%、女性で 6.3%と女性が 12.2 ポイント上回っています。

年齢別では、若年層ほど「そう思う」と回答する割合が高く、18～29 歳、30 代では 8 割を超えています。また、年齢とともに低くなる傾向にあり、年齢間で大きな差がみられ、70 歳以上では 38.9%と、18～29 歳と比較して 40 ポイント以上の差があります。



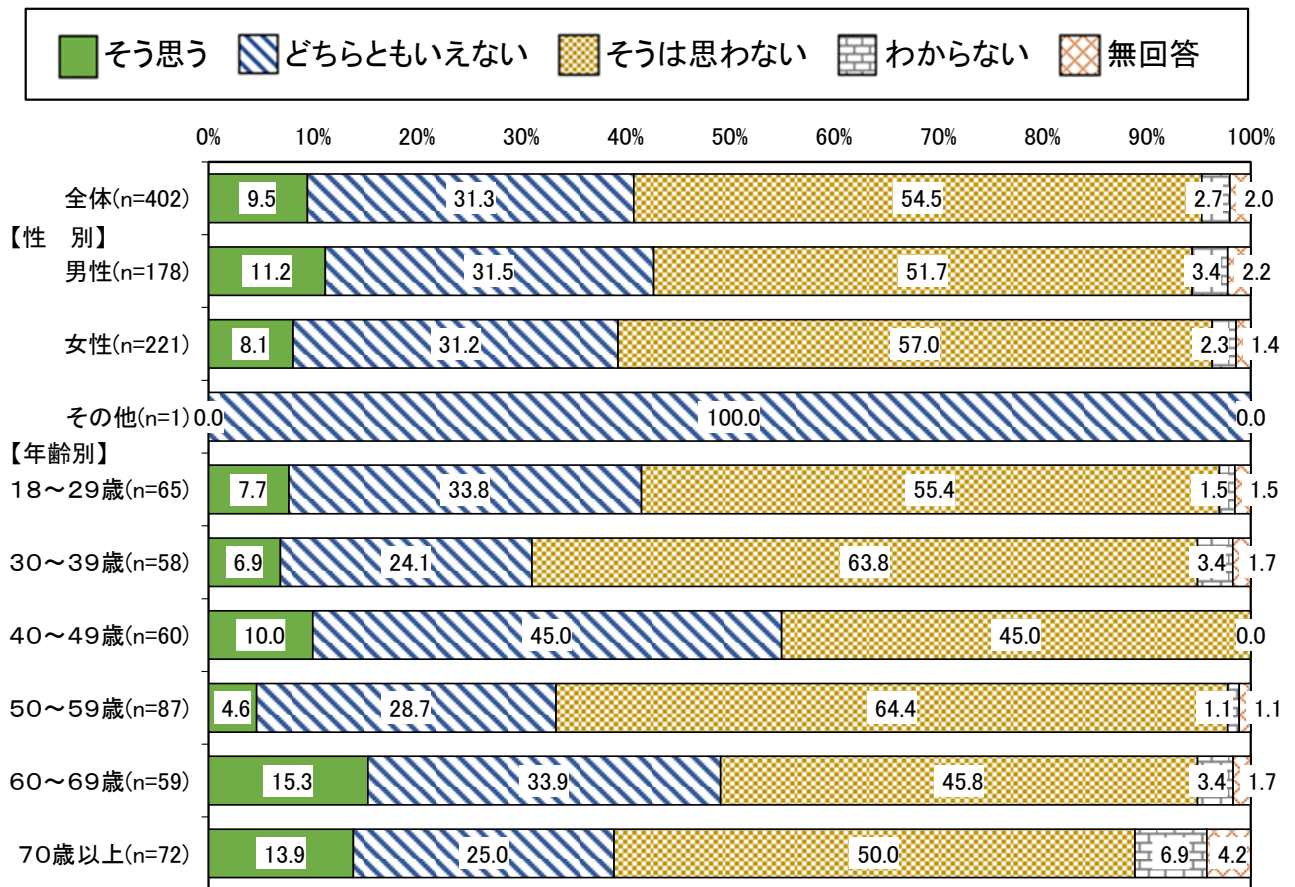
⑦ 「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活する方がよい」

『そうは思わない』54.5%＞『そう思う』9.5%

「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活する方がよい」という考え方については、「そう思う」との回答が9.5%、「そうは思わない」が54.5%となっています。

性別でみると、「そうは思わない」との回答が男性で51.7%、女性で57.0%と女性が5.3ポイント上回っています。

年齢別では、30代、50代で「そうは思わない」との回答が6割以上を占め高くなっています。



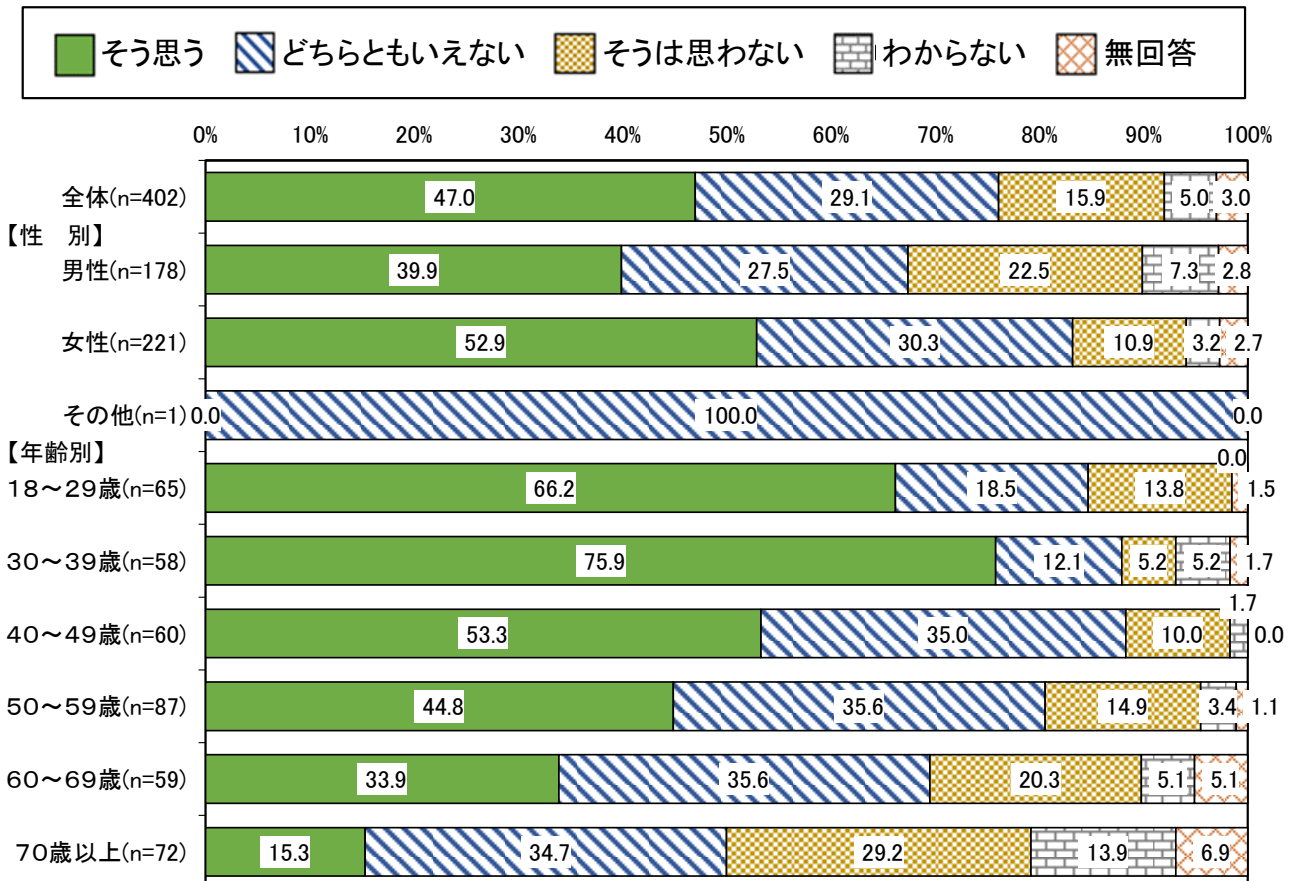
⑧ 「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」

『**そう思う**』 47.0% > 『**そうは思わない**』 15.9%

「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方については、「**そう思う**」との回答が 47.0%、「**そうは思わない**」が 15.9%となっています。

性別でみると、「**そう思う**」との回答が男性で 39.9%、女性で 52.9%と女性が 13.0 ポイント上回っています。

年齢別では、30代で「**そう思う**」との回答が 75.9%と、他の年代と比較して高くなっています。一方、70歳以上で「**そうは思わない**」との回答が 29.2%と、他の年代と比較して高くなっています。



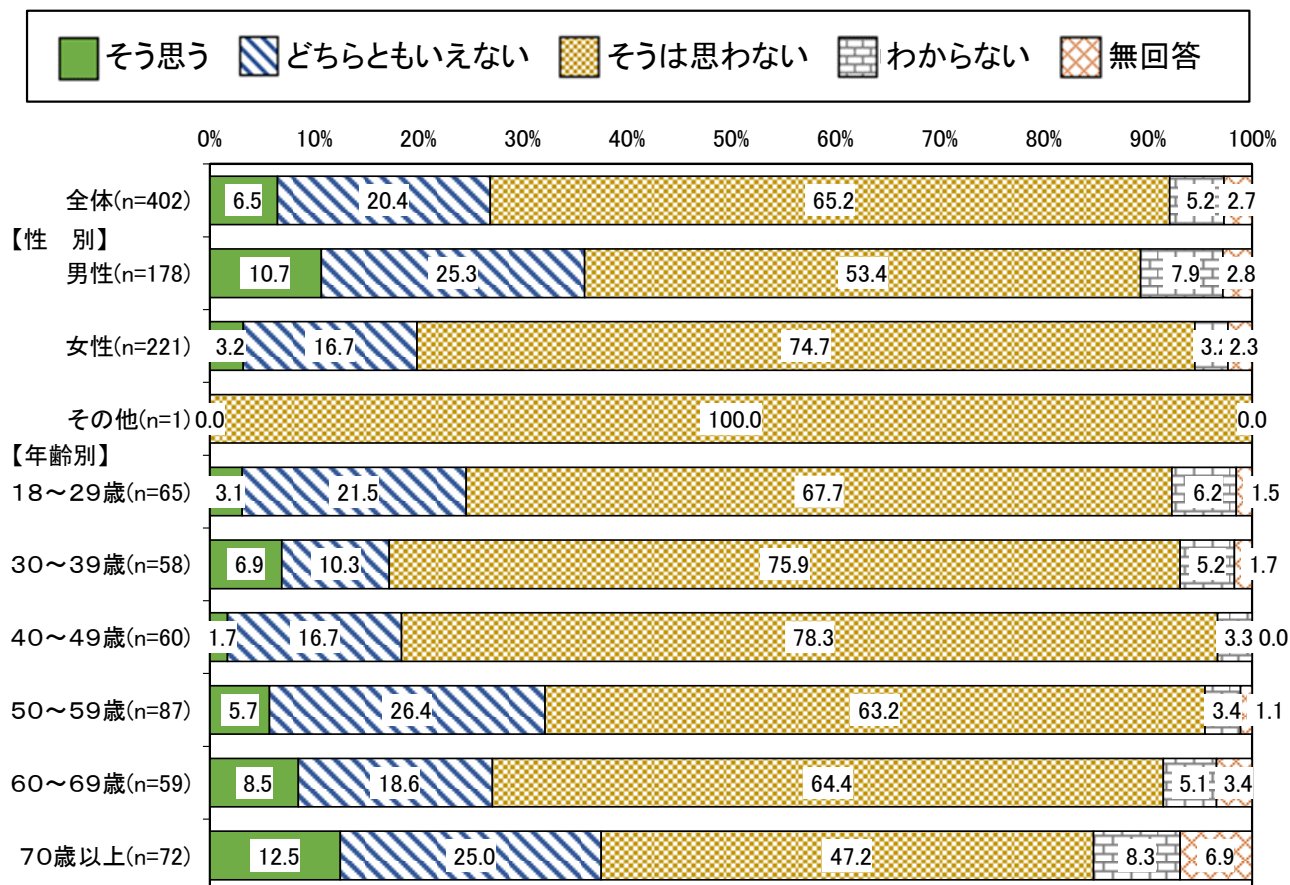
⑨ 「結婚したら、離婚してはいけない」

『そうは思わない』 65.2% > 『そう思う』 6.5%

「結婚したら、離婚してはいけない」という考え方については、「そう思う」との回答が6.5%、「そうは思わない」が65.2%となっています。

性別でみると、「そうは思わない」との回答が男性で53.4%、女性で74.7%と女性が21.3ポイント上回っています。

年齢別では、30代と40代で「そうは思わない」との回答が7割を超えており、他の年代と比較して高くなっています。



3 仕事と家庭等の両立(ワーク・ライフ・バランス《仕事と生活の調和》)について

(1) 家庭での男女の役割の現状

【問7】あなたのご家庭での男女の役割の現状を、次の①～⑩についてお答えください。

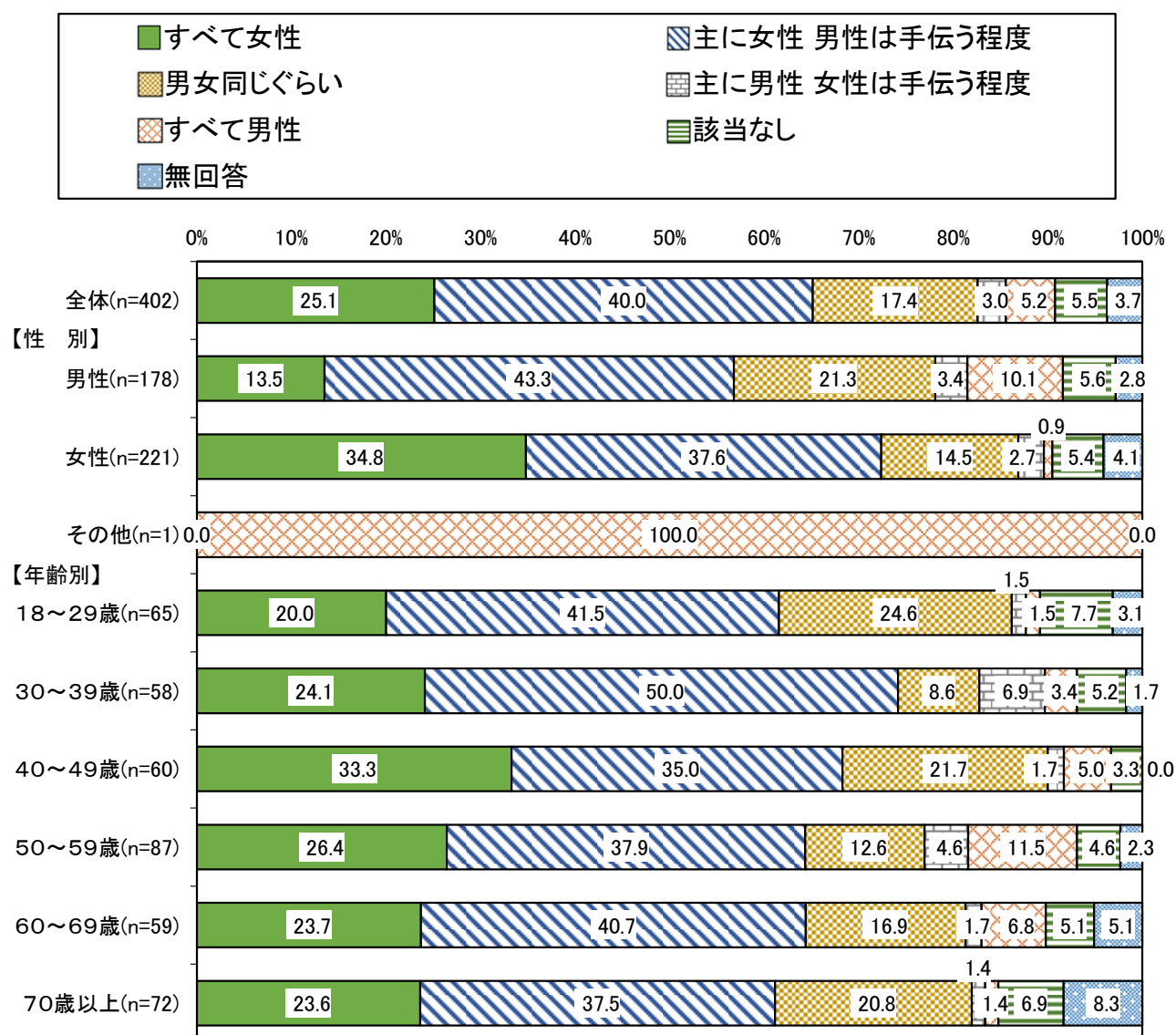
① 食料品などの買出し

『女性が担っている』65.1%＞『男女同じくらい』17.4%＞『男性が担っている』8.2%

食料品などの買出しの男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が65.1%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で56.8%、女性で72.4%と女性が15.6ポイント上回っています。

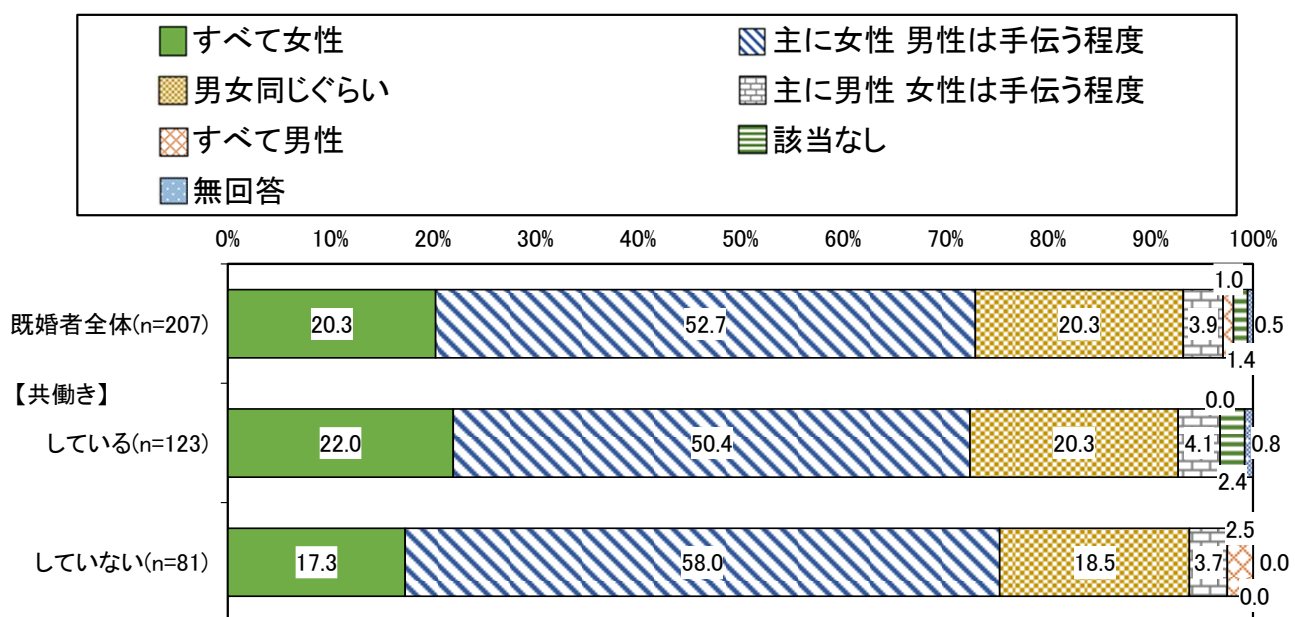
年齢別では、『女性が担っている』との回答はすべての年齢層で6割を超え、特に30代は74.1%と、他の年代に比べて高くなっています。



既婚者全体、共働き別

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が 73.0% となっています。

共働き別では、共働きをしている既婚者は 72.4%、共働きをしていない既婚者は 75.3% と、共働きの有無による大きな差は見られません。



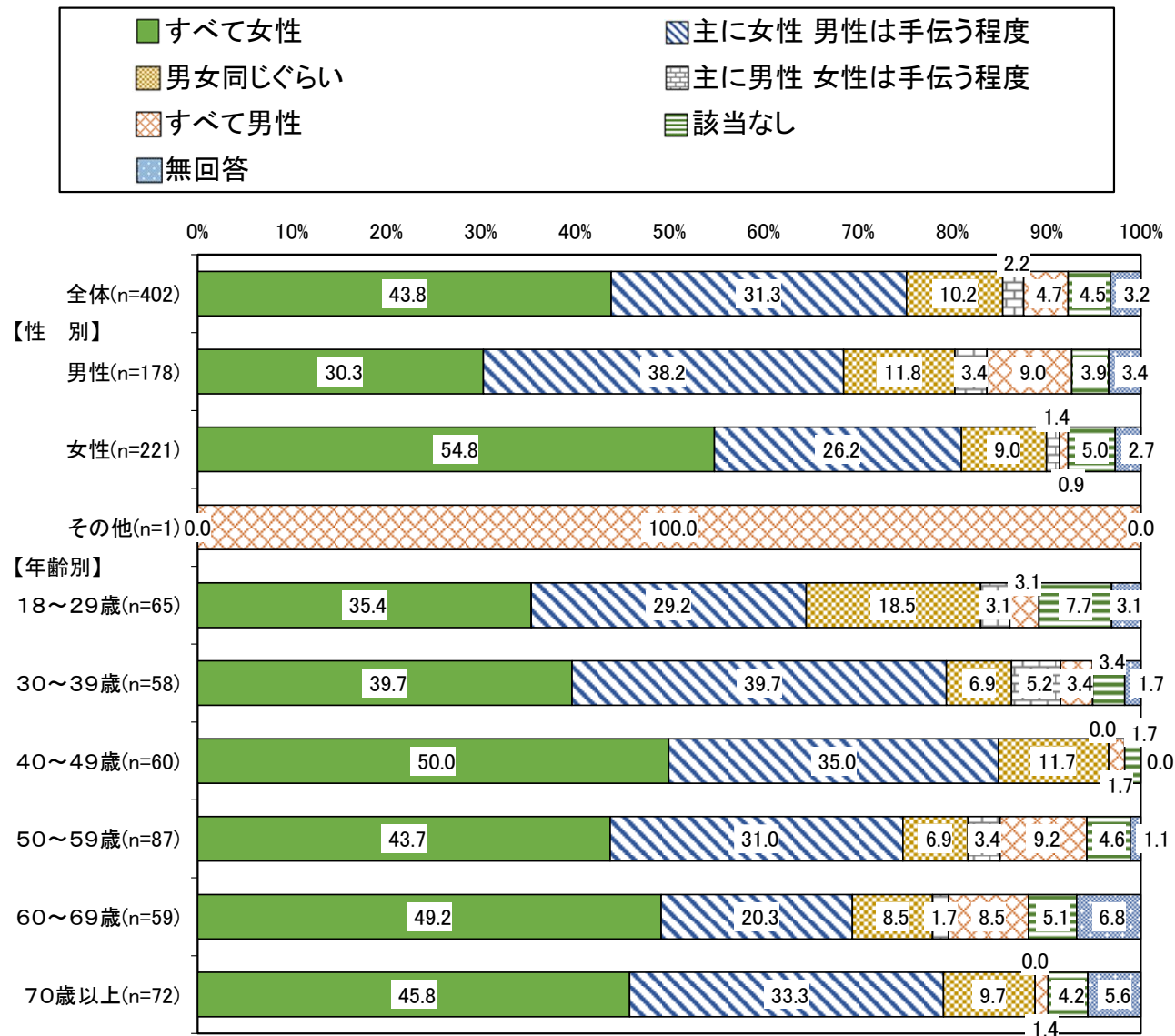
② 食事の用意

『女性が担っている』75.1%＞『男女同じくらい』10.2%＞『男性が担っている』6.9%

食事の用意の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っている」を合わせた『女性が担っている』との回答が75.1%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』が男性で68.5%、女性で81.0%と女性が12.5ポイント上回っています。

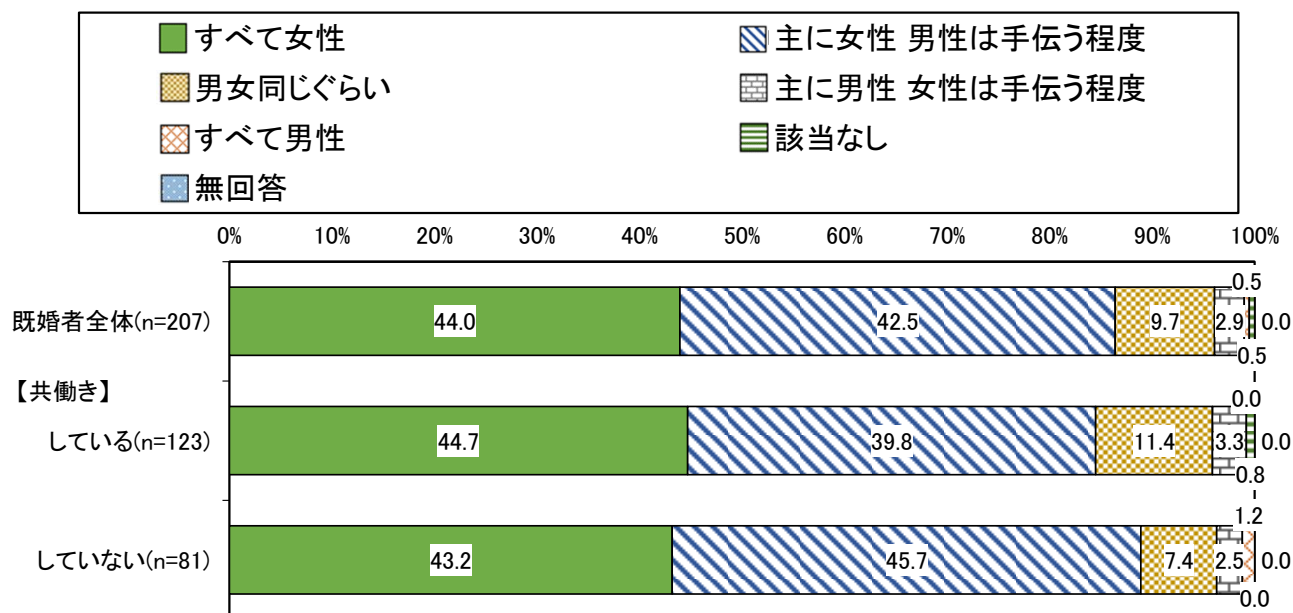
年齢別では、40代で『女性が担っている』との回答が85.0%と、他の年代に比べて低くなっています。



既婚者全体、共働き別

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が 86.5%となっています。

共働き別では、共働きをしている既婚者は 84.5%、共働きをしていない既婚者は 88.9%と、共働きをしていない既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が 4.4 ポイント高くなっています。



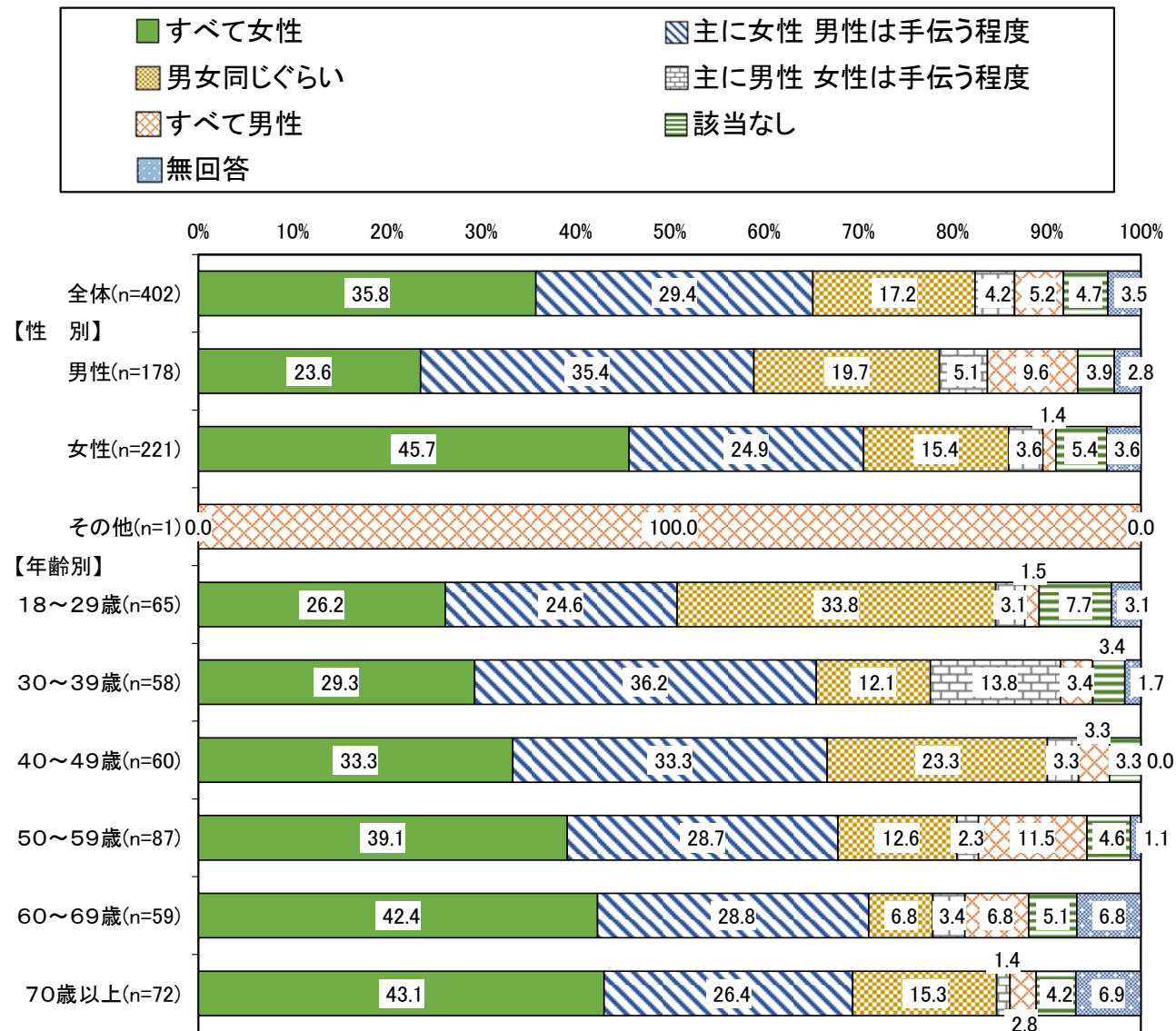
③ 食事の後片付け

『女性が担っている』65.2%＞『男女同じくらい』17.2%＞『男性が担っている』9.4%

食事の後片付けの男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が65.2%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』が男性で59.0%、女性で70.6%と女性が11.6ポイント上回っています。

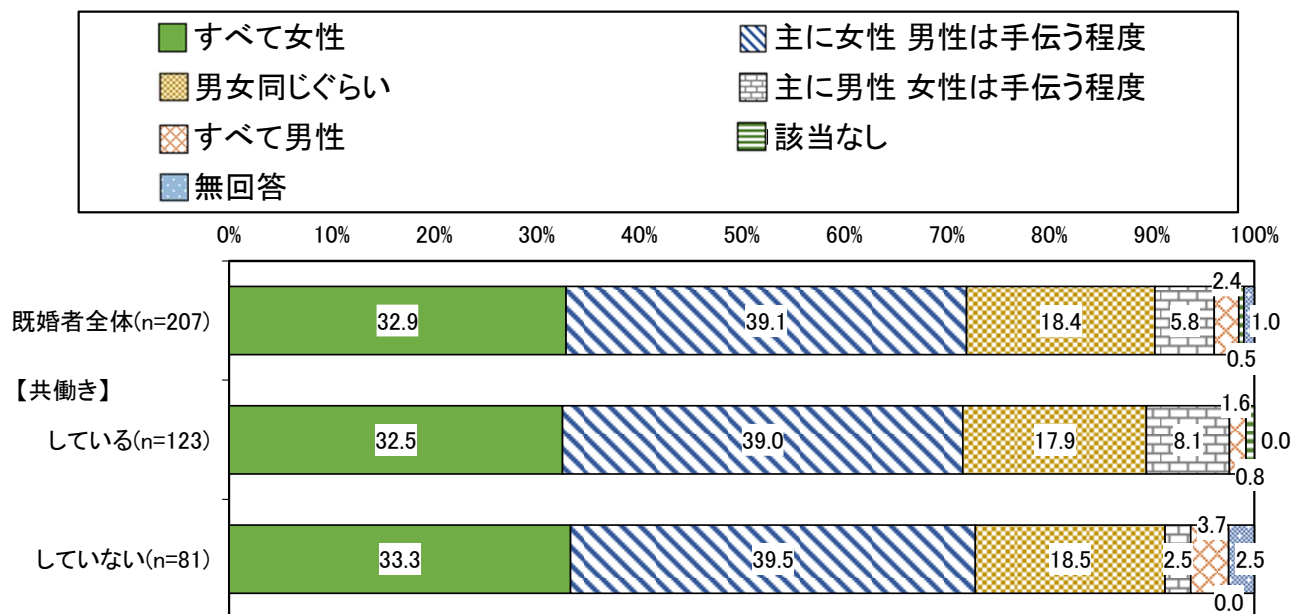
年齢別では、60代で『女性が担っている』との回答が71.2%となっており、他の年代に比べてやや高くなっています。



既婚者全体、共働き別

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が72.0%となっています。

共働き別では、共働きをしている既婚者は71.5%、共働きをしていない既婚者は72.8%と、共働きの有無による大きな差は見られません。



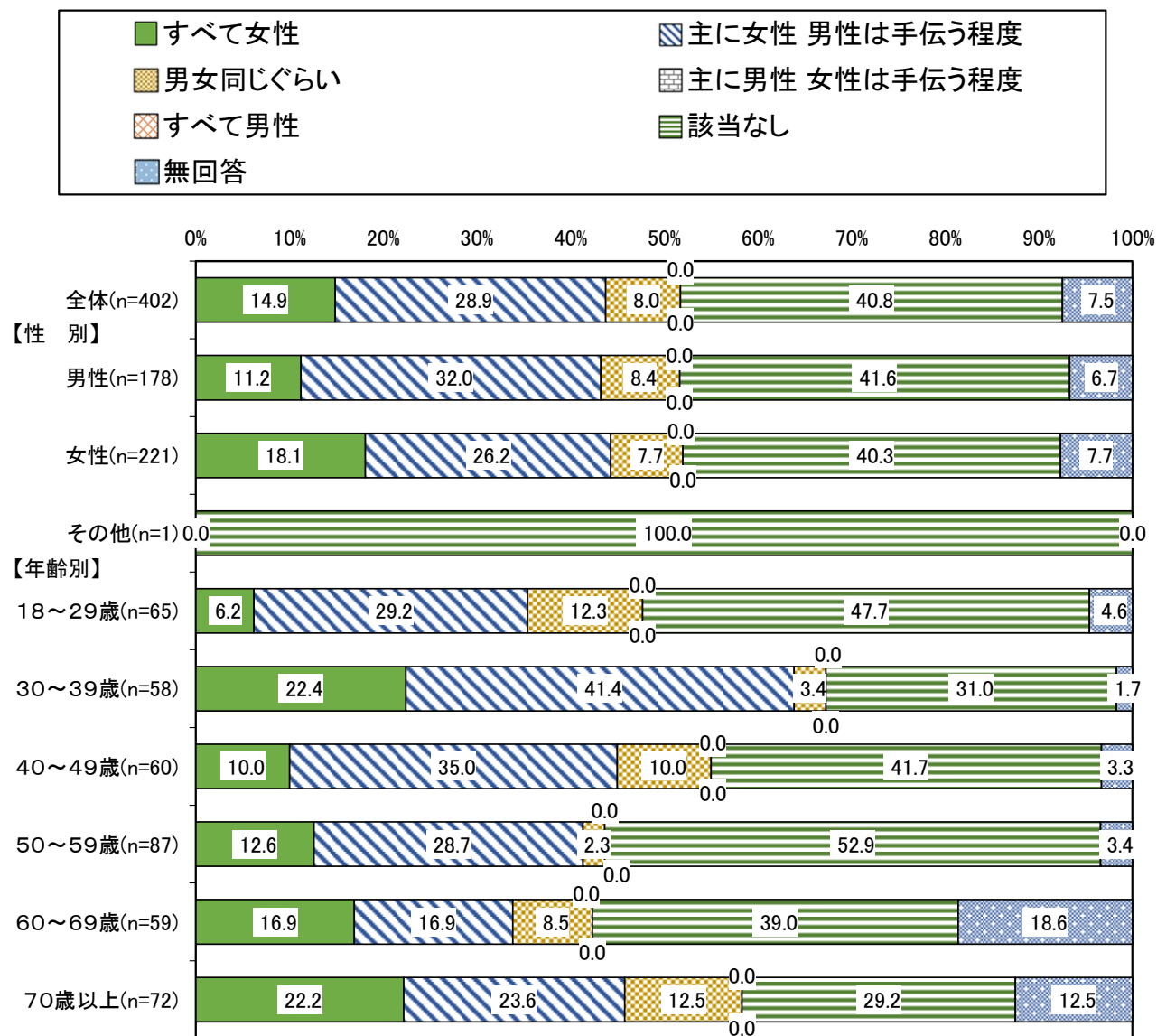
④ 乳幼児の世話

『女性が担っている』43.8%＞『男女同じくらい』8.0%＞『男性が担っている』0.0%

乳幼児の世達の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っている」を合わせた『女性が担っている』との回答が43.8%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で43.2%、女性で44.3%と男女間で大きな差は見られません。

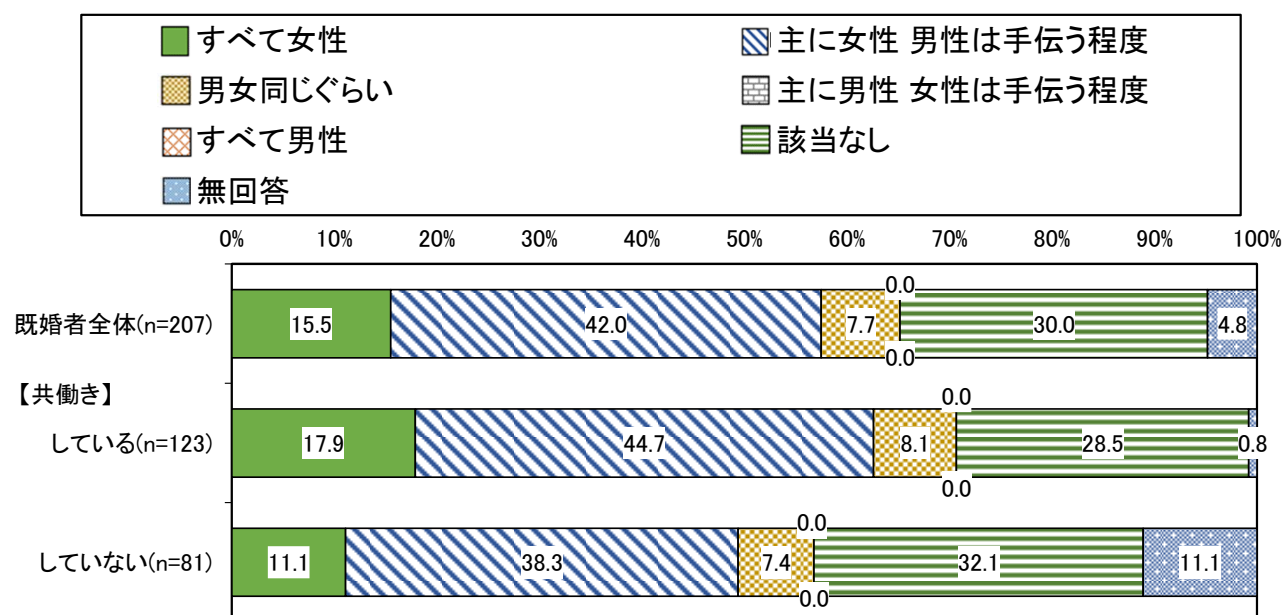
年齢別では、30代で『女性が担っている』との回答が63.8%と、他の年代に比べて高くなっています。



既婚者全体、共働き別

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が 57.5%となっています。

共働き別では、共働きをしている既婚者は 62.6%、共働きをしていない既婚者は 49.4%と、共働きをしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が高くなっています。



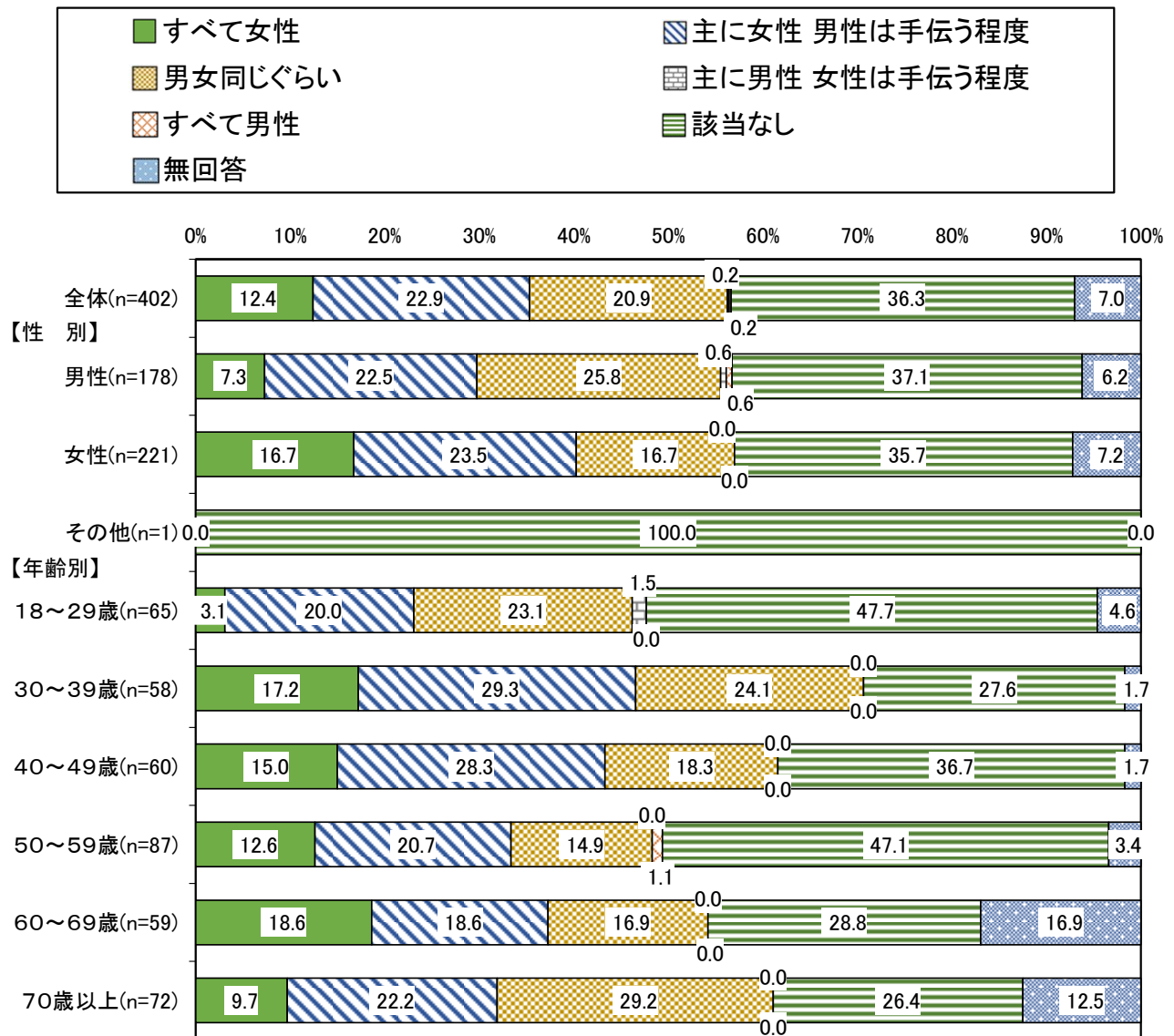
⑤ 子どものしつけ、家庭での教育

『女性が担っている』35.3%＞『男女同じくらい』20.9%＞『男性が担っている』0.4%

子どものしつけ、家庭での教育の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が35.3%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で29.8%、女性で40.2%と女性が10.4ポイント上回っています。

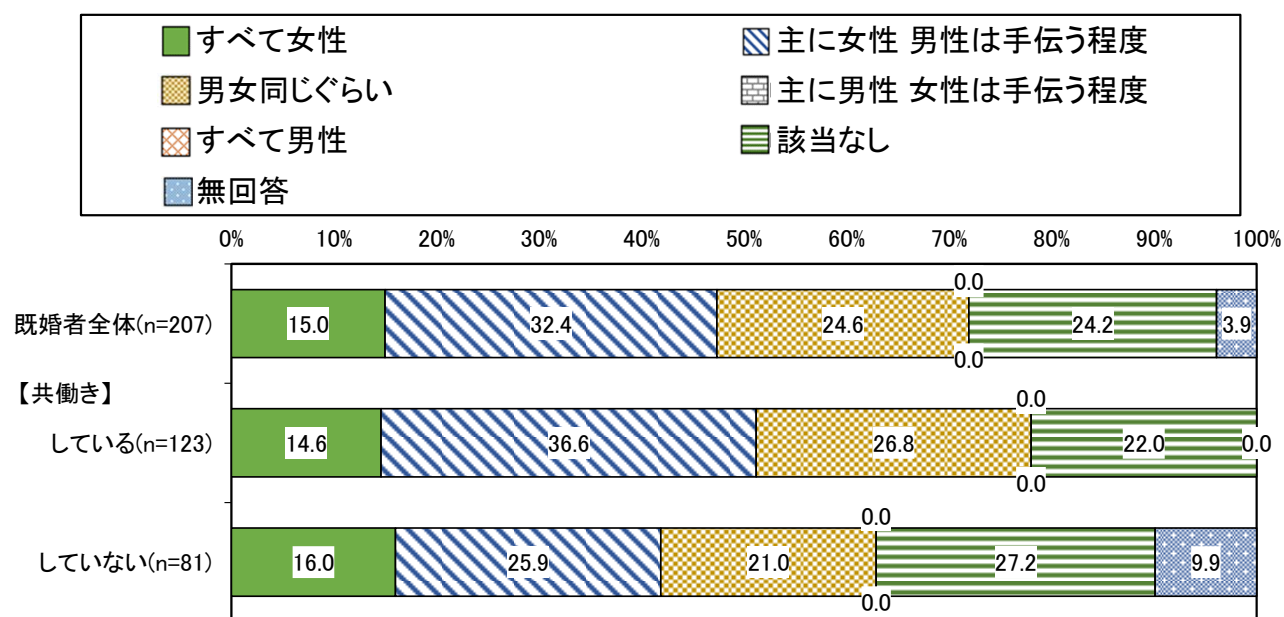
年齢別では、70歳以上で「男女同じくらい」が29.2%と、他の年代に比べて高くなっています。



既婚者全体、共働き別

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が 47.4%となっています。

共働き別では、共働きをしている既婚者は 51.2%、共働きをしていない既婚者は 41.9%と、共働きをしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が高くなっています。



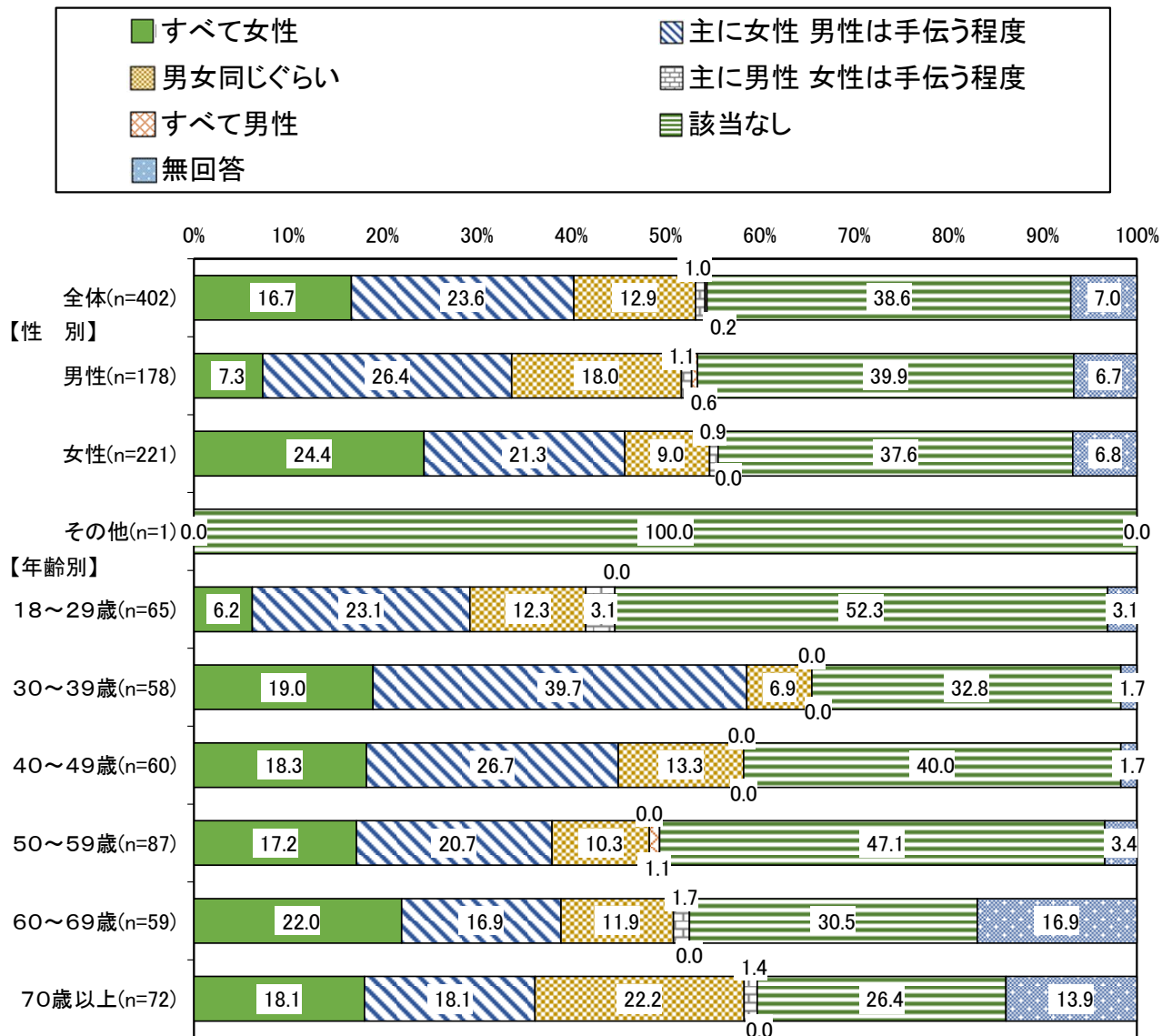
⑥ 子どもの学校行事、クラブ活動などへの参加

『女性が担っている』40.3%＞『男女同じくらい』12.9%＞『男性が担っている』1.2%

子どもの学校行事、クラブ活動などへの参加の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が40.3%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で33.7%、女性で45.7%と女性が12.0ポイント上回っています。

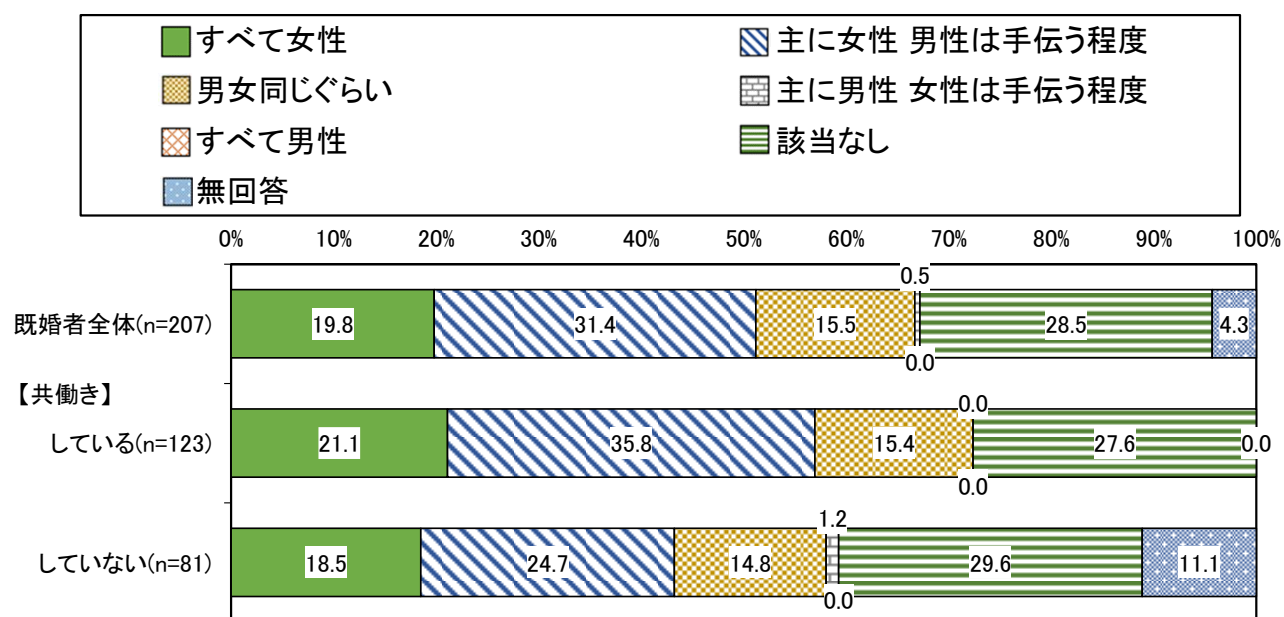
年齢別では、30代で『女性が担っている』との回答が58.7%と、他の年代と比較して高くなっています。



既婚者全体、共働き別

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が 51.2%となっています。

共働き別では、共働きをしている既婚者は 56.9%、共働きをしていない既婚者は 43.2%と、共働きをしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が高くなっています。



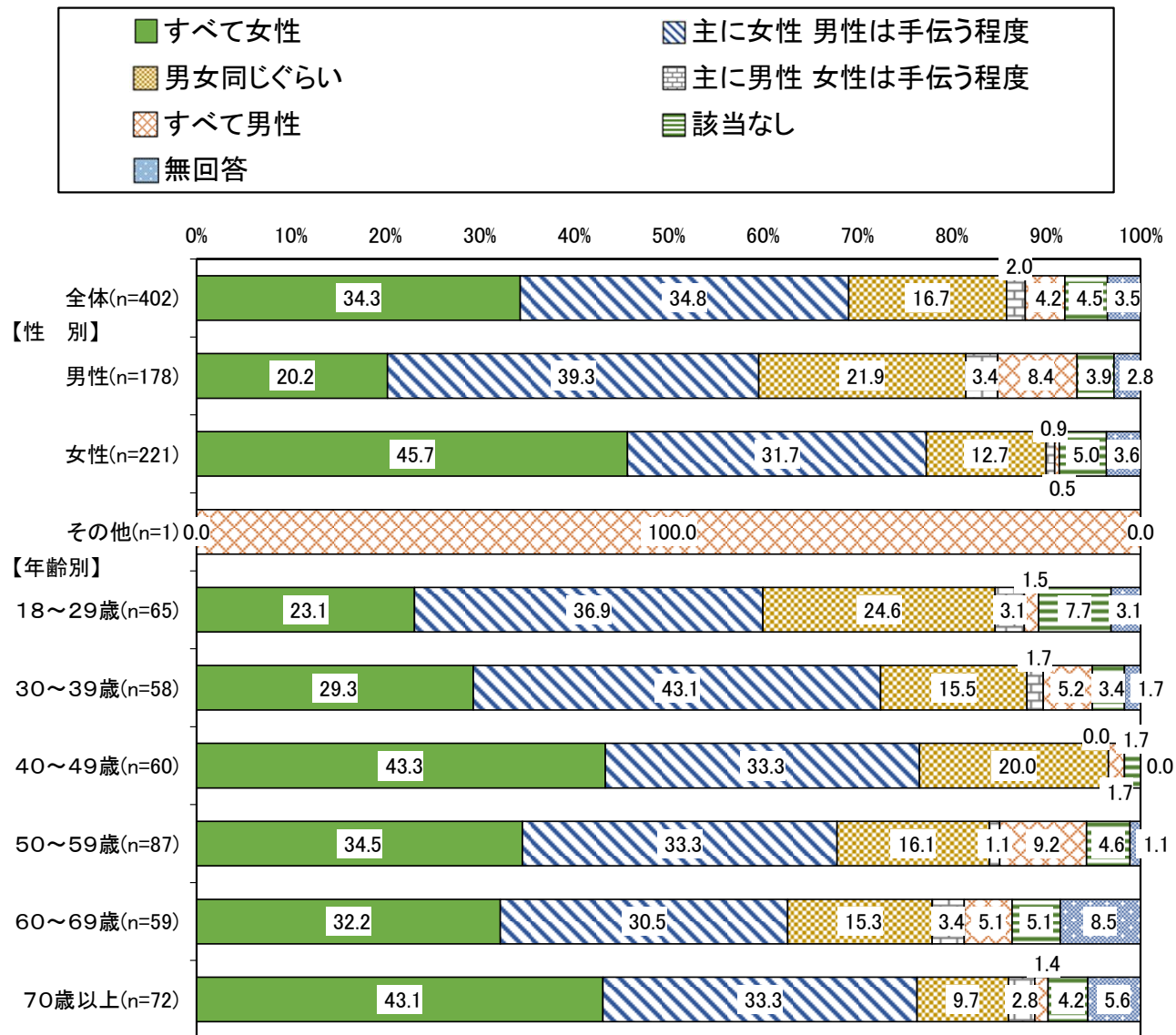
⑦ 洗濯、掃除

『女性が担っている』69.1%＞『男女同じくらい』16.7%＞『男性が担っている』6.2%

洗濯、掃除の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っている」を合わせた『女性が担っている』との回答が69.1%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で59.5%、女性で77.4%と女性が17.9ポイント上回っています。

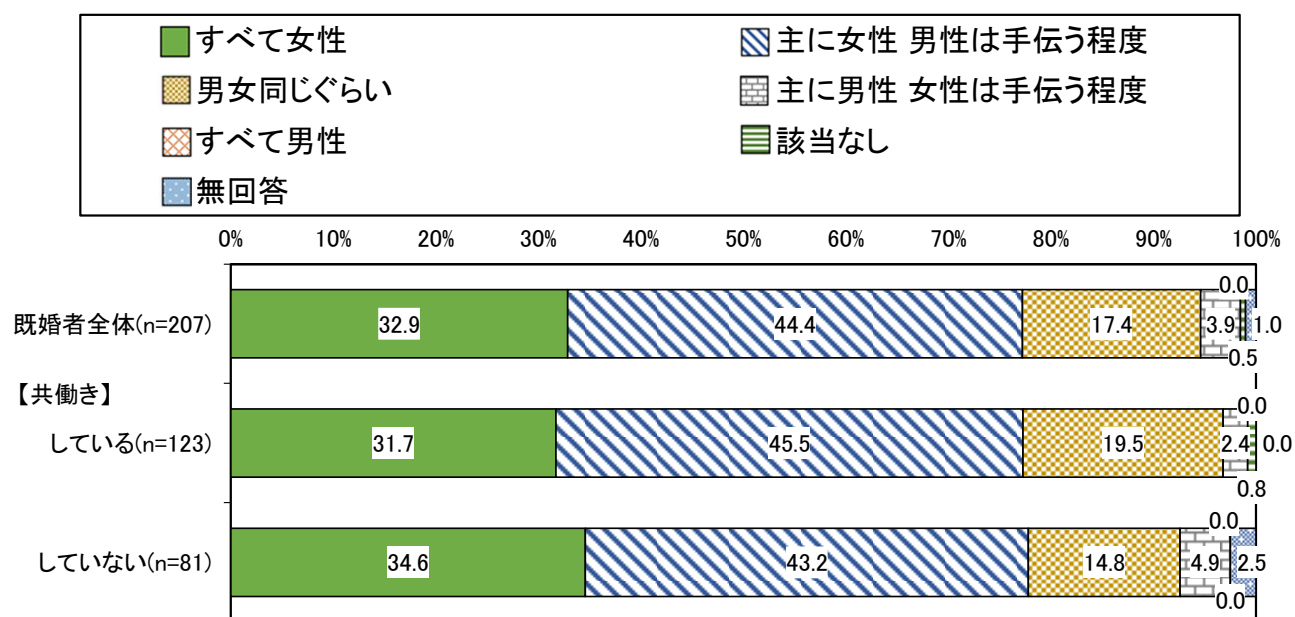
年齢別では、18～29歳で「男女同じくらい」との回答が24.6%と、他の年代と比較して高くなっています。



既婚者全体、共働き別

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が 77.3%となっています。

共働き別では、共働きをしている既婚者は 77.2%、共働きをしていない既婚者は 77.8%と、共働きの有無に関わらず、大きな差は見られません。



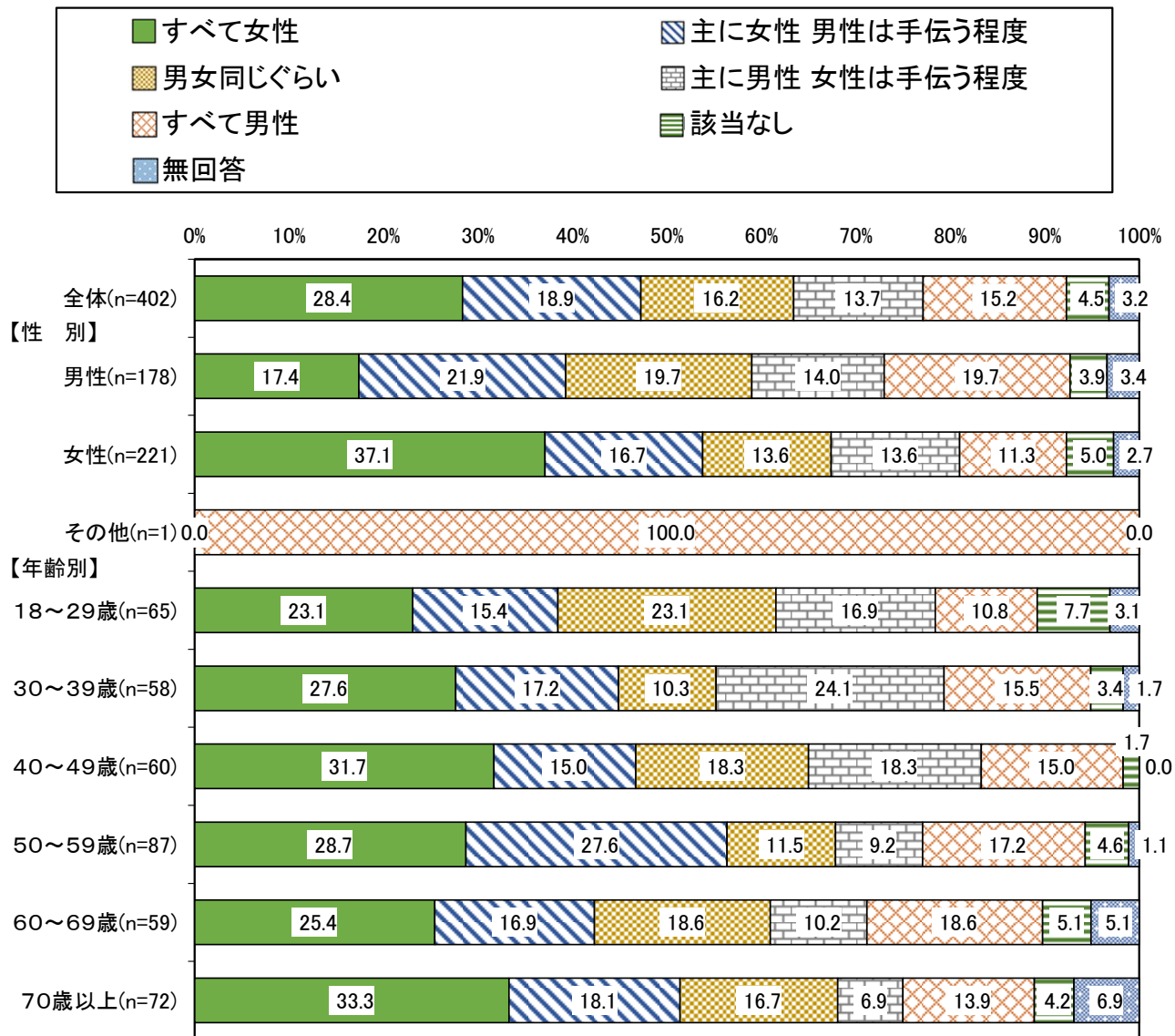
⑧ ゴミ出し

『女性が担っている』47.3%＞『男性が担っている』28.9%＞『男女同じくらい』16.2%

ゴミ出しの男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が47.3%となっており、次いで『男性が担っている』との回答が28.9%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で39.3%、女性で53.8%と女性が14.5ポイント上回っています。

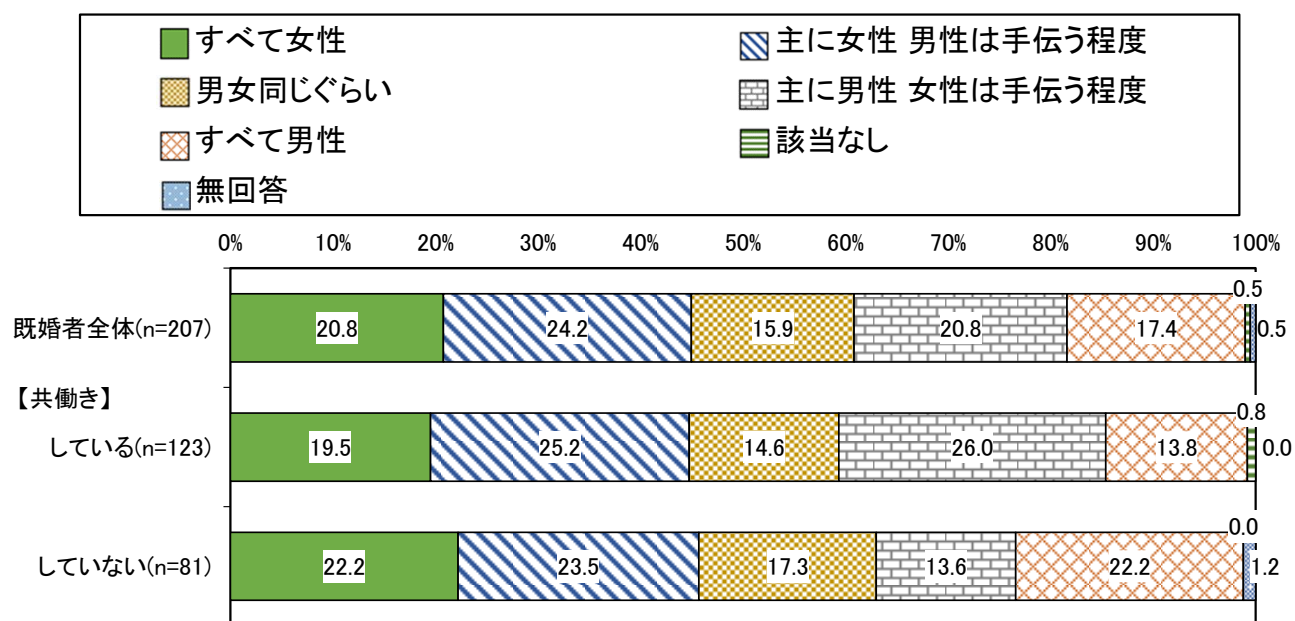
年齢別では、50代、70歳以上で『女性が担っている』との回答が5割を超えています。また、30代では『男性が担っている』が39.6%と、他の年代と比較して高くなっています。



既婚者全体、共働き別

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が 45.0%となっています。

共働き別では、共働きをしている既婚者は 44.7%、共働きをしていない既婚者は 45.7%と、共働きの有無に関わらず、大きな差は見られません。



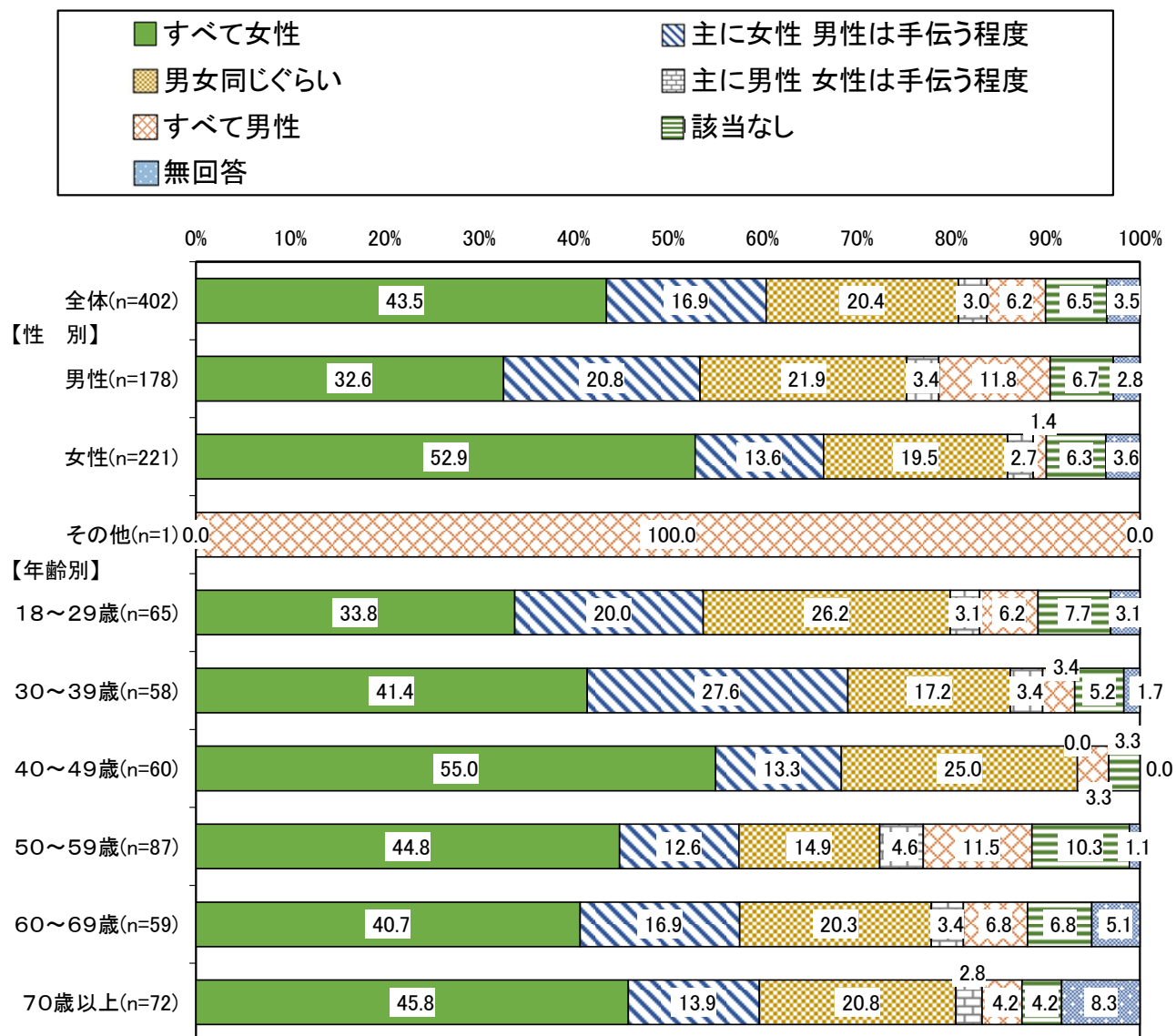
⑨ 家計の管理

『女性が担っている』60.4%＞『男女同じくらい』20.4%＞『男性が担っている』9.2%

家計の管理の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が60.4%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で53.4%、女性で66.5%と、女性が13.1ポイント上回っています。

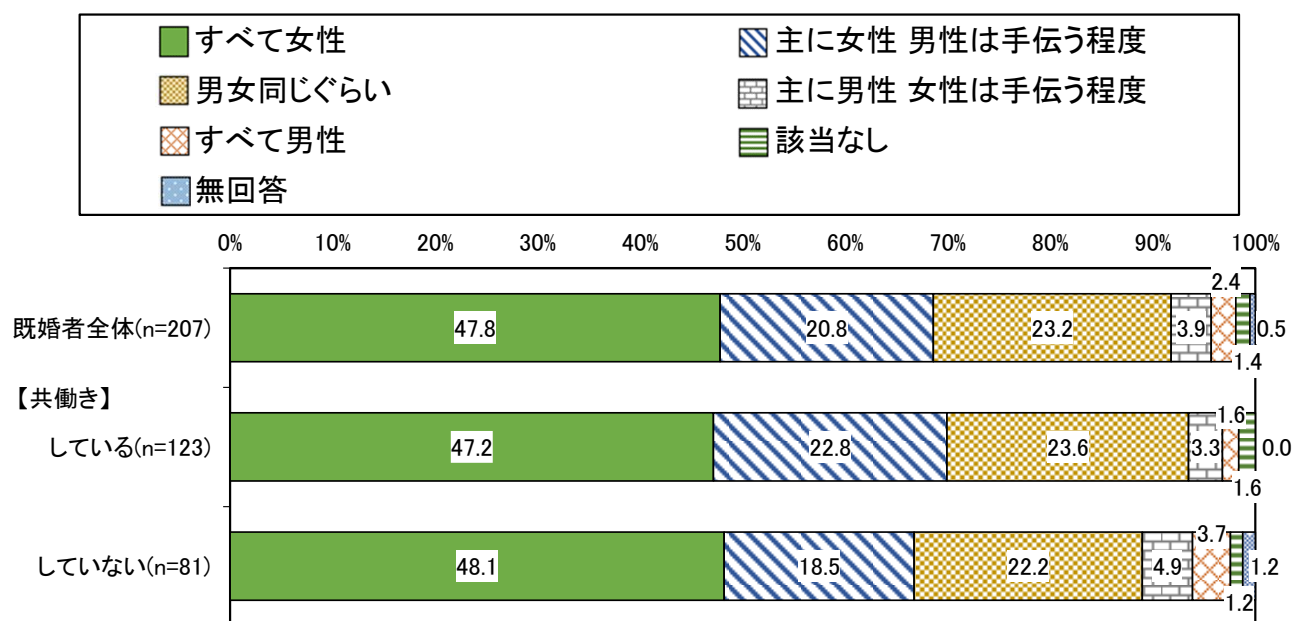
年齢別では、30～40代で『女性が担っている』との回答が約7割と、他の年代と比較して高くなっています。



既婚者全体、共働き別

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が 68.6%となっています。

共働き別では、共働きをしている既婚者は 70.0%、共働きをしていない既婚者は 66.6%と、共働きをしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が高くなっています。



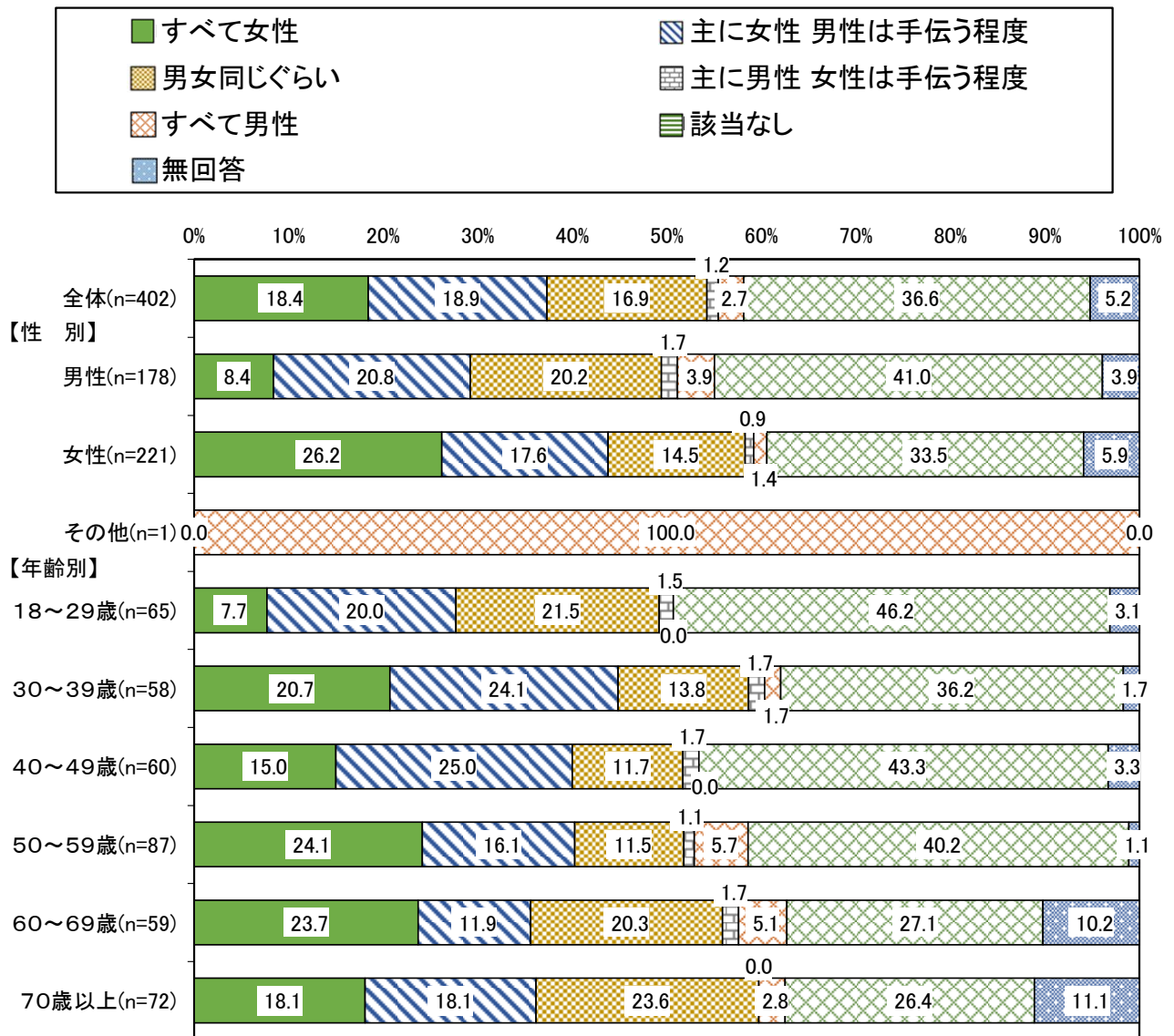
⑩ 家族の介護、看護

『女性が担っている』37.3%＞『男女同じくらい』16.9%＞『男性が担っている』3.9%

家族の介護、看護の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が37.3%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で29.2%、女性で43.8%と女性が14.6ポイント上回っています。

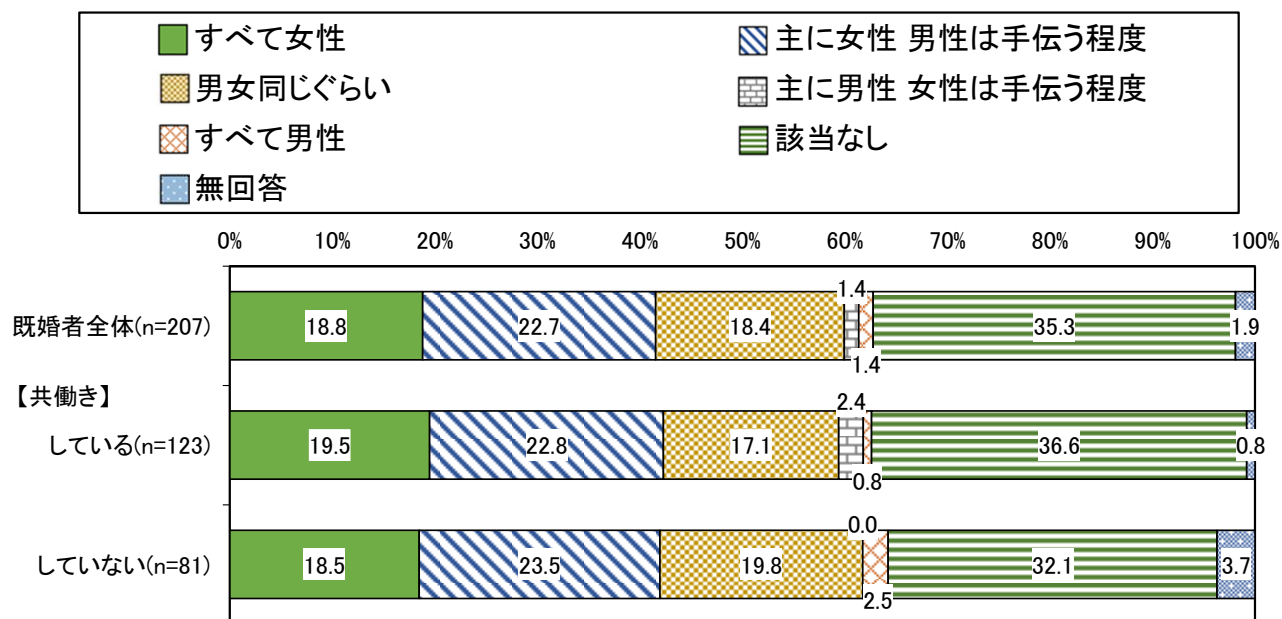
年齢別では、30代～50代で『女性が担っている』との回答が4割以上を占め高くなっています。



既婚者全体、共働き別

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が 41.5%となっています。

共働き別では、共働きをしている既婚者は 42.3%、共働きをしていない既婚者は 42.0%と、共働きの有無に関わらず、大きな差は見られません。



(2) 生活時間

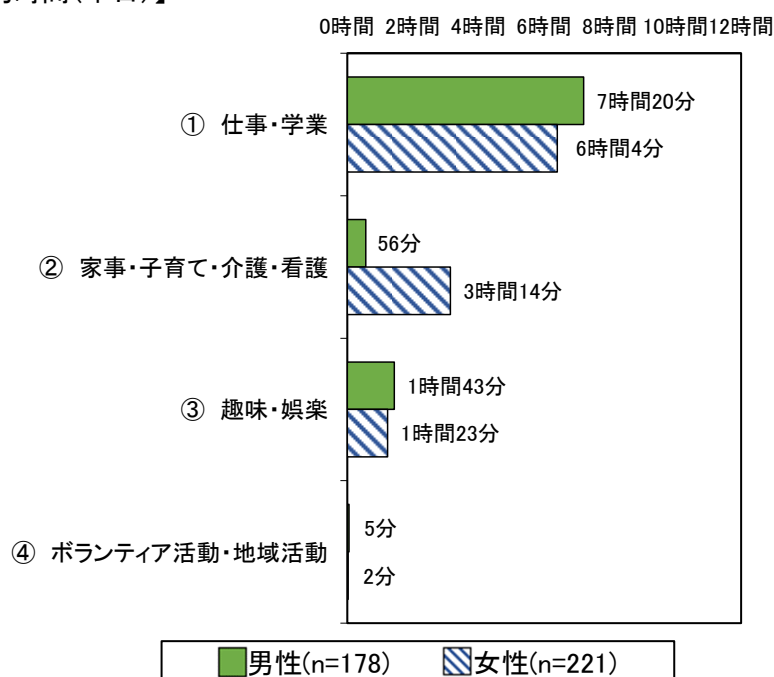
【問8】あなたは、下記の生活時間をどのように過ごしていますか。次の①～④の勤務日(学業も含む)と勤務日以外の両方についてお答えください。該当がない場合は「0」とご記入ください。

全体結果

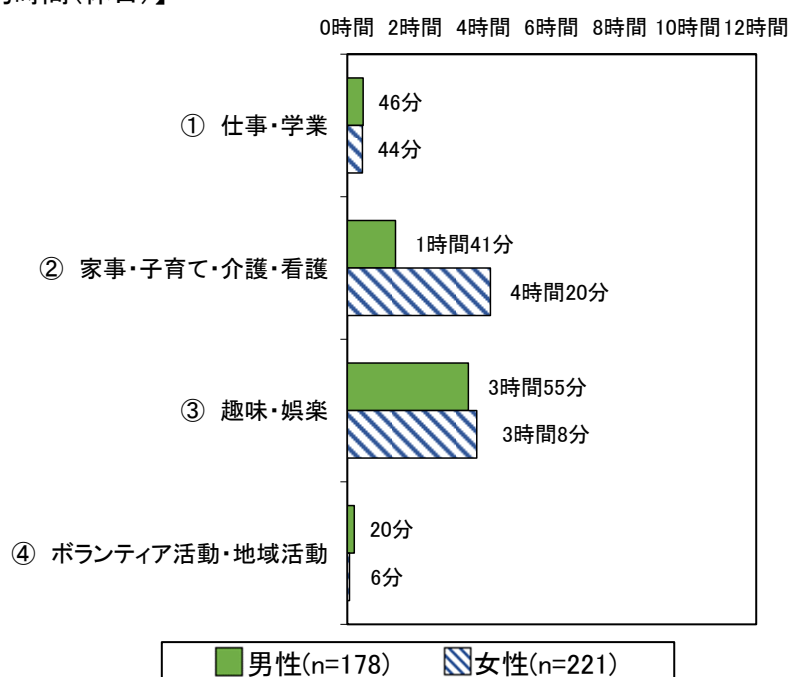
「仕事・学業」は男女の差は1時間程度、「家事・子育て・介護・看護」は平日・休日とも女性の方が3時間程度長い

1日の生活平均時間については、平日・休日ともに「家事・子育て・介護・看護」の男女差が大きくなっています。

【1日の生活平均時間(平日)】



【1日の生活平均時間(休日)】



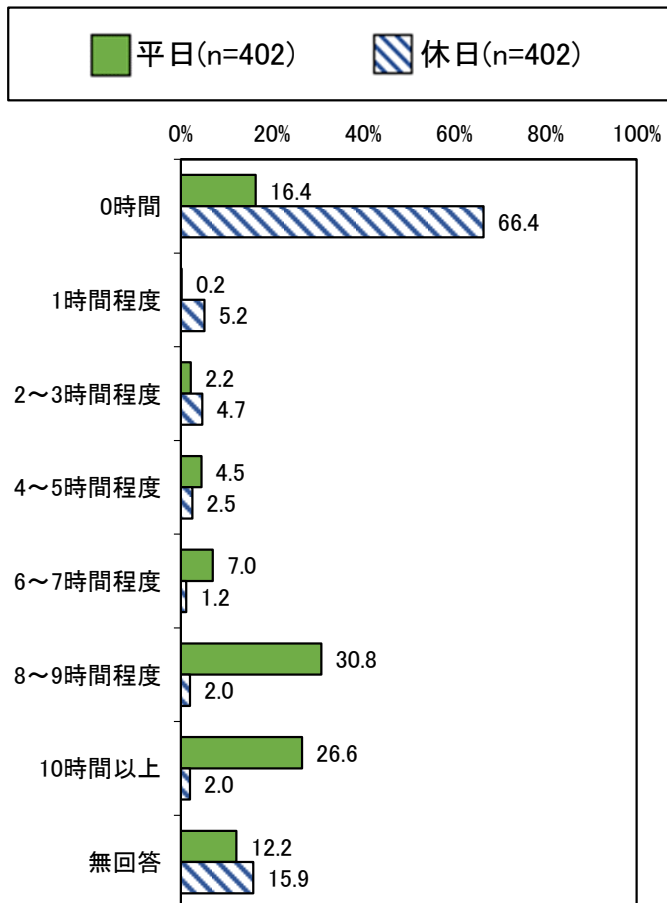
① 仕事・学業

「仕事・学業」は、共働きをしている男性では平日・休日とも全体平均を上回っている

仕事・学業については、平日では「8～9時間程度」との回答が30.8%と最も高く、次いで「10時間以上」が26.6%となっています。休日では「0時間」が66.4%と最も高くなっています。

性別でみると、男性で平日・休日ともに全体の平均時間を上回っています。

男女別共働き別でみると、共働きをしている男性では、平日・休日ともに全体の平均時間を上回っています。また、共働きをしている女性では平日の平均時間を上回っています。



	調査数	平均時間	
		平日	休日
全体	n=402	6時間36分	45分
男性	n=178	7時間20分	46分
共働きをしている	n=48	8時間38分	55分
共働きをしていない	n=43	3時間46分	6分
女性	n=221	6時間4分	44分
共働きをしている	n=76	7時間38分	32分
共働きをしていない	n=39	1時間19分	35分

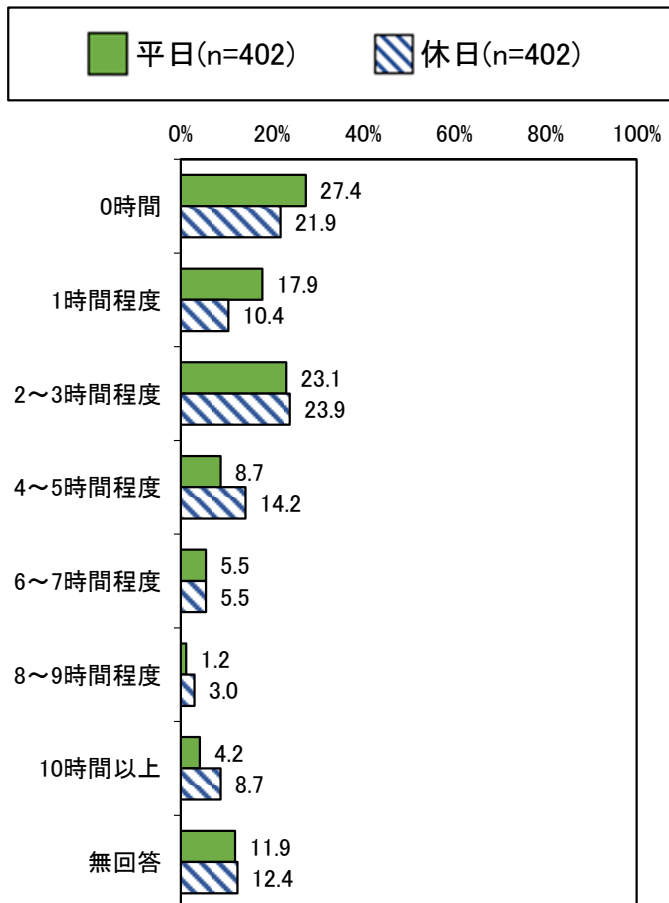
② 家事・子育て・介護・看護

「家事・子育て・介護・看護」は、平日・休日とも女性が圧倒的に多い

家事・子育て・介護・看護については、平日では「0時間」が、休日では「2～3時間程度」との回答がそれぞれ27.4%、23.9%と最も高くなっています。

性別でみると、女性で平日・休日ともに全体の平均時間を大きく上回っています。

男女別共働き別でみると、女性は共働きの区別なく、平日・休日ともに全体の平均時間を大きく上回っています。



	調査数	平均時間	
		平日	休日
全体	n=402	2時間13分	3時間8分
男性	n=178	56分	1時間41分
共働きをしている	n=48	1時間10分	2時間16分
共働きをしていない	n=43	1時間5分	1時間38分
女性	n=221	3時間14分	4時間20分
共働きをしている	n=76	4時間23分	5時間52分
共働きをしていない	n=39	4時間58分	5時間52分

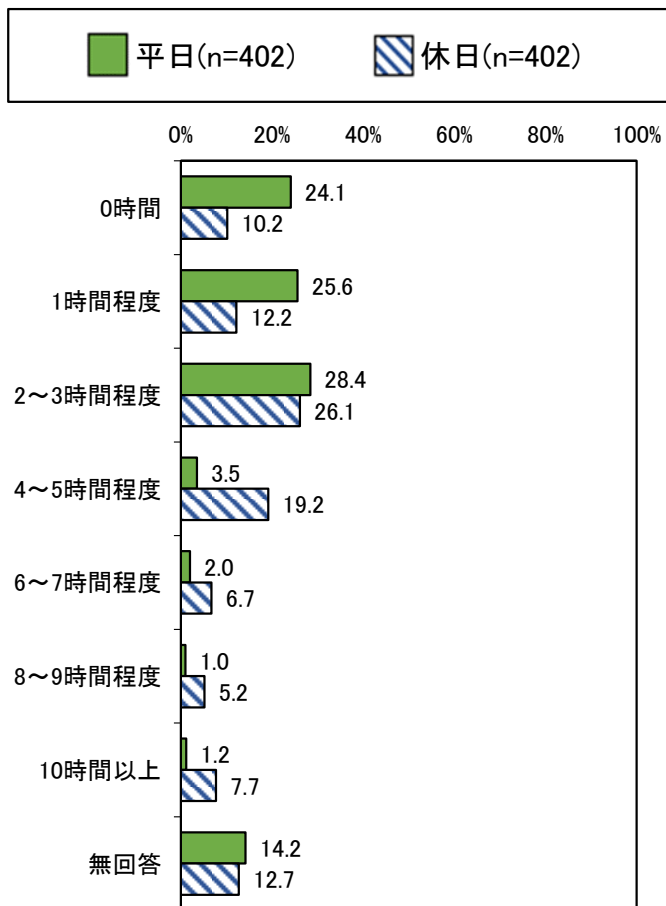
③ 趣味・娯楽

「趣味・娯楽」は、男性は平日・休日ともに全体の平均を上回る

趣味・娯楽については、平日・休日ともに「2～3時間程度」との回答がそれぞれ28.4%、26.1%と最も高くなっています。

性別でみると、男性は平日・休日ともに全体の平均時間を上回っています。

男女別共働き別でみると、共働きをしている男性で平日に、共働きをしていない女性は平日に、それぞれ全体の平均時間を上回っています。また、共働きをしていない男性と、共働きをしている女性は、平日・休日の区別なく全体の平均時間を下回っています。



	調査数	平均時間	
		平日	休日
全体	n=402	1時間31分	3時間28分
男性	n=178	1時間43分	3時間55分
共働きをしている	n=48	1時間59分	3時間23分
共働きをしていない	n=43	1時間22分	2時間24分
女性	n=221	1時間23分	3時間8分
共働きをしている	n=76	1時間5分	2時間22分
共働きをしていない	n=39	1時間34分	1時間53分

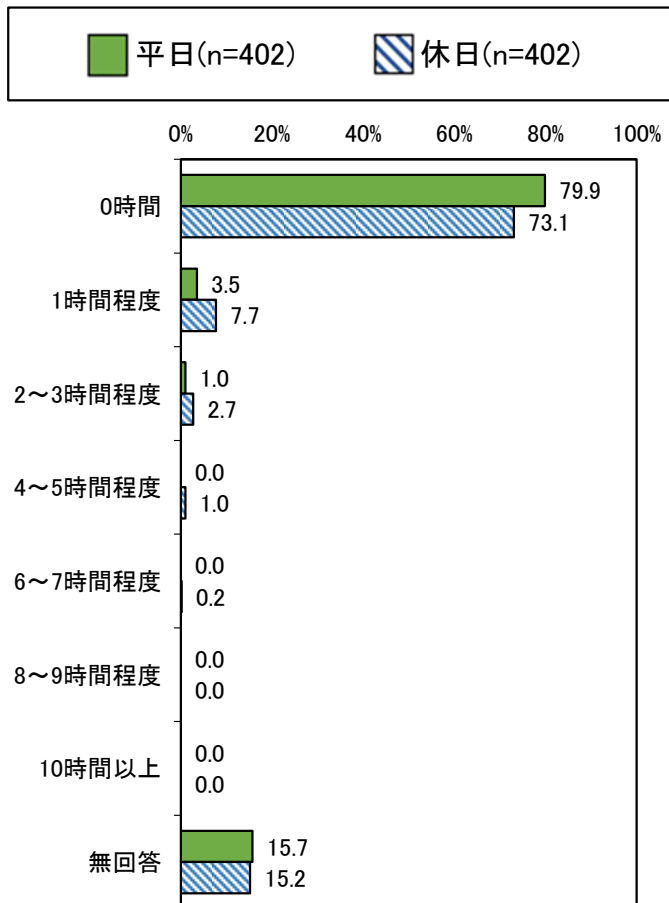
④ ボランティア活動・地域活動

「ボランティア活動・地域活動」は、平日・休日ともわずかとなっている

ボランティア活動・地域活動については、平日・休日ともに「0時間」との回答がそれぞれ 79.9%、73.1%と最も高くなっています。

性別でみると、男性は平日・休日ともに全体の平均時間を上回っています。

男女別共働き別でみると、共働きをしている男性は、休日で全体の平均時間を上回っています。



	調査数	平均時間	
		平日	休日
全体	n=402	3分	12分
男性	n=178	5分	20分
共働きをしている	n=48	10分	32分
共働きをしていない	n=43	1分	4分
女性	n=221	2分	6分
共働きをしている	n=76	1分	5分
共働きをしていない	n=39	2分	14分

(3) 育児休業などの取得

【問9】勤めている方(非正規職員も含む)におたずねします。

あなたは、次の制度を活用して、育児休業などを取得したことがありますか。①～④についてお答えください。

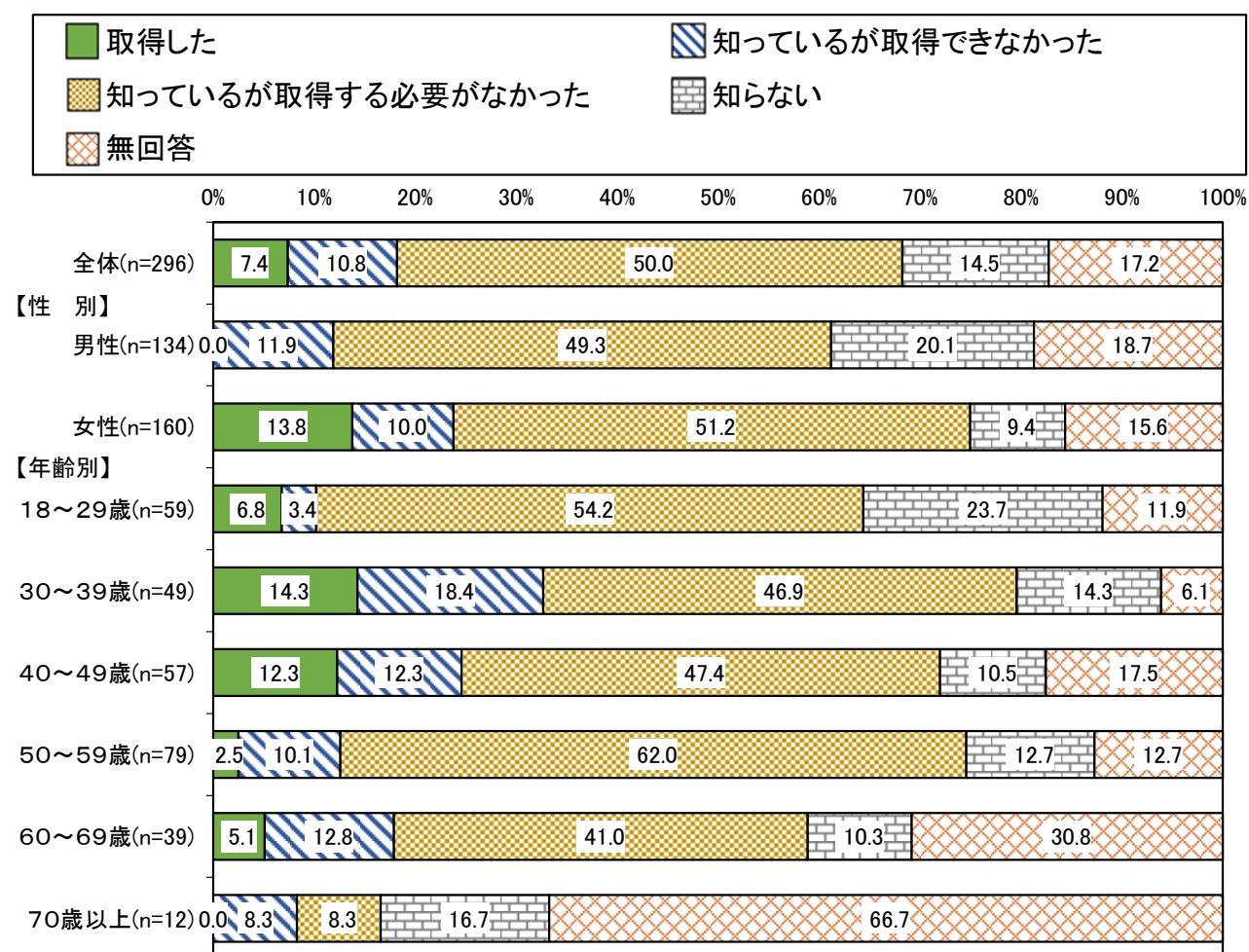
① 育児休業

『必要がない』50.0%＞『知らない』14.5%＞『取得できなかった』10.8%＞『取得した』7.4%

育児休業については、「知っているが取得する必要がなかった」との回答が50.0%と最も高く、次いで「知らない」が14.5%、「知っているが取得できなかった」が10.8%、「知っていて取得した」が7.4%となっています。

性別でみると、「取得した」との回答が男性で0.0%、女性で13.8%と、女性が13.8ポイント上回っています。

年齢別では、18～29歳で育児休業を「知らない」との回答が23.7%と、他の年代と比較して高くなっています。



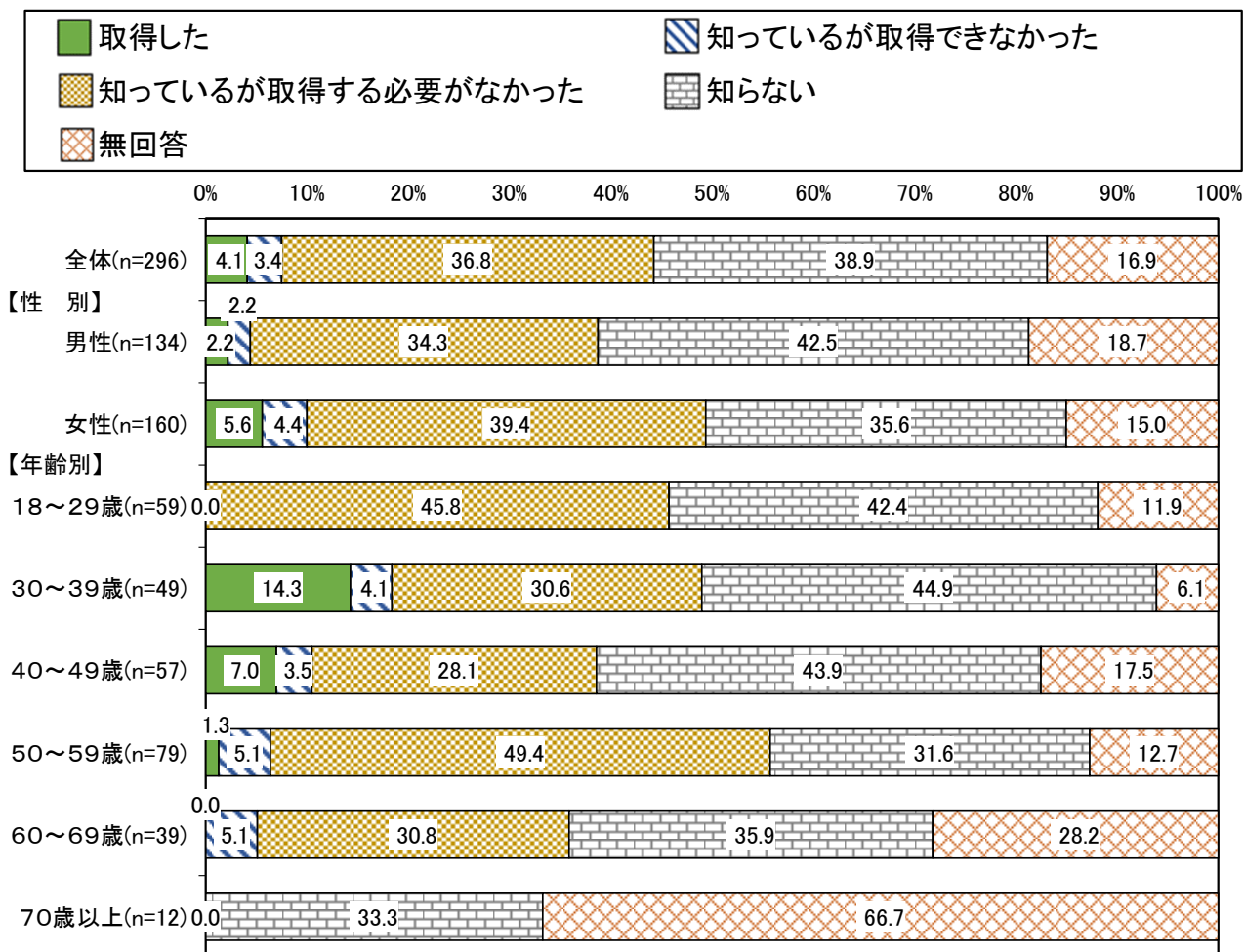
② 子の看護休暇

『知らない』 38.9% > 『必要がない』 36.8% > 『取得した』 4.1% > 『取得できなかった』 3.4%

子の看護休暇については、「知らない」との回答が 38.9% と最も高く、次いで「知っているが取得できなかった」が 36.8% となっています。

性別でみると、「知らない」との回答が男性で 42.5%、女性で 35.6% と男性が 6.9 ポイント上回っています。

年齢別では、18 歳～40 代で「知らない」との回答が 4 割以上を占め高くなっています。



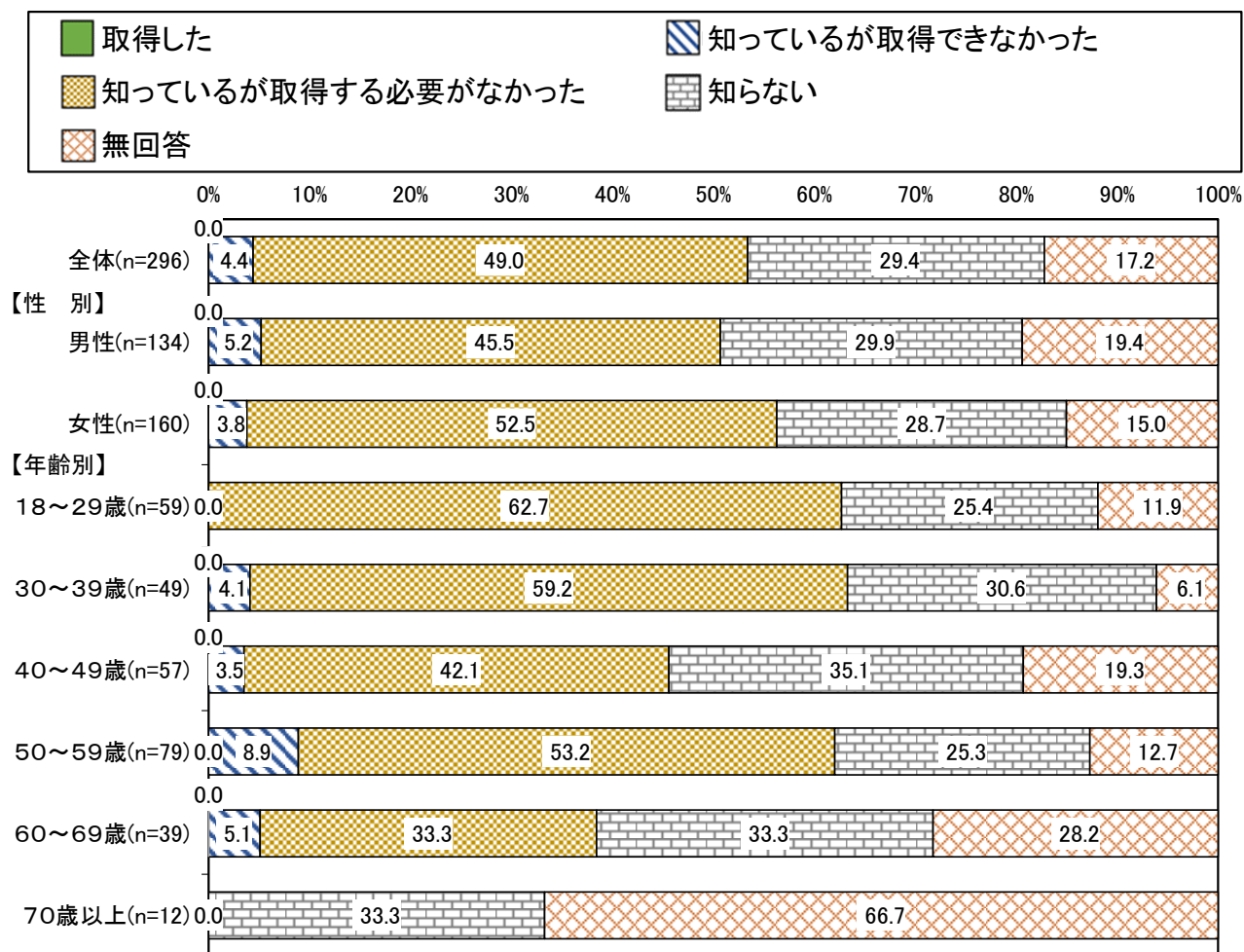
③ 介護休業

『必要がない』49.0%＞『知らない』29.4%＞『取得できなかった』4.4%＞『取得した』0.0%

介護休業については、「知っているが取得する必要がなかった」との回答が49.0%と最も高く、次いで「知らない」が29.4%となっています。

性別でみると、「知っているが取得する必要がなかった」との回答が男性で45.5%、女性で52.5%と女性が7.0ポイント上回っています。

年齢別では、18～29歳、30代などの若年層で「知っているが取得する必要がなかった」との回答が他の年代と比較して高くなっています。



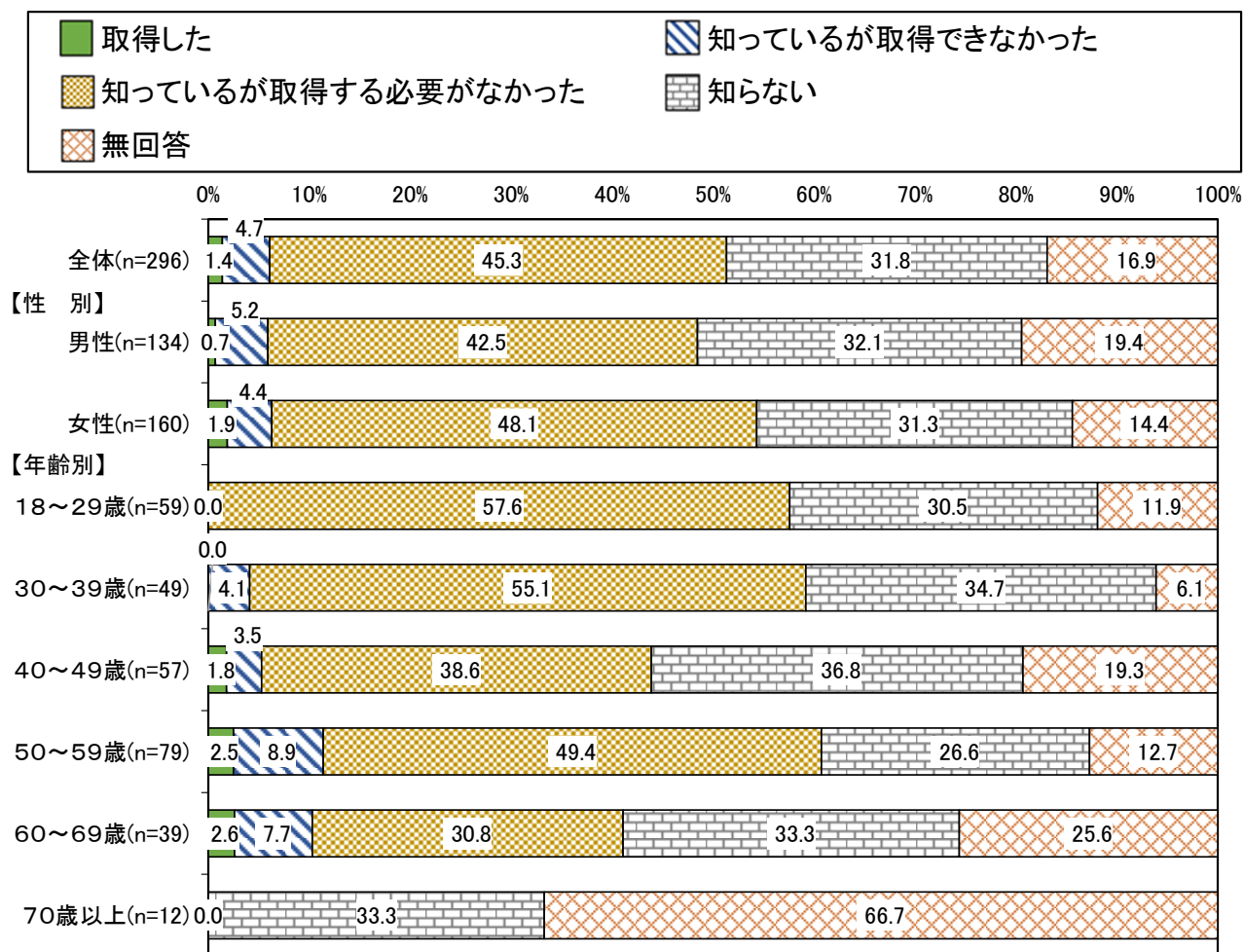
④ 介護休暇

『必要がない』45.3%＞『知らない』31.8%＞『取得できなかった』4.7%＞『取得した』1.4%

介護休暇については、「知っているが取得する必要がなかった」との回答が45.3%と最も高く、次いで「知らない」が31.8%となっています。

性別でみると、「知っているが取得する必要がなかった」との回答が男性で42.5%、女性で48.1%と女性が5.6ポイント上回っています。

年齢別では、18～29歳、30代などの若年層で「知っているが取得する必要がなかった」との回答が他の年代と比較して高くなっています。



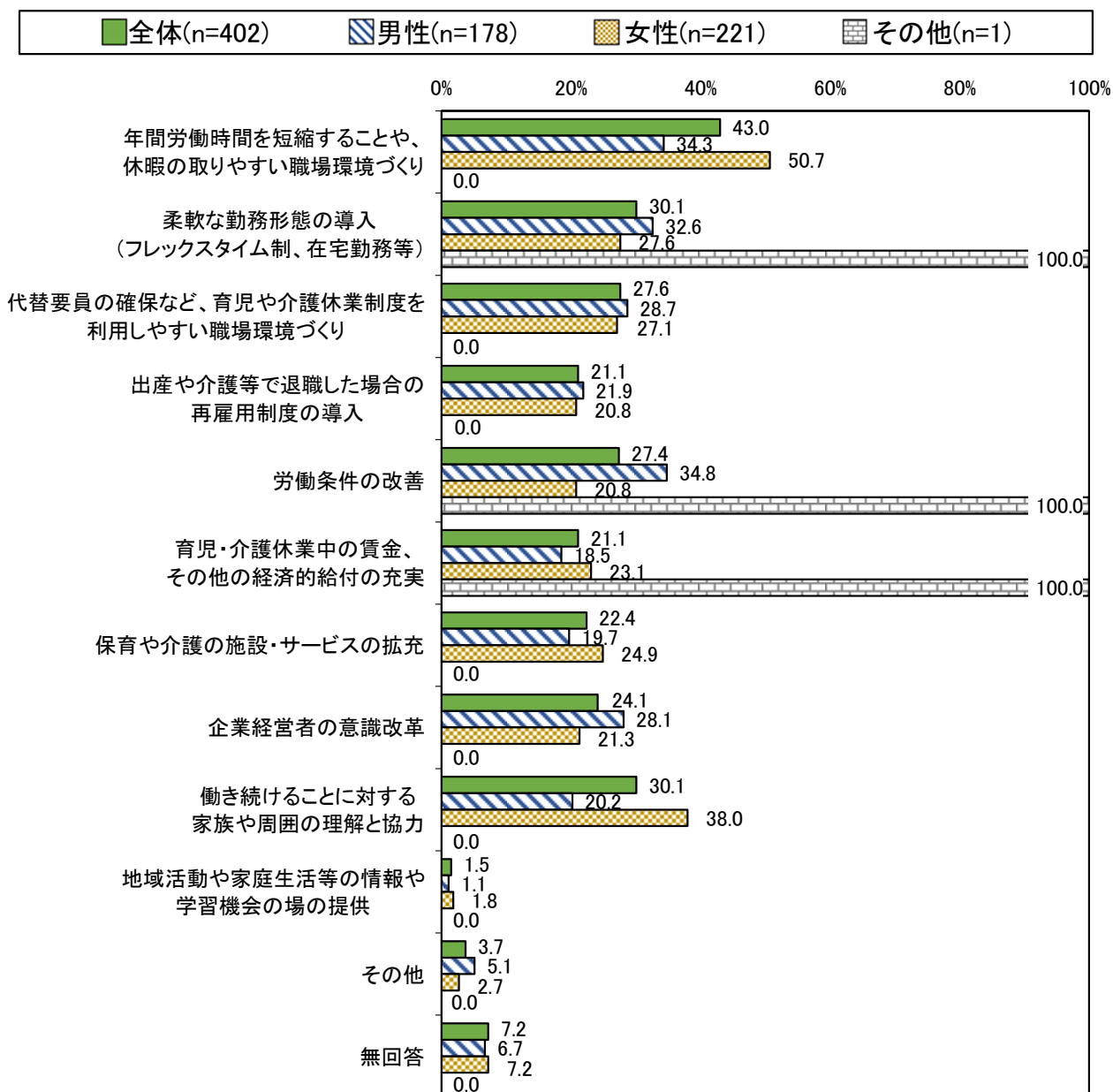
(4) 仕事と家庭の両立のために必要なこと

【問10】それぞれの家庭において、男女が共に「仕事と家庭を両立」するためには、どのような条件の整備や機会が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

仕事と家庭を両立するためには、「年間労働時間の短縮や休暇がとりやすい職場環境づくり」が必要

男女が共に「仕事と家庭を両立」をするための条件整備については、「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」との回答 43.0%と最も高く、次いで「柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務等）」「働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力」が 30.1%、「代替要員の確保など、育児や介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」が 27.6%となっています。

性別でみると、男性では「労働条件の改善」が、女性では「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」が、それぞれ最も高くなっています。また、女性では男性に比べ「働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力」の占める割合が高くなっています。一方、男性では女性に比べて「企業経営者の意識改革」の占める割合が高くなっています。



その他の回答
社会全体が利益優先、便利な生活を求めない。
業務の見直し。仕事量は増えているのに対し、時間外勤務は減らすよう迫られている。
1人暮らしをしていけば、基本全部自分でやっているのだから結婚したとたん何故仕事と家庭の両立という考え方が出るのだろうか？家庭という単位がザックリしすぎているので”子育て”との両立であるならば”7”（保育や介護の施設・サービスの拡充）でしょうか？
育児を経験した女性を優遇した雇用。
男性の意識改革。（自分がやる、自分でやると言う感覚がない）
自営業など若者の意欲を地域の力のある人達で支えていく。独立して運の必要もあるが、休みなく働いている人が利益も少なくつぶれていってしまうのがもったいなく感じる。そのため、家庭や恋人が後回しになる。
同一労働同一賃金の実現。
互いに経済的に自立できること、その意識を持つこと。
会社に対する補助金。
意識改革、理解、協力。（働いて養なっているから他はおまかせ）
サービスしすぎたりする日本人の根本的意識を変革したり、日本のみを市場とすることによる非生産的な消費者の取り合いを止めることで日本人一人一人の生産性を向上させる。
長時間仕事をせずに済むよう給料を上げる。（残業代無しで生活できるように）
わからない。

年齢別クロス集計

年齢別では、18～29歳、30代、40代、60代では「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」が、50代では「働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力」が、70歳以上では「出産や介護等で退職した場合の再雇用制度の導入」が、それぞれ最も高くなっています。

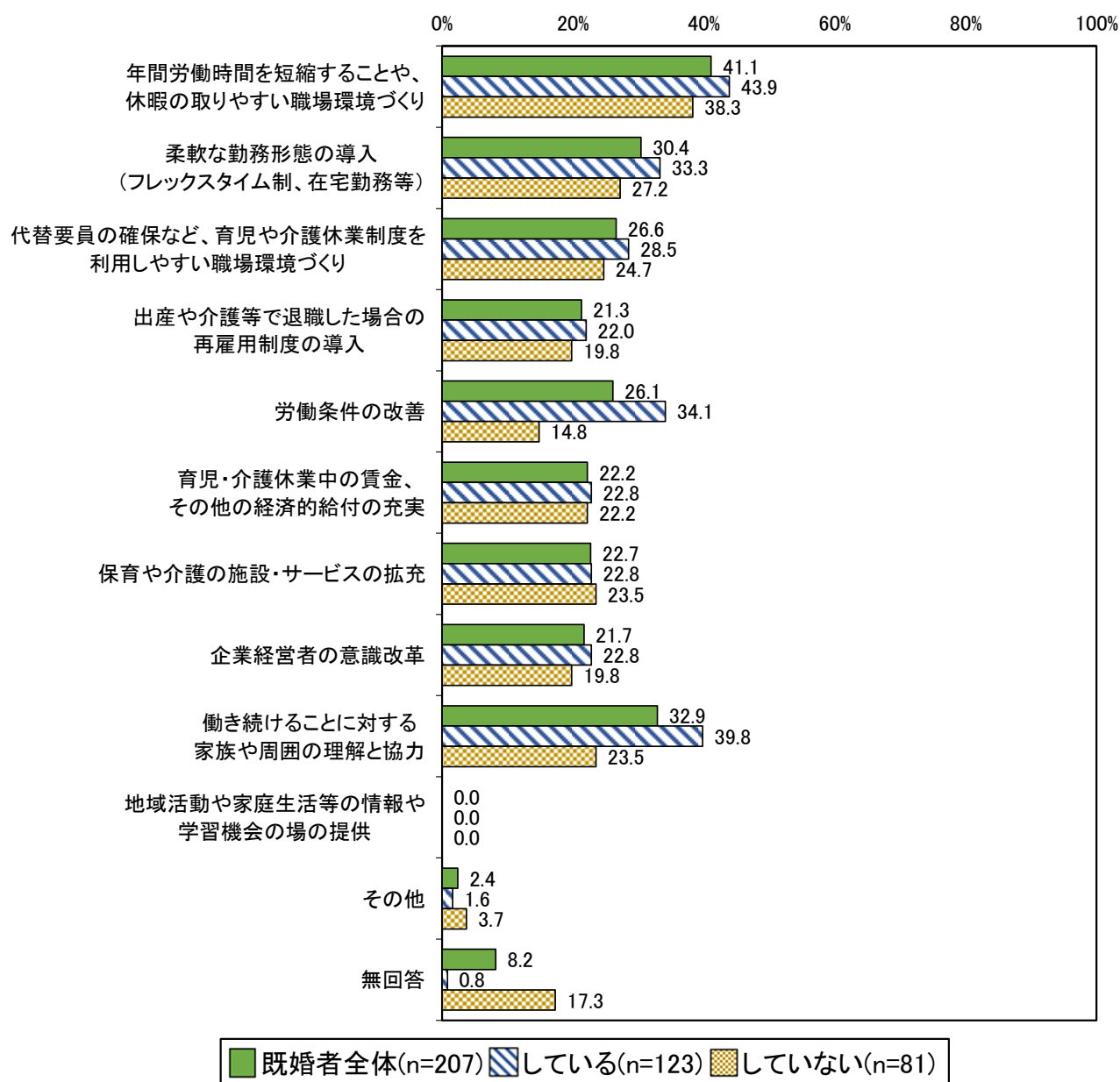
	年間労働時間や短縮環境づくり	柔軟な勤務形態の導入、在宅勤務等	代替要員の確保など、育児や介護休業制度の利用しやすい職場環境づくり	出産や介護等で退職した場合の再雇用制度の導入	労働条件の改善	育児・介護休業中の賃金、その他の経済的給付の充実	保育や介護の施設・サービスの拡充	企業経営者の意識改革	働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力	地域活動や家庭生活等の提供	その他	無回答
18～29歳(n=65)	53.8	36.9	24.6	13.8	26.2	35.4	21.5	18.5	26.2	3.1	3.1	1.5
30～39歳(n=58)	62.1	37.9	32.8	13.8	36.2	17.2	20.7	25.9	25.9	1.7	10.3	0.0
40～49歳(n=60)	45.0	30.0	31.7	25.0	31.7	15.0	26.7	28.3	33.3	1.7	1.7	1.7
50～59歳(n=87)	34.5	35.6	28.7	24.1	29.9	19.5	21.8	26.4	36.8	0.0	4.6	3.4
60～69歳(n=59)	44.1	27.1	28.8	18.6	28.8	22.0	27.1	32.2	33.9	1.7	1.7	3.4
70歳以上(n=72)	26.4	13.9	20.8	29.2	13.9	18.1	18.1	15.3	23.6	1.4	1.4	29.2

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している

共働き別クロス集計

既婚全体では、「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」との回答が 41.1%と最も高くなっています。共働き別では、共働きをしている既婚者は 43.9%、共働きをしていない既婚者は 38.3%と、共働きをしている既婚者で高くなっています。

また、全体の第2位にあげられていた「柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務等）」では、共働きをしている既婚者が 33.3%、共働きをしていない既婚者が 27.2%となっており「働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力」では、共働きをしている既婚者が 39.8%、共働きをしていない既婚者が 23.5%と、いずれも共働きをしている既婚者で高くなっています。



4 「職場」について

(1) 職場における男女平等

【問11】働いている方(雇用主及び非正規職員も含む)におたずねします。
あなたの職場では、次のことについて男女平等になっていますか。次の①～⑦についてお答えください。

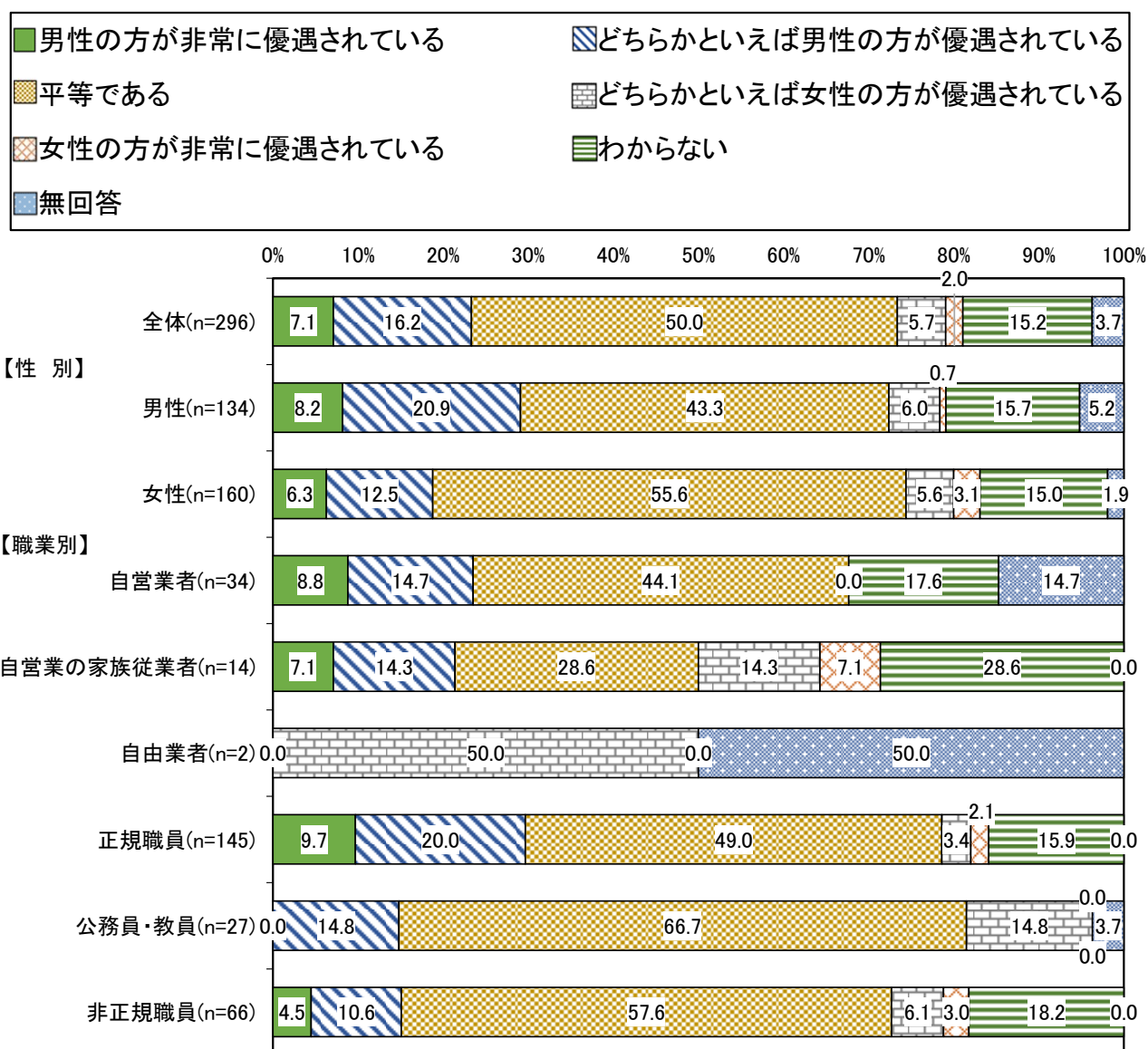
① 募集や採用の条件

『平等』50.0%＞『男性優遇』23.3%＞『女性優遇』7.7%

募集や採用の条件については、「平等である」との回答が50.0%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が23.3%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答は男性で29.1%、女性で18.8%と男性が10.3ポイント上回っており、一方、「平等である」は男性で43.3%、女性で55.6%と女性が12.3ポイント上回っています。

職業別でみると、公務員・教員で「平等である」との回答が66.7%と高くなっています。



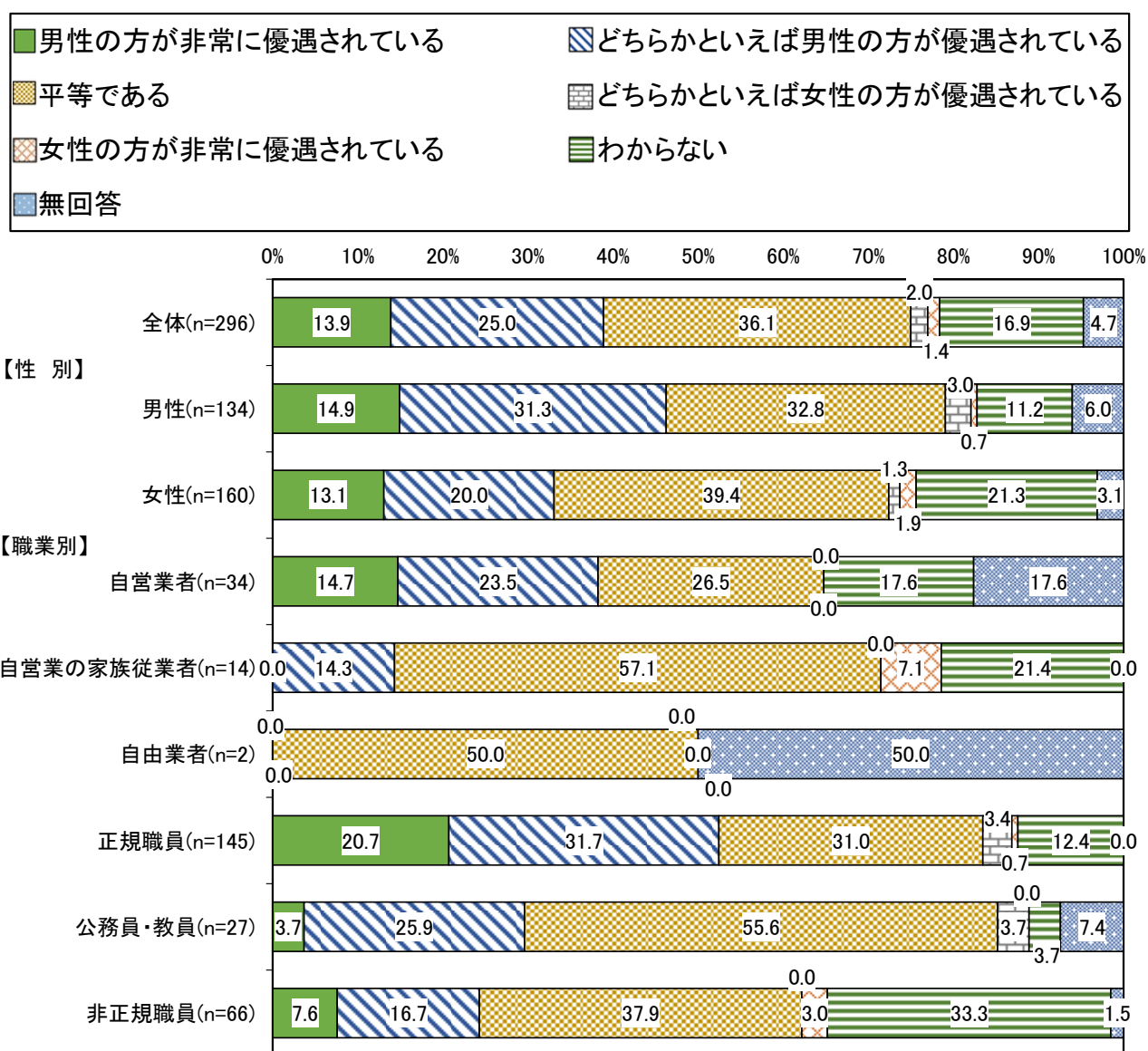
② 人事配置や昇進

『男性優遇』38.9%＞『平等』36.1%＞『女性優遇』3.4%

人事配置や昇進については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が38.9%と最も高く、次いで「平等である」が36.1%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答は男性で46.2%、女性で33.1%と男性が13.1ポイント上回っている一方で、「平等である」は男性で32.8%、女性で39.4%と女性が6.6ポイント上回っています。

職業別でみると、公務員・教員で「平等である」との回答が55.6%、正規職員（会社員・団体職員）で『男性優遇』が52.4%と高くなっています。



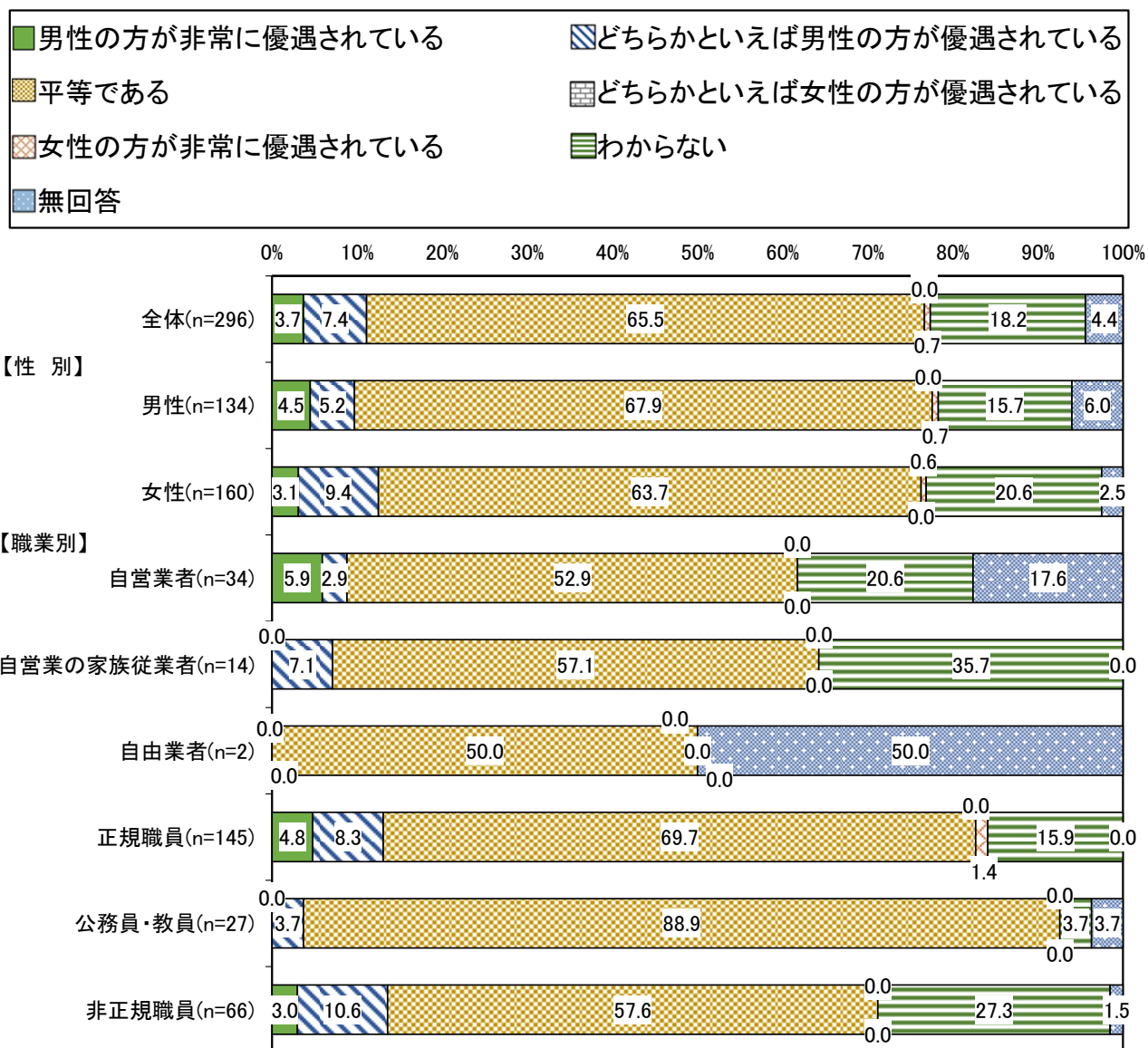
③ 教育や研修制度

『平等』65.5%＞『男性優遇』11.1%＞『女性優遇』0.7%

教育や研修制度については、「平等である」との回答が65.5%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が11.1%となっています。

性別でみると、男女ともに「平等である」との回答が最も高く男性で67.9%、女性で63.7%となっています。

職業別でみると、公務員・教員で「平等である」との回答が88.9%と他の職業と比較して高くなっています。



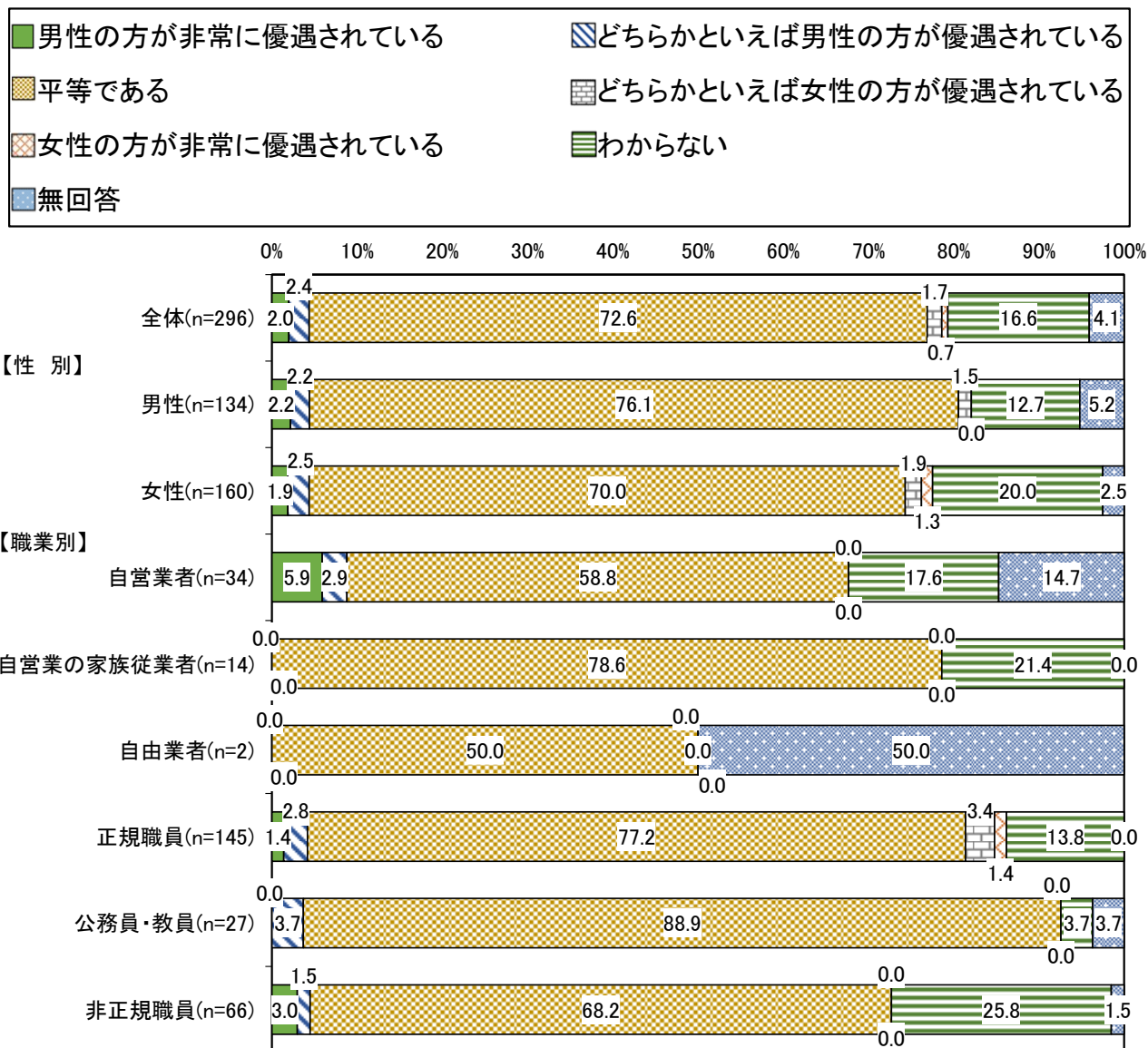
④ 福利厚生

『平等』72.6%＞『男性優遇』4.4%＞『女性優遇』2.4%

福利厚生については、「平等である」との回答が72.6%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が4.4%となっています。

性別でみると、男女ともに「平等である」との回答が最も高く男性で76.1%、女性で70.0%となっています。

職業別でみると、自営業の家族従業者、正規職員（会社員・団体職員）、公務員・教員で「平等である」との回答が7割を超え、他の職業と比較して高くなっています。



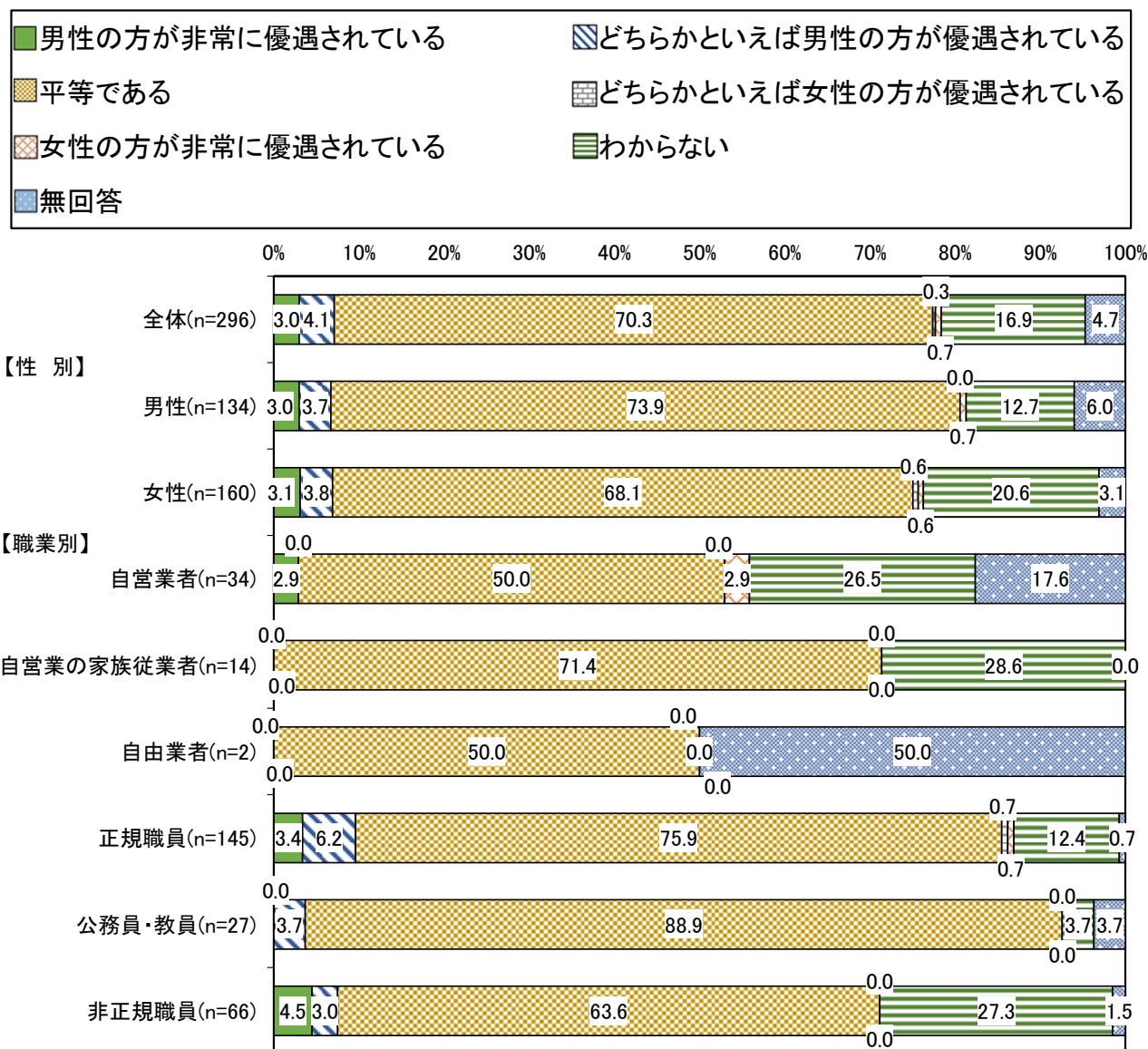
⑤ 定年・退職

『平等』70.3%＞『男性優遇』7.1%＞『女性優遇』1.0%

定年・退職については、「平等である」との回答が70.3%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が7.1%となっています。

性別でみると、男女ともに「平等である」との回答が最も高く、男性で73.9%、女性で68.1%となっています。

職業別でみると、「平等である」との回答が公務員・教員で約9割、自営業の家族従業者、正規職員（会社員・団体職員）で7割強と、他の職業と比較して高くなっています。



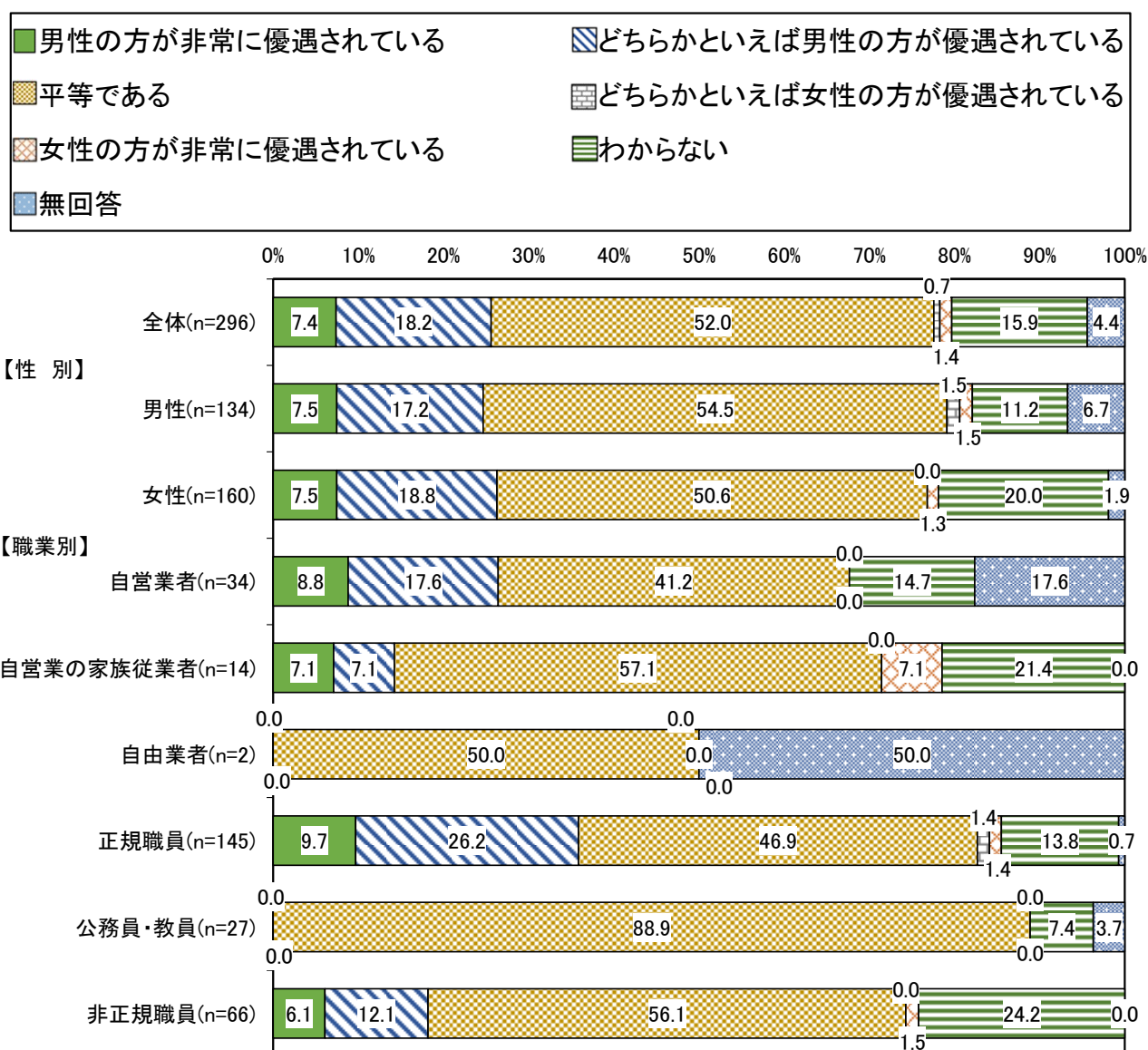
⑥ 賃金

『平等』52.0%＞『男性優遇』25.6%＞『女性優遇』2.1%

賃金については、「平等である」との回答が52.0%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が25.6%となっています。

性別でみると、男女ともに「平等である」との回答が最も高く、男性で54.5%、女性で50.6%となっています。また、『男性優遇』との回答は男性では24.7%、女性では26.3%と、男女間で大きな差は見られません。

職業別でみると、「平等である」との回答が公務員・教員で約9割と他の職業と比較して高くなっています。一方、『男性優遇』との回答は正規職員（会社員・団体職員）で35.9%と他の職業と比較して高くなっています。



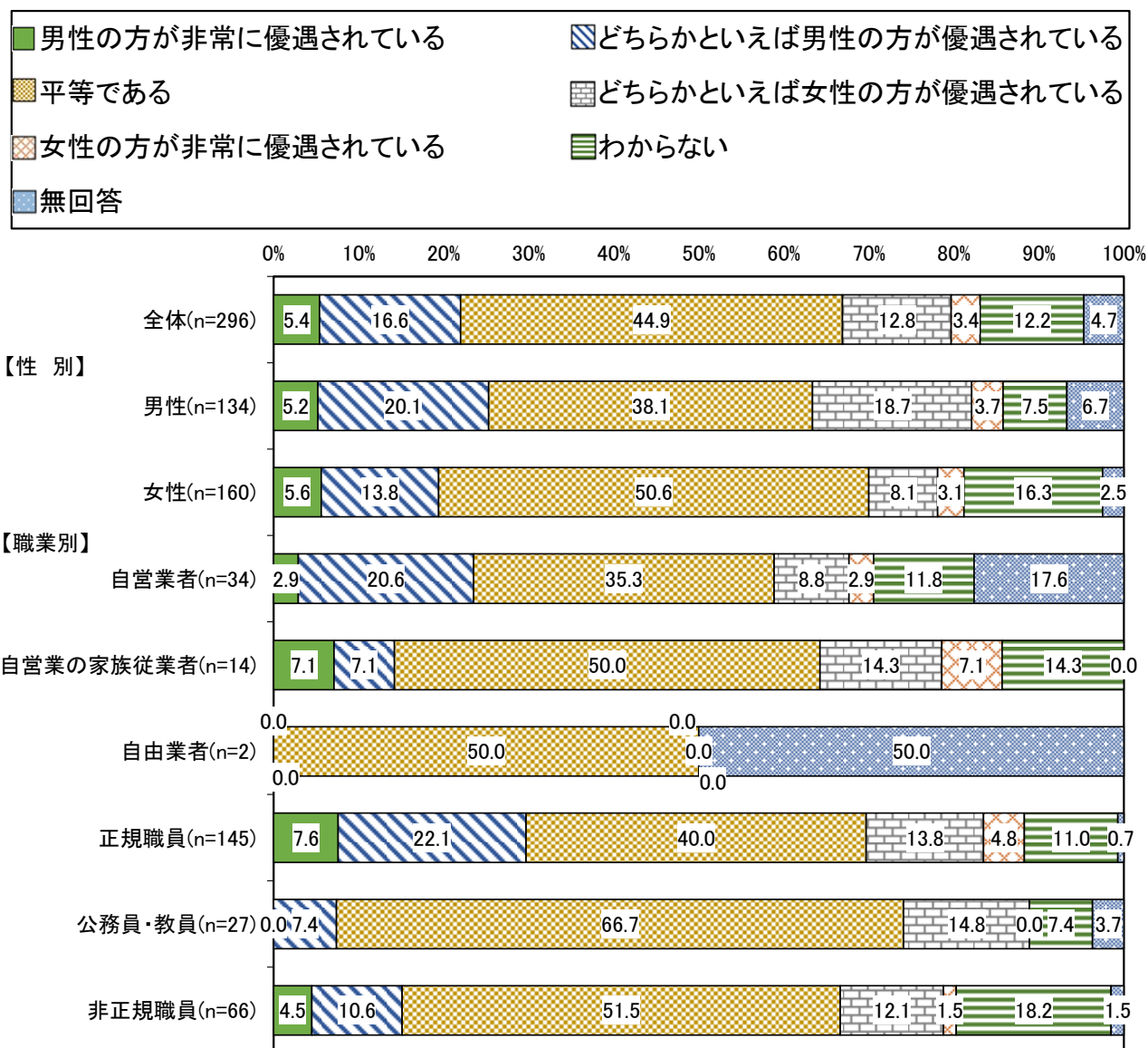
⑦ 仕事の内容

『平等』44.9%＞『男性優遇』22.0%＞『女性優遇』16.2%

仕事の内容については、「平等である」との回答が44.9%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が22.0%、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』との回答が16.2%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で25.3%、女性で19.4%と男性が5.9ポイント上回っています。一方で、『女性優遇』との回答が男性で22.4%、女性で11.2%と男性が11.2ポイント上回っています。また、「平等である」との回答が男性38.1%、女性で50.6%と女性が12.5ポイント上回っています。

職業別でみると、「平等である」との回答が公務員・教員で6割強と他の職業と比較して高くなっています。一方、『男性優遇』との回答が自営業者と正規職員（会社員・団体職員）で2～3割と他の職業と比較して高くなっています。また、『女性優遇』との回答が正規職員（会社員・団体職員）で18.6%と他の職業と比較して高くなっています。



5 「地域活動」について

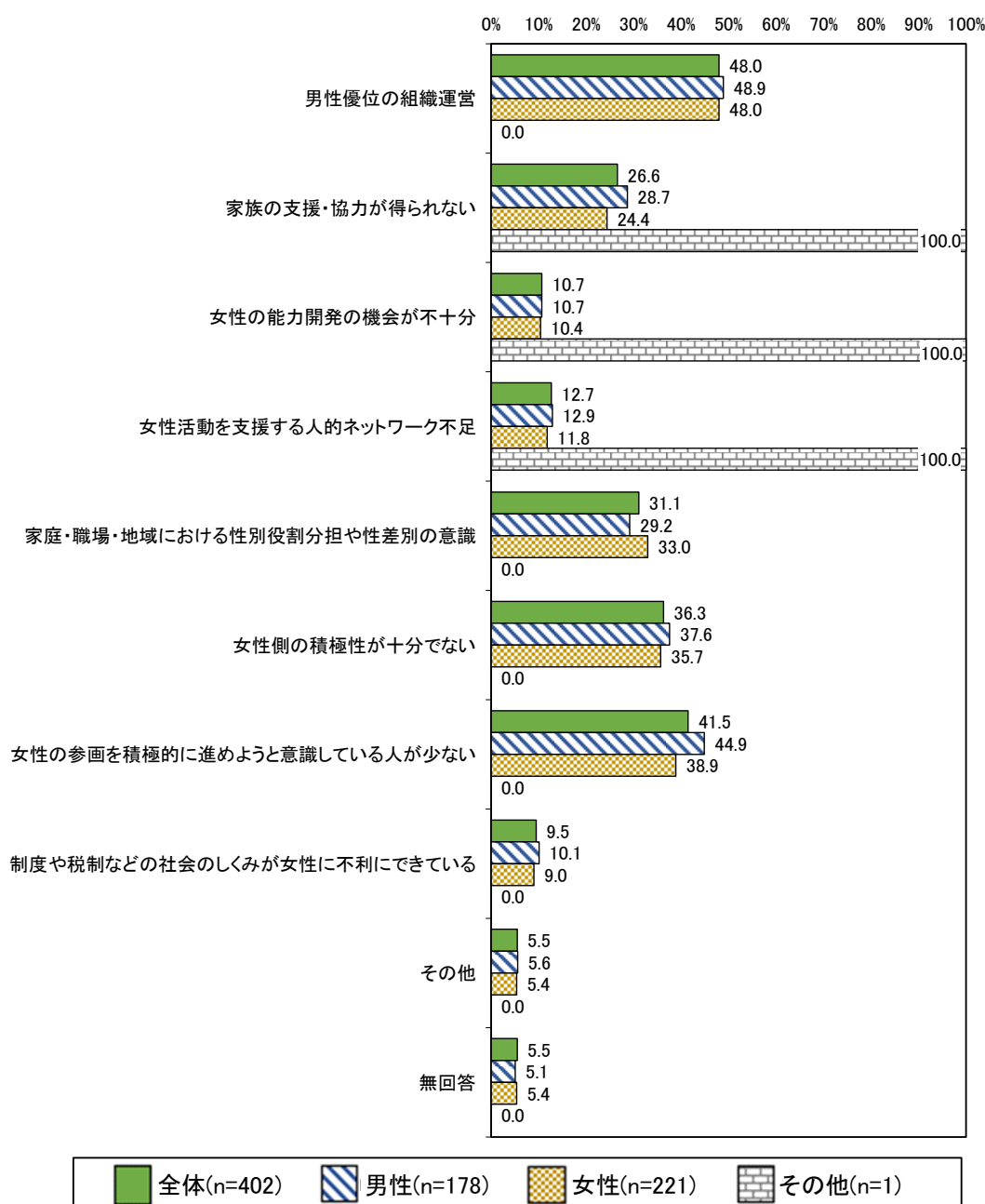
(1) 女性の参画が少ない理由

【問12】女性の社会進出は進みつつありますが、町内会や自治会の長、審議会委員や議員等には、まだ女性が就くことが少ないのが現状です。このように、企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。(〇は3つまで)

企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由は「男性優位の組織運営」

企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由については、「男性優位の組織運営」との回答が48.0%と最も高く、次いで「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が41.5%、「女性側の積極性が十分でない」が36.3%となっており、男性優位の状況であることに加えて女性側の意識改革が必要という意見も多くあげられています。

性別でみると、男女ともに「男性優位の組織運営」との回答が最も高くなっています。また、男性では「家族の支援・協力が得られない」、女性では「家庭・職場・地域における性別役割分担や性差別の意識」が高くなっているなど、男女間で差がみられます。



その他の回答
女性が自然に進んで活動する習慣が改善されていないと思います。
家事が忙しいので地域活動への参加は難しい。
男でも女でも変わらないので、女性の社会進出を後押しする必要がない。
男性を前に出し、その男性を陰からコントロールしようとする、女性の意識。
女性に長を行う能力が乏しい。
世帯主の名前で町内会など行われるが役員の仕事は妻がやるから。
特に女性が無理をして長をやる必要もないと思う。やりたがらない女性の方が大多数なのでは。(少なくとも私はそうです)
本人次第の問題であると考えます。
めんどくさいから。
そもそも町内会が不要。時代遅れ。固定的な慣習をあらためる必要性あり。
町内会、男女の区別全くない、むしろ女性の方が多い。
町内会は班長も役員も女性の割合が多いと思います。
町内会に入らない若い方が多い。
町内の長は年配者が多い。年配の方々の頭が固いのはどうしようもない。
魅力のある組織とは思えないため、参画への意欲がわからない。
町内会については中心的に活動している方は 70 歳以上の方でそもそも女性に役割を分担させる考えがない。
わからない。
社会的責任があるのが男性で、なくてもいいのが女性という子ども時代からの風潮や大人の目が男女の社会的責任感のギャップを生じさせてしまっていることがあると感じるから。
名前は男性名義（夫など）になっているが実働が女性である場合もある。
男女共に必要だと思っている人が少ない。(子どもの頃から触れ合っていれば意識が変わるのかも)
性差。

年齢別クロス集計

年齢別では、60代で「女性の参画を積極的に進めよう」と意識している人が少ない、その他の年代では「男性優位の組織運営」と回答する割合が最も高くなっています。

	男性優位の組織運営	家族の支援・協力が得られない	女性の能力開発の機会が不十分	女性のネットワーク不足	識性別・家庭・職場・地域における役割分担や性差別の意	女性側の積極性が十分でない	女性の参画を積極的に進めようという意識している人が少ない	ていくみや税制などの社会のき	その他	無回答
18～29歳(n=65)	46.2	24.6	6.2	18.5	35.4	36.9	40.0	12.3	6.2	1.5
30～39歳(n=58)	53.4	32.8	13.8	13.8	39.7	41.4	37.9	10.3	3.4	0.0
40～49歳(n=60)	55.0	21.7	15.0	6.7	28.3	36.7	33.3	20.0	8.3	3.3
50～59歳(n=87)	47.1	27.6	8.0	10.3	32.2	39.1	46.0	5.7	6.9	3.4
60～69歳(n=59)	49.2	28.8	11.9	13.6	39.0	35.6	52.5	5.1	3.4	1.7
70歳以上(n=72)	40.3	25.0	11.1	13.9	15.3	29.2	38.9	5.6	4.2	19.4

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している

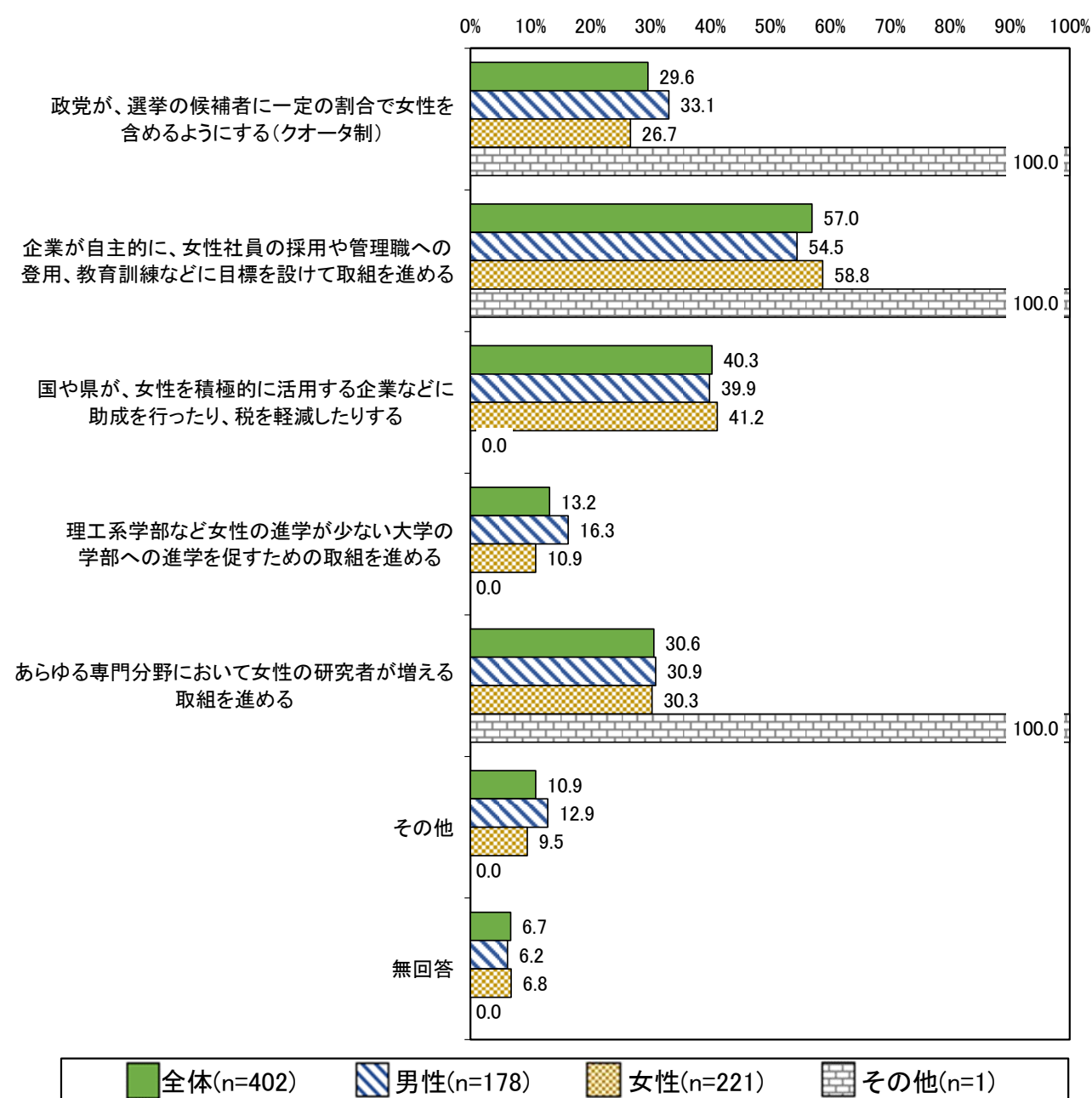
(2) 女性の社会進出促進

【問13】女性の社会進出があまり進んでいない分野へ女性の進出を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

女性の社会進出が進んでいない分野へ女性の進出を進めるには、「企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などに目標を設けて取組を進める」ことが必要

女性の社会進出があまり進んでいない分野へ女性の進出を進めていくために必要なことについては、「企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などに目標を設けて取組を進める」との回答が57.0%と最も高く、次いで「国や県が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする」が40.3%となっています。

性別でみると、男女ともに「企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などに目標を設けて取組を進める」と回答する割合が最も高くなっています。



その他の回答
家族の理解や協力、働きやすい環境づくり。
性別よりも、能力をきちんと見極めること。
女性も男性も1人の人間として見る。
女性、男性という意識がそもそも差別的な気がします能力を見て判断されることが大切だと感じます。
地域活動の項目でのこの問いは違和感がある。
現時点で進出している、進出しようとしている女性への正当な評価をする。
私の周囲の女性は必ずしも社会進出をのぞんでいないような気がするけっこう専業主婦になりたいという人がいる。
女性の能力を上げる取り組み。
女性の出産や育児経験を広く社会に生かせるような仕組みづくり女性だからできることがある。
子どもをあずけても罪悪感がなくなるしくみ。
女性の管理下にあることに対して男性が意識することなく接する。
性別によらず能力でみるべきなので採用登用などの書類には性別欄をなくす。
まだ結婚して、子どもを産むという概念に捉われているため、大役などに名乗り出る気になれない。
お答する年令でも、力もない。
無理に進めていく必要はない。
専業主婦のメリットをなくす。
本人次第であり、取組を決めればそれは女性優遇になるのではないかと思います。
子どもの頃からの教育で男女差をつけない。
結婚や出産などで職場を離れなくても済むように、会社、社会全体のバックアップすること。
無理に女性を男性をと進める必要を感じない、勿論抑える必要もない、あくまで当事者の思い！
特に必要性を感じない。
無理に女性進出をうながす必要性を特に感じないそもそも性別を男女わけて考えすぎている事に疑問を感じる。
女性の家庭生活での負担を減らすこと。
女性が必要だと思わない分野にわざわざ進出する必要が無い。
無理に女性を登用する必要なし能力で選び男女の比率は結果である。
男の子の子に対する大人の態度を平等にする女性が責任ある意識を持つためにも女の子にやさしくしすぎる世の中を変える必要がある国や企業の責任ある立場では能力・責任感があっても女性が活躍しにくい現状があるのでそういった古い一部の考えが固着してしまっている分野に関しては、上記のようなある程度の強制的な女性の参画を進めていくべき。
社会でリーダーシップをとるなど活躍している女性をもっと紹介する機会を多くするニュース等で取り上げる。
問13の選択肢のすべてにそもそもの社会のジェンダーバイアスがかかっており、解決にはつながらない。
学生の頃からの教育を見なおす（意識をもたせる）⑤（あらゆる専門分野において女性の研究者が増える取組を進める）を行いつつ、学生にもしっかりと伝える。
家事、育児について男性の積極的参加と男性の育休を取得しやすくする環境をつくる。
無理矢理てこ入れする必要はない。

その他の回答
女性自身の意識を変えてもらう必要もある。
子育てのフォロー。
幼少期から大人の分野にふれてもらう。
意識改革。
わからない。
今の自分にはわかりません。

年齢別クロス集計

年齢別では、18～29歳で「国や県が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする」、その他の年代では「企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などに目標を設けて取組を進める」と回答する割合が最も高くなっています。

	（クオータ制） 合党が女性を選挙の候補者に一定の割合	政目標を設けて採用、女性社員訓練など	や管が自主的に、女性社員の採用	企業が軽減したりする	税を企業などに助成を行ったり活用す	国や県が、女性を積極的に活用す	の取組を進める	い大学学部などの進学を促すためな	理工系学部などの女性の進学が少な	研究者が増える分野の進め女性	その他	無回答
18～29歳(n=65)	26.2	43.1	44.6	13.8	30.8	16.9	3.1					
30～39歳(n=58)	27.6	65.5	55.2	10.3	25.9	17.2	3.4					
40～49歳(n=60)	38.3	55.0	40.0	11.7	26.7	13.3	5.0					
50～59歳(n=87)	29.9	62.1	34.5	13.8	31.0	8.0	5.7					
60～69歳(n=59)	30.5	69.5	37.3	13.6	32.2	6.8	1.7					
70歳以上(n=72)	26.4	48.6	34.7	15.3	36.1	5.6	18.1					

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している

6 DV(ドメスティック・バイオレンス)等「女性の人権」について

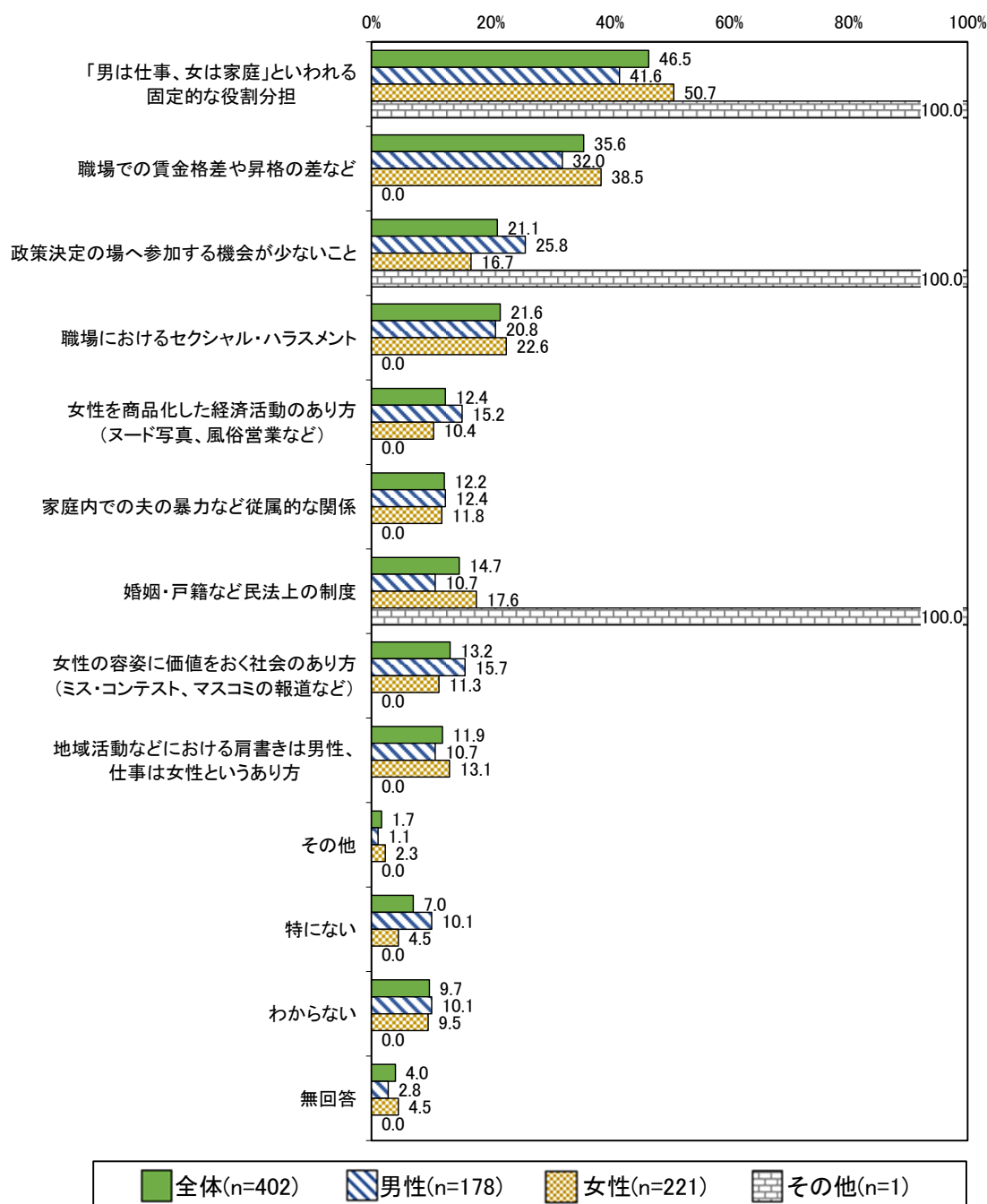
(1) 女性の人権の尊重

【問14】あなたが、女性の人権が尊重されていない(女性に対する差別)と感じることは何ですか。(〇は3つまで)

女性の人権が尊重されていないと感じることは、「男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担」「職場での賃金格差や昇格の差」

女性の人権が尊重されていないと感じることは、「男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担」との回答 46.5%と最も高く、次いで「職場での賃金格差や昇格の差など」が 35.6%となっています。

また、性別でみると、男性では「政策決定の場へ参加する機会が少ないこと」の回答が 25.8%、「女性を商品化した経済活動のあり方(ヌード写真、風俗営業など)」が 15.2%、女性では「婚姻・戸籍など民法上の制度」の回答が 17.6%と、男女間で差が見られます。



その他の回答
女性の側にも意識の問題がある。
昔からの風習。女性は選挙権がなかった等。
産休・育休後の復職の待遇。
女性は外の仕事も家庭の仕事も多すぎる。
女の子だからといっていい意味では甘やかされ悪い意味では期待されないといった大人の態度が社会に対する女性の意識欠如につながっている点。(男女に対する大人の態度が差別的)
夫は協力的ではあっても子どもの体調管理、お世話は妻。保育園で熱があった場合、夫が早退することは無い。一緒にあそぶことはあっても子どものしつけなどはしない。
女子力が高いね、などと言う価値観。

年齢別クロス集計

年齢別では、いずれの年代においても「男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担」「職場での賃金格差や昇格の差」の上位2項目の回答が多くなっています。

	男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担	職場での賃金格差や昇格の差など	政策決定の場へ参加する機会が 少ないこと	職場におけるセクシャル・ハラスメント	女性を商品化した経済活動のあり方 (ヌード写真、風俗営業など)	家庭内での夫の暴力など 従属的な関係	婚姻・戸籍など民法上の制度	女性の容姿に価値をおく社会のあり方 (ミス・コンテスト、マスのコミの報道など)	地域活動などにおける肩書きは 男性、仕事は女性というあり方	その他	特にな い	わ か ら な い	無 回 答
18～29歳(n=65)	49.2	30.8	4.6	27.7	7.7	7.7	15.4	18.5	12.3	0.0	7.7	10.8	3.1
30～39歳(n=58)	53.4	34.5	20.7	27.6	10.3	12.1	19.0	10.3	10.3	6.9	6.9	6.9	0.0
40～49歳(n=60)	51.7	31.7	20.0	23.3	11.7	20.0	13.3	13.3	8.3	0.0	10.0	6.7	1.7
50～59歳(n=87)	43.7	36.8	21.8	21.8	13.8	10.3	19.5	17.2	16.1	1.1	6.9	10.3	1.1
60～69歳(n=59)	50.8	39.0	28.8	20.3	16.9	18.6	11.9	11.9	15.3	3.4	5.1	5.1	0.0
70歳以上(n=72)	34.7	40.3	30.6	11.1	13.9	6.9	8.3	6.9	8.3	0.0	5.6	16.7	15.3

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している

(2) 配偶者、恋人などからされたこと、配偶者、恋人などにしたこと

【問15】あなたはこれまでに、あなたの夫や妻、恋人などから次のようなことをされた、あるいはしたことがありますか。次の①～⑫についてお答えください。

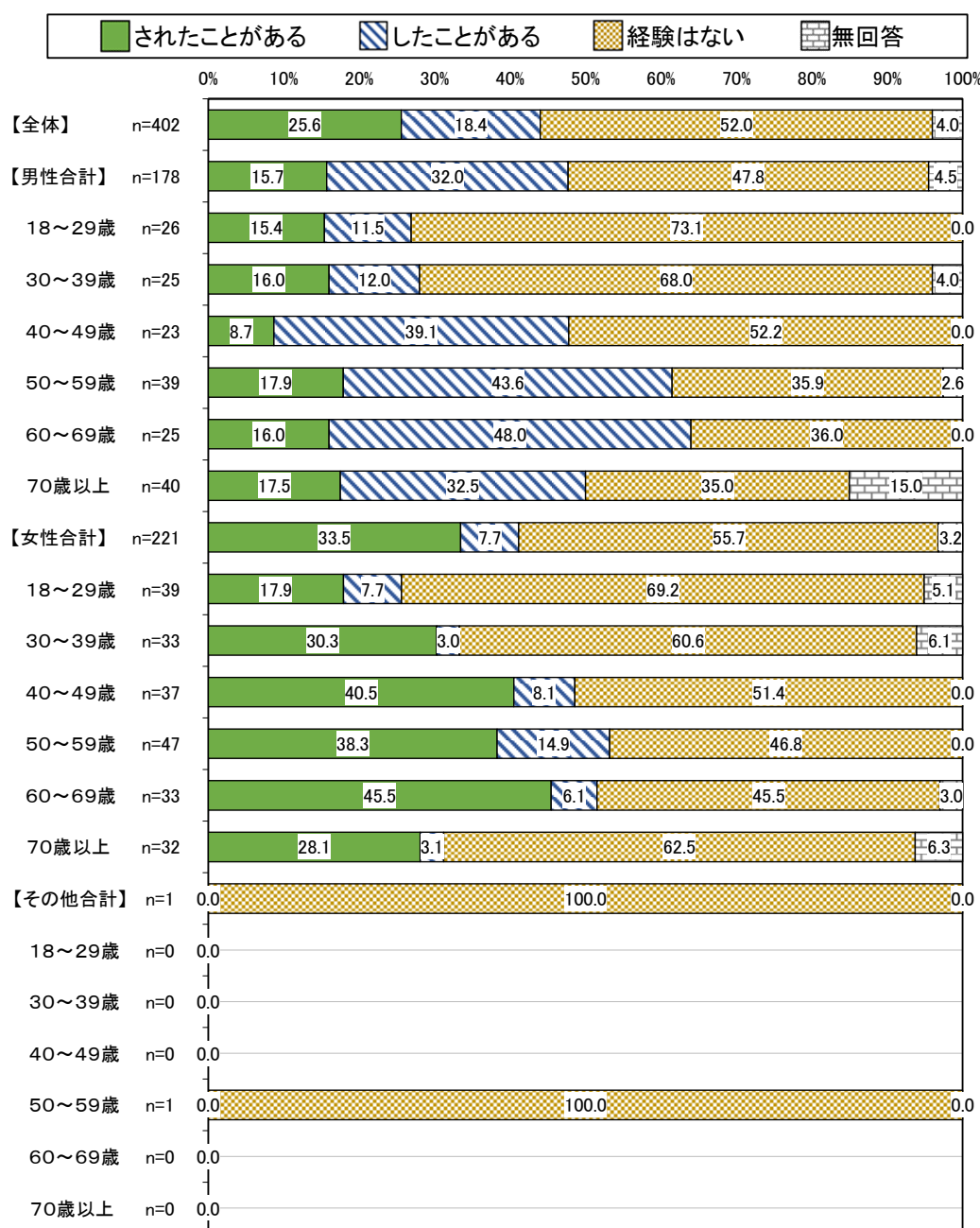
① 大声で怒鳴る

「経験はない」52.0%＞「されたことがある」25.6%＞「したことがある」18.4%

大声で怒鳴るについては、「されたことがある」との回答が25.6%、「したことがある」が18.4%となっており、「されたことがある」が「したことがある」よりも7.2ポイント高くなっています。また、「経験はない」が52.0%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性で15.7%、女性で33.5%と女性が17.8ポイント上回っています。一方、「したことがある」との回答が男性で32.0%、女性で7.7%と男性が24.3ポイント上回っています。

性別・年齢別では、30代～60代の女性で「されたことがある」と回答する割合が、40代以上の男性で「したことがある」が高くなっています。



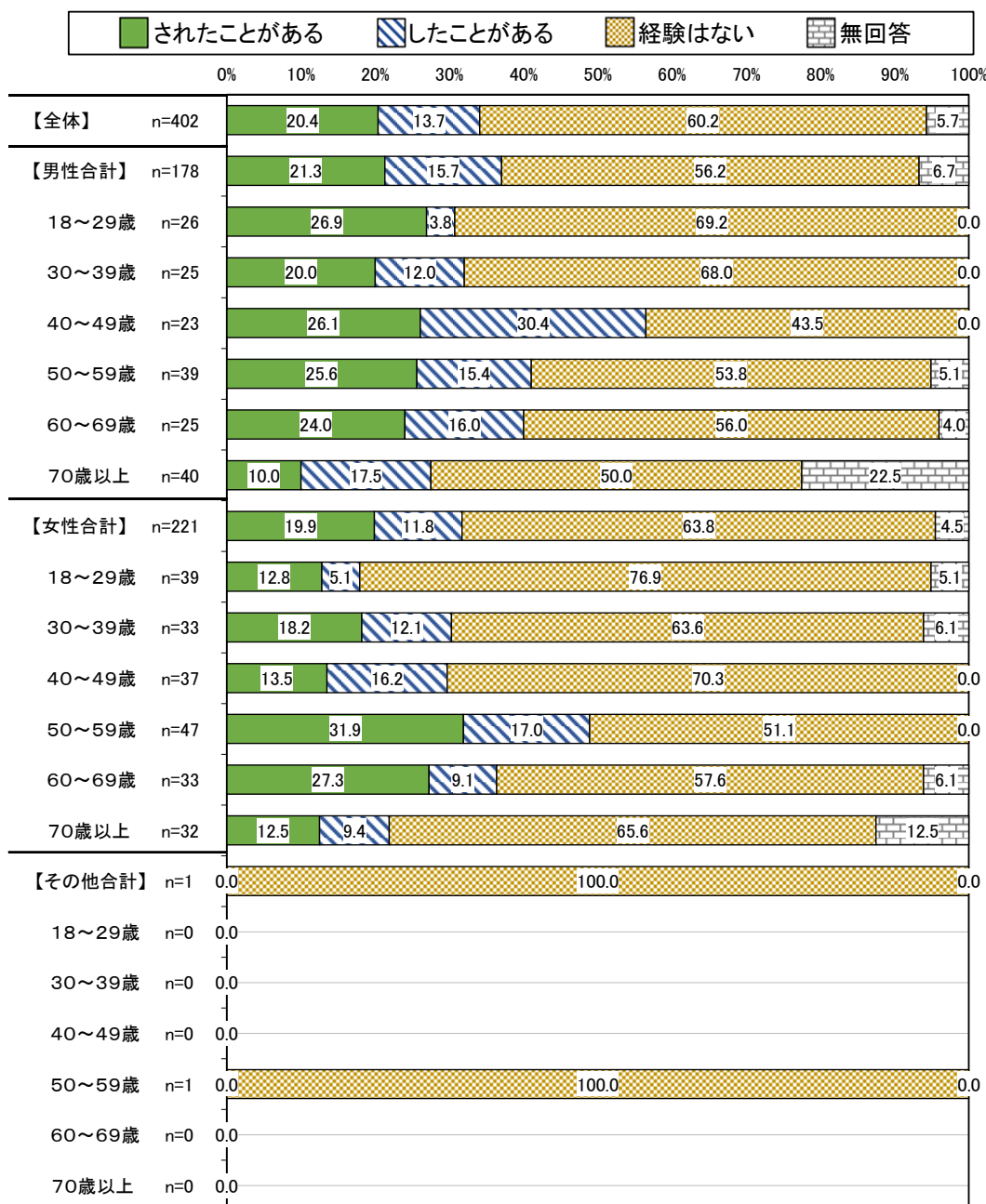
② 何を言っても無視する

「経験はない」60.2%＞「されたことがある」20.4%＞「したことがある」13.7%

何を言っても無視するについては、「されたことがある」との回答が20.4%、「したことがある」が13.7%となっており、「されたことがある」が「したことがある」よりも6.7ポイント高くなっています。また、「経験はない」が60.2%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性で21.3%、女性で19.9%と男女間で大きな差は見られません。一方、「したことがある」との回答が男性で15.7%、女性で11.8%と男性が3.9ポイント上回っています。

性別・年齢別では、70歳未満の男性で「されたことがある」と回答する割合が2割以上となっており、女性では50代が3割以上と高くなっています。また、40代の男性で「したことがある」が高くなっています。



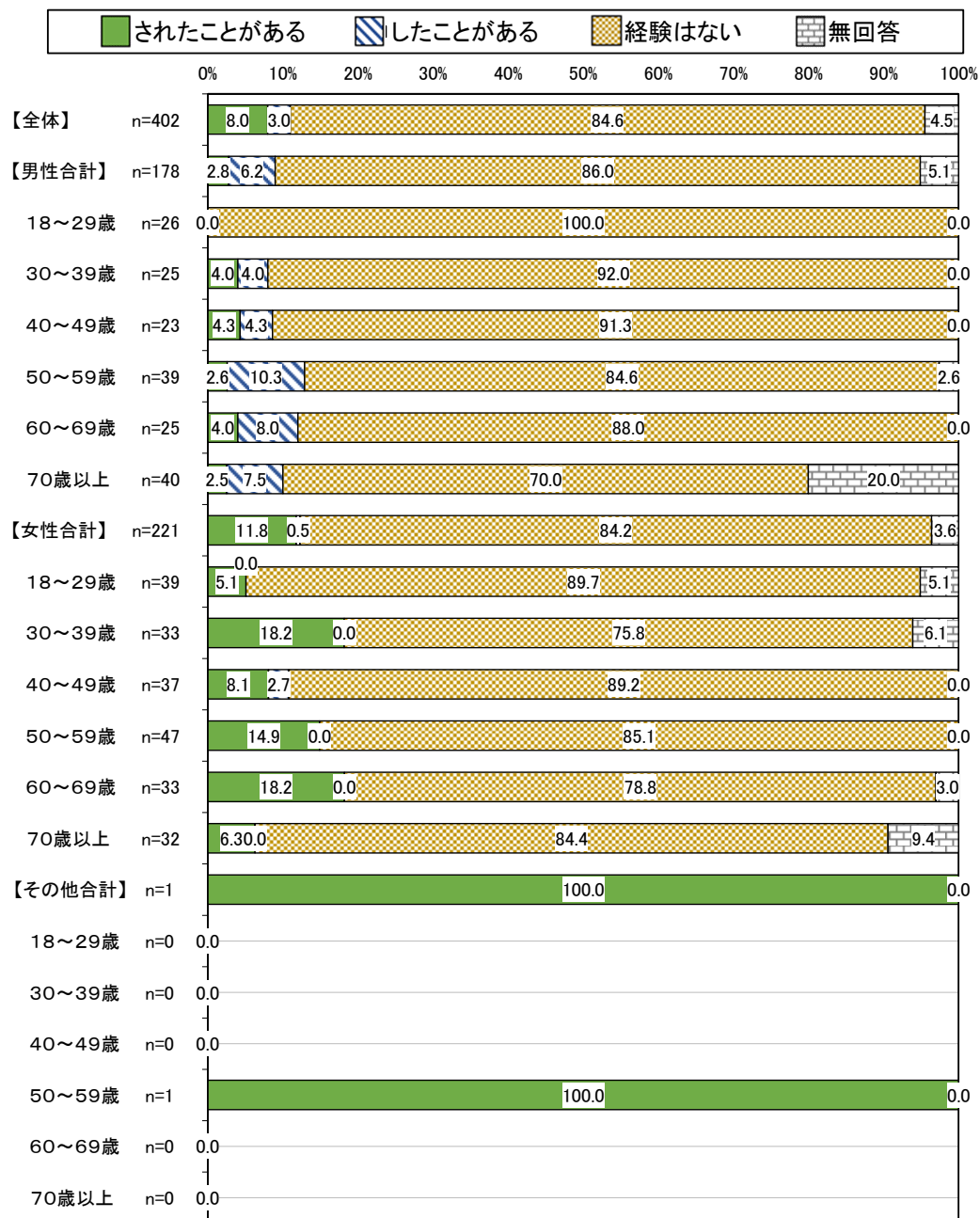
③ 「だれのおかげで生活できるんだ」などと暴言を言う

「経験はない」84.6%＞「されたことがある」8.0%＞「したことがある」3.0%

「だれのおかげで生活できるんだ」などと暴言を言うについては、「されたことがある」との回答が8.0%、「したことがある」が3.0%となっており、「されたことがある」が「したことがある」よりも5.0ポイント高くなっています。また、「経験はない」が84.6%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性で2.8%、女性で11.8%と女性が9.0ポイント上回っています。一方、「したことがある」との回答が男性で6.2%、女性で0.5%と男性が5.7ポイント上回っています。

性別・年齢別では、30代、50代、60代の女性で「されたことがある」と回答する割合が高くなっています。



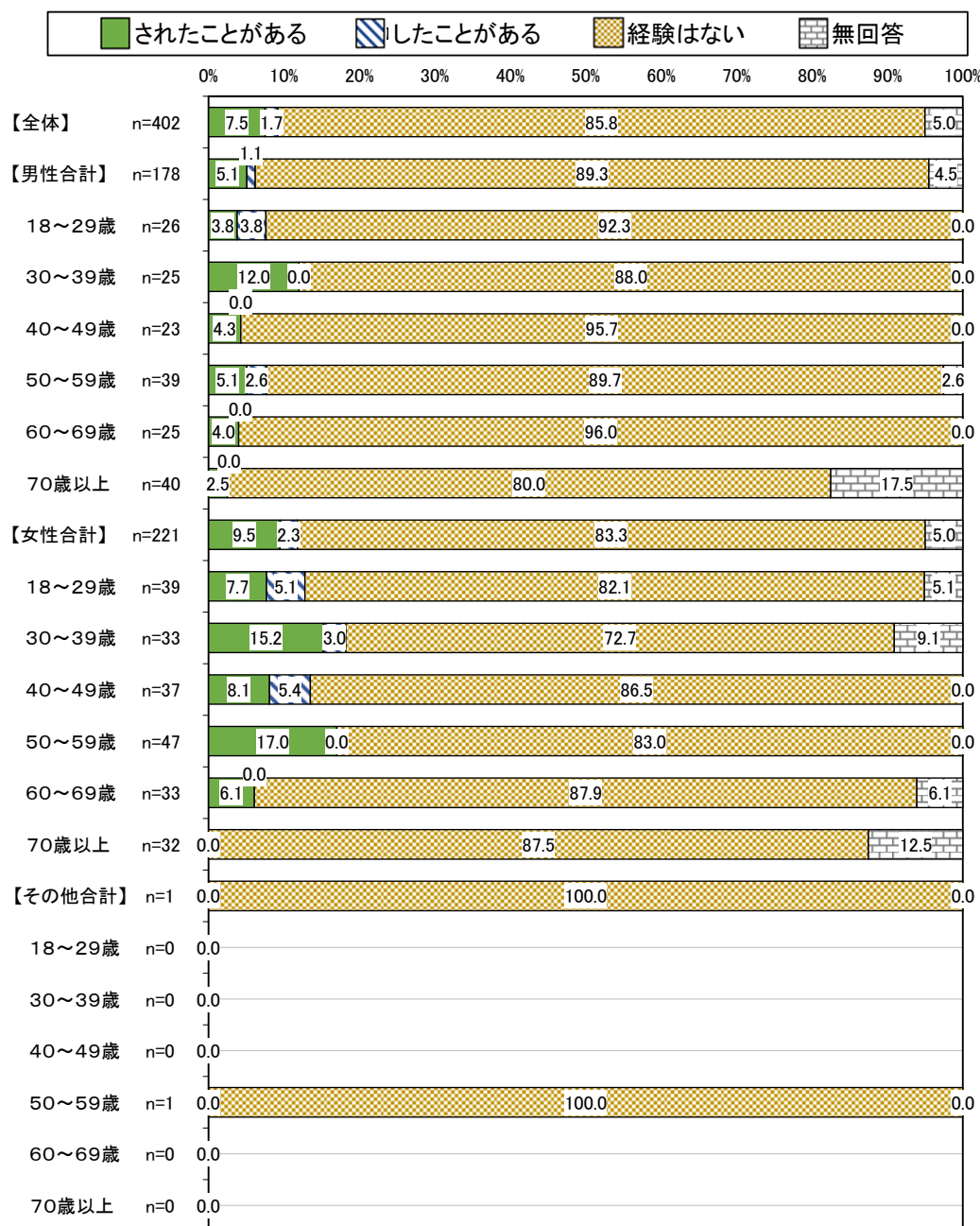
④ 交友関係や携帯電話を、必要以上に細かく監視したり制限したりする

「経験はない」85.8%＞「されたことがある」7.5%＞「したことがある」1.7%

交友関係や携帯電話を、必要以上に細かく監視したり制限したりするについては、「されたことがある」との回答が7.5%、「したことがある」が1.7%となっており、「されたことがある」が「したことがある」よりも5.8ポイント高くなっています。また、「経験はない」が85.8%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性で5.1%、女性で9.5%と女性が4.4ポイント上回っています。一方、「したことがある」との回答が男性で1.1%、女性で2.3%と男女間で大きな差は見られません。

性別・年齢別では、男性では30代、女性では30代と50代で「されたことがある」と回答する割合が高くなっています。



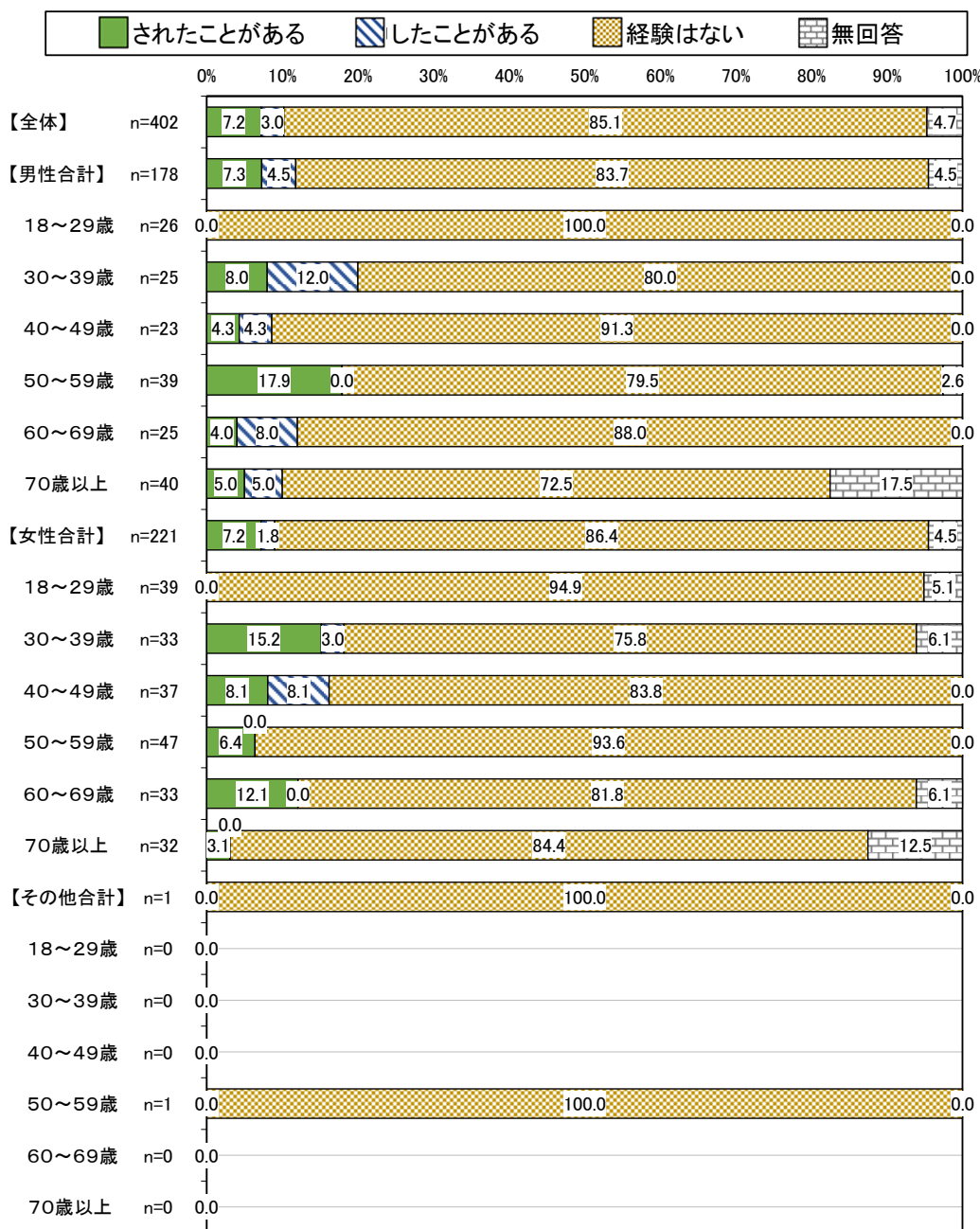
⑤ 大事にしているものを、壊したり捨てたりする

「経験はない」85.1%＞「されたことがある」7.2%＞「したことがある」3.0%

大事にしているものを、壊したり捨てたりするについては、「されたことがある」との回答が7.2%、「したことがある」が3.0%となっており、「されたことがある」が「したことがある」よりも4.2ポイント高くなっています。また、「経験はない」が85.1%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性で7.3%、女性で7.2%と男女間で大きな差は見られません。一方、「したことがある」との回答が男性で4.5%、女性で1.8%と男性が2.7ポイント上回っています。

性別・年齢別では、男性では50代、女性では30代と60代で「されたことがある」と回答する割合が高くなっています。また、30代の男性で「したことがある」が高くなっています。



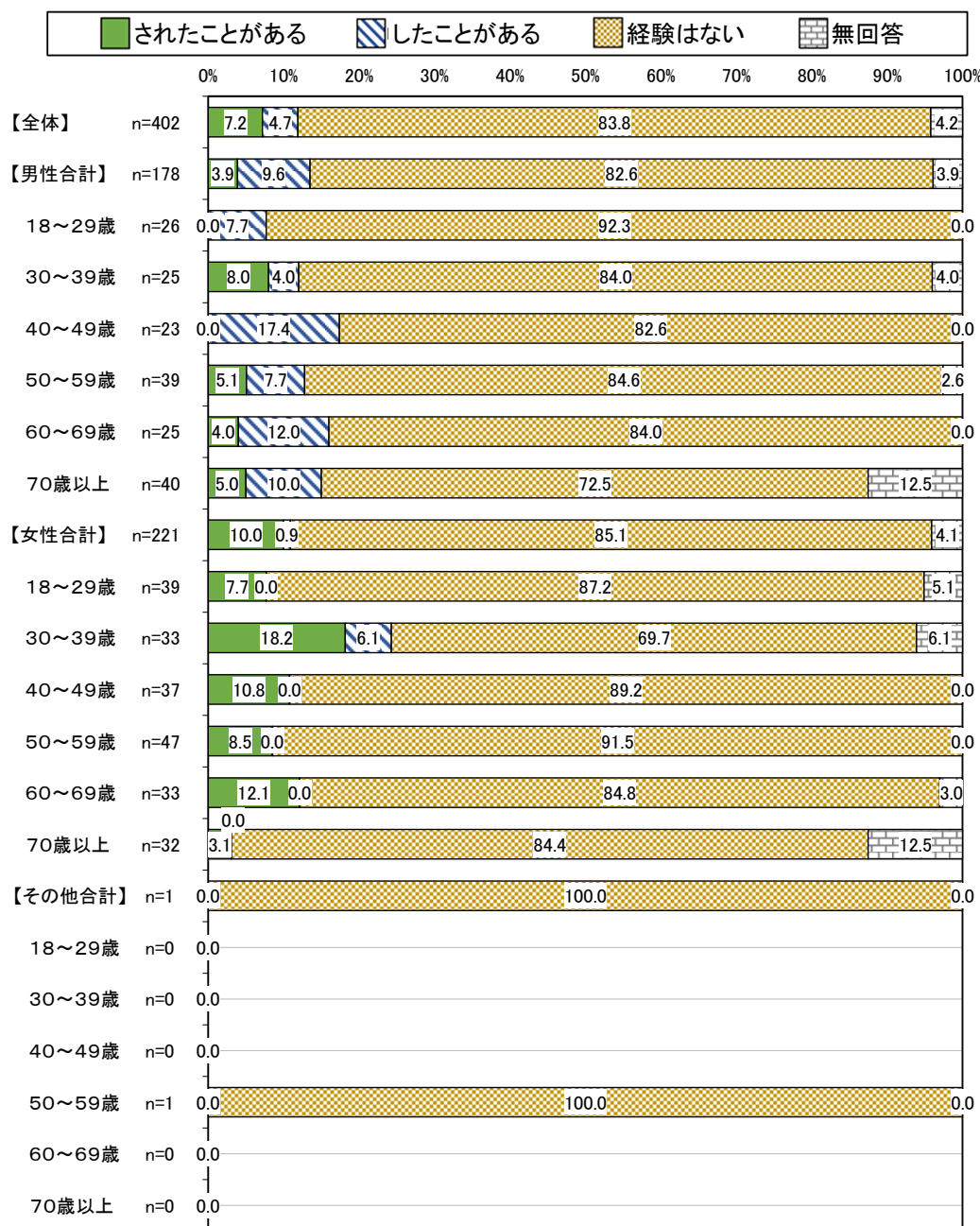
⑥ なぐるふりをして脅したり、押したりする

「経験はない」83.8%＞「されたことがある」7.2%＞「したことがある」4.7%

なぐるふりをして脅したり、押したりするについては、「されたことがある」との回答が7.2%、「したことがある」が4.7%となっており、「されたことがある」が「したことがある」よりも2.5ポイント高くなっています。また、「経験はない」が83.8%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性で3.9%、女性10.0%と女性が6.1ポイント上回っています。一方、「したことがある」との回答が男性で9.6%、女性で0.9%と男性が8.7ポイント上回っています。

性別・年齢別では、30代の女性で「されたことがある」が、40代の男性で「したことがある」が高くなっています。



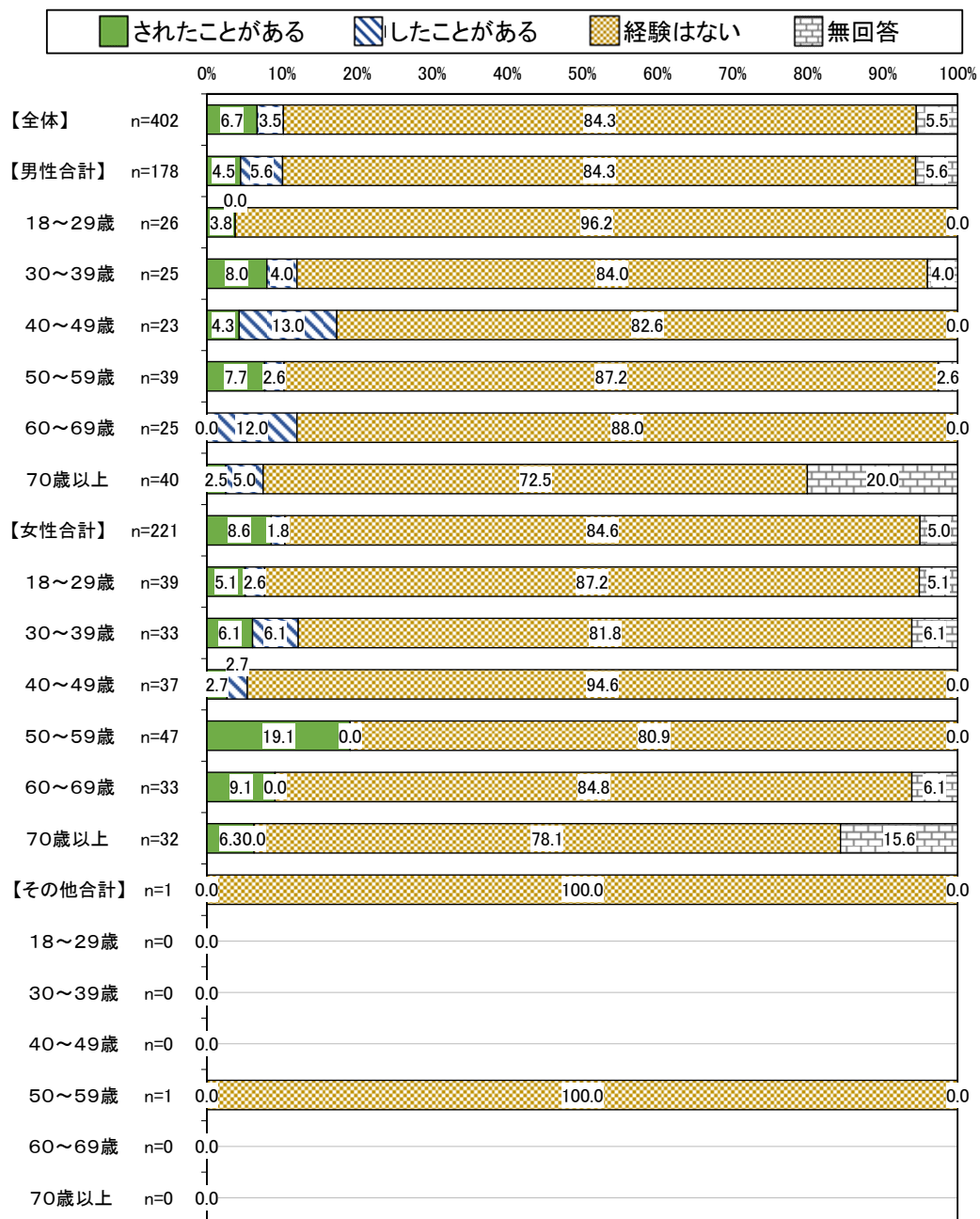
⑦ たたいたり、蹴ったりする

「経験はない」84.3%＞「されたことがある」6.7%＞「したことがある」3.5%

たたいたり、蹴ったりするについては、「されたことがある」との回答が6.7%、「したことがある」が3.5%となっており、「されたことがある」が「したことがある」よりも3.2ポイント高くなっています。また、「経験はない」が84.3%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性で4.5%、女性で8.6%と女性が4.1ポイント上回っています。一方、「したことがある」との回答が男性で5.6%、女性で1.8%と男性が3.8ポイント上回っています。

性別・年齢別では、50代の女性で「されたことがある」と回答する割合が、40代と60代の男性で「したことがある」が高くなっています。



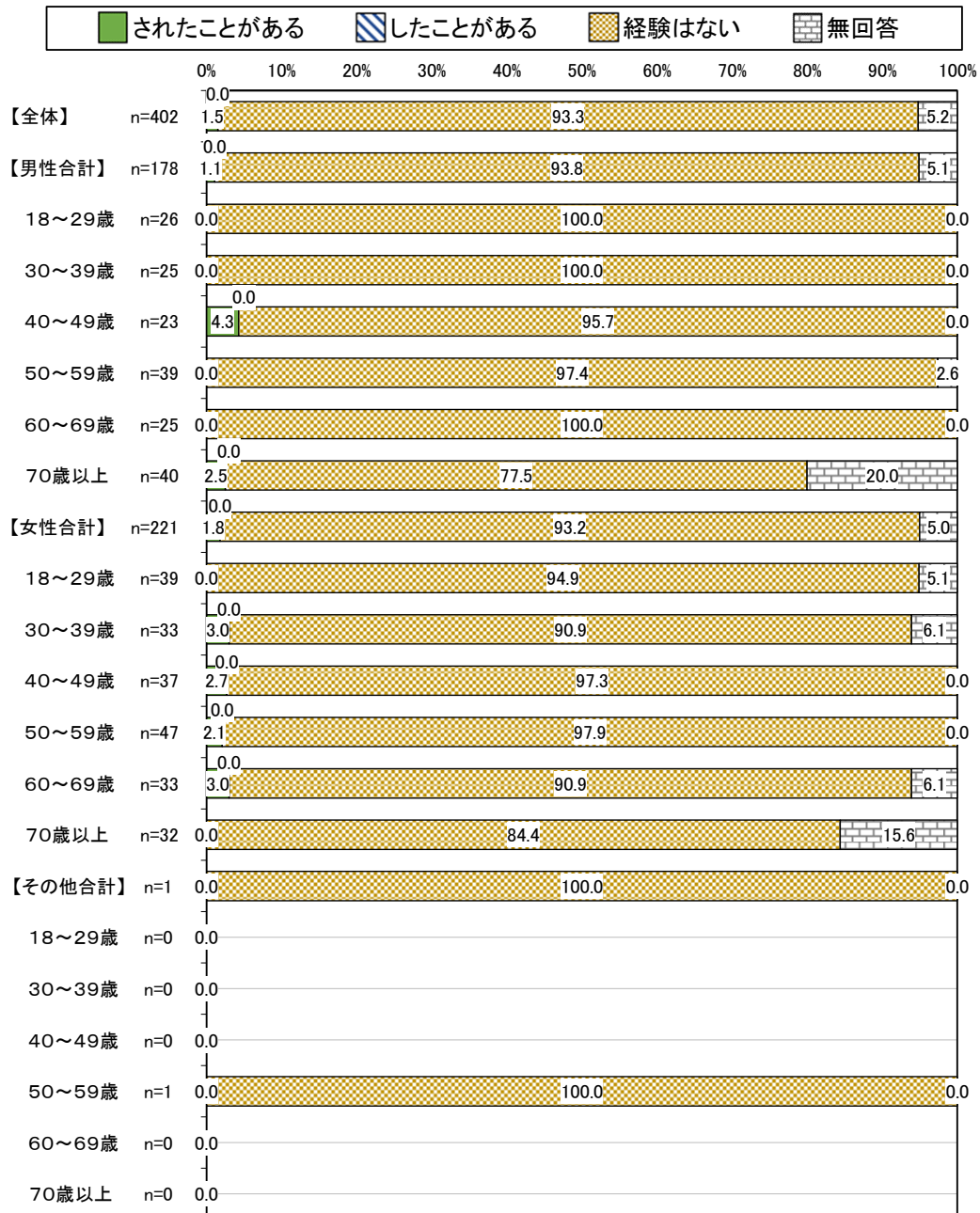
⑧ 立ち上がれなくなるまで、ひどい暴力をふるう

「経験はない」93.3%＞「されたことがある」1.5%＞「したことがある」0.0%

立ち上がれなくなるまで、ひどい暴力をふるうについては、「されたことがある」との回答が1.5%、「したことがある」が0.0%となっており、「されたことがある」が「したことがある」よりも1.5ポイント高くなっています。また、「経験はない」93.3%となっています。

性別でみると、男女間に大きな違いはみられません。

また、性別・年齢別でみても、特に大きな変化はみられません。



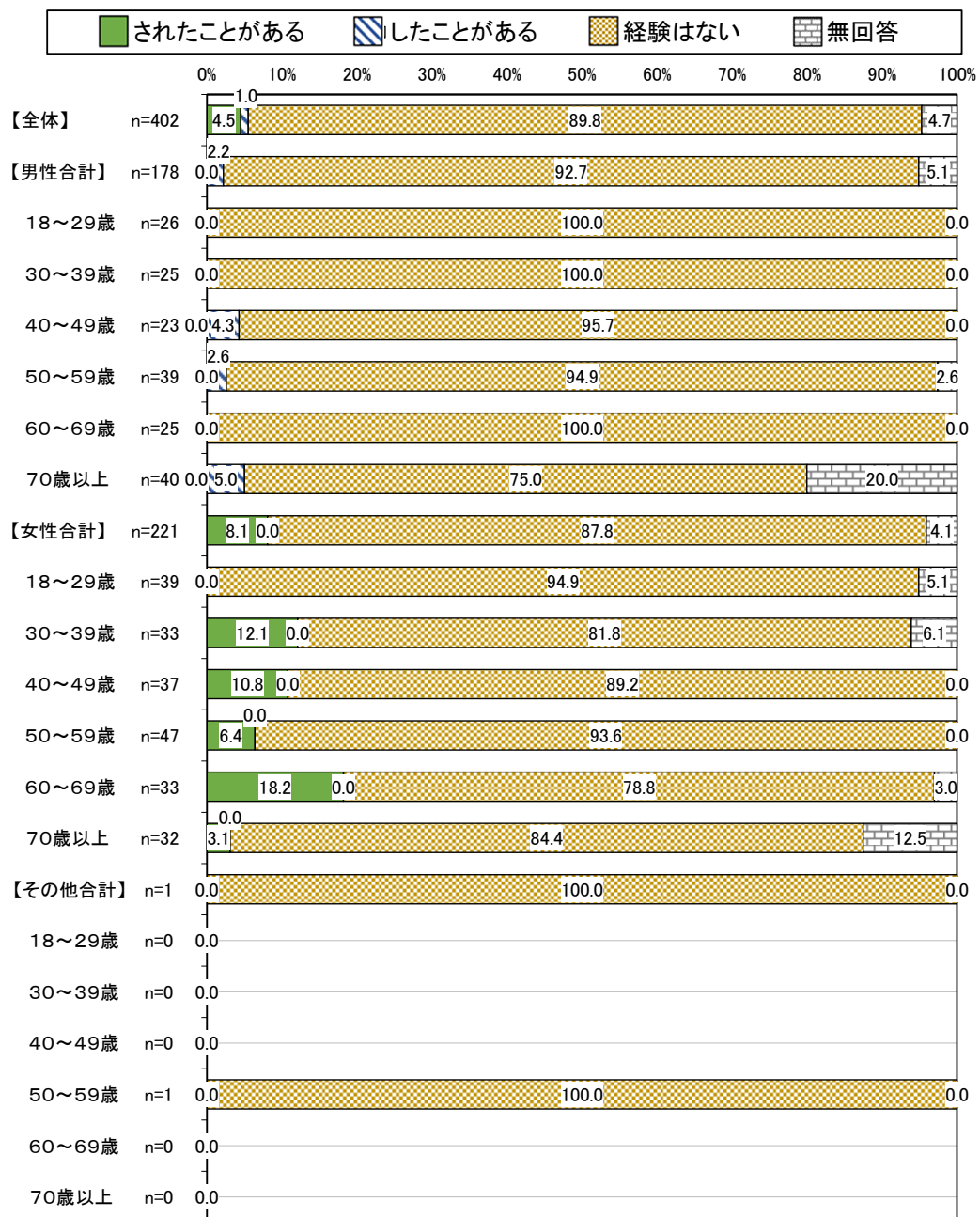
⑨ いやがっているのに性的な行為を強要する

「経験はない」89.8%＞「されたことがある」4.5%＞「したことがある」1.0%

いやがっているのに性的な行為を強要するについては、「されたことがある」との回答が4.5%、「したことがある」が1.0%となっており、「されたことがある」が「したことがある」よりも3.5ポイント高くなっています。また、「経験はない」89.8%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性では0.0%、女性では8.1%と女性が8.1ポイント上回っています。一方、「したことがある」との回答が男性で2.2%、女性で0.0%と男性が2.2ポイント上回っています。

性別・年齢別では、60代の女性で「されたことがある」と回答する割合が高くなっています。



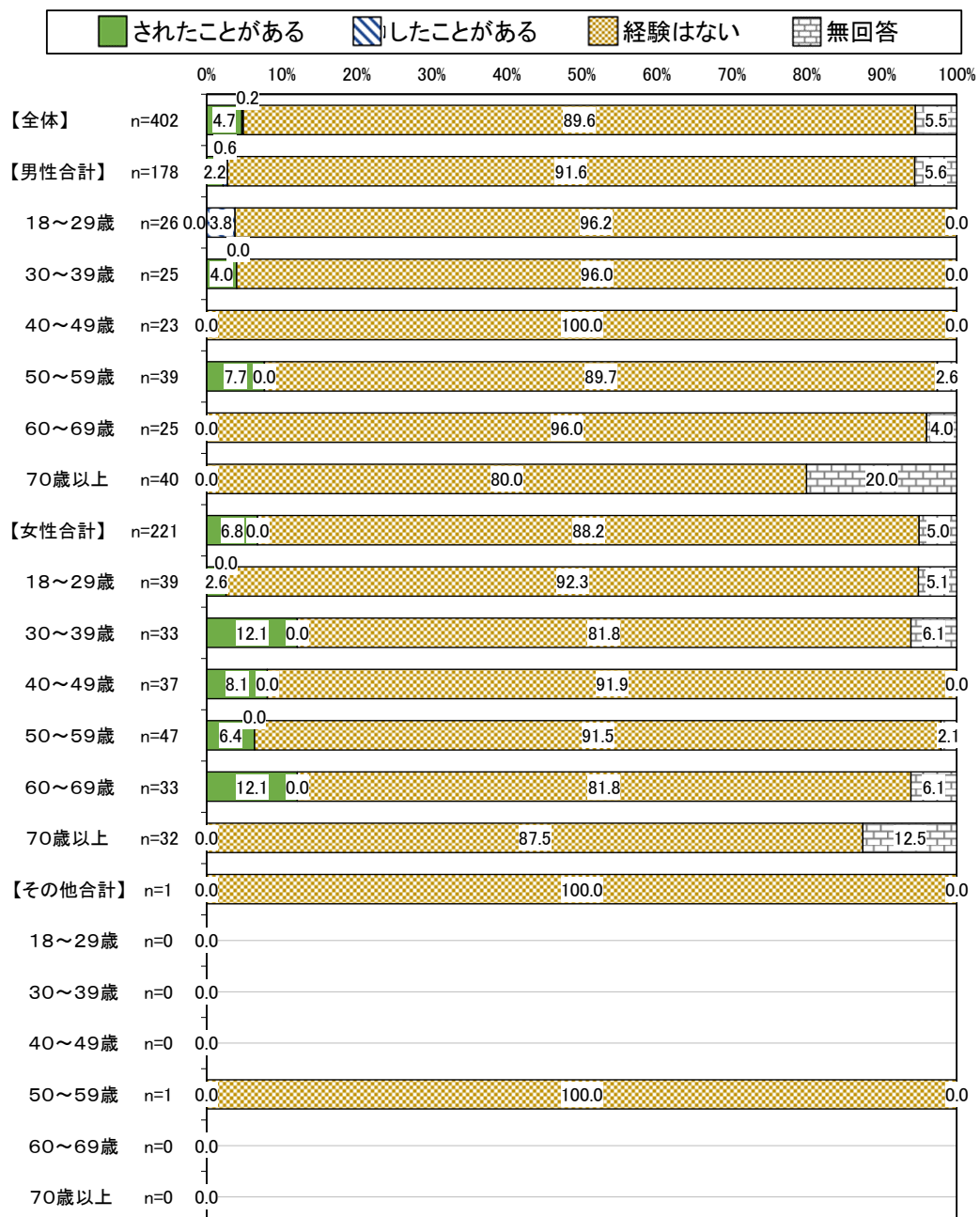
⑩ 金銭管理を独占し、生活費を渡さない

「経験はない」89.6%＞「されたことがある」4.7%＞「したことがある」0.2%

金銭管理を独占し、生活費を渡さないについては、「されたことがある」との回答が4.7%、「したことがある」が0.2%となっており、「されたことがある」が「したことがある」よりも4.5ポイント高くなっています。また、「経験はない」が89.6%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性では2.2%、女性では6.8%と女性が4.6ポイント上回っています。一方、「したことがある」との回答が男性で0.6%、女性で0.0%と男性が0.6ポイント上回っています。

性別・年齢別では、30代と60代の女性で「されたことがある」と回答する割合が高くなっています。



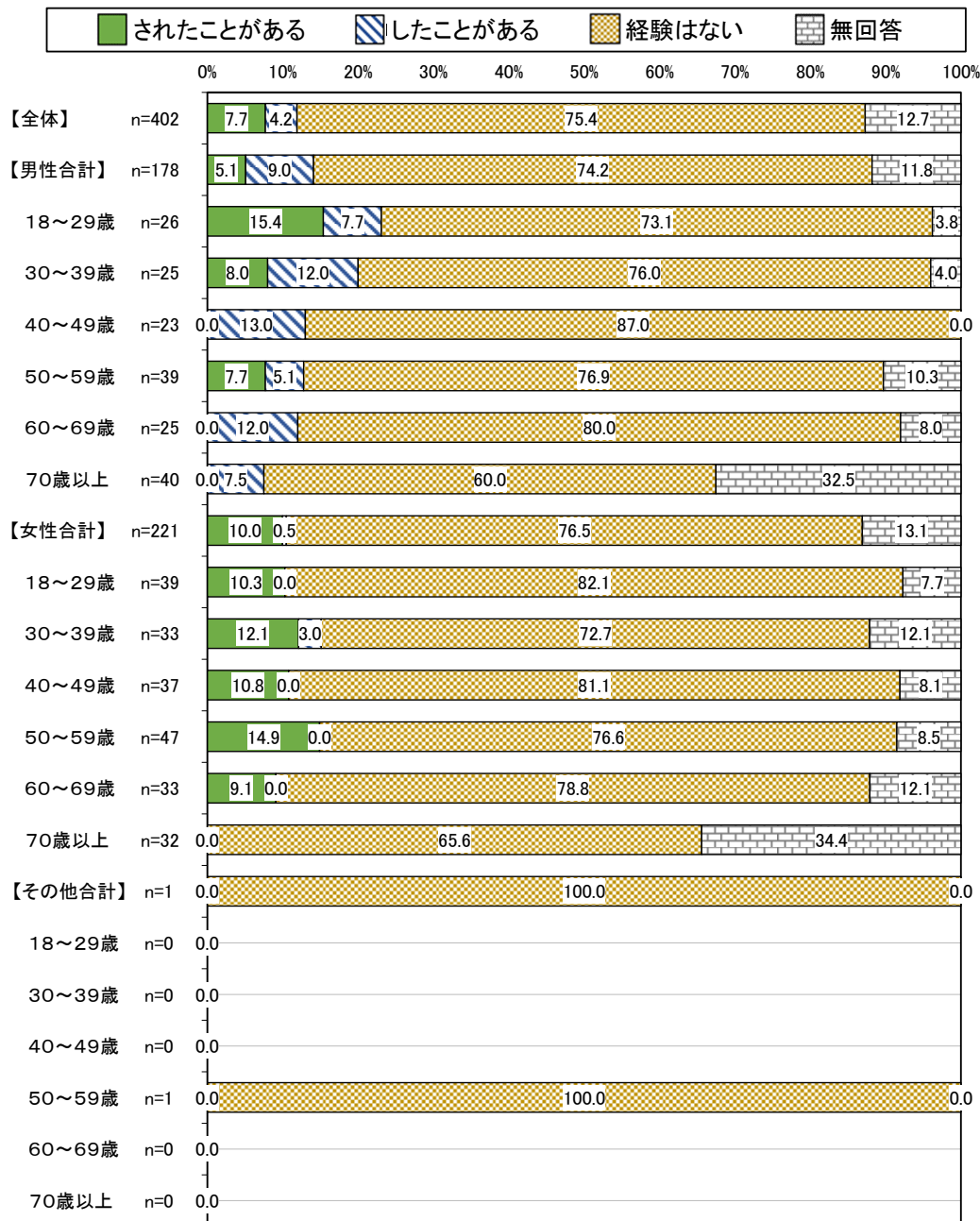
⑪ 10代20代のときに上記①～⑩のようなことをする

「経験はない」75.4%＞「されたことがある」7.7%＞「したことがある」4.2%

10代20代のときに上記①～⑩のようなことをするについては、「されたことがある」との回答が7.7%、「したことがある」が4.2%となっており、「されたことがある」が「したことがある」よりも3.5ポイント高くなっています。また、「経験はない」が75.4%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性では5.1%、女性では10.0%と女性が4.9ポイント上回っています。一方、「したことがある」との回答が男性で9.0%、女性で0.5%と男性が8.5ポイント上回っています。

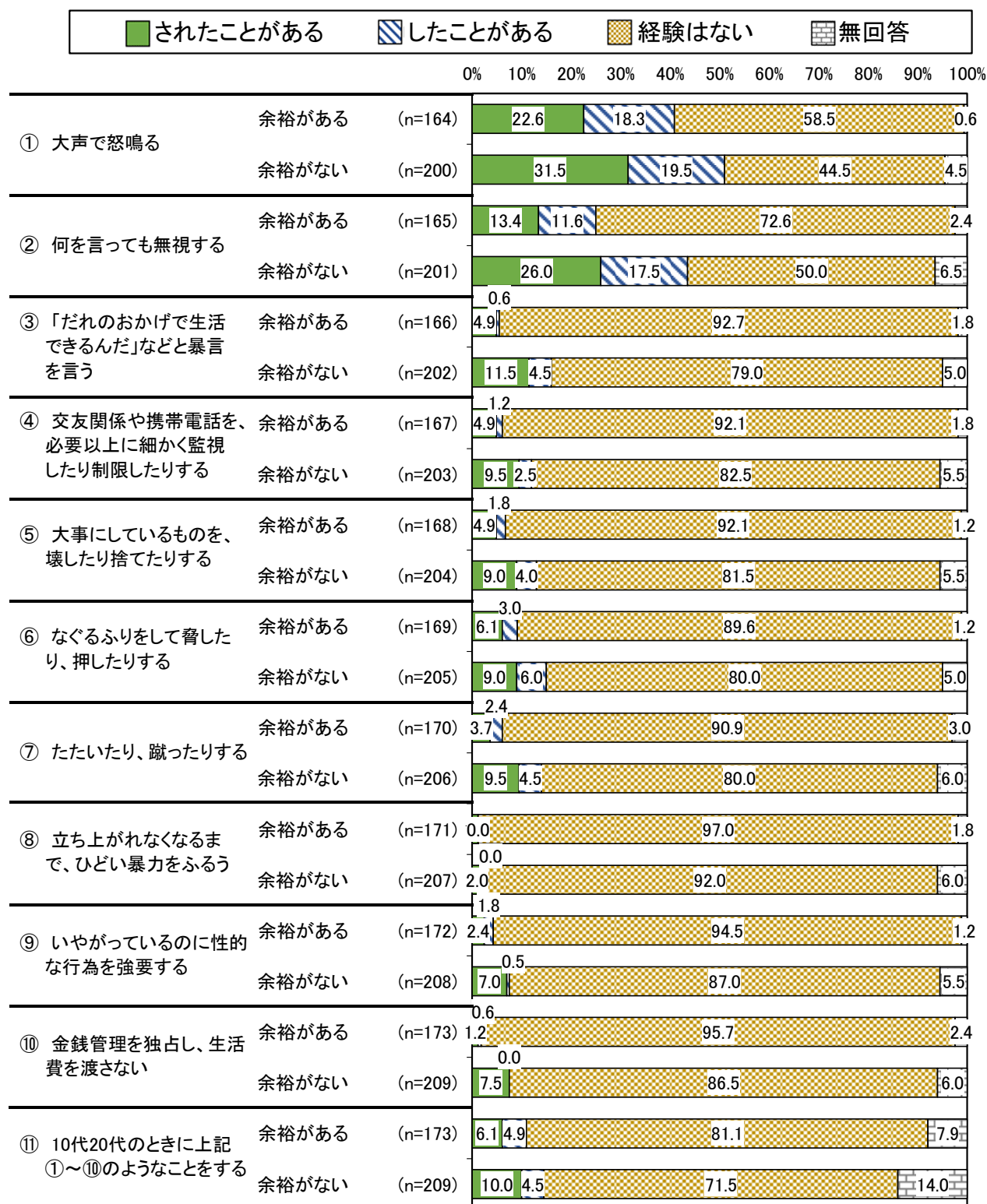
性別・年齢別では、18～29歳の男性、30代と50代の女性で「されたことがある」と回答する割合が、30代、40代、60代の男性で「したことがある」が高くなっています。



経済状況別クロス集計

経済的状況別でみると、「されたことがある」と回答した人は、いずれの項目も、経済的に余裕がない人（あまり余裕がない人も含む）が余裕がある人（まあまあ余裕がある人も含む）を上回っています。最も差が多いもので10ポイント以上となっており、経済的に余裕がない人ほど異性に対する暴力的な行為をされてしまうことが伺えます。

また、「したことがある」と回答した人は、経済的に余裕がない人と余裕がある人の間で5.9ポイントの差がある「②何を言っても無視する」を除き、経済的な余裕に関係なく特に大きな違いはみられません。



⑫ その他〈具体的に〉

その他の回答
家柄の悪さに対する差別。
20 年前、1 回目の結婚の時にモラルハラスメントを受けていましたが、当時はDVという認識がありませんでした。そんな言葉もありませんでした。とても危険な状況でした。幸い生活費がなくなったので逃げる事で終わりを迎えたが、この行為がDVだと知ったのはそれから 14 年後の事でした。
不倫。
貸したお金が返ってこない。

(3) 相談

【問16】問15の項目の中で、「1. されたことがある」または「2. したことがある」のところに、1つでも○をつけた方におたずねします。(すべて「3. 経験はない」という方は【問19】にお進みください。)

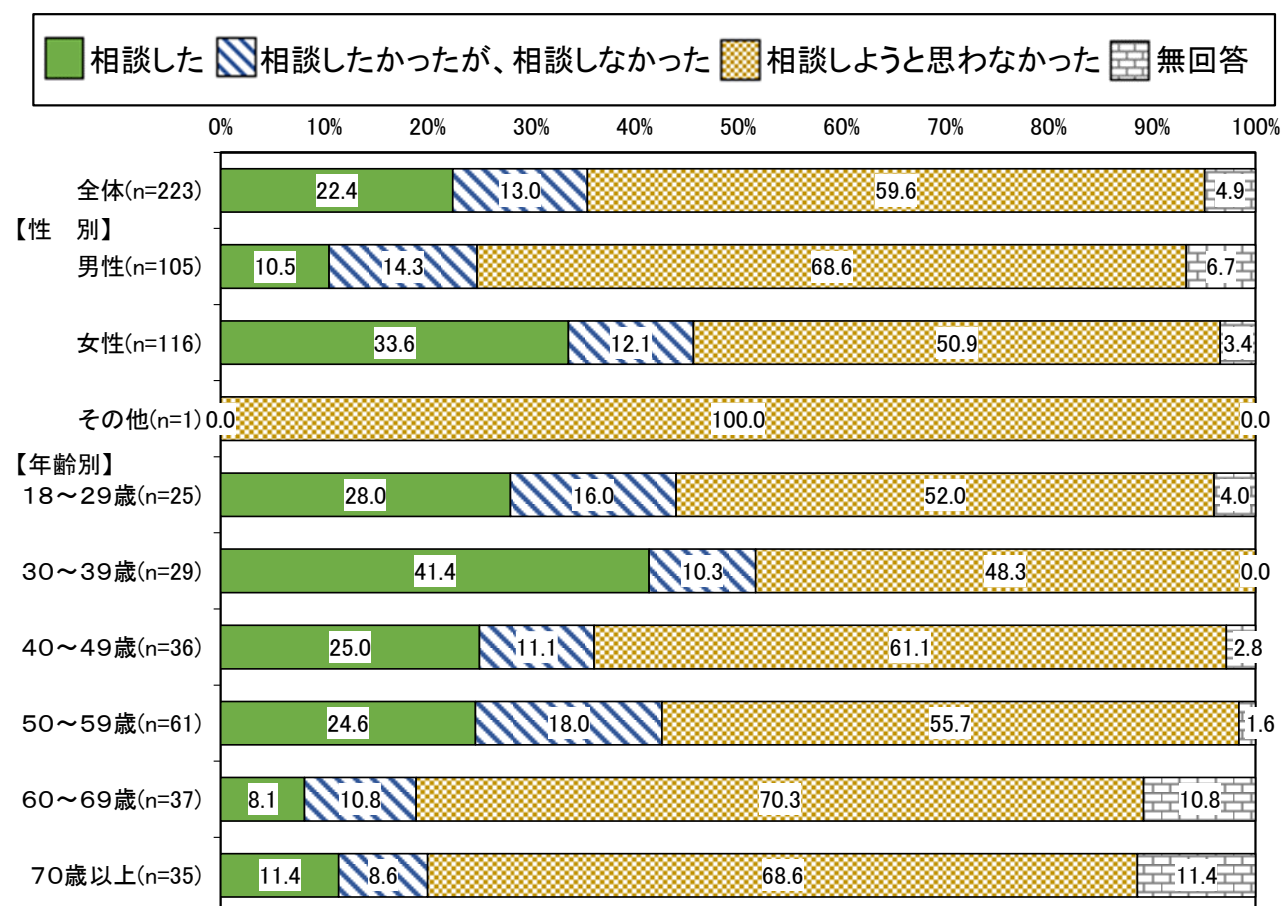
あなたが問15のような状況に置かれたとき、誰かに相談しましたか。

「相談しようと思わなかった」59.6% > 「相談した」22.4% > 「相談したかったが、相談しなかった」13.0%

夫や妻、恋人などから何らかの暴力などを受けた時の相談については、「相談した」との回答が22.4%、「相談したかったが、相談しなかった」が13.0%、「相談しようと思わなかった」が59.6%となっています。

性別でみると、「相談した」と回答する人の割合は、男性で10.5%、女性で33.6%となっています。

年齢別では、「相談した」と回答する人の割合は、30代で41.4%と高くなっています。



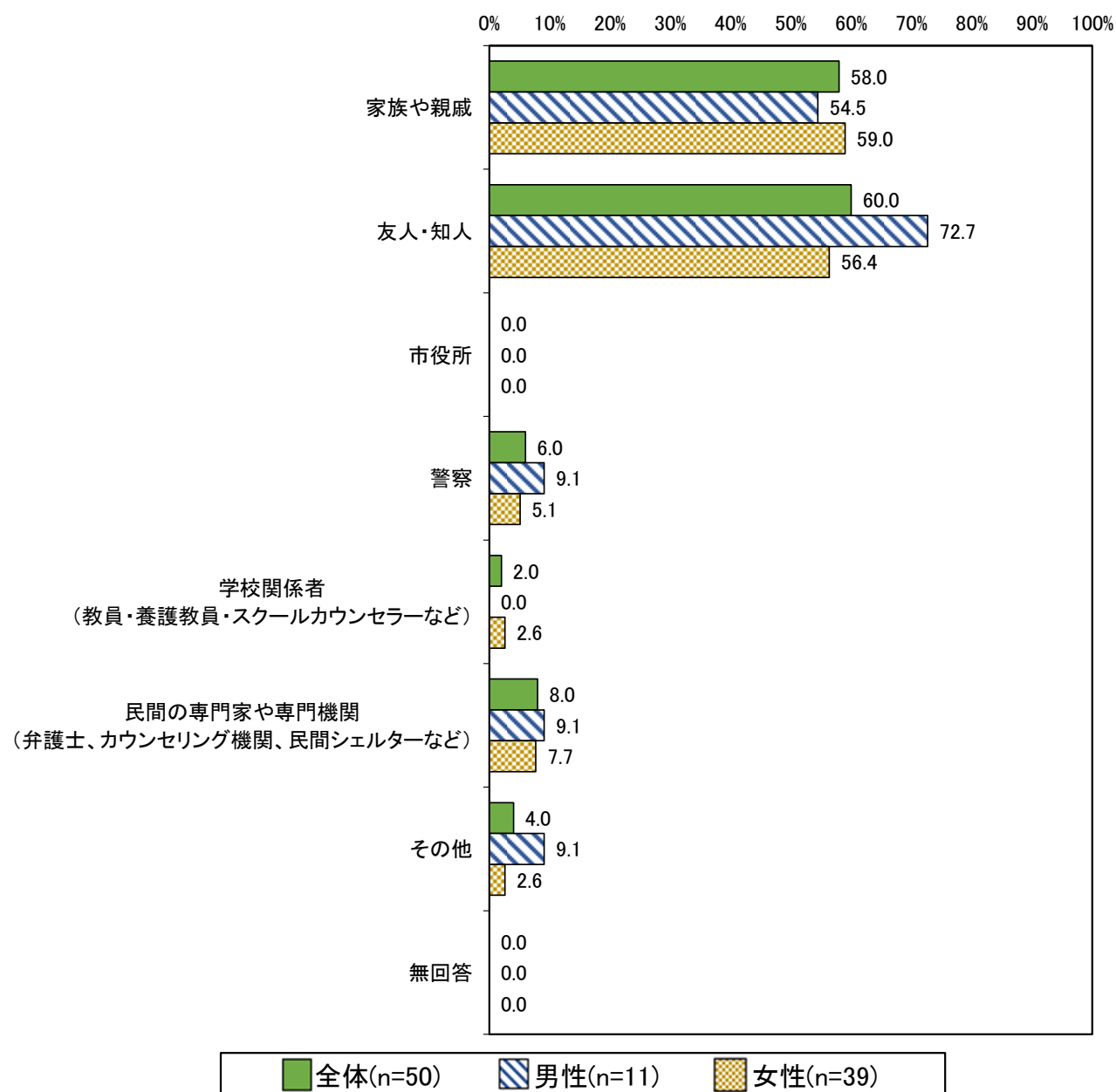
(4) 相談相手

【問17】問16で、「1. 相談した」と答えた方におたずねします。
あなたは、誰に相談しましたか。(〇はいくつでも)

DV経験の相談先は「友人・知人」「家族や親戚」など身近な人

DV経験の相談先については、「友人・知人」との回答 60.0%と最も高く、次いで「家族や親戚」が 58.0%となっており、被害者の多くが家族や友人など身近な人に相談していることがうかがえます。

性別でみると、「家族や親戚」「友人・知人」と回答する割合が男女ともに最も高くなっており、特に男性では7割以上が「友人・知人」と回答しています。



その他の回答

会社の上司など、会社の経営者。

女性の相談窓口のような匿名の電話相談、相手方の先輩。

(5) 相談しなかった理由

【問18】問16で、「2. 相談したかったが、相談しなかった」または「3. 相談しようと思わなかった」に○をつけた方におたずねします。

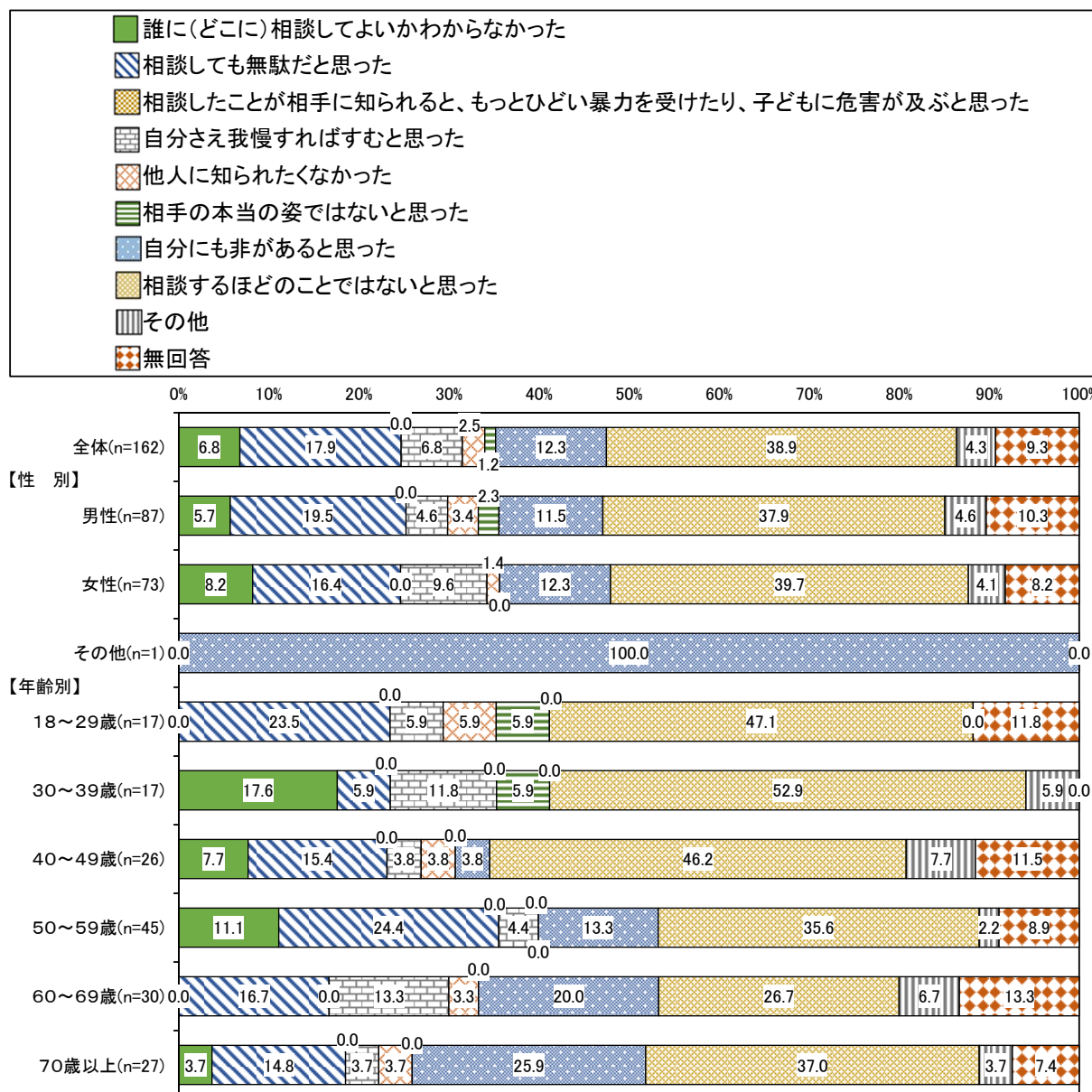
どこにも相談しなかったのはなぜですか。(1つに○)

どこにも相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思った」

どこにも相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思った」との回答が 38.9%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」が 17.9%、「自分にも非があると思った」が 12.3%となっています。

性別でみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思った」「相談しても無駄だと思った」「自分にも非があると思った」が高くなっています。

年齢別では、全ての年代において「相談するほどのことではないと思った」と回答する割合が最も高くなっています。次いで、18～29歳、40代、50代では「相談しても無駄だと思った」が、30代では「誰に（どこに）相談してよいかわからなかった」が、60代以上では「自分にも非があると思った」と回答する割合がそれぞれ高くなっています。



その他の回答
個人の問題で、相談するようなものではないと思った為。
お互い様と思っていた。
何も卑下することは無いと自分に自信があったから。
一般的な家族の中での事で、相談とかの類いのものではない為。
危険な行いは注意する。
お互い様だから。
嫌だと伝え、相手も納得したので。

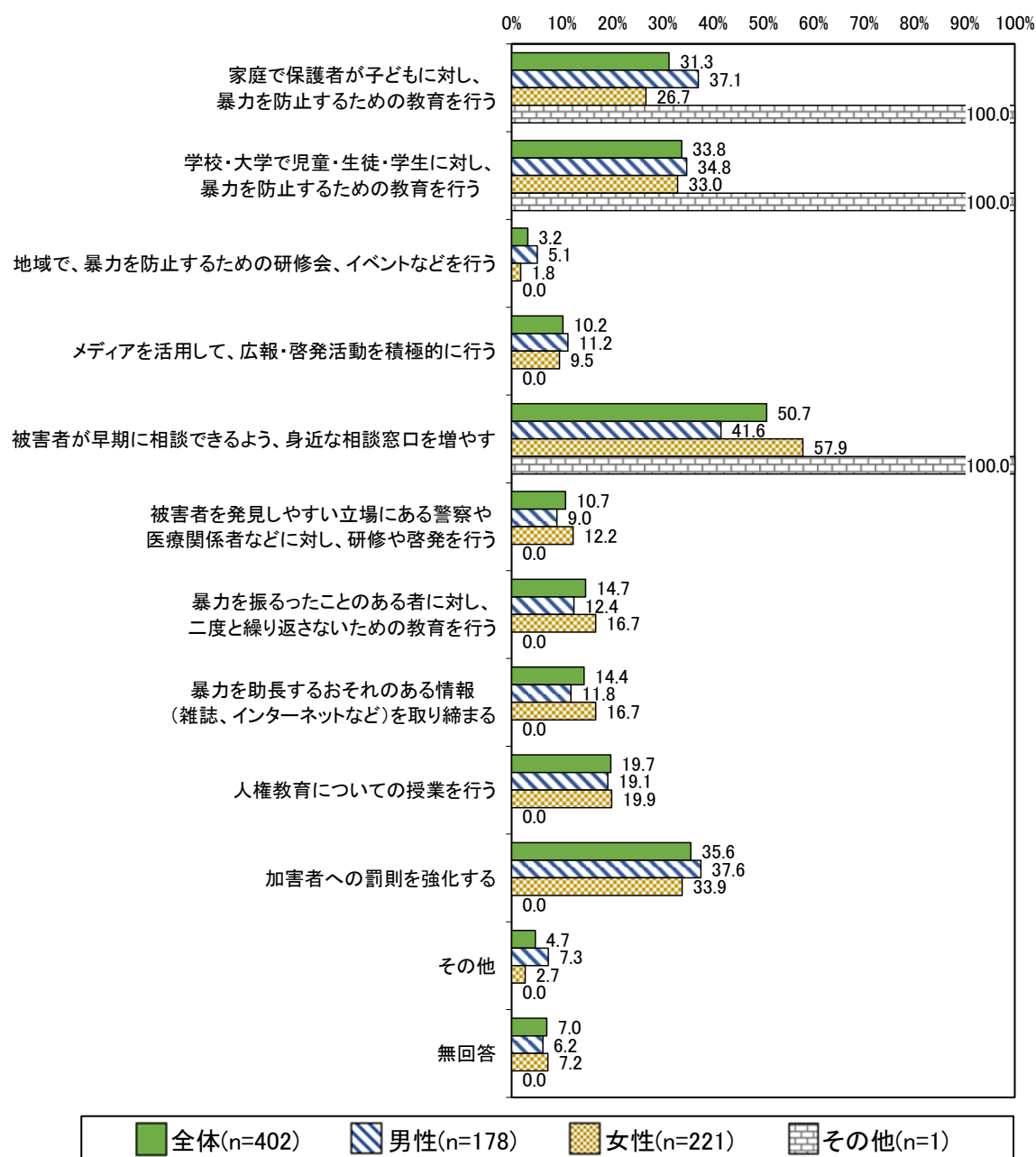
(6) 暴力防止のために必要なこと

【問19】男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は3つまで)

男女間における暴力を防止するためには、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」「加害者への罰則を強化する」ことが必要

男女間における暴力を防止するために必要なことについては、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」との回答が50.7%と最も高く、次いで「加害者への罰則を強化する」が35.6%、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が33.8%となっています。

性別でみると男女ともに「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」と回答する割合が最も高くなっています。また、男性では「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が、女性では「被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う」「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」と回答する割合がそれぞれ高くなっています。



その他の回答
弱い者いじめと同じで無くならない。まわりが注意して見てまわり、必要なときに手助けするしかない。皆が自分自身のことだと認識することが大切。
むずかしい言葉を使わず仲間の中で話し合う。
理性を育てる訓練、心穏やかに暮らす為の訓練を行う→めいそうなど。
相談しやすい環境・関係性の構築。
人の痛みや悲しみが分かる子（人）に育てる。
暴力を振るった加害者が被害者に二度と会わない制度を作る。
気付いてあげる人が少ないから変わらないと思う。
女だから、と許されてしまうことが多い。
当人同士の問題。
ネグレクトや毒親など、良くない大人を増やさない。又、そういう大人にならないように、親が子に対し責任を持って育てる。
暴力する人は直らないと思ううらぎられた方は、暴力に走ると思う。
本人の資質だと思う。
性別の問題、精神状態の問題だと思うので（キレる時は止められない）被害者を守る、逃げ場を作る事が重要。
カウンセラーの数を増やし、ストレスを軽減する社会・家庭を作り出すこと。
男女ともにある程度は仕方ない。その上で防止すべき暴力とそうでないものを線引きする怖がりな人が暴力的になりやすい。教育の段階で怖がりにならないような教育を研究、周知させていく。
DVをする人は病気だと思うので、アンガーマネジメントを受けてもらう。
アメリカなどでよくあるように、同じ罪を犯した人々が立ち直っていく為のサポートグループを作り、お互いに交流していく。もし、既にあるならば、その認知を広げる。
わからない。

年齢別クロス集計

年齢別では、いずれの年齢においても「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」との回答が最も高くなっています。

	暴力を防止するが子どもの教育を行う	家庭で保護者が子どもの教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に 対し、暴力を防止するための教育 を行う	地域で、暴力を防止するための研 修会、イベントなどを行う	活動を積極的に 行う	メディアを活用して、広報・啓発 活動を行う	被害者が早期に相談できるよう、 身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者などに対し、研 修や啓発を行う	被害者を発見しやすい立場にある 教育を行う	暴力を振るったことのある者に 対し、二度と繰り返さないための 教育を行う	暴力を助長するおそれのある情報 （雑誌、インターネットなど）を 取り締まる	人権教育についての授業を行う	加害者への罰則を強化する	その他	無回答
18～29歳(n=65)	13.8	30.8	1.5	12.3	50.8	15.4	20.0	12.3	18.5	40.0	4.6	3.1			
30～39歳(n=58)	41.4	39.7	3.4	8.6	58.6	5.2	17.2	6.9	13.8	34.5	10.3	3.4			
40～49歳(n=60)	31.7	36.7	0.0	6.7	48.3	13.3	16.7	20.0	13.3	48.3	5.0	6.7			
50～59歳(n=87)	32.2	34.5	2.3	13.8	42.5	11.5	12.6	17.2	29.9	41.4	3.4	2.3			
60～69歳(n=59)	28.8	35.6	8.5	13.6	54.2	15.3	11.9	11.9	27.1	22.0	3.4	5.1			
70歳以上(n=72)	40.3	27.8	4.2	5.6	54.2	4.2	11.1	16.7	12.5	26.4	2.8	19.4			

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している

7 「子ども・子育て」について

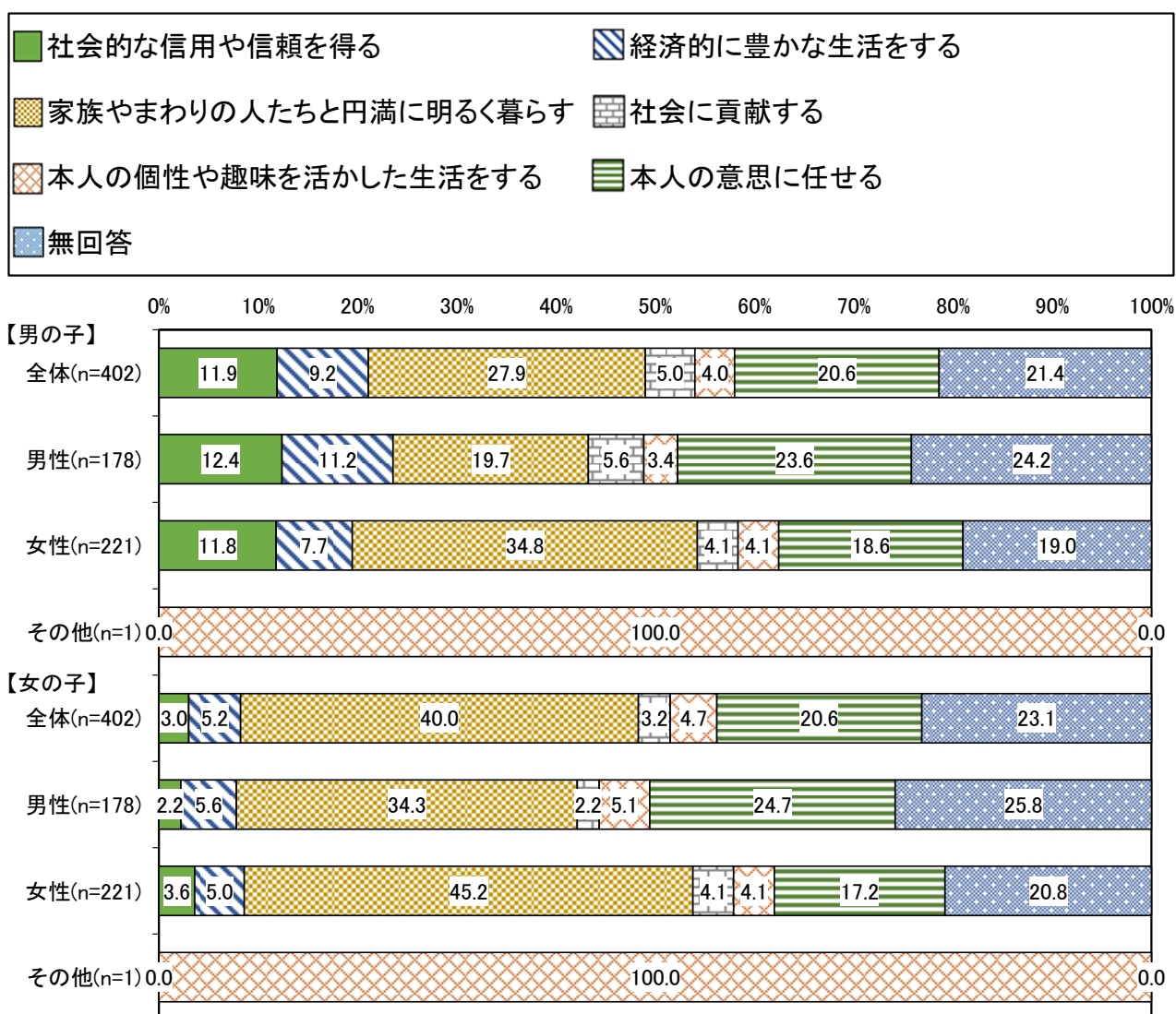
(1) 子どもの将来

【問20】あなたに男女両方の子どもがいるとしてお答えください。将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。男女別に1～6のいずれか1つ選んでください。(子どものいない方等は一般的な意見としてお答えください)

子どもに対し希望する将来の生き方は、「家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす」

男の子の将来に望む生き方については、「家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす」との回答が27.9%と最も高く、次いで「本人の意思に任せる」が20.6%となっています。

女の子の将来に望む生き方については、「家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす」との回答が40.0%と最も高く、次いで「本人の意思に任せる」が20.6%となっています。



年齢別クロス集計

年齢別では、男の子の場合は、18～29 歳、60 代で「本人の意思に任せる」、その他の年代では「家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす」との回答が最も高くなっています。次いで、18～29 歳では「家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす」、30 代と 70 歳以上では「本人の意思に任せる」、40 代では「経済的に豊かな生活をする」、50 代では「社会的な信用や信頼を得る」、60 代では「家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす」と回答する人の割合が高くなっています。

女の子の場合は、いずれの年代においても「家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす」「本人の意思に任せる」の上位 2 項目の回答が多くなっています。

		社会的な信用や信頼を得る	経済的に豊かな生活をする	家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす	社会に貢献する	本人の個性や趣味を活かした生活をする	本人の意思に任せる	無回答
男の子の場合	18～29歳(n=65)	6.2	7.7	26.2	3.1	6.2	29.2	21.5
	30～39歳(n=58)	6.9	10.3	37.9	1.7	1.7	22.4	19.0
	40～49歳(n=60)	15.0	16.7	28.3	5.0	5.0	15.0	15.0
	50～59歳(n=87)	14.9	6.9	31.0	8.0	4.6	13.8	20.7
	60～69歳(n=59)	15.3	3.4	20.3	6.8	5.1	27.1	22.0
	70歳以上(n=72)	12.5	11.1	23.6	4.2	1.4	19.4	27.8
女の子の場合	18～29歳(n=65)	1.5	4.6	36.9	1.5	7.7	26.2	21.5
	30～39歳(n=58)	3.4	6.9	41.4	1.7	1.7	22.4	22.4
	40～49歳(n=60)	3.3	8.3	50.0	3.3	1.7	16.7	16.7
	50～59歳(n=87)	3.4	4.6	42.5	8.0	5.7	14.9	20.7
	60～69歳(n=59)	3.4	1.7	33.9	3.4	5.1	30.5	22.0
	70歳以上(n=72)	2.8	5.6	36.1	0.0	5.6	16.7	33.3

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している

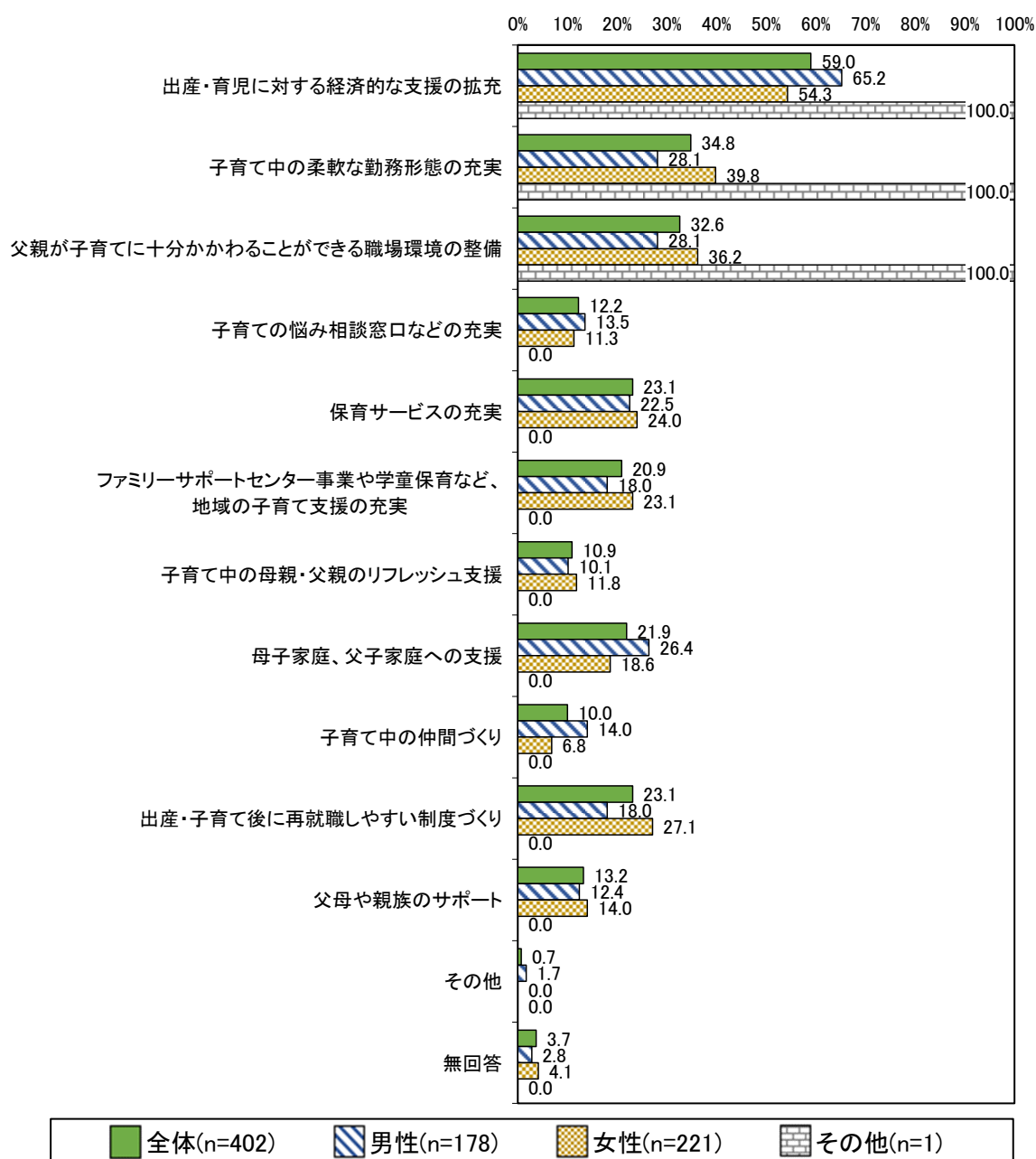
(2) 安心して子どもを生み育てるために必要なこと

【問21】安心して子どもを生み育てるために必要なことについて、あなたはどのように思いますか。(〇は3つまで)

安心して子どもを生み育てるためには、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が必要

安心して子どもを生み育てるために必要なことについては、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」との回答 59.0%と最も高く、次いで「子育て中の柔軟な勤務形態の充実」が 34.8%、「父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備」が 32.6%となっています。

性別でみると、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」と回答する割合が男女ともに最も高く、次いで「子育て中の柔軟な勤務形態の充実」が高くなっています。また、男性では「母子家庭、父子家庭への支援」との回答が、女性では「子育て中の柔軟な勤務形態の充実」「父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備」「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」が高くなっているなど、男女間で差がみられます。



その他の回答
充実した医療体制。
1（出産・育児に対する経済的な支援の拡充）をより分かりやすく。
子どもはこう育てないといけないという子育てに関するハードルが上がってしまっている。完璧な親なんて今までもいなかったと広く認知させるべき。また教育的にも良くないが子どもを危険から遠ざけすぎてしまっているため外で勝手に遊べないという風潮が親の負担を増やしている。

年齢別クロス集計

年齢別では、いずれの年代においても「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」との回答が最も高くなっています。次いで、60代では「父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備」、70歳以上では、「母子家庭、父子家庭への支援」と回答する割合が高く、その他の年代では「子育て中の柔軟な勤務形態の充実」と回答する割合が高くなっています。

	出産・育児に対する経済的な支援の拡充	子育て中の柔軟な勤務形態の充実	整備 父親が子育てに十分かわることができる職場環境の充実	子育ての悩み相談窓口などの充実	保育サービスの充実	ファミリーサポートセンター、地域の子育て支援の充実	子育て中の母親・父親のリフレッシュ支援	母子家庭、父子家庭への支援	子育て中の仲間づくり	出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり	父母や親族のサポート	その他	無回答
18～29歳(n=65)	73.8	41.5	44.6	4.6	30.8	13.8	16.9	13.8	4.6	13.8	10.8	1.5	1.5
30～39歳(n=58)	74.1	44.8	34.5	8.6	25.9	13.8	13.8	10.3	10.3	24.1	12.1	1.7	0.0
40～49歳(n=60)	50.0	36.7	35.0	15.0	21.7	28.3	13.3	26.7	10.0	16.7	18.3	0.0	1.7
50～59歳(n=87)	55.2	36.8	26.4	11.5	23.0	24.1	11.5	25.3	13.8	29.9	14.9	0.0	1.1
60～69歳(n=59)	52.5	32.2	33.9	23.7	20.3	30.5	5.1	25.4	10.2	25.4	8.5	1.7	1.7
70歳以上(n=72)	51.4	19.4	25.0	11.1	18.1	15.3	5.6	27.8	9.7	26.4	13.9	0.0	13.9

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している

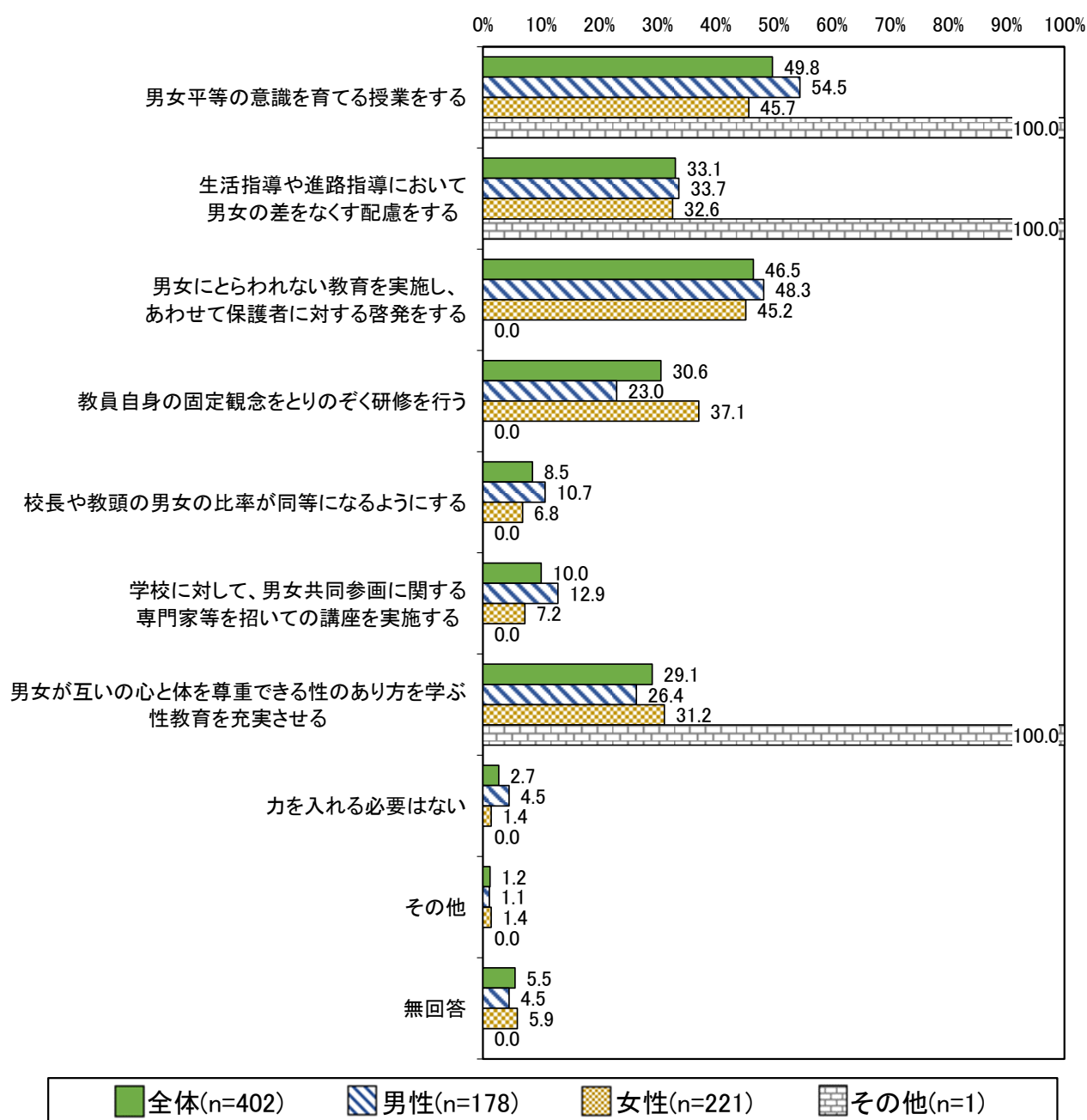
(3) 学校教育

【問22】男女平等意識を育てるために、学校教育の場でどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

男女平等意識を育てるために学校教育では、「男女平等の意識を育てる授業」に力を入れることが必要

男女平等意識を育てるために、学校教育の場で力を入れることについては、「男女平等の意識を育てる授業をする」との回答が49.8%と最も高く、次いで「男女にとらわれない教育を実施し、あわせて保護者に対する啓発をする」が46.5%、「生活指導や進路指導において男女の差をなくす配慮をする」が33.1%となっています。

性別でみると、「男女平等の意識を育てる授業をする」と回答する割合が男女ともに最も高く、次いで「男女にとらわれない教育を実施し、あわせて保護者に対する啓発をする」が高くなっています。また、女性では「教員自身の固定観念をとりのぞく研修を行う」が男性に比べて10ポイント以上高くなっています。



その他の回答
すでにこの様な意識自体が男女平等意識を阻害していないか？
現在の社会（就職後）の現状をふまえたうえで、教育してほしい。学校では平等だが、社会に出ると理不尽なことがある。
そもそもLGBTの問題などもあるので、性別という概念を必要以上に教えないことが大切だと思う。男女が平等なのではなく、人はみな平等であるという教育。
意識を育てる教育をすることが改めて平等ではないと意識させるのでは？
男女の別だけでなく、自身の”性”について悩んでいる子も含め、”人間”として平等である、個性も各々である、と全ての人が全ての違いをみとめ尊重できるような考え方、心をもつようとりくむべき。

年齢別クロス集計

年齢別では、18～29歳、30代では「男女にとらわれない教育を実施し、あわせて保護者に対する啓発をする」、40代では「生活指導や進路指導において男女の差をなくす配慮をする」「男女にとらわれない教育を実施し、あわせて保護者に対する啓発をする」、50代以上では「男女平等の意識を育てる授業をする」回答する割合がそれぞれ最も高くなっています。次いで、18～29歳では「男女が互いの心と体を尊重できる性のあり方を学ぶ性教育を充実させる」、30代、40代では「男女平等の意識を育てる授業をする」、50代以上では「男女にとらわれない教育を実施し、あわせて保護者に対する啓発をする」と回答する割合がそれぞれ高くなっています。

	男女平等の意識を育てる授業をする	生活指導や進路指導において男女の差をなくす配慮をする	男女にとらわれない教育啓発を実施し、あ	教員自身の固定観念をとりのぞく研修を行う	校長や教頭の男女の比率が同等になるようにする	学校に等しい男女の講座を共同実施に関する	男女が互いの心と体を尊重できる性のあり方を学ぶ性教育を充実させる性の	力を入れる必要はない	その他	無回答
18～29歳(n=65)	38.5	33.8	41.5	35.4	10.8	6.2	40.0	4.6	0.0	1.5
30～39歳(n=58)	44.8	39.7	48.3	36.2	10.3	8.6	32.8	1.7	3.4	3.4
40～49歳(n=60)	36.7	40.0	40.0	33.3	13.3	6.7	30.0	1.7	3.3	5.0
50～59歳(n=87)	56.3	28.7	51.7	26.4	6.9	9.2	26.4	5.7	0.0	2.3
60～69歳(n=59)	59.3	25.4	52.5	37.3	5.1	13.6	28.8	0.0	1.7	3.4
70歳以上(n=72)	59.7	33.3	44.4	19.4	5.6	15.3	19.4	1.4	0.0	15.3

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している

8 男女平等の施策について

(1) 認知度

【問23】次にあげる言葉のうち、あなたが知っているもの・言葉を聞いたことがあるものはどれですか。次の①～⑫についてお答えください。

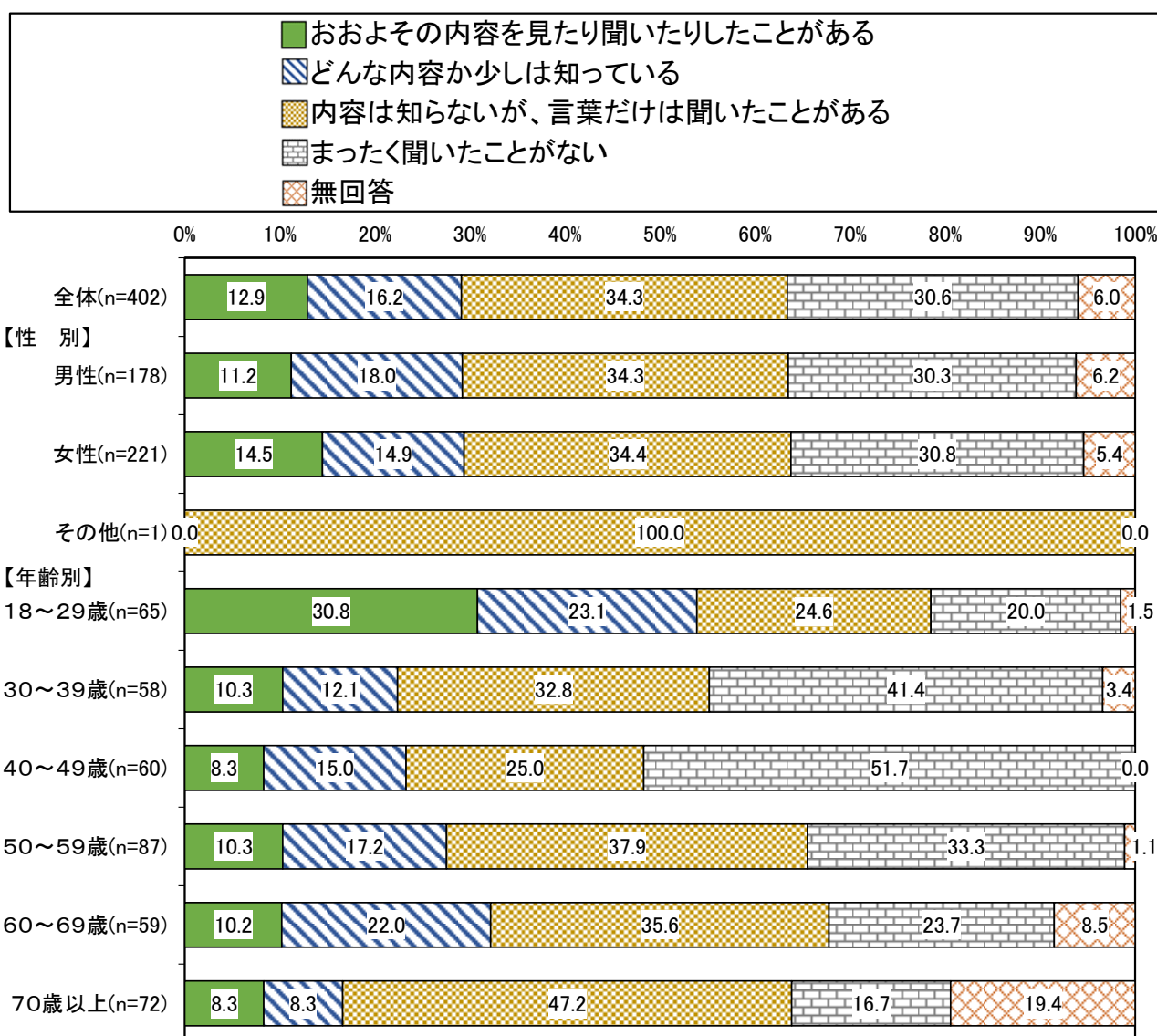
① 男女共同参画社会基本法

『知っている・見聞きしたことはある』63.4%＞『まったく聞いたことがない』30.6%

男女共同参画社会基本法の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が12.9%、「どんな内容か少しは知っている」が16.2%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が34.3%となっており、これらをあわせた認知度は約6割となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は30.6%となっています。

性別でみると、男性の認知度は63.5%、女性の認知度は63.8%と男女間で認知度に大きな差は見られません。

年齢別では、18～29歳で認知度は高く7割を超えています。



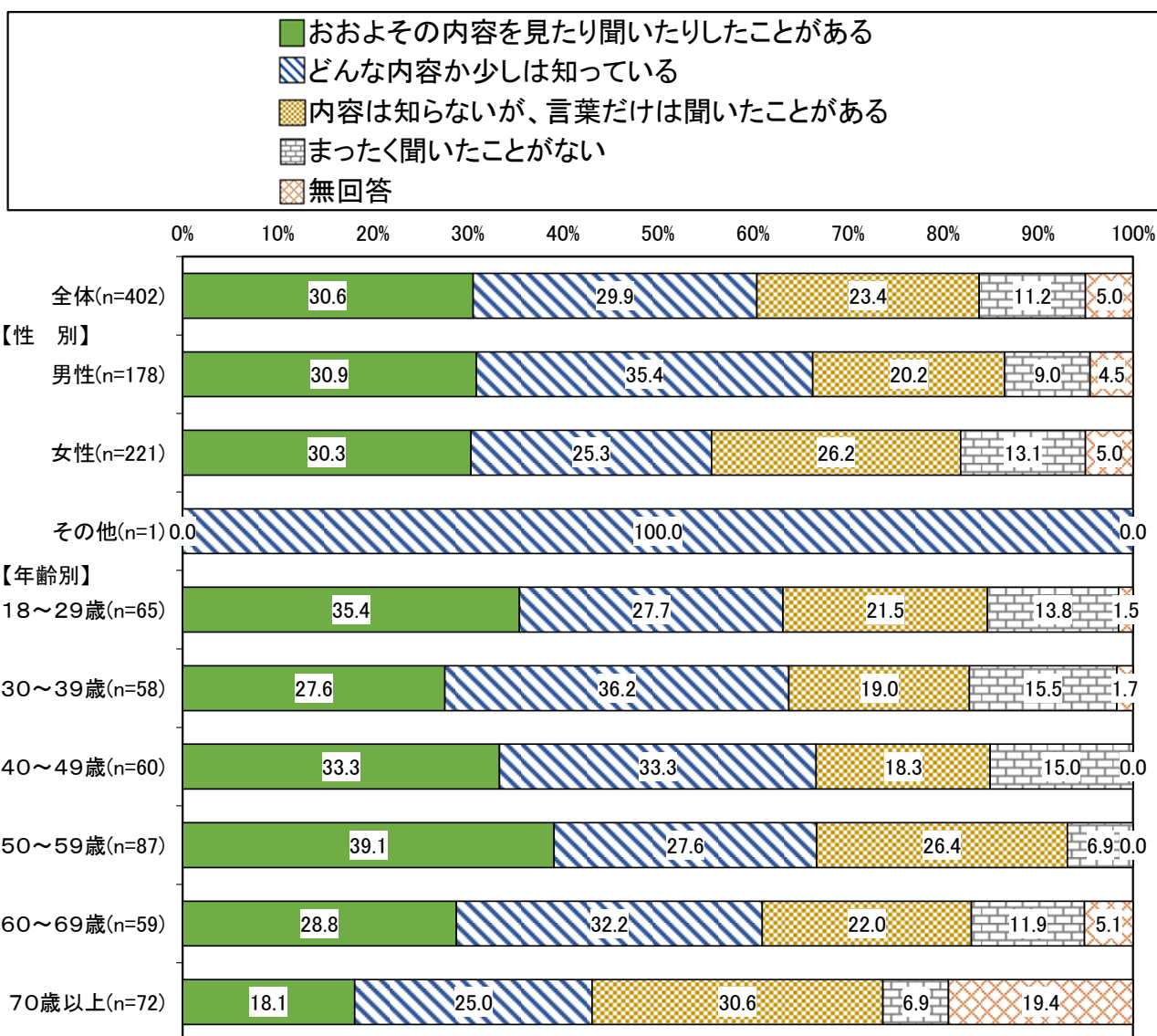
② 男女雇用機会均等法

『知っている・見聞きしたことはある』83.9%＞『まったく聞いたことがない』11.2%

男女雇用機会均等法の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が30.6%、「どんな内容か少しは知っている」が29.9%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が23.4%となっており、これらをあわせた認知度は約8割となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は11.2%となっています。

性別でみると、男性の認知度は86.5%、女性の認知度は81.8%と男性が4.7ポイント上回っています。

年齢別では、各年代とも認知度は高く、70歳以上を除いては8割を超えており、特に50代では9割以上が認知しています。



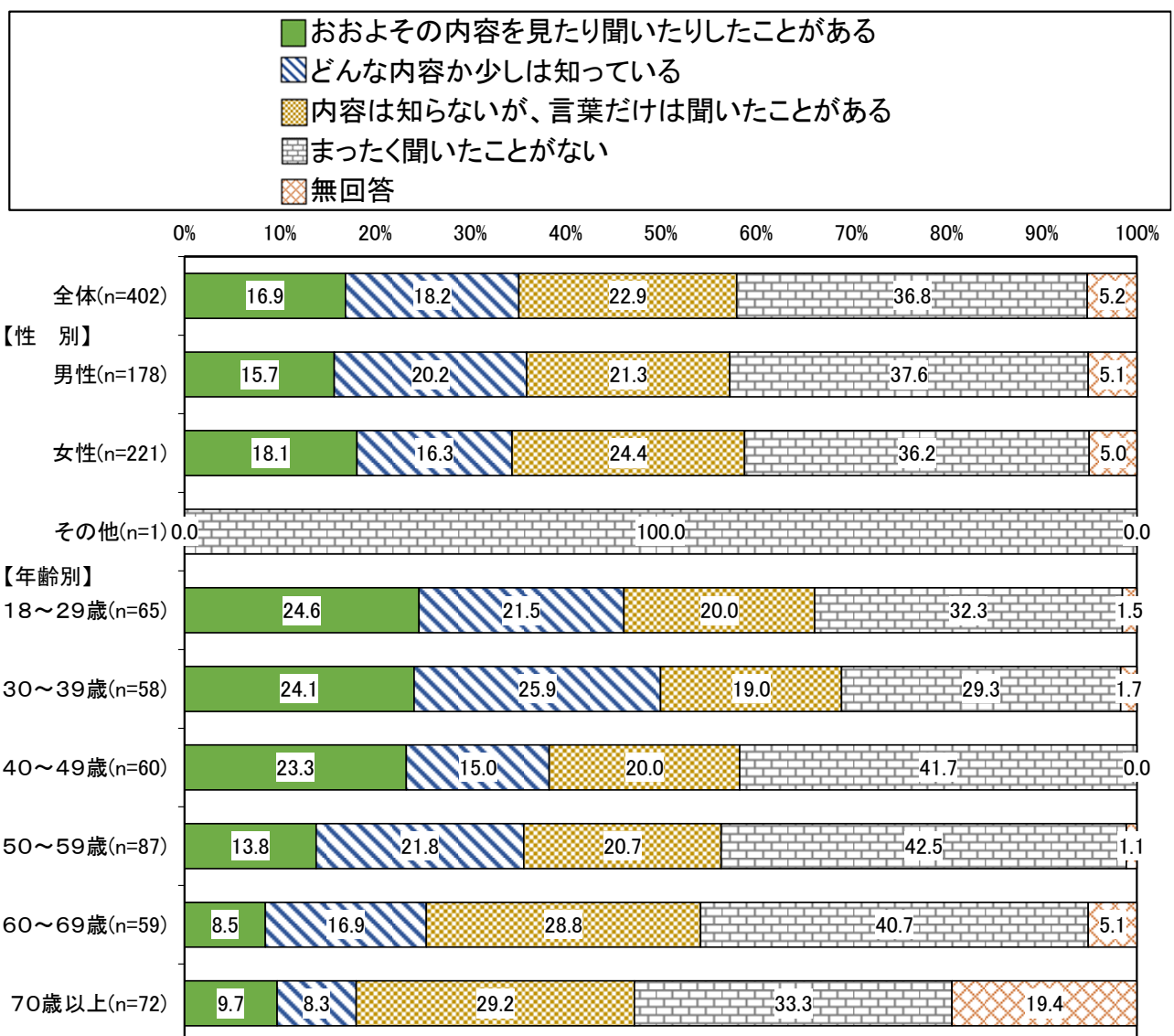
③ ワーク・ライフ・バランス

『知っている・見聞きしたことはある』 58.0% > 『まったく聞いたことがない』 36.8%

ワーク・ライフ・バランスの認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が 16.9%、「どんな内容か少しは知っている」が 18.2%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が 22.9%となっており、これらをあわせた認知度は約 6 割となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は 36.8%となっています。

性別でみると、男性の認知度は 57.2%、女性の認知度は 58.8%と男女ともに約 6 割が認知しています。

年齢別では、18～29 歳、30 代の比較的若い世代で認知度は高く 6 割を超えています。



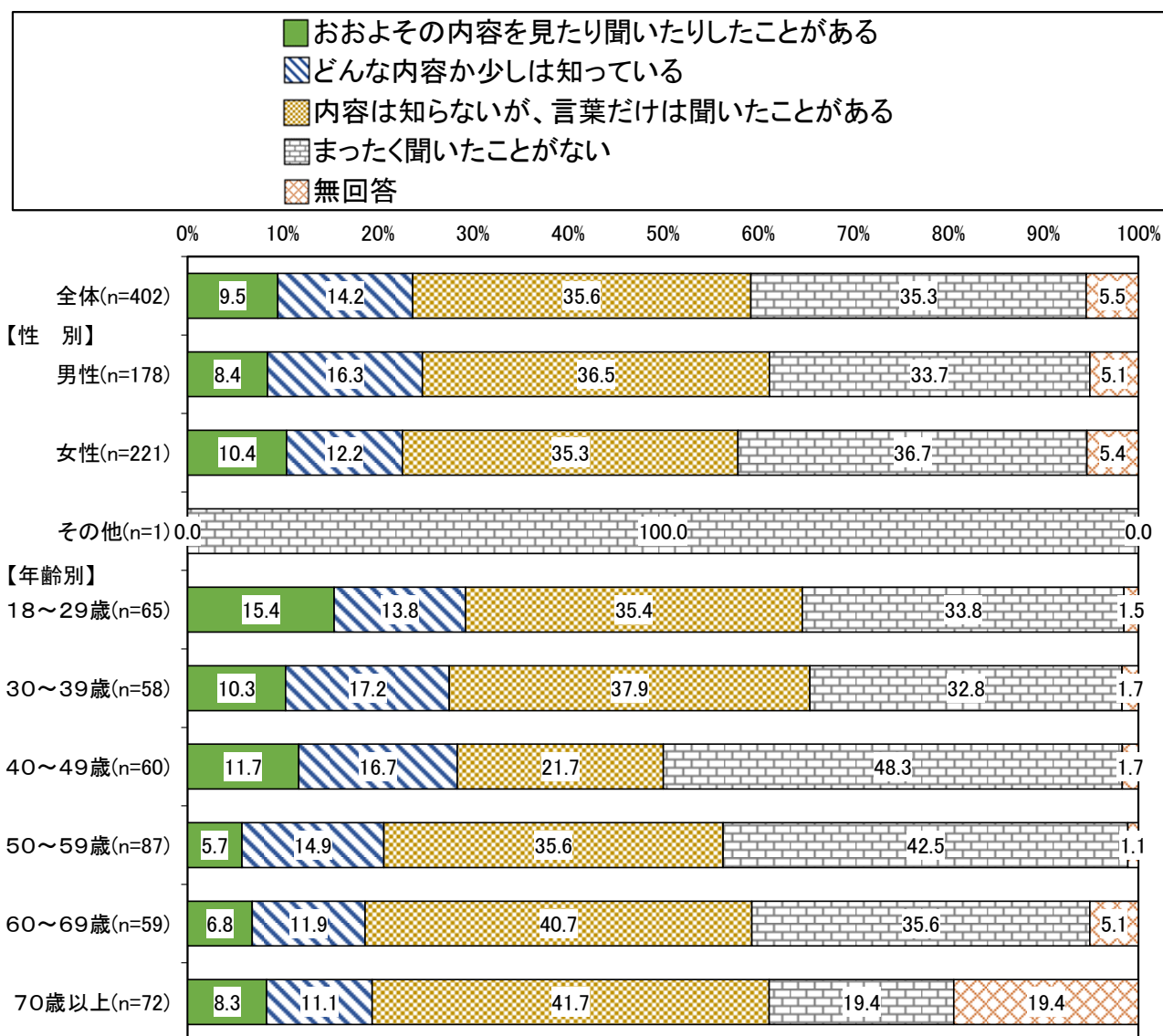
④ 女性活躍推進法

『知っている・見聞きしたことはある』59.3%＞『まったく聞いたことがない』35.3%

女性活躍推進法の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が9.5%、「どんな内容か少しは知っている」が14.2%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が35.6%となっており、これらをあわせた認知度は約6割となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は35.3%となっています。

性別でみると、男性の認知度は61.2%、女性の認知度は57.9%と男性が3.3ポイント上回っています。

年齢別では、各年代とも認知度は高く、特に18～29歳、30代、70歳以上で認知度は6割を超えています。



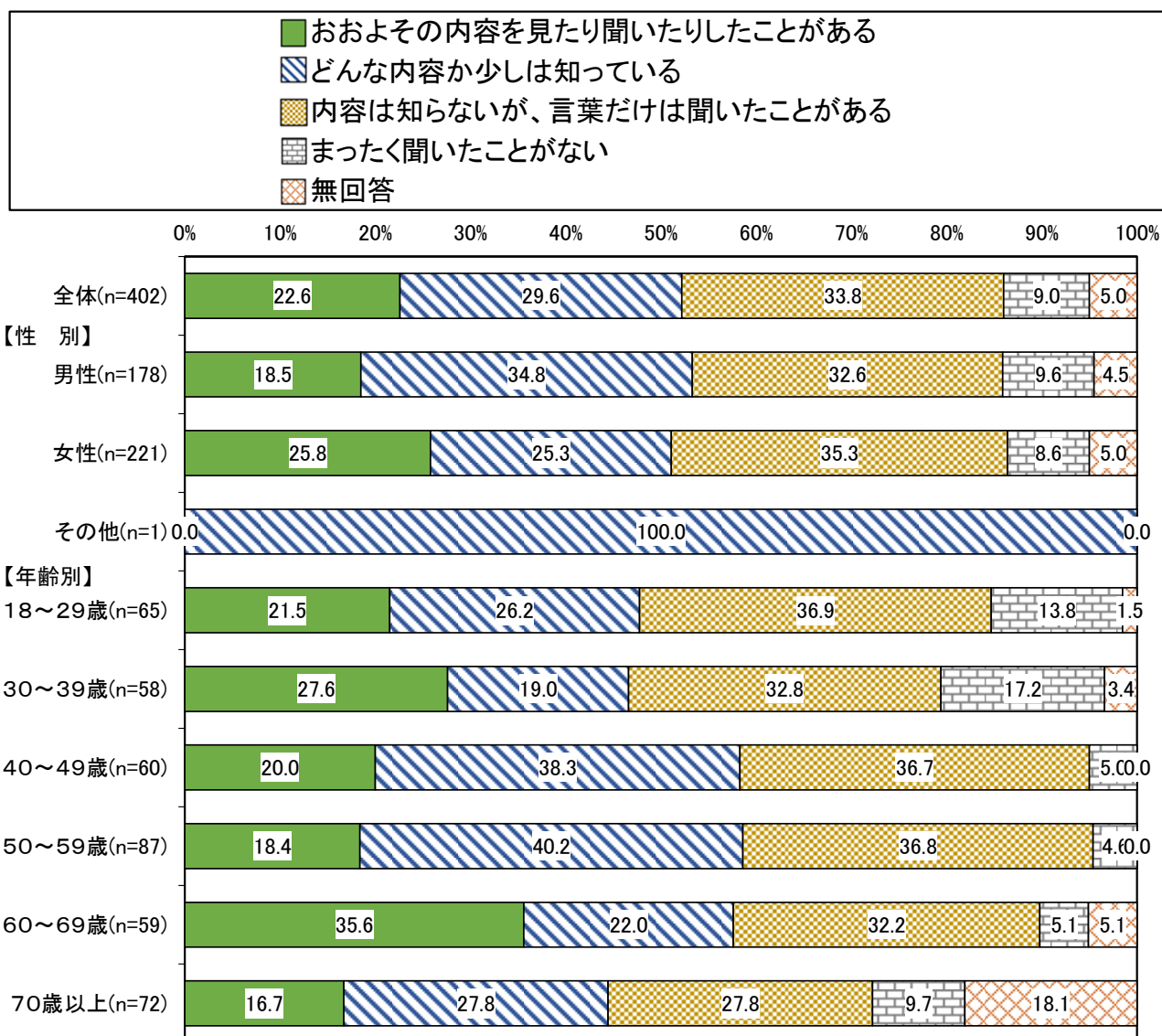
⑤ DV防止法

『知っている・見聞きしたことはある』86.0%＞『まったく聞いたことがない』9.0%

DV防止法の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が22.6%、「どんな内容か少しは知っている」が29.6%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が33.8%となっており、これらを合わせた認知度は約8割となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は9.0%となっています。

性別でみると、男性の認知度は85.9%、女性の認知度は86.4%と男女間で認知度に大きな差は見られません。

年齢別では、各年代とも認知度は高く、特に40～60代では9割前後を占めています。



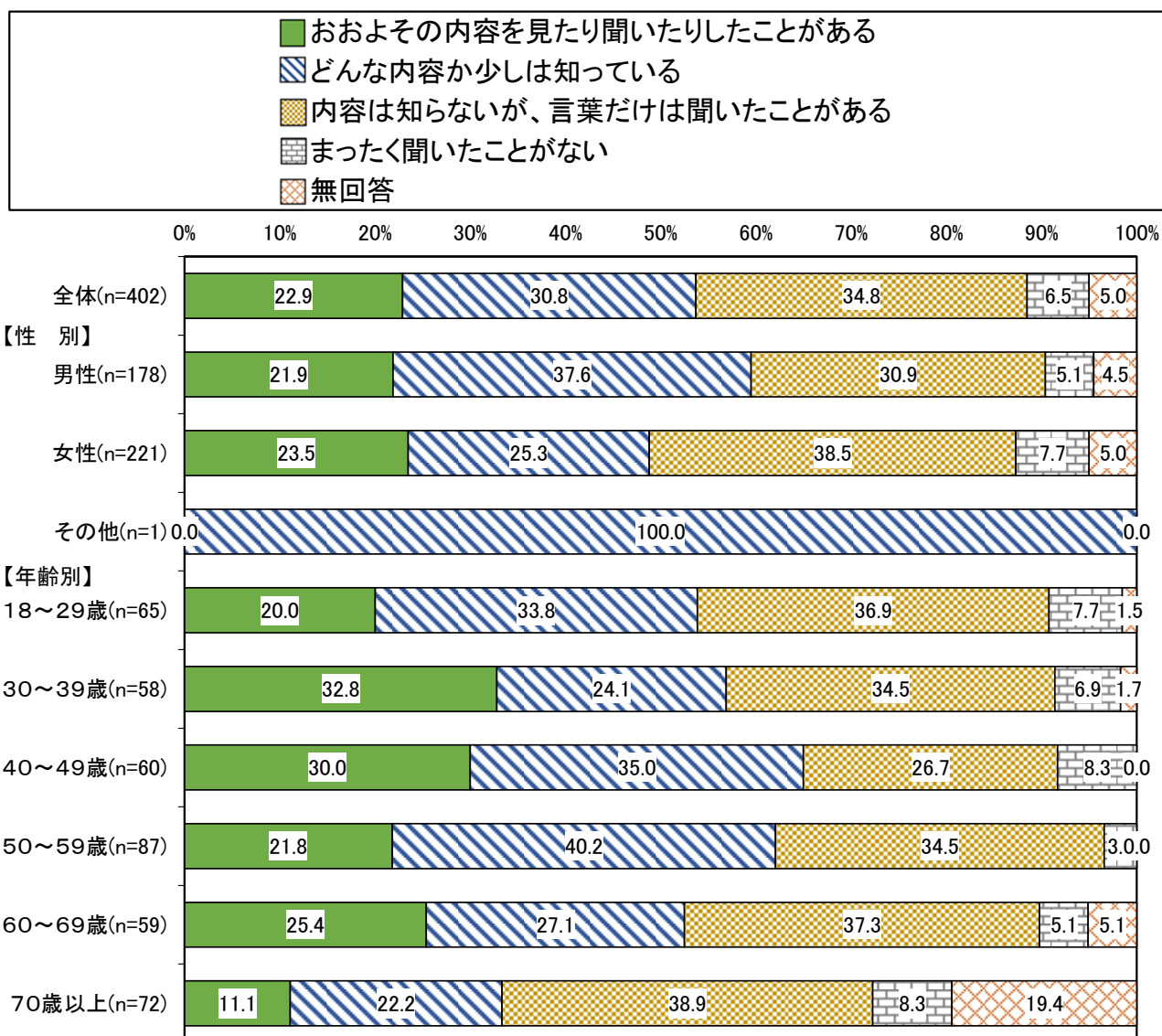
⑥ 働き方改革関連法

『知っている・見聞きしたことはある』88.5%＞『まったく聞いたことがない』6.5%

働き方改革関連法の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が22.9%、「どんな内容か少しは知っている」が30.8%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が34.8%となっており、これらを合わせた認知度は約9割となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は6.5%となっています。

性別でみると、男性の認知度は90.4%、女性の認知度は87.3%と男性が3.1ポイント上回っています。

年齢別では、各年代とも認知度は高く、特に18歳～50代では9割以上を占めています。



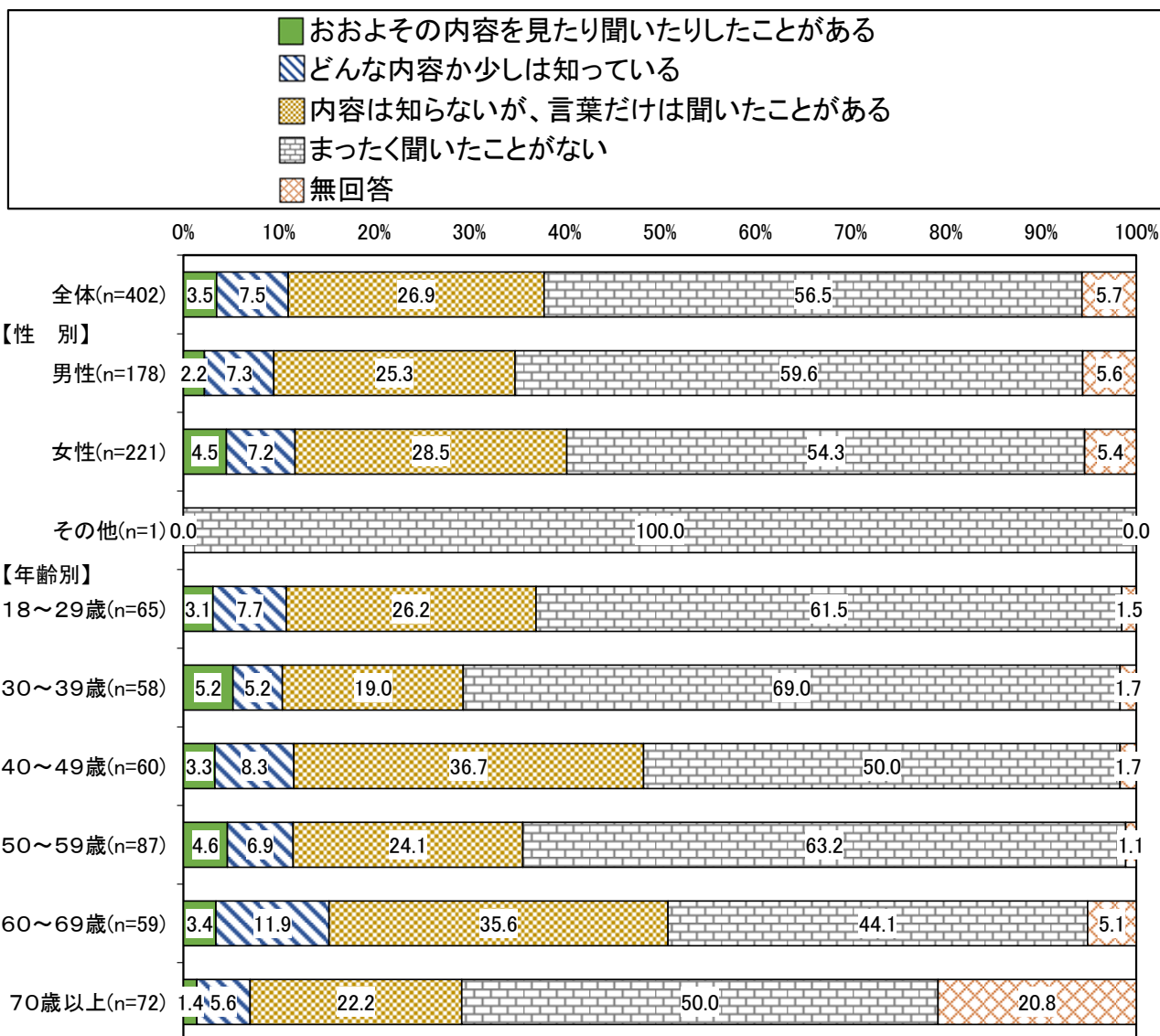
⑦ 次世代育成支援対策推進法

『まったく聞いたことがない』56.5%＞『知っている・見聞きしたことはある』37.9%

次世代育成支援対策推進法の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が3.5%、「どんな内容か少しは知っている」が7.5%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が26.9%となっており、これらを合わせた認知度は約4割となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は56.5%となっています。

性別でみると、男性の認知度は34.8%、女性の認知度は40.2%と女性が5.4ポイント上回っています。

年齢別では、40代、60代で認知度は高く5割前後を占めています。一方、18～29歳、30代では「まったく聞いたことがない」との回答が6～7割を占めています。



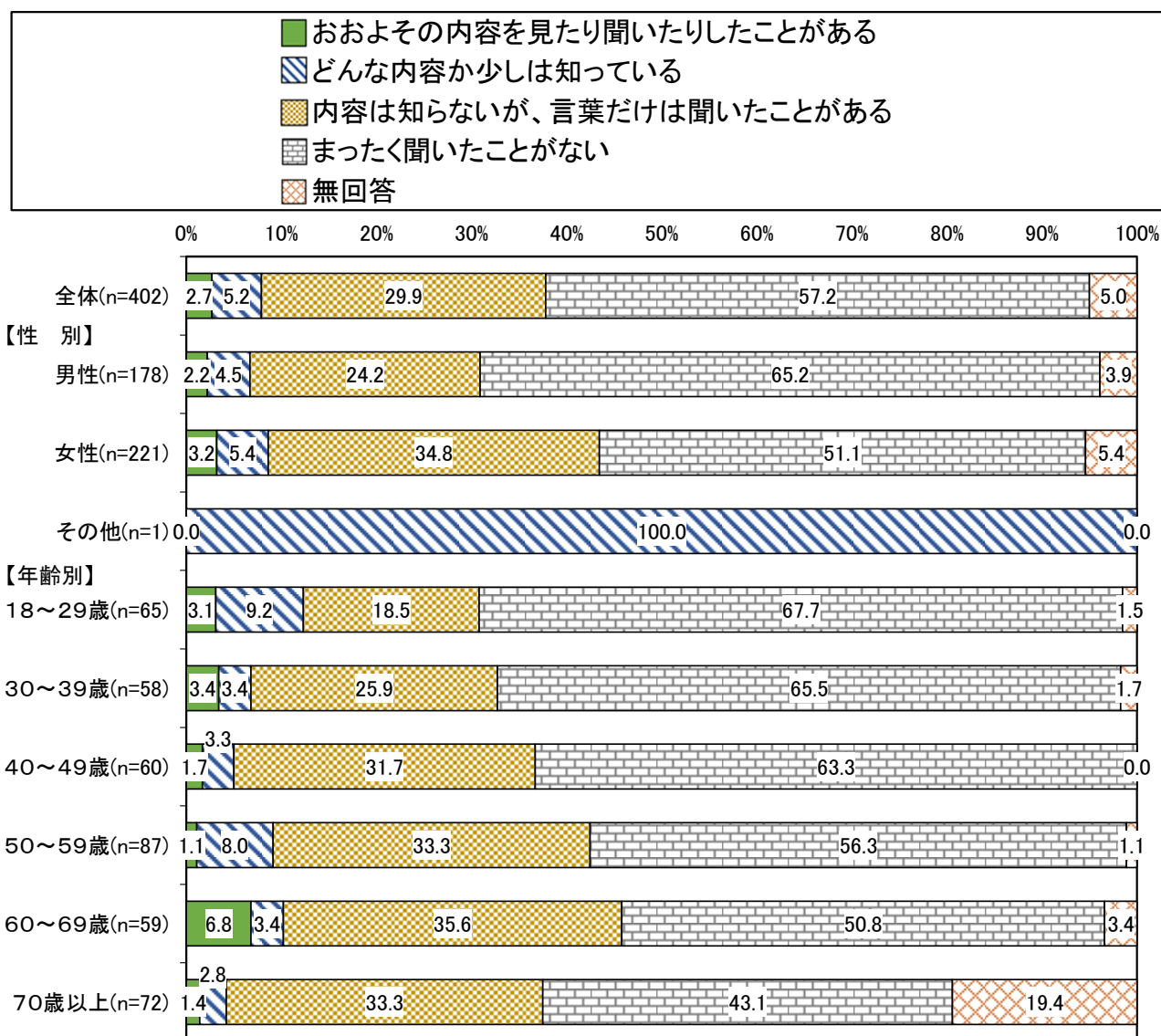
⑧ 多治見市男女共同参画推進条例

『まったく聞いたことがない』 57.2% > 『知っている・見聞きしたことはある』 37.8%

多治見市男女共同参画推進条例の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が 2.7%、「どんな内容か少しは知っている」が 5.2%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が 29.9%となっており、これらを合わせた認知度は約 4 割となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は 57.2%となっています。

性別でみると、男性の認知度は 30.9%、女性の認知度は 43.4%と女性が 12.5 ポイント上回っています。

年齢別では、50 代、60 代で認知度は高く 4 割を超えています。一方、18～29 歳、30 代、40 代では「まったく聞いたことがない」との回答が 6 割を超えています。



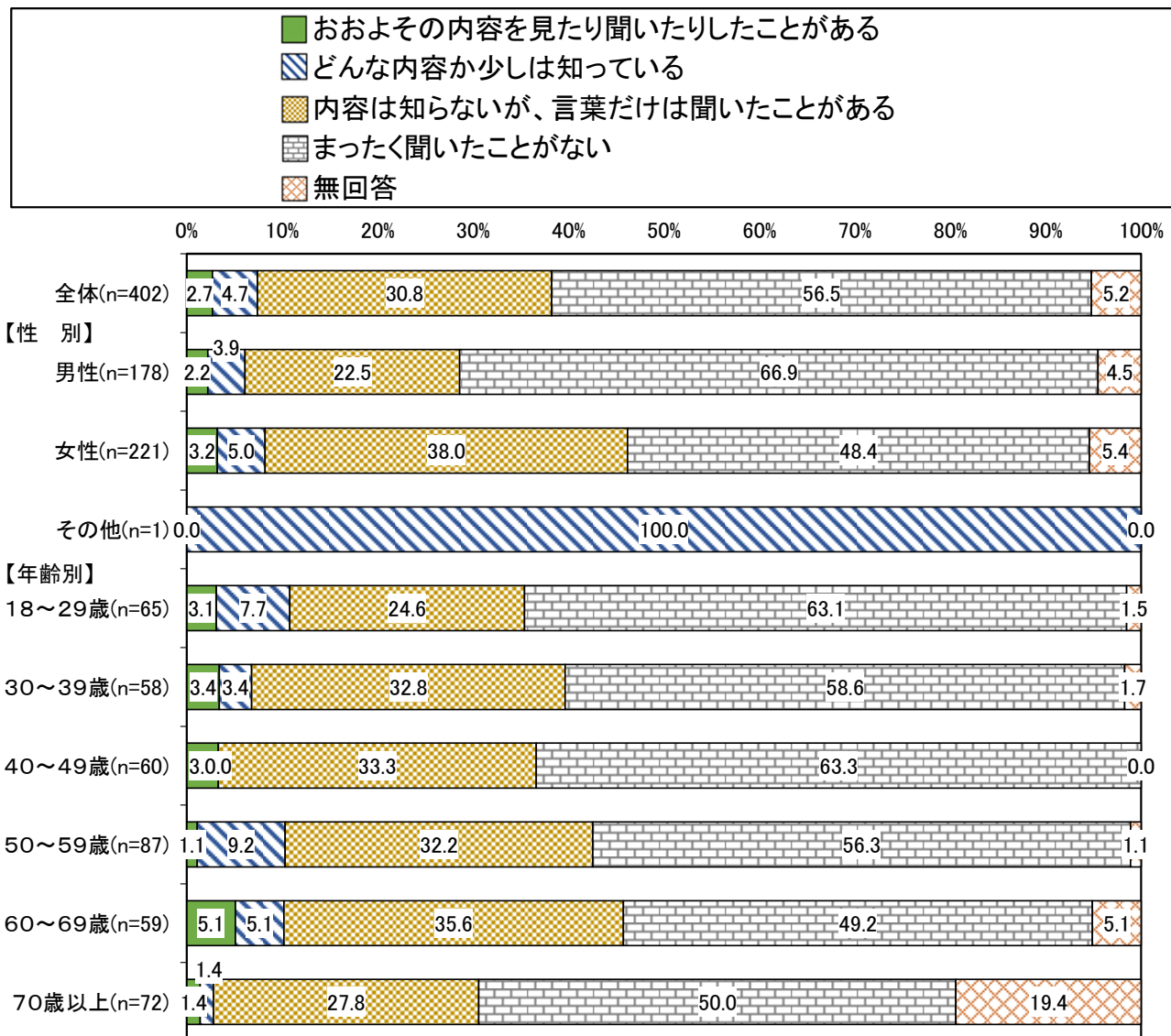
⑨ たじみ男女共同参画プラン

『まったく聞いたことがない』56.5%＞『知っている・見聞きしたことはある』38.2%

たじみ男女共同参画プランの認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が2.7%、「どんな内容か少しは知っている」が4.7%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が30.8%となっており、これらを合わせた認知度は約4割となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は56.5%となっています。

性別でみると、男性の認知度は28.6%、女性の認知度46.2%と女性が17.6ポイント上回っています。

年齢別では、50代、60代で認知度は高く4割を超えています。それに対し、18～29歳、30代、40代では「まったく聞いたことがない」との回答が6割前後を占めています。



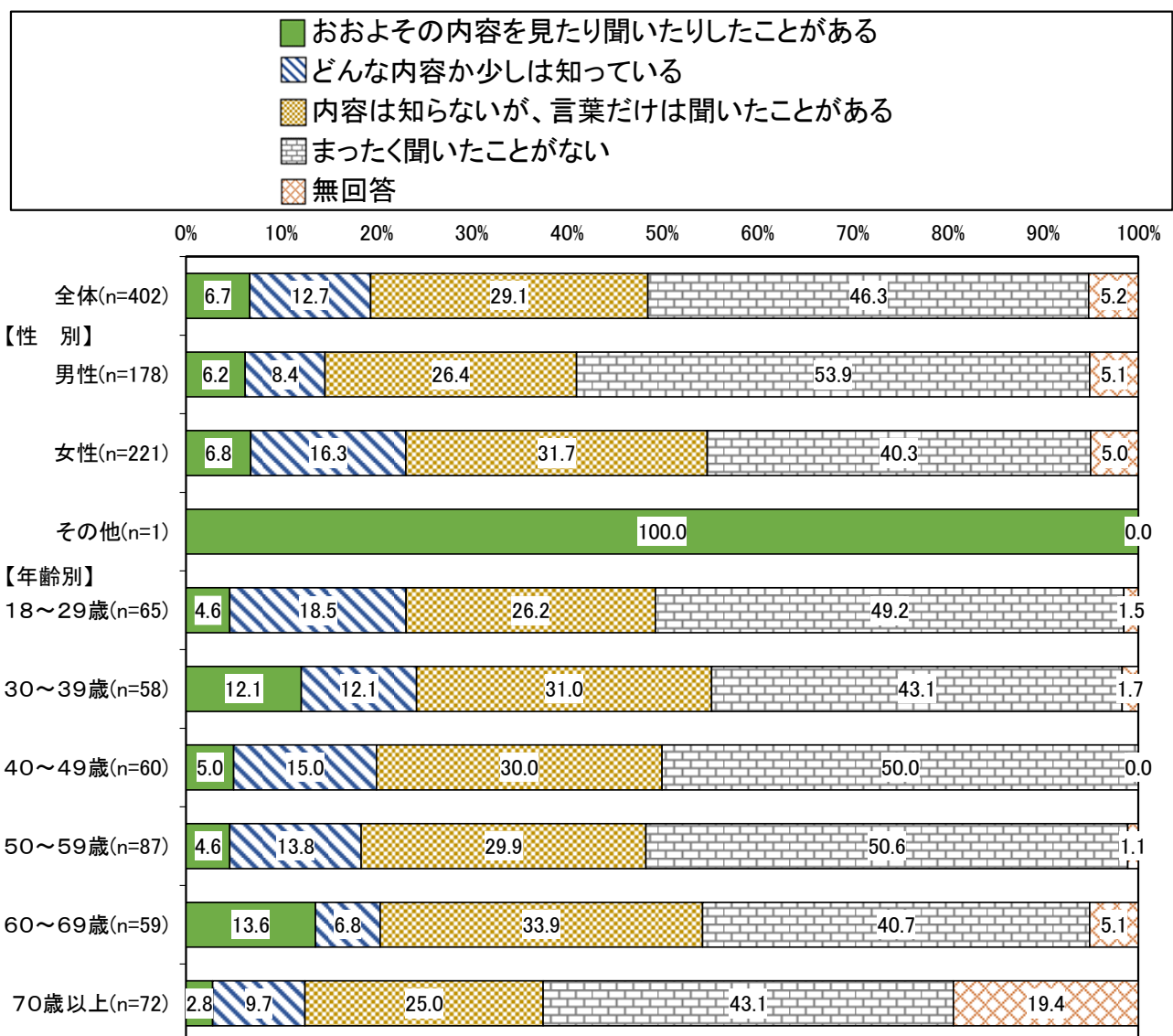
⑩ 同性パートナー証明

『知っている・見聞きしたことはある』48.5%＞『まったく聞いたことがない』46.3%

同性パートナー証明の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が6.7%、「どんな内容か少しは知っている」が12.7%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が29.1%となっており、これらを合わせた認知度は約5割となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は46.3%となっています。

性別でみると、男性の認知度は41.0%、女性の認知度54.8%と女性が13.8ポイント上回っています。

年齢別では、18歳～60代で認知度は高く5割前後を占めています。



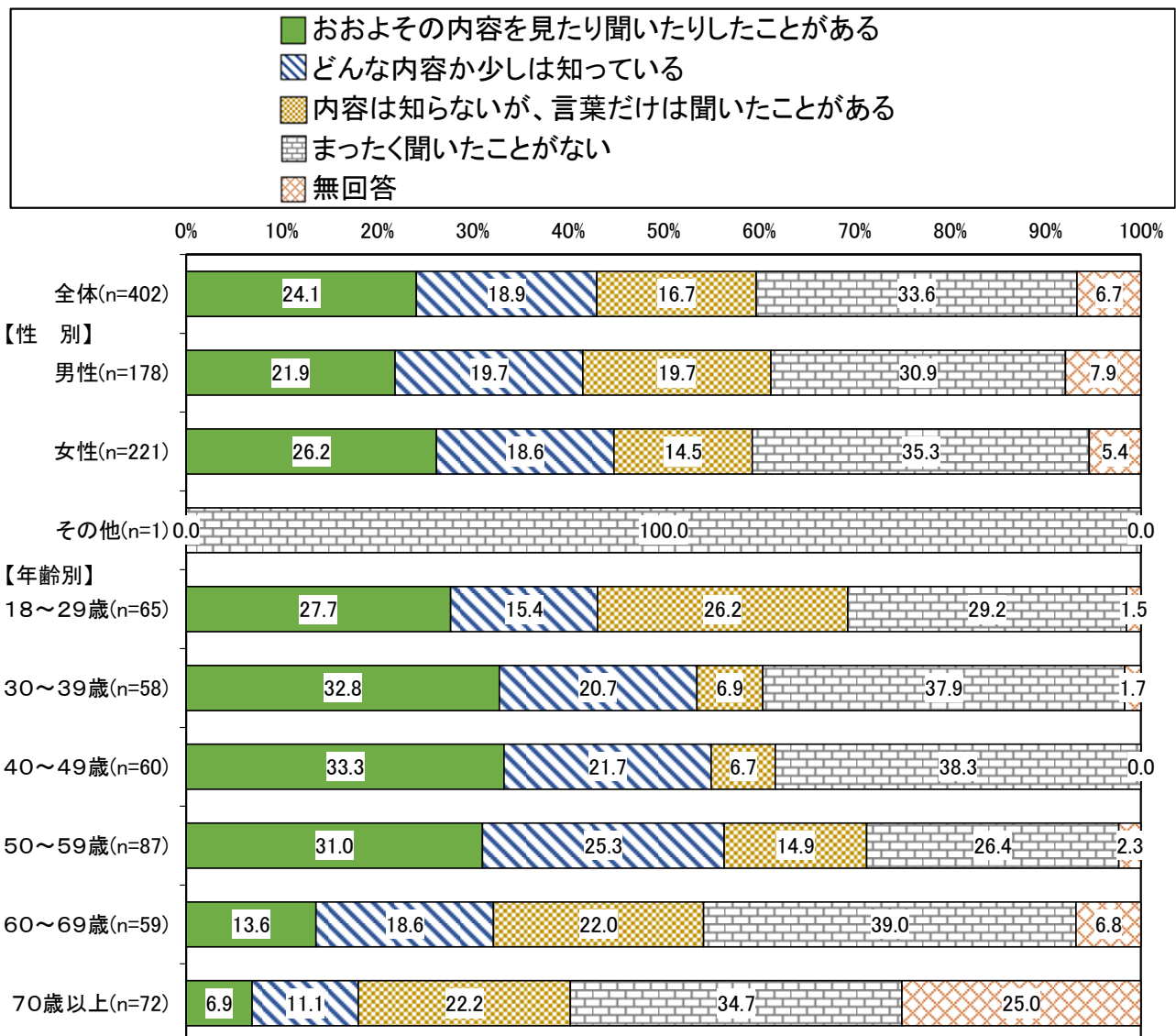
⑪ S D G s（持続可能な開発目標）

『知っている・見聞きしたことはある』59.7%＞『まったく聞いたことがない』33.6%

S D G s（持続可能な開発目標）の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が24.1%、「どんな内容か少しは知っている」が18.9%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が16.7%となっており、これらを合わせた認知度は約6割となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は33.6%となっています。

性別でみると、男性の認知度は61.3%、女性の認知度59.3%と男性が2.0ポイント上回っています。

年齢別では、18歳～50代で認知度は高く、特に50代の認知度は7割を超えています。



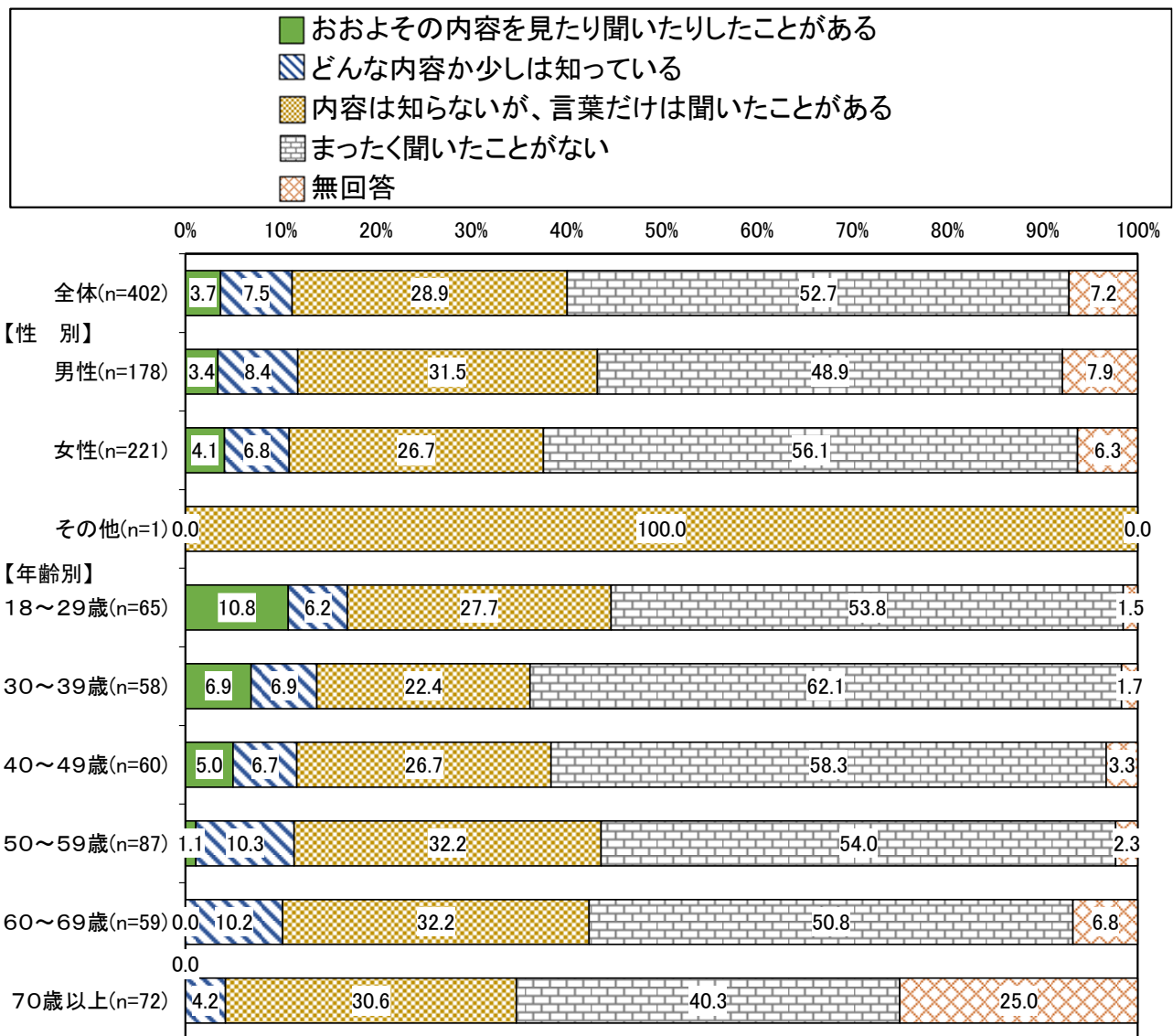
⑫ 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

『まったく聞いたことがない』52.7%＞『知っている・見聞きしたことはある』40.1%

政治分野における男女共同参画の推進に関する法律の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が3.7%、「どんな内容か少しは知っている」が7.5%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が28.9%となっており、これらを合わせた認知度は約4割となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は52.7%となっています。

性別でみると、男性の認知度は43.3%、女性の認知度37.6%と男性が5.7ポイント上回っています。

年齢別では、各年代とも認知度は低く、特に30代、40代では約6割を占めています。



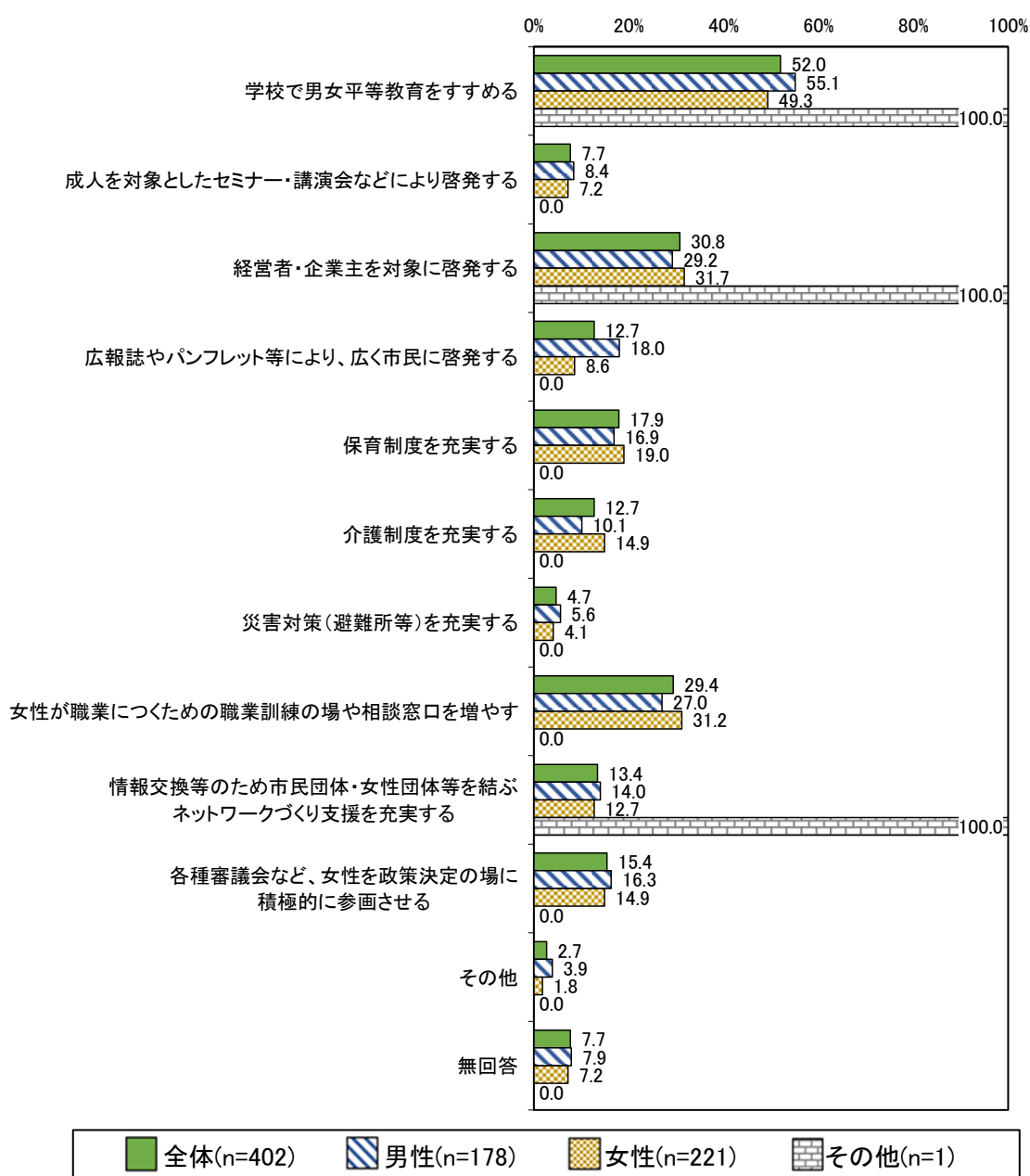
(2) 市の施策で望むこと

【問24】あなたは、男女平等実現のための市の施策として、今後どのようなことを望みますか。
(〇は3つまで)

男女平等実現のため市の施策に望むことは、「学校で男女平等教育をすすめる」

男女平等実現のための市の施策として、市に望むことについては、「学校で男女平等教育をすすめる」との回答が52.0%と最も高く、次いで「経営者・企業主を対象に啓発する」が30.8%、「女性が職業につくための職業訓練の場や相談窓口を増やす」が29.4%となっています。

性別でみると、「学校で男女平等教育をすすめる」が男女ともに最も高く、次いで「経営者・企業主を対象に啓発する」が高くなっています。また、女性では男性に比べ「女性が職業につくための職業訓練の場や相談窓口を増やす」の占める割合が高くなっています。一方、男性では女性に比べて「広報誌やパンフレット等により、広く市民に啓発する」の占める割合が高くなっています。



保育制度を充実する〈具体的に〉
実例記して下さい。
経済的な充実。
業務の見直し、人材を増やす。仕事量に対する人手不足があるために、男女共に育児休を取りにくい空気がある。特に男性は出産をしないため、育休がとりにくい→男が仕事、女が家庭という現状ができあがっている。
いつでも受け入れてもらうことが出来、保育料があまりかからないとよい。
子育ては社会全体で行う、施設の充実、補助の充実。
保育園がいっぱいで入れない現状をどうにかしてほしい。
仕事を辞めなくても良いように施設を増やす。
女性ひとり親でも生活できるように。
病気の時の預かり。
母が働ける状況作り。
経済的補助。
同じ保育園に子どもが中々入れない。待機が長い。
無料化する。
待機者をなくす。
保育園をふやす、条件の緩和。
祖父母のいない里帰りの出来ない母親のフォロー。

介護制度を充実する〈具体的に〉
介護する側が働いても、介護しやすい環境。
だれもが入れる施設。経費を下げる。
介護は社会全体で行う、施設の充実、補助の充実。
お金がないと介護施設に入れない現状。
仕事を辞めなくても良いように施設を増やす。
男女平等に介護にあてる、時間の取り安さを求めます。
女性ひとりでも生活できる。
介護をしている人に優しい社会。
男性を対象とした介護の学習会、着替え入浴のさせ方など。
収入に応じた費用（入所可能な施設の充実）負担でサービスの利用。

災害対策（避難所等）を充実する〈具体的に〉
広報の放送がききとりにくい、アナウンスがきこえない。
充実させると共に分かり易く表記する等。
密にならない様な避難場所の設定及びプライバシー確保。
備蓄品の選定・管理に女性の意見を反映する。
町内での確認が必要。

その他の回答
目的を見失わず、手段が目的化しない施策の考察。
「男女平等」を掲げる文化を生み出すこと。
男女平等になった時、どんな未来になるのかも同時に伝える必要性の理解を伝える。
市役所のあり方は今どうですか？男女平等ですか？
保育又は学童から習い事への送迎。
わからない。

年齢別クロス集計

年齢別では、全ての年代において「学校で男女平等教育をすすめる」と回答する割合が最も高くなっています。また、18歳～49歳では「女性が職業につくための職業訓練の場や相談窓口を増やす」が、50歳以上は「経営者・企業主を対象に啓発する」が、それぞれ2番目に高くなっています。

無回答	その他	各種審議会など、女性を政策決定の場に積極的に参画させる	情報交換等のため市民団体・女性団体等を結ぶネットワークづくり支援を充実する	女性が職業につくための職業訓練の場や相談窓口を増やす	災害対策（避難所等）を充実する	介護制度を充実する	保育制度を充実する	広報誌やパンフレット等により、広く市民に啓発する	経営者・企業主を対象に啓発する	成人を対象としたセミナー・講演会などにより啓発する	学校で男女平等教育をすすめる	
6.2	1.5	7.7	13.8	33.8	6.2	10.8	20.0	6.2	20.0	12.3	53.8	18～29歳(n=65)
8.6	1.7	15.5	12.1	34.5	1.7	5.2	24.1	5.2	31.0	12.1	55.2	30～39歳(n=58)
3.3	3.3	20.0	13.3	31.7	8.3	31.7	26.7	18.3	20.0	3.3	40.0	40～49歳(n=60)
2.3	2.3	17.2	11.5	28.7	2.3	11.5	16.1	14.9	40.2	2.3	55.2	50～59歳(n=87)
8.5	5.1	15.3	16.9	27.1	3.4	5.1	10.2	15.3	39.0	13.6	52.5	60～69歳(n=59)
16.7	2.8	16.7	13.9	22.2	6.9	12.5	12.5	15.3	31.9	5.6	54.2	70歳以上(n=72)

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している

第4章 経年比較

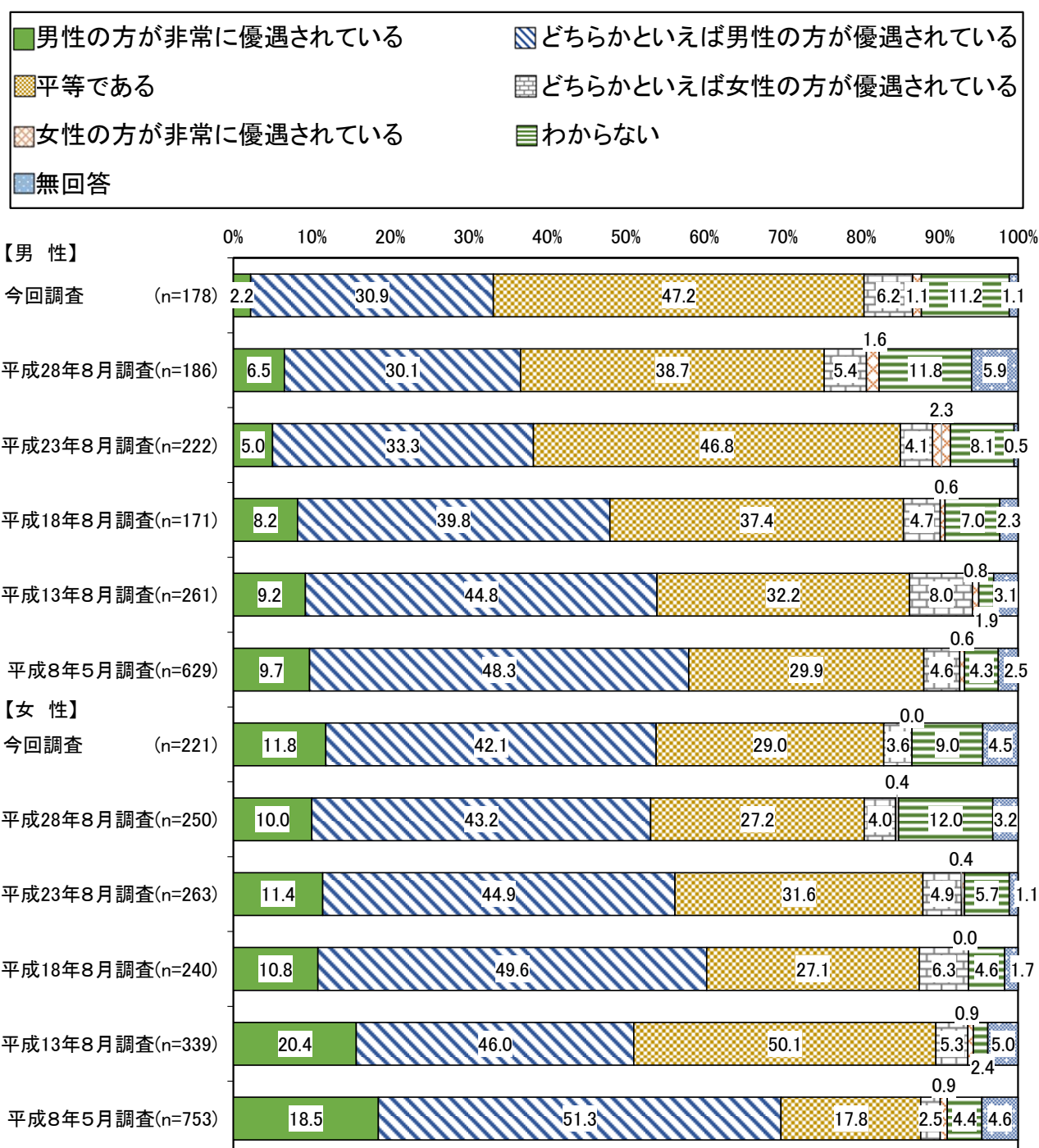
(1) 男女の地位

【問1】あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。①～⑧についてお答えください。

① 家庭生活では

「平等である」が増加傾向にある

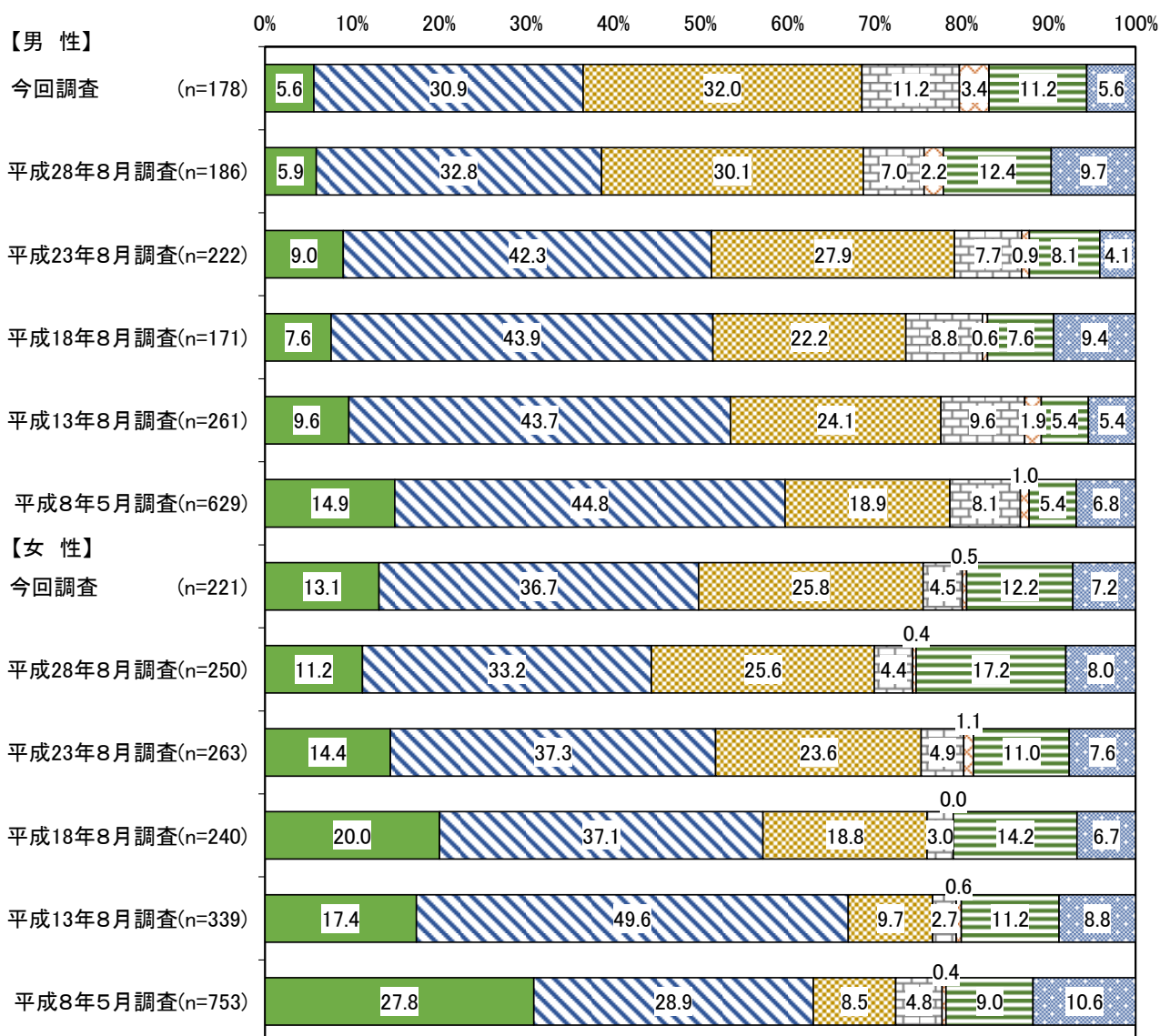
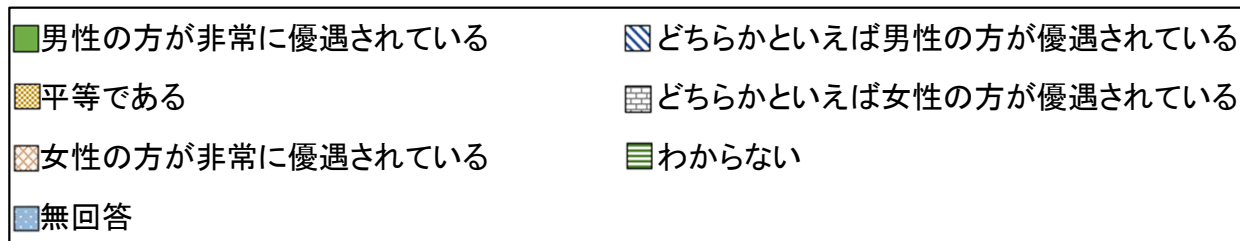
家庭生活での地位について、経年比較でみると、男女ともに「平等になっている」との回答は増加傾向にあります。また、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とを合わせた『男性優遇』との回答は、平成28年度から今回調査にかけて男性では減少していますが、女性はやや増加しています。



② 職場では

女性の『男性優遇』が増加傾向にある

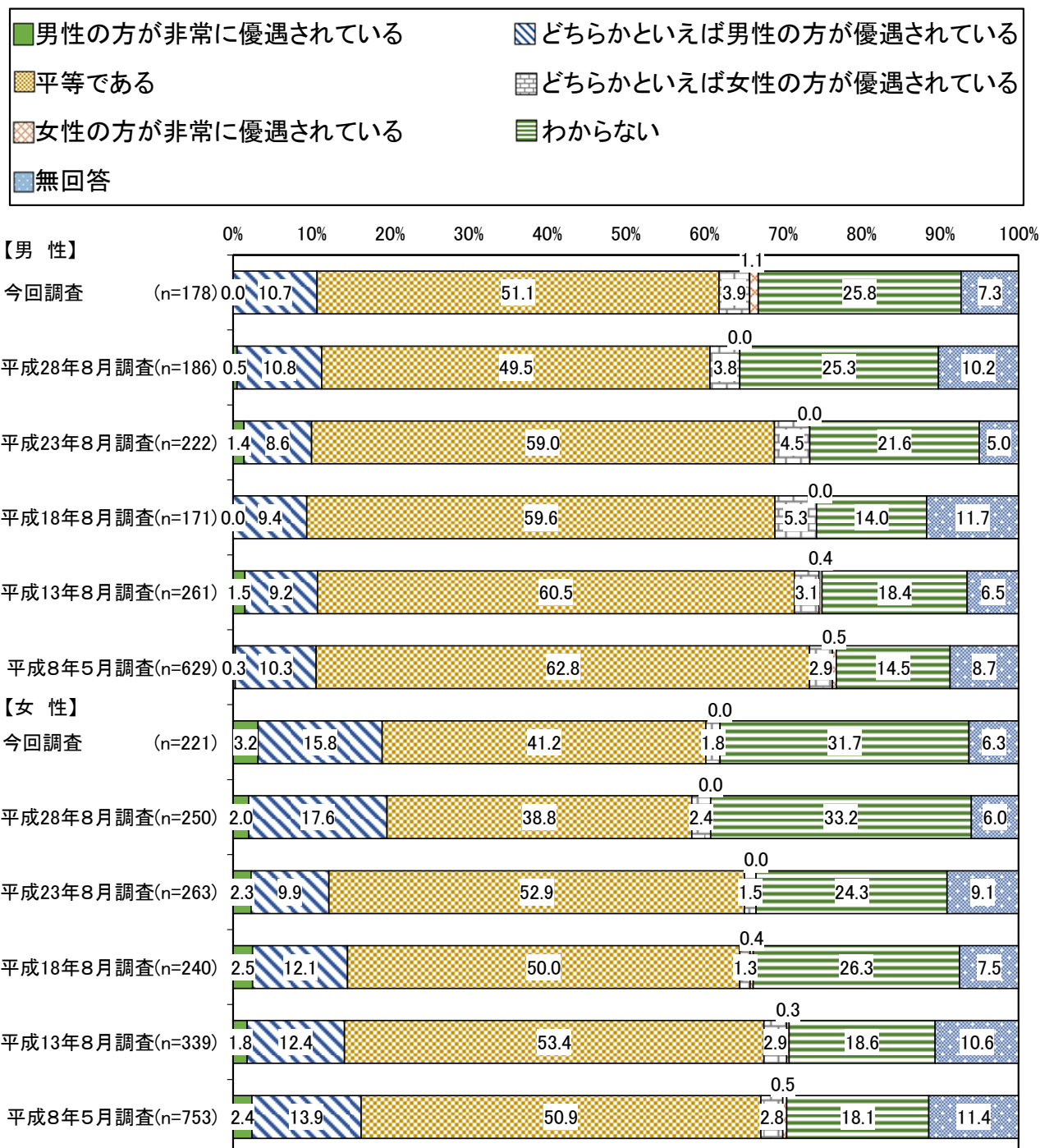
職場について、経年比較でみると、男女ともに「平等になっている」との回答が微増していますが、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答について、平成28年度から今回調査にかけて女性の回答が増加しています。



④ 学校教育の場では

「平等である」が増加傾向にある

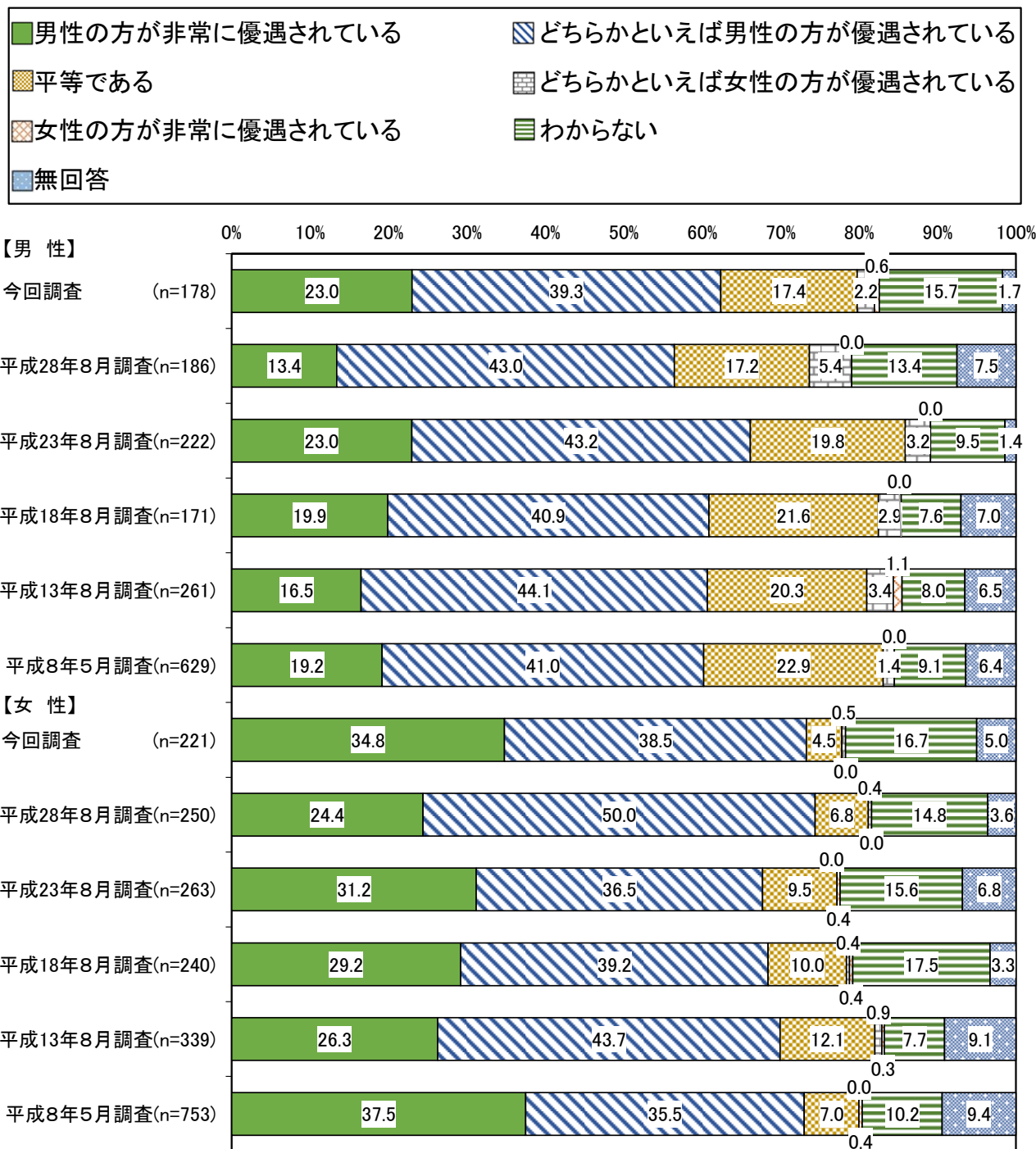
学校教育の場について、経年比較でみると、平成 28 年度から今回調査にかけて男女ともに「平等である」の回答が増加しています。



⑤ 政治の場では

『男性優遇』が高い水準にある

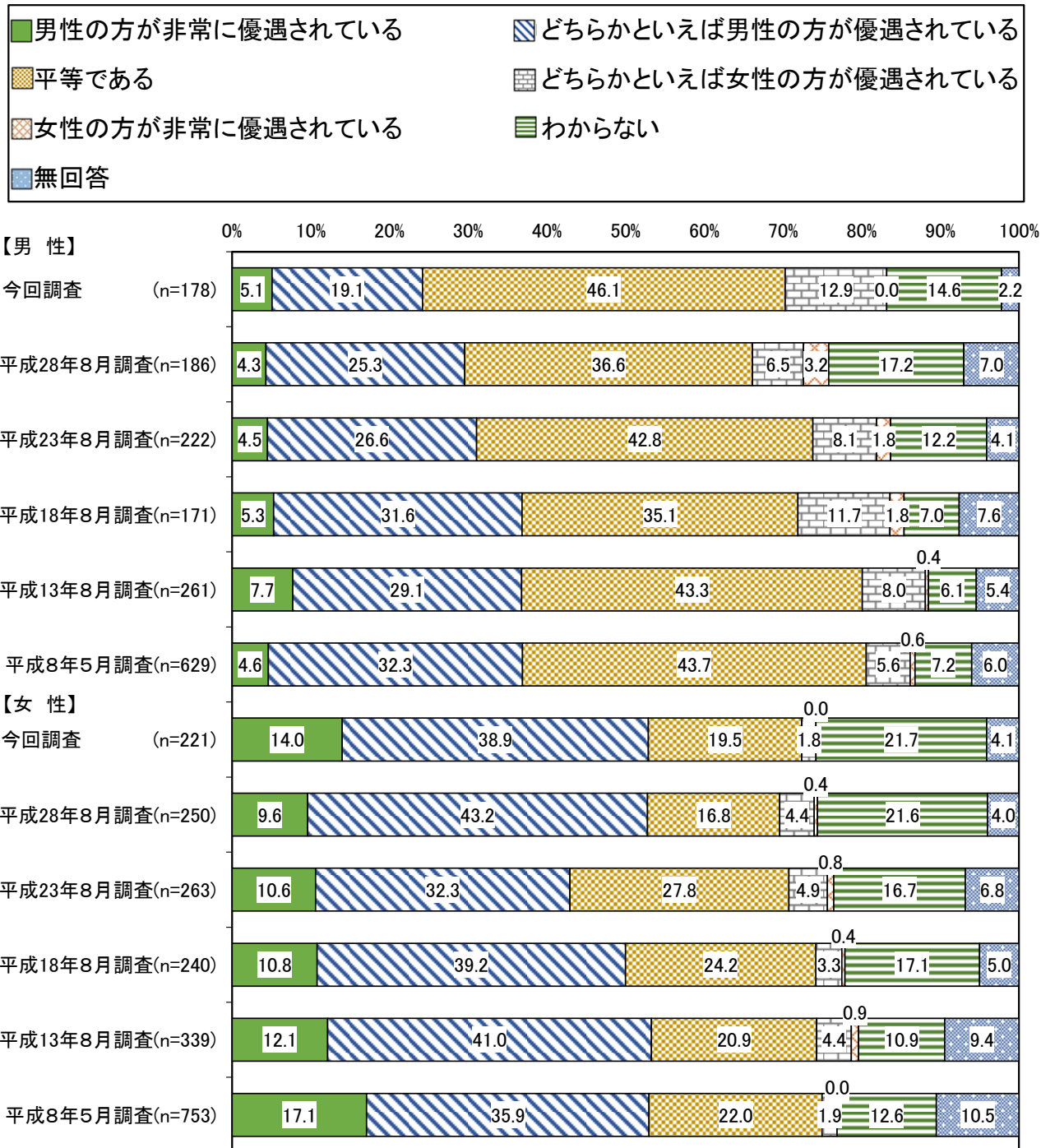
政治の場について、経年比較でみると、男性では「平等である」との回答に大きな差はなく、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』の割合が増加しています。女性では「平等である」の割合が平成28年度から今回調査にかけて減少しています。



⑥ 法律や制度の上では

男性では『男性優遇』が減少傾向、女性では『男性優遇』が過半数

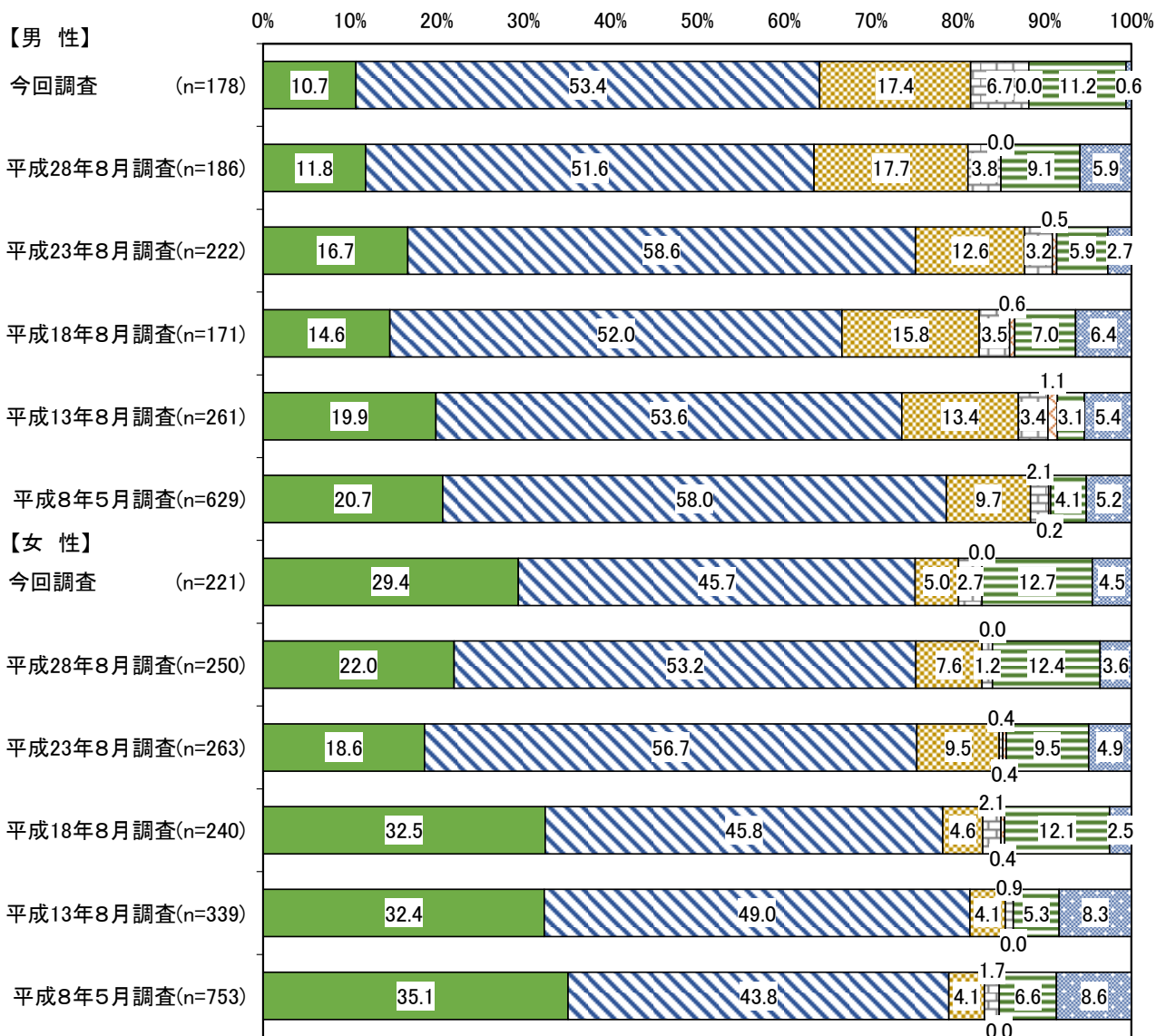
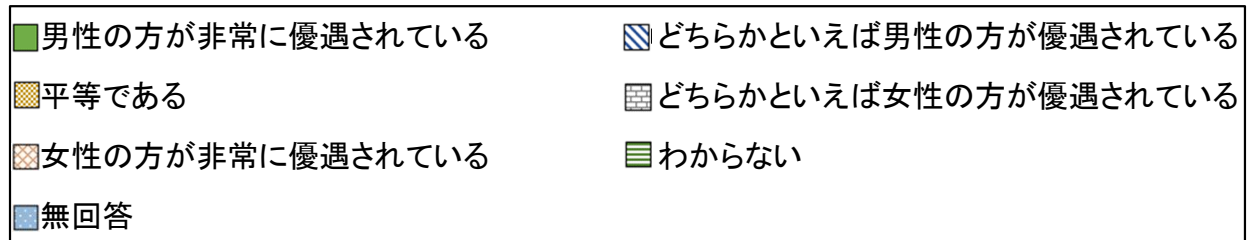
法律や制度の上について、経年比較でみると、今回調査では男性の「平等である」の回答が過去の調査に比べて最も高くなっています。また、『男性優遇』との回答はやや減少傾向にあります。女性では「平等になっている」との回答は増減を繰り返しながらも2割前後で推移していますが、『男性優遇』の回答が平成28年度調査とほぼ同水準となっています。



⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどでは

「平等」が1割程度と低い水準にある

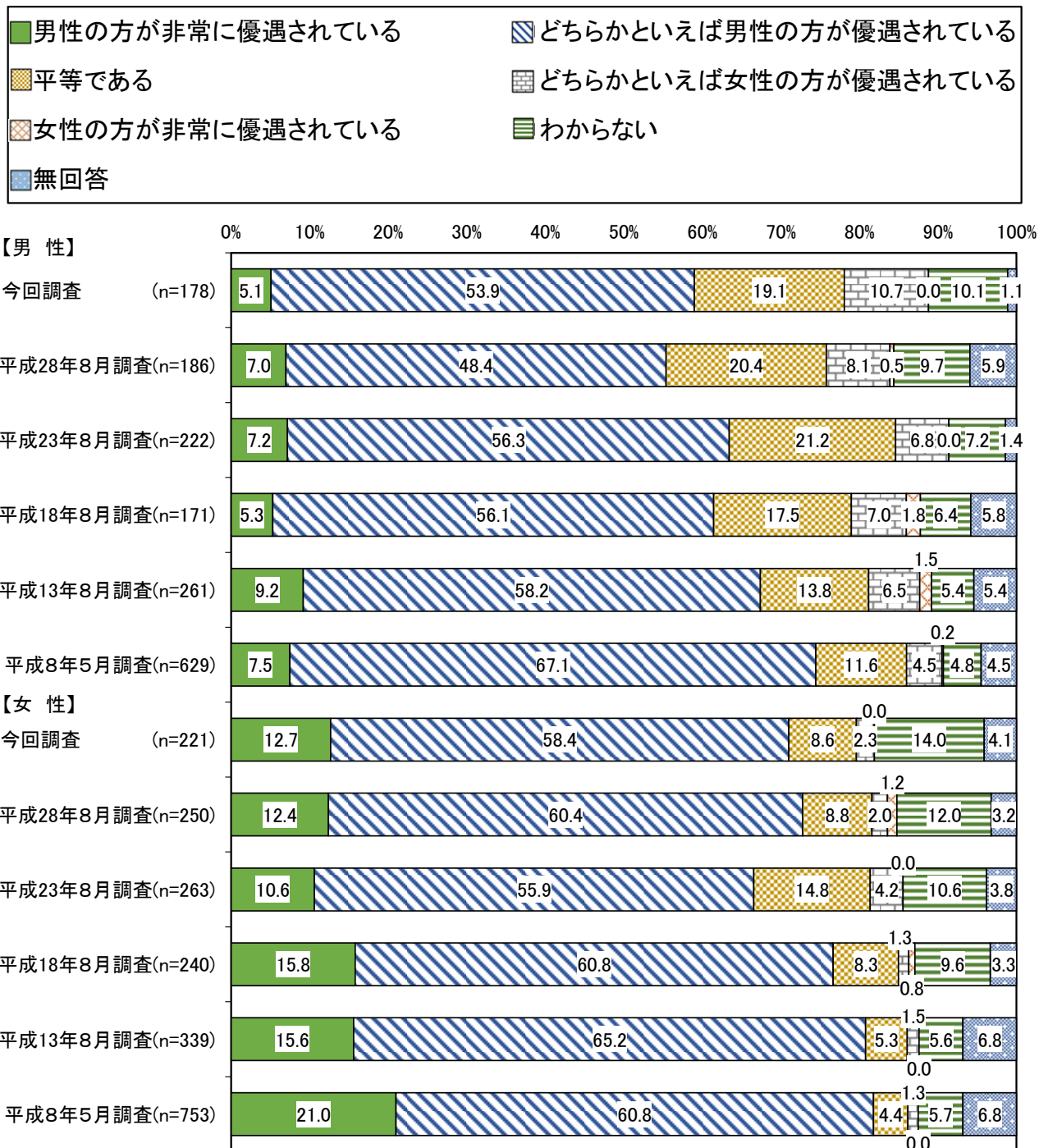
社会通念・慣習・しきたりなどについて、経年比較でみると、男性では「平等である」との回答は1割前後で推移しています。一方、今回調査の『男性優遇』との回答は、平成28年度調査に引き続き6割以上と高い水準にあります。女性では「平等である」の回答は1割にも満たず、今回調査では平成28年度調査に比べてさらに減少しています。また、『男性優遇』との回答は、平成23年以降は7割以上と高い水準で推移しています。



⑧ 社会全体では

『男性優遇』が高い水準である

社会全体について、平成 28 年度調査と比較すると男女ともに「平等である」との回答が微減しています。また、男性については『男性優遇』の回答が平成 28 年度調査と比較して増加しており、女性についても『男性優遇』が 7 割程度と高い水準で推移しています。



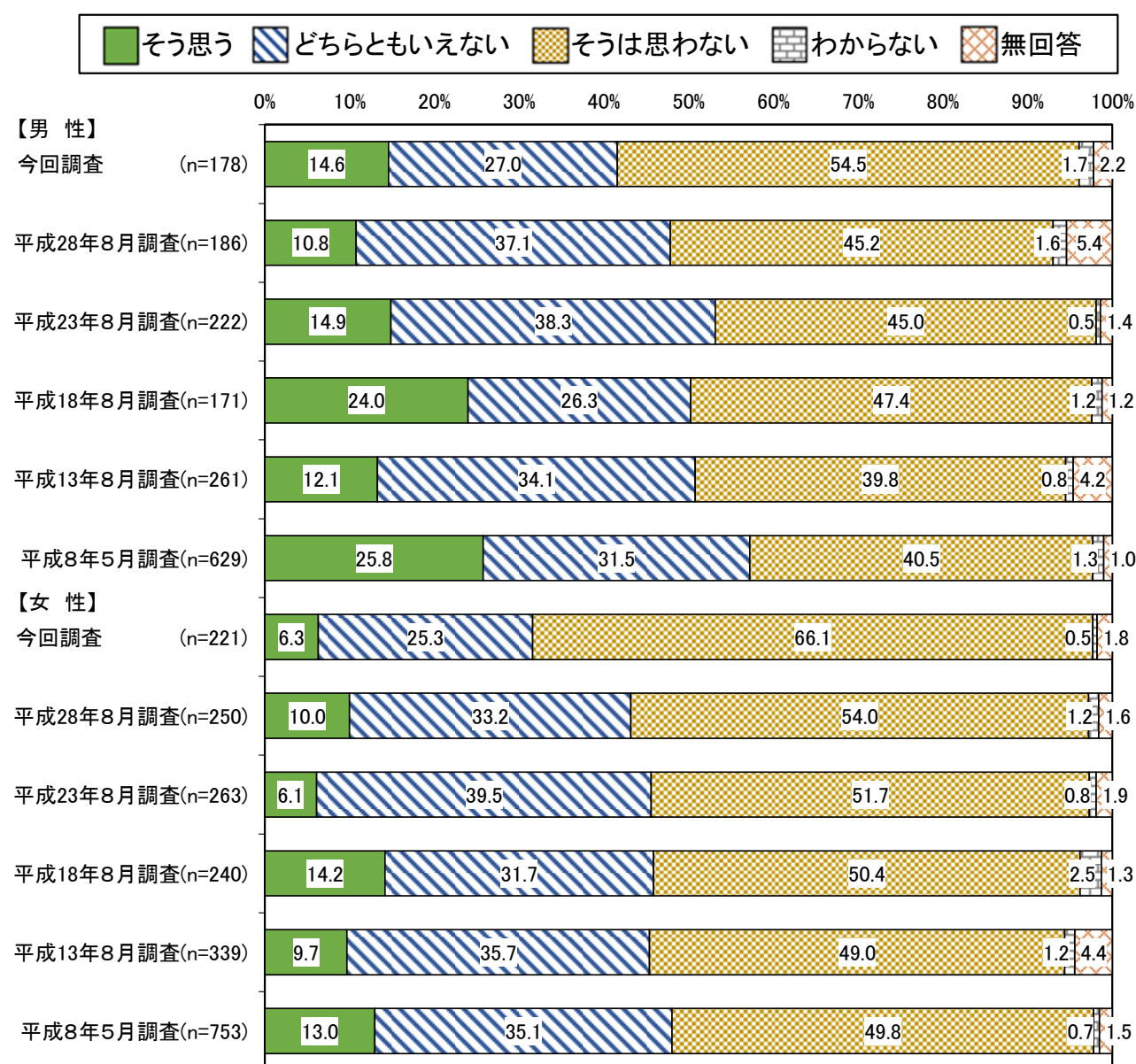
(2) 男女に関する考え方

【問6】仕事、家庭、介護などについて、さまざまな考え方がありますが、あなたは次の意見についてどのように思いますか。①～⑨についてお答えください。

① 「男性は仕事、女性は家庭」

男女ともに「そう思わない」が最も高くなっている

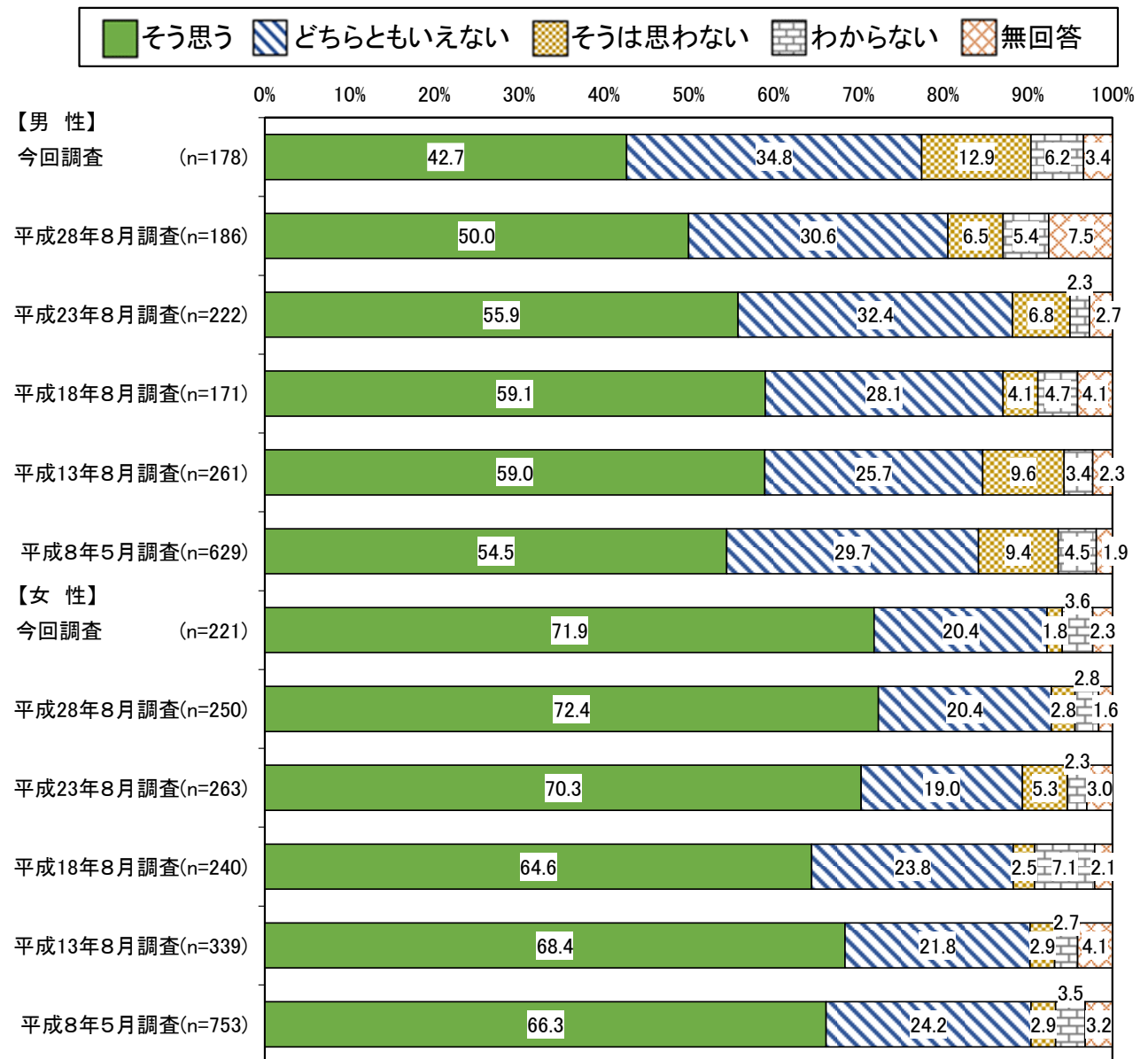
「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、経年比較でみると、男性では「そう思う」との回答は平成28年度調査と比較して4ポイント程度増加しています。また「そうは思わない」の回答について、今回調査では過去の調査と比較して最も高くなっています。女性では「そう思う」との回答は増減を繰り返しながら1割前後で推移しています。また、「そうは思わない」との回答について、今回調査では過去の調査と比較して最も高くなっています。



③ 「男性がもっと地域社会の活動や家庭生活に参加することを進めていく必要がある」

男性では「そう思う」は減少傾向、女性では「そう思う」は増加傾向にある

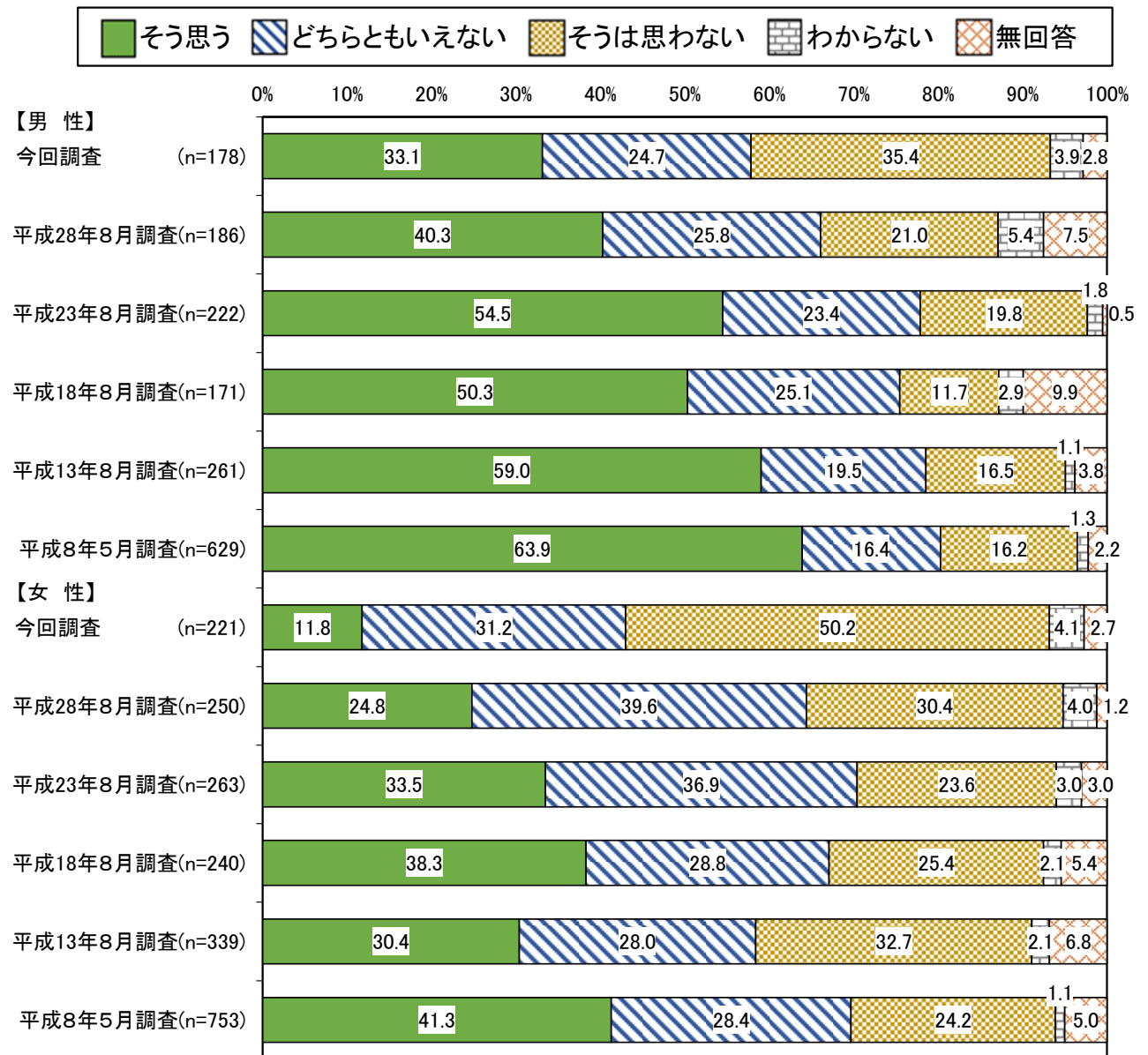
「男性がもっと地域社会の活動や家庭生活に参加することを進めていく必要がある」という考え方について、経年比較でみると、男性では「そう思う」との回答が平成18年度調査以降緩やかに減少していますが、女性では「そう思う」との回答はやや増加傾向にあり、平成23年の調査以降7割を超える高い水準で推移しています。



⑤ 「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」（子どものいない方等は一般的な意見としてお答えください。）

男女とも「そう思う」は減少し、「そうは思わない」は増加している

「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方については、経年比較でみると、男性では「そうは思わない」との回答が平成 18 年度調査以降増加傾向にあり、今回調査では過去の調査と比較して最も高くなっています。女性では「そう思う」の回答が平成 28 年度調査から今回調査にかけて大きく減少しており、「そうは思わない」との回答が平成 18 年度調査以降増加傾向にあり、今回調査では過去の調査と比較して最も高くなっています。



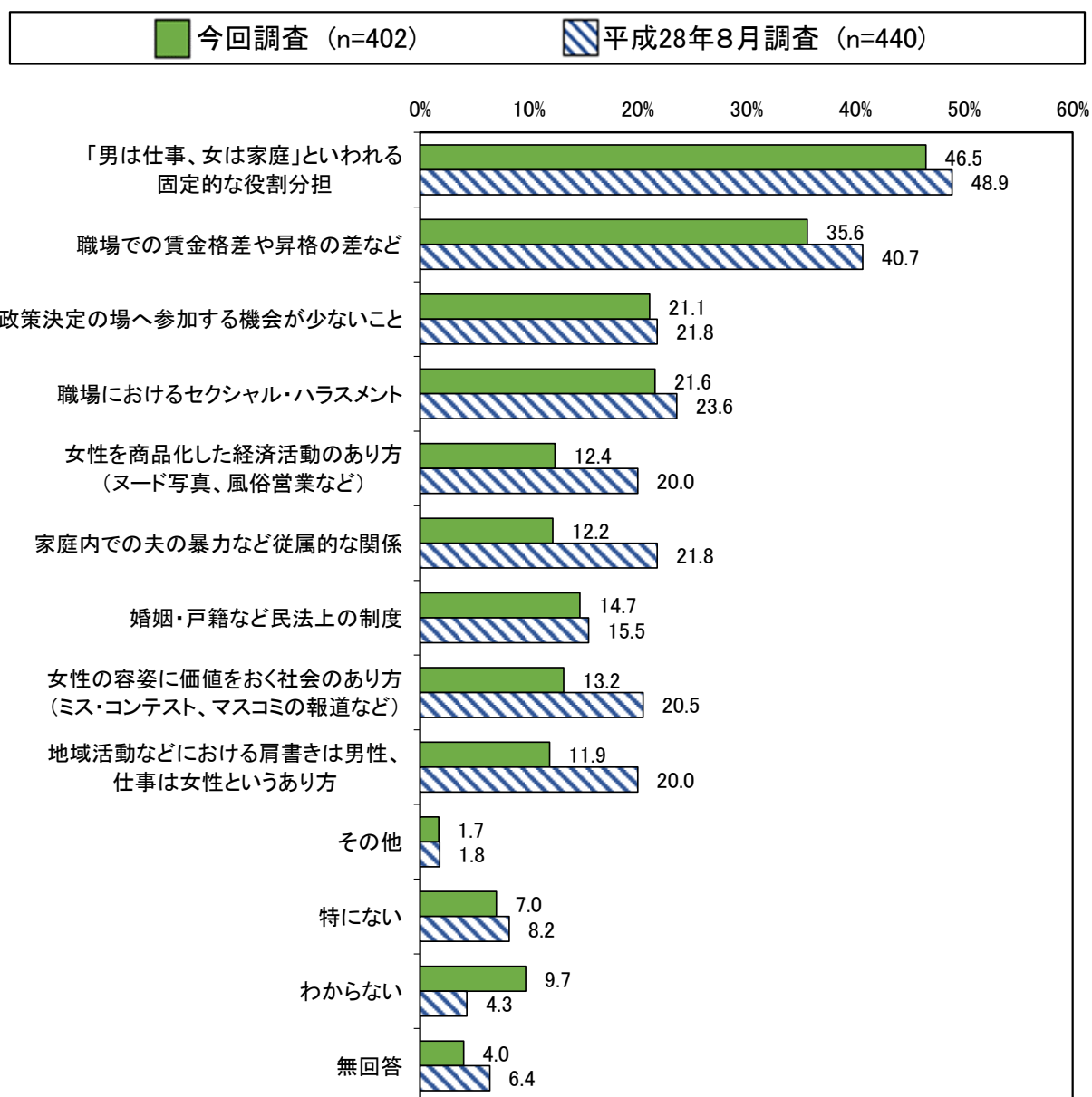
(3) 女性の人権の尊重

【問14】あなたが、女性の人権が尊重されていない(女性に対する差別)と感じることは何ですか。(〇は3つまで)

女性の人権が尊重されていないと感じることは、「男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担」「職場での賃金格差や昇格の差」で上位2項目に変化はない

女性の人権が尊重されていないと感じることについては、経年比較でみると、「男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担」との回答が最も高く、「職場での賃金格差や昇格の差など」が続いていますが、数値的には平成28年度調査と比較して微減しています。

その他の回答割合についても、平成28年度調査と比較して減少しています。

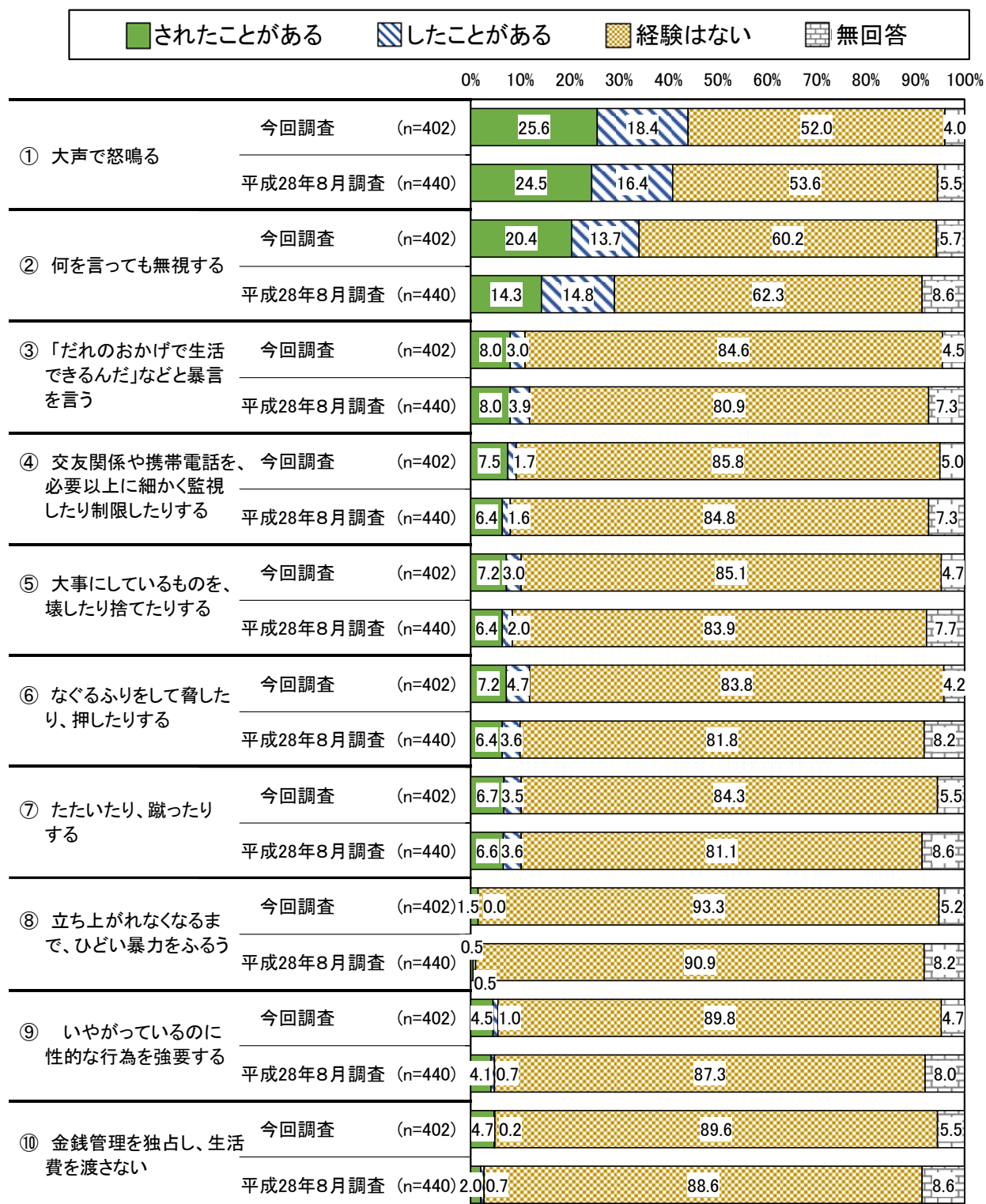


(4) 配偶者、恋人などからされたこと、配偶者、恋人などにしたこと

【問15】あなたはこれまでに、あなたの夫や妻、恋人などから次のようなことをされた、あるいはしたことがありますか。次の①～⑩についてお答えください。

大声で怒鳴る、何を言っても無視するなど、精神的な暴力が上位を占め、回答割合も増加している

配偶者から恋人から受けたことや、したことについては、経年比較でみると、「されたことがある」「したことがある」とともに、「大声で怒鳴る」や「何を言っても無視する」と回答する割合が高く、精神的な暴力が上位となっています。前回調査と比べると、2項目ともに増加しています。

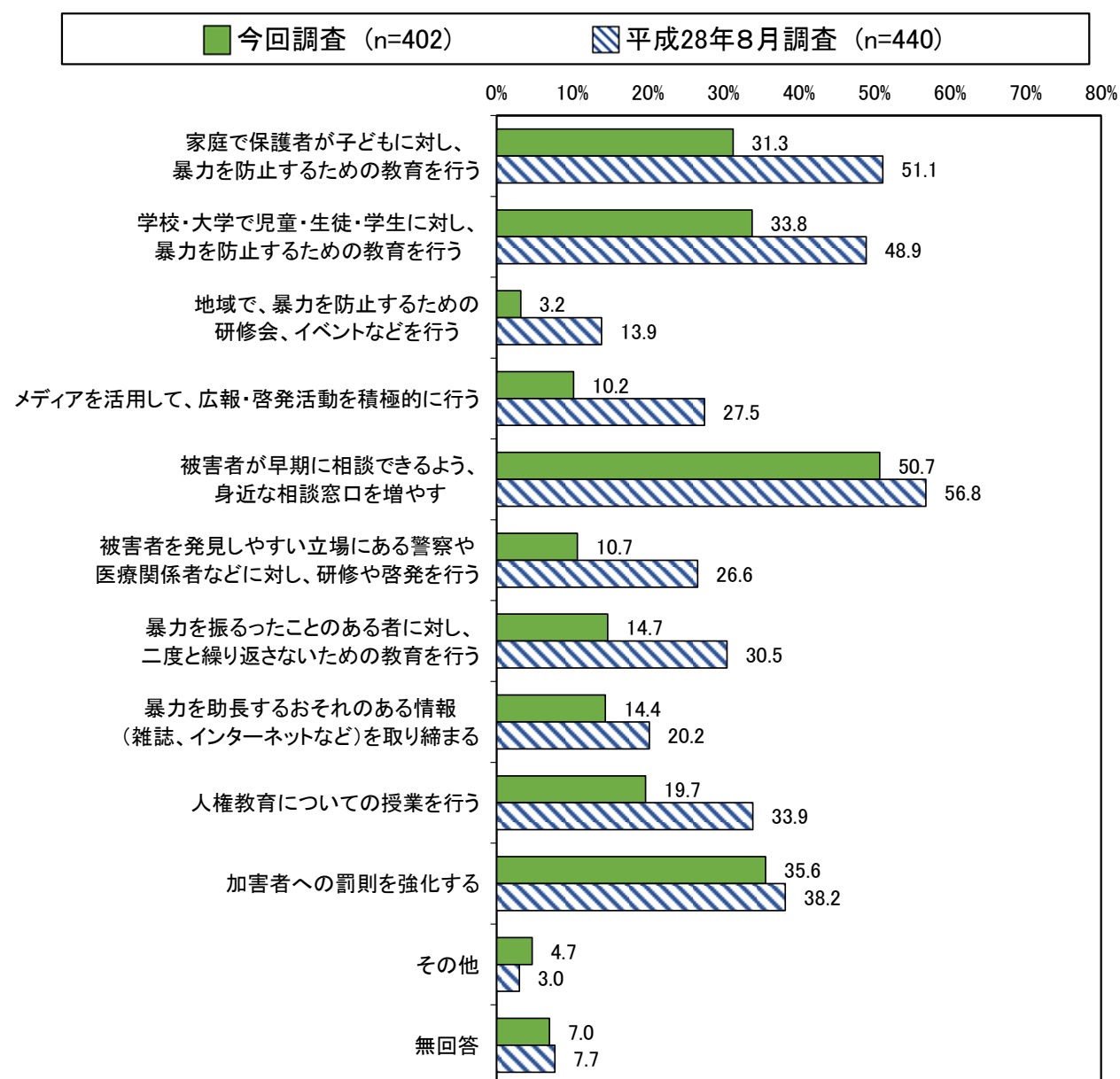


(5) 暴力防止のために必要なこと

【問19】男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は3つまで)

男女間における暴力を防止するためには、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」ことが必要

男女間における暴力を防止するために必要なことについては、経年比較でみると、いずれも「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」との回答が最も多く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」や「学校や大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」の回答が上位を占めています。が、平成28年度調査と比較すると回答割合が全体的に減少しています。



資料編

1 自由回答 ※原文のまま記載しています

(1) 行政・施策

内容
私は膠原病という難病指定の病気を19歳で発病しました。男女平等社会と言われますが、身体的弱者に対しての平等はなされていない様に感じる事もあります。女性で働いてみえる方は厚生年金に加入出来て老後の年金も増額され、社会からも保育制度の充実も多少なりと有ります。それなのに私の様な立場は恩恵が薄いように感じます。身体が弱いですが、育児も必死でしました（双子男子）働いていないという負目もあり子どもの学校の役員をやったり（働いている方は仕事を理由に他人任せだったりする方もみえます）もしました。 私のようなどうしても働けない人は生計維持者の税や配偶者の税率優遇措置などもう少し考えて頂きたい。 女性でとにかく困っている方（シングルマザーや収入源として働かざるを得ない方）への平等を考える方が先のように私は思われます。
日本は世界の先進国でありながら男女平等の意識はとても低い国だと思います。これは、国を治める政治をつかさどっている人達の意識の低さだと思います。上の人達の考え方を変えて行かなくては、難しい問題です。 行政は、この様なアンケートを元に、もっと真剣に取り組んで行って欲しいです。まずは教育にたずさわる先生が今から育つ子ども達にしっかり男女平等の意識をもつ、教育をお願いしたいです！
議員さんの若がえり、若い議員さんがもっと有意義に働ける市。卓上で言っているのではなく、もっと体を動かして市民に具体的な行動を見せてほしい。
男女格差の考えを変えられないのは主に高齢の方に多く見受けられます。多治見市は市長を始め、市議会議員も高齢男性が多い。女性活躍うんぬんと言葉で言っているも本心ではないと感じています。市の運営メンバーも然りでは。もっと本気度をみせるにはどうしたらいいのか？市は真剣に考え取り組んでももらいたいと切に願います。女性の活躍の場が増え、収入がアップすれば、おのずと市の収入（税収）も上がり、多治見市の資金難解決に向かうのではと思います。住み続けたい街になってもらいたいです。今年知り合いになった東京在住の友人（不動産運営をしている）から聞いた話ですが。多治見市から紹介され、駅前の“ミッドライズタワー多治見”の購入検討をしたが色々調べた結果、多治見市の将来性に期待が持てずマンション資産価値は上がらないと判断し、購入しなかった、と言っていました。大変ショックを受けましたが、これが今の多治見市の価値なのだと冷静に受けとめています。それが故、今後の明るい多治見市作りに何か私もできる事はないか、と考えるきっかけになりました。今はまだ仕事（会社員、名古屋市内）が多忙ですが、退職したら、もっと市の何か運営に関わるところでお手伝いなりできたらと思っています。多治見が好きなので。 多治見市在住の友人達も同じ思いを持っています。このような市民がいること、またもっと増やすためにも、多治見市長、市議会議員に女性の方がなってくれたらな、と思います。
男女平等について多治見市として何をしているかが全くとどいてなかった。 基本的にここは男性が優位なことがあたり前で女性もそれでよいと思っている。でもその昭和的で旧タイプなことを逆にウリにするのもアリかも…東京とはちがうし。
昔にくらべてかなり変わりましたが、まだまだ難しいと思います。 国が「男女均等法」を言葉で訴えるだけなら簡単ですが、国・県・市・町・村がもっと行動して、市民皆様も頑張って行動しなければ… 学校など、いろいろ難しい点が… 会社・企業・工業なども、まだ男女の差が…

(2) 男女共同参画、男女平等

内容
何をどうしたら平等と感じるのでしょうか？
男女平等意識というより、今や性別は男と女の2つに分ける事自体がむづかしいというより、認め合う時代になっているので、人として平等にあつかわれる、認めあう教育が必要なのでは…男と女の性は意識や法律を用ってしても平等にならない（男は出産はできないし、女は力や体力では劣る）性の違いは個性として認めあえるようになればと思う。そうすればLGBTで苦しむ人も少なくなるのではないかな。
男性と女性は異なります。同じではありません。異なった点は区別として、ハッキリと受け入れ、認め、その上での平等とは何かを追求していかないと、うわべだけの血のかよっていない、男女平等になってしまうのではないのでしょうか。
“平等”と言っているが、現実には平等ではないと思います。体力や力はどう頑張っても男の方が強いし、どう頑張っても男は子どもを産めない。 平等じゃないけど平等であるとなんとなく認識した上ですすめた方が良いとおもいます。あと、何となく女性の社会進出など男性側に近づけようとしています、男が女性に近づけるのもありかなと思います。男は一生働くみたいな考え方があるけど、専業主夫もありだと思います。
男女平等という分け方に違和感がありますが（人間平等？とでもいうか）男女というより、各個適性、尊重されたいと思う。
男性にしかできないこと、女性にしかできないことはどうしても存在しているので、なにもかも全てを平等にしなければいけないとは思っていない。 数だけを平等にすることがOKではなく、適材適所を進めていったら男性のほうが多かった、女性の方が多かった…というのであれば納得できる。ただその結果に至る過程ではどちらの意見も反映させてほしい。それが平等ということだと思う。
家庭での事で、すごく気になった言葉 ダンナさんの「家事手伝うよ」「育事手伝うよ」手伝うって何？ 誰の為の家事？誰の子ども？ まずはそこから意識を変えていったら社会にも浸透するのかなと思います。
男女平等とは何か？（男性と女性とその他で平等が異なる。）
現在子育て世代である自分の視点で見ると、男女平等とはいえ、男性の役割、女性の役割は少なからずあると感じています。（父性・母性など） それらを生かしつつ、立場的に平等な社会づくりができれば、誰にとっても暮らしやすい街になるのではないかと思います。
男女が平等に社会に進出する事はとても重要と思いますが、そのために子どもがガマンを強いられる様にはなって欲しくないと思います。 女性の社会進出と同時に、男性が家庭に関われるような個人の生活の充実を一番に考えていきたいと思います。
昔に比べれば男女平等になりつつあると思います。ただ、各家庭、自分のおかれています状況によって不平等な所は出てきてしまうと思います。男女平等の施策ですがほとんど知りません。意識の問題だと思いますが、この施策の分かりやすいまとめの資料があるといいと思います。
子育て中の女性が家を建てたりして、働きたいと思っても保育園に空きがないとか、何年待ちしないと思う様に面倒が見てもらえないと悩んでいる方を沢山知っています。人口を増やす事は大切です。ゆえにその方達の大変さを解ってあげてもらいたいと思います。安心して出産し、安心して子育てが出来る様、経済的支援、又、父親の支援を受けるため企業の理解が大切になってくると思います。男性は仕事だけが一番大切ではないと思います。どの家庭でも平等であってほしいです。
男性が不利に扱われていることにも注視してもらいたい。例えば、女性のみ割引きなどは、なぜ注意しないのか!!最近の女性はいいいとこ取りをする、強い人も多い。

(2) 男女共同参画、男女平等

内容
男女平等という考えは大いに賛成であり、そうであるべきだと思うが、企業や教員の男女比を同等にする必要はないと思います。性差があり又、各個人の能力があり、その差は千差万別であり、向き不向きがあるので、男女比が同等は不可能であると考えます。もし無理に男女を同等数雇用することを強制したり思想の強要をするのであればそれは悪政であり悪法であると思いますので、法令や条例はそれほど重要に感じません。
男女平等という言葉のみが一人歩きをして、「女性」というだけで得している場合もあると思う。男女は特性が違うのだから同じ様にするのは無理なのでは？
そもそも男女平等という概念が男女平等ではない。 それぞれ男だろうが女だろうが得手、不得手があるから、自分の得意な事をすれば良い。 社会で働く時間を夫婦で同じにすれば家事も半分ずつ分担しなければ、という意識になるのでは？
男女平等というが、世の中LGBTがためにいやな思いをさせられるという差別もある。 「男女平等」と性を「男」と「女」だけに別け事を解決しようとしても、話はそんなに進展しないと思う。
最近は働く人が増えて夫の家事分担も増えています。夫妻が協力して育児、社会参加できることを望みます。
男女それぞれの得意分野での地位の確立。
体の作りからちがうので平等にはならない。お互いに手伝いあっていけばいい!!
男女平等を目指すために最も重要だと考えるのが性差をはっきりさせることです(※) 今は社会通年や大人たちの考え方や態度が男の子の女子に対してで異なってしまうことが多いためその歪んだ中で成人した時の性差が正確なものか判断できないと考えます。子どもに対する教育や大人の態度を変革するような対策を望みます。 (※)例えば二倍の力がある人が二倍の荷物を持つのは同じだけ疲れるので平等だと考えます。また男女のことなのに女性のみが主語の設問があったので直してほしい。
男女平等はまだできていないが、問題意識もないのでは？と思います。女性もそこまで活躍したいと思っている人がいないのでは？毎日の生活がそこそこ幸せに過ごせたら良いと思っている人が大半だと思うので。
結果（男女比率）の平等ではなく機会（条件）の平等を目指してほしい。
男女平等についての意識調査などしなくてもよい社会になってほしいものです。
早く男女が平等に、いやもっと性や障がいなど関係なく人々が自由に生きられる社会になってほしい。

(3) 就労、職場

内容
賃金の事です（製造業に勤めており、職の内容は事務ですが）そもそもスタート（初任給）が男女で差があり、その後も同じように仕事をがんばっていても昇給やボーナス等男女差がある。これだけ男女平等に、と世間で言われていても雇用主が意識改革をしていかない限りはどんなにがんばっても辛い思いをしても多くの女性の生活は男性のように豊かにならないのではないかと思います。（賃金だけの問題ではないですが…私の会社では事務＝女性、産休や育児休暇等も男女共に認めず、それを使うなら辞めろ、という会社です…ただ、いまだこのような会社は多いと思う。）
男親は仕事と言えば許されるが女親はそうではない。急な仕事や残業、子どもの体調不良があった場合、仕事を犠牲にしたり、子どもをどこにあずけるか奔走するのはいつも女性です。残業すれば子どもがかわいそうと言われるのも女性です。男性は？給料が多ければ許されるのでしょうか？

(3) 就労、職場

内容
職場では女性の雇用を促進しているものの、産休や育休中の売上目標の見直し、現業の支援などではなく、人員がカツカツの環境では女性は気がねなく休みをとれないと思う。男性が育児にかかわれないのも男が育休で何をするのか、という風潮があり社会全体の問題、育児をしてこなかった男性が育児の大変さをそもそも理解していない。軽んじていることが大きな原因と思う。社会を通してこれらに対しての理解、教育を続けていくべきと考える。
学校現場で働いていると、結婚した先生が中学3年生の担任にならないよう配慮がされる。安心して妊娠出産ができるようになっていて良い。
男女平等とは言え、女性には出産という大きな仕事があります。昨今は男女共婚期が遅く、子ども1人もしくは無しで、子どもの人数が増々減少です。今の時代、こう言う事言っただけではいけないかも知れませんが、女性には2～3人出産出来る年令に結婚を望みます。それには、男性はフリーターやバイトではなく、一定の収入が得られる正社員になる仕事に就く、税金等もきちんと払う。会社経営者だけが儲かるのではなく、生活が成り立つ様な賃金で雇用してもらいたい。今の時代に生理用品が買えないとか、子どもにご飯が食べさせられないなんて、こんな事があっていいのでしょうか…若い人達が家庭（家族子ども2人）を持ち、希望を持って生活出来る街（国）にしてもらいたい。
会社の上司のほとんどが男性である。
私の職場では、ママさんが優遇されていると思います。その為、ママさんの離職率は少ないですが、その分、周りの社員がフォローしています。同賃金で何年も優遇されて逆に不公平だと感じます。業務内容に合った賃金が平等だと思う。（ママさんも働きたいと自ら希望して働いていると思うので）
子育てにおいても父親がもっと参加できるように働き方を変えても収入が減ってはしたくないので、子育てにお金がかからないように、高校・大学へ行きやすいようにしてほしい。子どもも増えるし、いい事ばかりだと思う。父のほうも働いてばかりにならず家庭に参加していきやすいと思う。

(4) 地域活動

内容
地域の町内会の運営や会議は男性が中心となって活動されている町内が多いと思います。
今後はもっと女性や若い男女に気軽（という表現はおかしいかもしれませんが）に参加できる町内会のあり方を行政の方で進めていただけるよう希望します。

(5) 意識改革・啓発

内容
家庭でも地域でも政治家でも… 昭和1ケタ～40年くらいの日本の男性はもう少し意識してほしい。 「結婚」に関しても、嫁だから…〇〇家にもらったから…と言われるのは悲しい。「私は物じゃない」と反発したくなる。 若い世代、これからの時代は本当の意味で「男女平等」となってほしい。
男女平等な社会にするには 1. 意識改革 2. 制度の拡充 3. 広報、啓発活動の活性化 が大事なのではと考えています。 自分に何が出来るのか具体的にはまだ思いつきませんが、男女平等な社会の実現に向けて協力できることはしていきたいと思いました。

(5) 意識改革・啓発

内容
私は両親と住んでいますが、母ばかりすることが多く、父はしません。私は料理や掃除などは手伝っています。50代、60代以降の女はこうであれと思っている老害をどうにかするべきと思う。老害は時代についていけない。老害達の考えを変えるような教育が必要。
名古屋市長のメダルかじり問題やその他の昭和時代のえらい方々の男女平等に対する意識が変わらないのでは、この問題を解決する事は難しいのではないかと思います。昭和時代の人達が考え方を改めねばならないのでは？男性も女性も。昭和の社会がそのような時代でした。
幼稚園での教育で、男の子は青色、車や電車、女の子は赤色で花柄など、特に幼少期はいろんなこと・物に興味を持つ大切な時期なのに、園で決めてしまっていること…色は決めずに本人の好きな色を選ばせれば良いし、好きなことは固定観念にしばられることなく、本人の好きなようにさせてあげたらいいと思います。ちなみに公立幼稚園に通っていますが、うちは虫が今でも大好きです。自分の好きなものを伸び伸びと自由に育み見守る環境に育てていきたいです。

(6) DV

内容
DVに関しては、女性には男性には到底力でかなわないところがありやはり、下に見られているように感じる。

(7) アンケート

内容
程々の会議、アンケートに発言してもそれが正しいかそうでないか確認の返答がぬけている。小さなことですが発案者の言を聞いてほしい。
「平等」とは権利を主張するだけだと思っています。ただその権利を主張するのは個人の果たすべき「義務」が必ず必要と思っています。この「義務」は法律で語ることなく「道徳心」を養って欲しいです。このアンケートではその「道徳心」に対して一つもないのが非常に危機感がない事を分かっていますか？人としてのあるべき姿はどういったものか考えていますか？
今年数回アンケートいただきましたが、現状の80歳を超えた老女には申し訳ありませんが返答出来かねます。無作為選出と言う事ですが、今後お断りしたいです。読むのも書くのも投函も困難です。
このアンケートのような郵送では正確なデータの収集は出来ないと思います。又、電話や電子メールも同様に正確ではないと思います。
・設問の仕方に多少無理がある ・現在の年齢から答えられない、答え難い設問がある ・次への該当設問において、つながり的に無理がある もう少し、幅広さと集中性を考慮して調査内容を精査して、より実りあるアンケートを今後は考え、実施していただきたい。
具体的な設問を置かなければいけないので、仕方のないことですが、設問自体にジェンダーバイアスがかかっているように思えてしまいました。このようなバイアスが女でありたくない理由なのかもしれません。
自分は女性ですが、自認はもやもやしている部分も有ります。上記のバイアスは社会からなくなることはないのだろうなと思っています。行政として、難しい問題かと思いますが、頑張ってください。

(7) アンケート

内容
このアンケート自体、“男女”についてののみの問いばかりで、ジェンダーレス及び自身の性に関して悩んでいる方々への配慮という意識が足りないと思った。社会制度そのものが、まだ女性に対しても待遇が悪いものがあるなか、更にジェンダーレスの人々やLGBTQ+の方々にまで対応を広げていかなくてはならない今、よりスピーディーに時代と社会に合った制度や改革を作り進めていくことが急務と考えられる。もちろん、身体的な差により、役割分担を強いられる事もあるが、そこは支援制度をきちんと整備し、全ての人々が“性別”にとらわれることなく、ひとりの“人間”として尊重される社会・世界になると良いと思う。

(8) まちづくり

内容
男女問わずLGBTQ+の人達（子ども含む）が気軽に集える場がもっと身近にあってほしい。

(9) コロナ

内容
男女平等に関してではないのかもしれないけど コロナワクチンを打った後の副反応があった話などを聞くと、打った2、3日後は仕事を休んだ方が職場に迷惑をかけないのかな…と休みを取る人も多いと思うけど、有休を使って休める社員の方とパートで時給で働いている方と収入もあるから打ちたくても休んでまでも打ってそれでもコロナに感染したらまた休まないといけないしと、難しいところはあると思います。 副反応が出てもコロナ感染する事を思えば打ちたいのは誰にでもあるけど母子でしかもパートの方にとっては苦しいとも思います。
コロナで子どもたちの休校と主人の在宅ワークが重なっていた日、ちらかった部屋を見て「こんなに汚れるか…」と。一緒に買い物に行くと、「いつもこんなにたくさんの食材を1人で運んでいるのか…」と。それ以来、週末に子どもたちとそうじをしたり買い物するときは毎回荷物持ちをしています。いいきっかけになりました。やってくれないではなく知らないからやれない、どうやればいいのか分からない時もあります。我が家（私）にとってこのコロナの影響は悪いことばかりではなくプラスにもなっています。ただ、やっぱり家の時間が増えた分出費特に食費がかなり増え、逆にパートの時間は減ったので正直きついです…母子、1人親の家庭だけでなく子育て中の家庭にも支援お願いしたいです。
コロナ禍で仕事を失った女性の方が多いと思うので教育とか訓練など、義務教育の時から積極的に学んだ方がいいと思います。勉強苦手な方にも楽しく学習できる方法教わりたいですね。
正社員の私は影響はなかったがパートの方の時間数がコロナのため短くなった（営業縮小で手取り額減額）
コロナ禍での影響は、ママさんの業務をフォローしたくらいです。実質的な影響（金銭的なもの）はありませんが、体力・体調が悪くなっています。
夫が単身赴任中のため、家事・子育ては全て一人でやるため仕事に就くことが難しい状況です。実家に頼れば良いのですが母は他界し、父は看護が必要のため、病院の日には付き添いが必要でした。コロナでは夫は会社から多治見へ帰宅することは許されず、家事も子育ても誰にも頼れず本当に辛い日々です。県をまたいでの移動の自粛はもちろん大事ですが、家族が苦しんでいる事を企業にも知って欲しいです。

(9) コロナ

内容
男性は正社員が多く、どうしても主婦含め女性はパート・バイトが多いです。コロナの自粛でお店を閉める場合も仕事がなくなる。又、子ども達が保育園・学校が休みになれば預ける所もなく、仕事も行けなくなる。女性の方が直接影響を受ける事になります。一部の人達は一生懸命でもほとんどの政府の人達はコロナの影響で一般人が仕事、生活に困ろうが自分達はそんな減給される訳でもなく、自分の腹が痛くないから他人事で高見の見物状態。 一般人との感覚がずれすぎている!! 政府の人達の給料を減らして一般人に配るべきだと思います。

(10) その他

内容
“性的に”女性→出産、男性はできない 子孫継承を考えるにあたり、女性しか出産できない現実に対し、何もかも平等というのはありえないと考える。 多治見市の目指すGOALはどこにあるのかを明示する必要があると感じました。
社会を少しもどして昭和 30 年代ごろの社会・生活として男女のことでアンケートをとることもなく、貧しかったが夢の多い時代だったし、男は男らしく男気、心意気で弱者に接していたような気がする。町内の子どもは町内の老人達がしっかりサポートする（昔は銭湯が社交場で小学生のころ友人は老人（おじいさん（明治生れ））が多かった。が、人生経験豊富で学校の先生より為になった。現在社会に余裕がなく、寛容さもないので日本中の年寄が最後の力をふりしぼってこの問題を解決しよう!!
未婚のためわかりません。
時代的に単身者の平等へも今後目を向けていく事が必要だと思います。

2 「多治見市男女共同参画に関する市民意識調査」ご協力のお願い

「多治見市男女共同参画に関する市民意識調査」ご協力のお願い

日頃は、市政につきまして多大なご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

多治見市ではこのたび「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施することになりました。この調査は、男女平等に関する市民の皆様のご意見をいただき、男女共同参画社会実現をめざす「第3次たじみ男女共同参画プランの後期計画」の策定と、今後の男女共同参画社会推進に関する施策の検討資料とさせていただくために実施するものです。

ご回答をお願いしております方は、多治見市にお住まいの18歳以上の男女1,000人で、無作為に選ばせていただきました。

調査は無記名でお願いするものです。得られた結果は統計的に処理したうえで分析しますので、個人のお名前が出たり、他の目的に使用したりすることは決してありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ぜひご回答くださいますようご協力お願い申し上げます。

令和3年8月17日
多治見市長 古川 雅典

ご回答にあたってのお願い

- ①質問には、必ず封筒の宛名のご本人がお答えください。
- ②ご記入は、黒のボールペン、濃い鉛筆、万年筆などをお願いします。
- ③お答えは、あてはまる回答の番号を○で囲んでください。
- ④各質問の中には、「1つ」「いくつでも」などと○印の数を指定させていただいている場合がありますので、それにしたがってお答えください。
- ⑤各質問の中には、「勤めている方におたずねします」というように、お答えいただきたい方を限っている場合がありますのでご注意ください。
- ⑥住所・氏名を書いていただく必要はありません。

※調査票をご記入いただきましたら、恐縮ですが同封の返信用封筒で
8月31日までにご投函ください。

なお、調査票の回収は、多治見市からの委託を受け、Next-i株式会社 名古屋支店が行います。

この調査票について不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。

【問い合わせ先】
多治見市役所 環境文化部 くらし人権課
担当：鬼頭、佐藤
TEL：22-1111（内線1153）
22-1128（直通）
E-mail：kurashi-jinken@city.tajimi.lg.jp

3 多治見市男女共同参画に関する市民意識調査票

多治見市男女共同参画に関する市民意識調査票

①はじめに、あなた自身についておたずねします。(令和3年8月1日現在)

(A) あなたの性別はどちらですか。(ご自身が認識する性でお答えください。)

1. 男性 2. 女性 3. ()

(B) あなたの年齢は次のどれですか。

1. 18～29才 2. 30～39才 3. 40～49才
4. 50～59才 5. 60～69才 6. 70才以上

(C) あなたは現在結婚していますか。

1. 未婚 2. 既婚 3. 離別・死別

(D) あなたには子どもがいますか。

1. いる 2. いない

(E) あなたのご職業(仕事)は次のどれですか。

1. 自営業者(商業、サービス業、製造業等)
2. 自営業の家族従業者(商業、サービス業、製造業等)
3. 自由業者(医師、弁護士、芸術家等)
4. 正規職員(会社員・団体職員)
5. 公務員・教員(公立、私立問わず)
6. 非正規職員(パート、派遣、契約社員など)
7. 家事専業者
8. 学生
9. 無職
10. その他(具体的に)

(F) 既婚の方におたずねします。

共働きをしていますか。(非正規職員も含む)

1. している 2. していない

(G) 経済的にみて、あなたの世帯の生活の程度はどうか。

1. 余裕がある 2. まあまあ余裕がある
3. あまり余裕がない 4. 余裕がない 5. わからない

②男女の地位の平等に対する意識についておたずねします。

【問１】あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。(1)～(8)についてお答えください。

分 野	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(1)家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(2)職場では	1	2	3	4	5	6
(3)地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
(4)学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
(5)政治の場では	1	2	3	4	5	6
(6)法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
(7)社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
(8)社会全体では	1	2	3	4	5	6

問１の「(8)社会全体では」において「１ 男性の方が非常に優遇されている」「２ どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方は、下記の問２、問３にお答えください。それ以外の方は【問４】に進みください。

【問２】その主な理由は何だと思われますか。(1つに○)

- １．男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから
- ２．男性が仕事優先、企業中心の考え方が根強いから
- ３．男女の差別を人権の問題としてとらえる意識がうすいから
- ４．男女の平等について、男性の問題意識がうすいから
- ５．男女の平等について、女性の問題意識がうすいから
- ６．女性が能力を発揮できる環境や機会が充分ではないから
- ７．能力を発揮している女性を、適正に評価する仕組みが欠けているから
- ８．育児、介護などを男女がともに担うための制度やサービスなどが整備されていないから
- ９．その他（具体的に

【問３】今後、男女が社会のあらゆる分野で、もっと平等になるために最も重要と思われることは何だと思われますか。(1つに○)

- １．女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりをあらためること
- ２．法律や制度の見直しを行い、女性差別につながるものをあらためること
- ３．女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上をはかること
- ４．女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること
- ５．国や地方自治体、企業等の重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- ６．その他（具体的に

【問4】男性の方におたずねします。（女性の方は【問6】にお進みください。）

あなたは、家庭における男女の役割において「つらい」と感じることはありますか。

1. ある 2. ない → 【問6】へ

【問5】 問4で「1. ある」と答えた方におたずねします。

それはどんなことですか。(1つに〇)

1. 男だから頑張れと言われる
2. 妻子を養うのは男の責任だと言われる
3. 仕事の責任が大きい、仕事ができて当たり前だと言われる
4. 仕事が忙しく、家庭の時間が作れない
5. 家族とのコミュニケーションがうまくいかない
6. その他（具体的に

【問6】仕事、家庭、介護などについて、さまざまな考え方がありますが、あなたは次の意見についてどのように思いますか。(1)～(9)についてお答えください。

考え方	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	わからない
(1)「男性は仕事、女性は家庭」	1	2	3	4
(2)「女性が仕事を持ち続ける」	1	2	3	4
(3)「男性がもっと地域社会の活動や家庭生活に参加することを進めていく必要がある」	1	2	3	4
(4)「介護の必要な親の世話は、主に女性が担う」	1	2	3	4
(5)「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」(子ども のいない方等は一般的な意見としてお答えください。)	1	2	3	4
(6)「結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもよい」	1	2	3	4
(7)「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家 族を中心に考えて生活する方がよい」	1	2	3	4
(8)「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」	1	2	3	4
(9)「結婚したら、離婚してはいけない」	1	2	3	4

③仕事と家庭等の両立（ワーク・ライフ・バランス《仕事と生活の調和》）についておたずねします。

【問7】あなたのご家庭での男女の役割の現状を、次の(1)～(10)についてお答えください。

役 割	すべて 女性	主に女性 男性は手 伝う程度	男女同じ ぐらい	主に男性 女性は手 伝う程度	すべて 男性	該当なし
(1) 食料品などの買出し	1	2	3	4	5	6
(2) 食事の用意	1	2	3	4	5	6
(3) 食事の後片付け	1	2	3	4	5	6
(4) 乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
(5) 子どものしつけ、家庭での教育	1	2	3	4	5	6
(6) 子どもの学校行事、クラブ活動などへの参加	1	2	3	4	5	6
(7) 洗濯、掃除	1	2	3	4	5	6
(8) ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
(9) 家計の管理	1	2	3	4	5	6
(10) 家族の介護、看護	1	2	3	4	5	6

【問8】あなたは、下記の生活時間をどのように過ごしていますか。次の(1)～(4)の勤務日（学業も含む）と勤務日以外の両方についてお答えください。該当がない場合は「0」とご記入ください。）

	勤務日（平日）	勤務日以外（休日）
(1) 仕事・学業	時間程度	時間程度
(2) 家事・子育て・介護・看護	時間程度	時間程度
(3) 趣味・娯楽	時間程度	時間程度
(4) ボランティア活動・地域活動	時間程度	時間程度

【問9】勤めている方（非正規職員も含む）におたずねします。

あなたは、次の制度を活用して、育児休業などを取得したことがありますか。(1)～(4)についてお答えください。

※雇用主の方は本設問への回答の必要はありませんので【問 10】にお進みください。

制 度	取得した	知っているが 取得できなかった	知っているが 取得する必要 がなかった	知らない
(1)育児休業 育児のために一定期間休業できる 制度	1	2	3	4
(2)子の看護休暇 子どもの看護のために年 5 日程度 の休暇が取得できる制度	1	2	3	4
(3)介護休業 介護のために一定期間休業できる 制度	1	2	3	4
(4)介護休暇 短期の介護のために年 5 日程度の 休暇が取得できる制度	1	2	3	4

【問 10】それぞれの家庭において、男女が共に「仕事と家庭を両立」するためには、どのような条件の整備や機会が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり
2. 柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務等）
3. 代替要員の確保など、育児や介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり
4. 出産や介護等で退職した場合の再雇用制度の導入
5. 労働条件の改善
6. 育児・介護休業中の賃金、その他の経済的給付の充実
7. 保育や介護の施設・サービスの拡充
8. 企業経営者の意識改革
9. 働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力
10. 地域活動や家庭生活等の情報や学習機会の場の提供
11. その他（具体的に

)

④「職場」についておたずねします。

【問１１】働いている方（雇用主及び非正規職員も含む）におたずねします。

あなたの職場では、次のことについて男女平等になっていますか。次の(1)～(7)についてお答えください。

	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらかと いえば男性 の方が優遇 されている	平等である	どちらかと いえば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 非常に優遇 されている	わからない
(1) 募集や採用の条件	1	2	3	4	5	6
(2) 人事配置や昇進	1	2	3	4	5	6
(3) 教育や研修制度	1	2	3	4	5	6
(4) 福利厚生	1	2	3	4	5	6
(5) 定年・退職	1	2	3	4	5	6
(6) 賃金	1	2	3	4	5	6
(7) 仕事の内容	1	2	3	4	5	6

⑤「地域活動」についておたずねします。

【問１２】女性の社会進出は進みつつありますが、町内会や自治会の長、審議会委員や議員等には、まだ女性が就くことが少ないのが現状です。このように、企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由は何だと思いませんか。（〇は3つまで）

1. 男性優位の組織運営
2. 家族の支援・協力が得られない
3. 女性の能力開発の機会が不十分
4. 女性活動を支援する人的ネットワーク不足
5. 家庭・職場・地域における性別役割分担や性差別の意識
6. 女性側の積極性が十分でない
7. 女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない
8. 制度や税制などの社会のしくみが女性に不利にできている
9. その他（具体的に

）

【問1 3】女性の社会進出があまり進んでいない分野へ女性の進出を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 政党が、選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする(クオータ制)
2. 企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などに目標を設けて取組を進める
3. 国や県が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする
4. 理工系学部など女性の進学が少ない大学の学部への進学を促すための取組を進める
5. あらゆる専門分野において女性の研究者が増える取組を進める
6. その他(具体的に)

⑥DV(ドメスティック・バイオレンス)等「女性の人権」について
おたずねします。

【問1 4】あなたが、女性の人権が尊重されていない(女性に対する差別)と感じることは何ですか。
(〇は3つまで)

1. 「男は仕事、女は家庭」といわれる固定的な役割分担
2. 職場での賃金格差や昇格の差など
3. 政策決定の場へ参加する機会が少ないこと
4. 職場におけるセクシャル・ハラスメント
5. 女性を商品化した経済活動のあり方(ヌード写真、風俗営業など)
6. 家庭内での夫の暴力など従属的な関係
7. 婚姻・戸籍など民法上の制度
8. 女性の容姿に価値をおく社会のあり方(ミス・コンテスト、マスコミの報道など)
9. 地域活動などにおける肩書きは男性、仕事は女性というあり方
10. その他(具体的に)
11. 特にない
12. わからない

【問15】あなたはこれまでに、あなたの夫や妻、恋人などから次のようなことをされた、あるいはしたことがありますか。次の(1)～(12)についてお答えください。

	されたことがある	したことがある	経験はない
(1) 大声で怒鳴る	1	2	3
(2) 何を言っても無視する	1	2	3
(3) 「だれのおかげで生活できるんだ」などと暴言を言う	1	2	3
(4) 交友関係や携帯電話を、必要以上に細かく監視したり制限したりする	1	2	3
(5) 大事にしているものを、壊したり捨てたりする	1	2	3
(6) なぐるふりをして脅したり、押したりする	1	2	3
(7) たたいたり、蹴ったりする	1	2	3
(8) 立ち上がれなくなるまで、ひどい暴力をふるう	1	2	3
(9) いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
(10) 金銭管理を独占し、生活費を渡さない	1	2	3
(11) 10代20代のときに上記(1)～(10)のようなことをする(※注1)	1	2	3
(12) その他〈具体的に〉	1	2	3

(※注1 交際中のカップルの間で起こるドメスティック・バイオレンス(DV)を「デートDV」と言う。)

【問16】問15の項目の中で、「1. されたことがある」または「2. したことがある」のところに、1つでも○をつけた方におたずねします。(すべて「3. 経験はない」という方は【問19】にお進みください。)

あなたが問15のような状況に置かれたとき、誰かに相談しましたか。

1. 相談した
2. 相談したかったが、相談しなかった
3. 相談しようと思わなかった

【問17】問16で、「1. 相談した」と答えた方におたずねします。

あなたは、誰に相談しましたか。(○はいくつでも)

1. 家族や親戚
2. 友人・知人
3. 市役所
4. 警察
5. 学校関係者(教員・養護教員・スクールカウンセラーなど)
6. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセリング機関、民間シェルターなど)
7. その他(具体的に

)

【問18】問16で、「2. 相談しなかったが、相談しなかった」または「3. 相談しようと思わなかった」に○をつけた方におたずねします。

どこにも相談しなかったのはなぜですか。(1つに○)

1. 誰に(どこに)相談してよいかわからなかった
2. 相談しても無駄だと思った
3. 相談したことが相手に知られると、もっとひどい暴力を受けたり、子どもに危害が及ぶと思った
4. 自分さえ我慢すればすむと思った
5. 他人に知られたくなかった
6. 相手の本当の姿ではないと思った
7. 自分にも非があると思った
8. 相談するほどのことではないと思った
9. その他(具体的に

【問19】男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。

(○は3つまで)

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
2. 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
6. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
7. 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
8. 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる
9. 人権教育についての授業を行う
10. 加害者への罰則を強化する
11. その他(具体的に

⑦「子ども・子育て」についておたずねします。

【問20】あなたに男女両方の子どもがいるとしてお答えください。将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。男女別に1～6のいずれか1つ選んでください。(子どものいない方等は一般的な意見としてお答えください)

	男の子	女の子
1. 社会的な信用や信頼を得る・・・・・・・・・・・・・・・・	1	1
2. 経済的に豊かな生活をする・・・・・・・・・・・・・・・・	2	2
3. 家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす・・・・・・	3	3
4. 社会に貢献する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4	4
5. 本人の個性や趣味を活かした生活をする・・・・・・・・	5	5
6. 本人の意思に任せる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6	6

【問21】安心して子どもを生み育てるために必要なことについて、あなたはどのように思いますか。
(〇は3つまで)

1. 出産・育児に対する経済的な支援の拡充
2. 子育て中の柔軟な勤務形態の充実
3. 父親が子育てに十分かわることができる職場環境の整備
4. 子育ての悩み相談窓口などの充実
5. 保育サービスの充実
6. ファミリーサポートセンター事業や学童保育など、地域の子育て支援の充実
7. 子育て中の母親・父親のリフレッシュ支援
8. 母子家庭、父子家庭への支援
9. 子育て中の仲間づくり
10. 出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり
11. 父母や親族のサポート
12. その他（具体的に _____）

【問22】男女平等意識を育てるために、学校教育の場でどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

1. 男女平等の意識を育てる授業をする
2. 生活指導や進路指導において男女の差をなくす配慮をする
3. 男女にとらわれない教育を実施し、あわせて保護者に対する啓発をする
4. 教員自身の固定観念をとりのぞく研修を行う
5. 校長や教頭の男女の比率が同等になるようにする
6. 学校に対して、男女共同参画に関する専門家を招いての講座を実施する
7. 男女が互いの心と体を尊重できる性のあり方を学ぶ性教育を充実させる
8. 力を入れる必要はない
9. その他（具体的に _____）

⑧男女平等の施策についておたずねします。

【問23】次にあげる言葉のうち、あなたが知っているもの・言葉を聞いたことがあるものはどれですか。
次の(1)～(12)についてお答えください。

施策内容	おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある	どんな内容か少しは知っている	内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある	まったく聞いたことがない
(1) 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
(2) 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
(3) ワーク・ライフ・バランス	1	2	3	4
(4) 女性活躍推進法	1	2	3	4
(5) DV防止法	1	2	3	4
(6) 働き方改革関連法	1	2	3	4
(7) 次世代育成支援対策推進法	1	2	3	4
(8) 多治見市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
(9) たじみ男女共同参画プラン	1	2	3	4
(10) 同性パートナー証明	1	2	3	4

施策内容	おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある	どんな内容が少しは知っている	内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある	まったく聞いたことがない
(11) SDGs（持続可能な開発目標）	1	2	3	4
(12) 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	1	2	3	4

【問24】あなたは、男女平等実現のための市の施策として、今後どのようなことを望みますか。

（〇は3つまで）

1. 学校で男女平等教育をすすめる
2. 成人を対象としたセミナー・講演会などにより啓発する
3. 経営者・企業主を対象に啓発する
4. 広報誌やパンフレット等により、広く市民に啓発する
5. 保育制度を充実する（具体的に）
6. 介護制度を充実する（具体的に）
7. 災害対策（避難所等）を充実する（具体的に）
8. 女性が職業につくための職業訓練の場や相談窓口を増やす
9. 情報交換等のため市民団体・女性団体等を結ぶネットワークづくり支援を充実する
10. 各種審議会など、女性を政策決定の場に積極的に参画させる
11. その他（具体的に）

【問25】最後に、男女平等に関しての問題や行政に対するご意見・ご要望がございましたら、記入してください。また、男女平等に関してコロナ禍で影響を受けたことがありましたら、記入してください。

調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

お手数ですが、同封の返信用封筒で8月31日までにご投函ください。

（切手は不要です）

多治見市男女共同参画に関する市民意識調査【調査結果報告書】

発行年月：令和4年1月
発行：多治見市
編集：環境文化部　くらし人権課
〒507-8703
岐阜県多治見市日ノ出町2丁目15番地（本庁舎）
電話：0572-22-1128（直通）
FAX：0572-25-7233
Eメール：kurashi-jinken@city.tajimi.lg.jp

編集委託先：Next-i 株式会社　名古屋支店
〒450-0002
愛知県名古屋市中村区名駅二丁目35番22号

この報告書及びダイジェスト版は、アンケート調査から印刷までを委託して作成しています。
（報告書150部・ダイジェスト版1,000部作成、委託料770千円）